十七、電極製造用燒成爐及電爐作業……電極製造用燒成爐及黑鉛化電爐ニ於ケル電極及充塡物ノ裝入、爐ノ操作及生成物並ニ充塡物ノ取出又ハ運搬ノ作業（起重機ニ依ル運搬ノ作業ヲ含ム）

十八、電極製造機械加工作業……電極ノ仕上ニ於ケル機械加工ノ作業

十九、ピッチ乾溜爐作業……ピッチ乾溜爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

二十、瓦斯爐A級作業……石炭瓦斯爐、骸炭瓦斯爐及發生爐、瓦斯爐ニ附屬スルタールノ處理ノ作業

廿一、收塵裝置作業……收塵裝置ニ於ケル收塵ノ取出、運搬ノ作業

廿二、鋲打A級作業……造船ニ於ケル船體用鋼板又ハ鋼材ノ鋲打ノ作業

廿三、造船A級作業……船體又ハ船舶ノ狹隘ナル場所又ハ特ニ危險ヲ伴フ場所ニ於ケル船體用鋼板又ハ鋼材ノ熔接作業（燒切作業ヲ含ム）、塡隙作業又ハ孔明作業

廿四、船殼取付A級作業……船體用鋼板又ハ鋼材ノ取付作業

廿五、船舶出入渠作業……船渠ニ於ケル支柱、足場ノ取付、取外シ其ノ他ノ船舶出入渠ノ準備ノ作業

廿六、船底清掃作業……船舶ノ船底ニ於ケル汚物等泥狀物取除作業

廿七、機關及附屬設備取付作業……船舶內ニ於ケル機關及附屬設備ノ取付、取外シノ作業

廿八、試運轉時ニ於ケル汽罐取扱作業……船舶試運轉ノ際ニ於ケル罐焚作業

◎B級作業　一日十時間以內ノ就業ノ場合ニ於テ四拾錢以內

一、金屬熔融作業……鑄物用又ハ合金用ノ金屬ノ熔融及熔融金屬運搬ノ作業（起重機ニ依ル運搬ノ作業ヲ含ム）

二、金屬鑄造B級作業……金屬鑄物用鑄型ノ製作、熔融物ノ運搬及鑄込ノ作業

三、金屬噴砂作業……サンドブラストニ依ル金屬品ノ仕上ノ作業

四、鋼厚板B級作業……厚サ六粍以上ノ鋼板又ハ型鋼類ノ加工、組立及塡隙ノ作業

五、アルミニウム再熔融爐作業……アルミニウム再熔融爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作、熔融物ノ取出又ハ運搬及鑄造ノ作業

六、崩碎爐作業……アルミナ製造用崩碎爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

七、煆燒爐B級作業……アルミニウム鑛煆燒爐又ハピッチコークス煆燒爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

八、粉碎、篩別、混合作業……アルミニウム鑛若ハ石炭ノ粉碎機、篩別機若ハ混合機ニ於ケル原料ノ送給、機ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

九、アルミナ製造作業……アルミナ製造用加壓蒸煮罐、稀釋槽、分離槽、洗滌槽、折出槽、濃密槽若ハ濾過機ニ於ケル原料ノ送給、罐、槽、機ノ操作及生成物等ノ取出又ハ運搬ノ作業

十、弗化アルミニウム濾過作業……弗化アルミニウム若ハ氷晶石ノ濾過機ニ於ケル原料ノ送給、機ノ操作及濾過分離物ノ處理ノ作業

十一、脫水爐作業……タールピッチ脫水爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

十二、造船B級作業……船體又ハ船舶內ニ於ケル船體用鋼板又ハ鋼材ノ熔接、燒切、塡隙及孔明作業

十三、船體用鋼材ノ撓曲、成形及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作又ハ加熱材料ノ運搬ノ作業

十四、塗裝B級作業……船體又ハ船舶ノ狹隘ナル場所又ハ特ニ危險ヲ伴フ場所ニ於ケルペイント塗裝ノ作業

十五、アルカロイド劑製造作業……鹽酸モルヒネ、燐酸コデイン、燐酸ヒドロコデイン、鹽酸パパベリン、鹽酸エフエドリン其ノ他ノアルカロイド劑ノ製造ノ作業

十六、鹽器劑製造作業……テトロドトキシン、アドリナリン、インシュリン、リエナリン、ホルモン其ノ他ノ鹽器劑ノ製造ノ作業

十七、工業藥品製造作業……カーバイト、黃燐若ハ無水鹽化アルミニウムノ製造用爐又ハ重クローム酸ソーダ若ハ硫化ソーダノ製造用反射爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出ノ作業

十八、工業藥品製造B級作業……五鹽化燐、鹽化スルホン酸、シアン水素、デエチルエーテル又ハデメチルエーテル、粗製デエチル硫酸又ハ粗製デメチル硫酸ノ製造、粗製デエチル硫酸又ハ粗製デメチル硫酸ノ眞空蒸溜ニ依ル精製及生成物ノ取出並ニピリヂン精製ノ作業

十九、發火物製造B級作業……硝酸鹽ヲ主トスル有鹽火藥、ニトログリセリン、ダイナマイト、硝安ダイナマイト又ハ起爆劑ノ製造及ダイナマイト又ハ起爆劑ノ包裝ノ作業

廿、硝化綿製造作業……硝化綿製造ノ爲ニスル硝化及酸分離ノ作業

廿一、瓦斯爐B級作業……混成瓦斯爐又ハ水性瓦斯爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及殘滓ノ取出シノ作業（石炭瓦斯高壓壓送機ノ操作ノ作業ヲ含ム）

◎C級作業　一日十時間以內ノ就業ノ場合ニ於テ貳拾五錢以內

一、金屬熔接作業……電弧又ハガスニ依ル金屬ノ熔接及燒切ノ作業

二、鍛冶作業……鎚ニ依ル金屬ノ鍛鍊及鍛冶作業

三、金屬鑄造C級作業……鑄型用砂ノ混合ノ作業

四、金屬酸洗作業……金屬品（壓延鋼製品ヲ除ク）ノ酸洗ノ作業

五、原料運搬作業……製鐵用熔鑛爐及製鋼用又ハ鑄鋼用轉爐若ハ平爐ニ裝入スル爲ノ原料ノ運搬ノ作業

六、鋼壓延製品冷牽作業……鋼材ヲ冷間ニ於テ牽引スル作業

七、鋼薄板精整作業……厚サ六粍未滿ノ鋼板ノ精整ノ作業

八、爐材作業……平爐又ハ轉爐ニ於テ爐材ニ依リ爐壁又ハ爐底ノ補修ヲ爲ス作業

九、弗化アルミニウム粉砕作業……弗化アルミニウム、氷晶石若ハ螢石ノ粉砕機ニ於ケル原料ノ給鉢、機ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業

十、塗装C級作業……船體又ハ船舶ノ塗装作業

十一、金屬過式電解作業……金屬電解槽ニ於ケル電極又ハ電解液ノ装入、電解槽ノ操作及生成物ノ取出ノ作業（陰極ノ取出ノ作業ヲ含ム）

十二、金屬電爐作業……金屬製錬ノ爲ニスル電気爐ニ於ケル原料ノ装入、爐ノ操作及熔解金屬ノ取出及運搬ノ作業

十三、非鐵金屬壓延作業……非鐵金屬ノ壓延、押出及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作竝ニ加熱材料ノ運搬ノ作業

十四、工業藥品製造C級作業……過酸化ソーダ、シアンナトリウム、黄血鹽及粗製二硫化炭素製造、苛性ソーダ、鹽素酸鹽ノ製造ノ爐又ハ電解槽ノ作業、硫酸、硝酸又ハ醋酸ノ製造、蒸溜、煮詰及廢酸回收ノ作業、メタノール及アンモニアノ合成竝ニ調粉ノ爲ノ取出ノ作業

十五、壓縮ガス製造作業……液體窒素、液體酸素、壓縮酸素又ハ壓縮水素ノ製造ノ作業

十六、發火物製造C級作業……芳香族ノ三硝化以上ノ高級硝化物、絶縁、無煙火藥及硝安爆藥ノ製造、硝酸纖維素ヲ主トスル有煙火藥及硝安ダイナマイトノ包装竝ニダイナマイト及起爆剤ノ牧納作業

十七、織物油蒸溜作業……コールタール又ハ石油ノ蒸溜、其ノ蒸溜物ノ精製、人造石油ノ合成及其ノ合成物ノ精製ノ作業

十八、ビスコース繊維製造C級作業……紡糸關係ニ屬スル審持、見廻、金板取替、ポンプ取替及計量、ビスコース繊維凝固液ノ調整及回收、セントル式ニ於ケルケーク運搬、ポビン式ニ於ケル紡糸直後ノポビン運搬及水洗竝ニ人繊製造ニ於ケル紡糸直後ノ運搬及水洗ノ作業

十九、人造肥料製造作業……過燐酸石灰、硫酸アンモン又ハ石灰窒素ノ製造ノ作業

廿、人造樹脂合成作業……フエノールレジン又ハ尿素レジンノ製造ノ作業

廿一、硝子熔解爐作業……原料ノ装入、爐ノ操作、硝子生地ノ取出ノ作業

廿二、セメント製造C級作業……セメント製造用粗碾機ニ於ケル原料ノ装入、窯ノ操作及燒成物ノ取出ノ作業

◎D級作業　一日十時間以内ノ就業ノ場合ニ於テ拾五錢以内

一、工業藥品製造D級作業……精製二硫化炭素若ハ珪酸ソーダノ製造竝ニ硫化ソーダ製造ノ機械式爐、苛性ソーダ煮詰爐又ハ水電解槽ノ作業、鹽酸又ハ硝粉製造竝ニ硝粉粉碎、篩別及包装ノ作業（濃硫酸及濃硝酸ノ混酸ノ作業ヲ含ム）

二、染料、顔料製造作業……染料製造用熔融釜又ハ顔料製造用熔融爐ニ於ケル原料ノ装入、釜又ハ爐ノ操作及生成物ノ取出ノ作業竝ニ染料又ハ顔料ノ粉碎、篩別及配合ノ作業

三、發火物製造D級作業……過塩素酸鹽又ハ鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ノ製造、絶縁、無煙火藥又ハ硝安爆藥ノ包装ノ作業

四、コールタール加工作業……タールカーボン、塗装タール、鋪装タール又ハ濾過タールノ製造ノ作業

五、テレビン油蒸溜作業……蒸溜ニ依ル粗製テレビン油又ハ精製テレビン油ノ製造ノ作業

六、バルブ製造作業……バルブ製造用蒸溜釜ニ於ケル原料、藥液又ハ鹽素ガスノ送入、釜ノ操作及バルブノ取出ノ作業

七、ビスコース繊維製造D級作業……ビスコース繊維又ハセロファン紙製造ニ於ケル加硫、撚和、ビスコース液ノ濾過及調整、ビスコース凝縮ノ精練竝ニビスコース繊維精練液ノ調整ノ作業

八、セメント製造D級作業……セメント製造ニ於ケル原料ノ乾燥、粉砕、篩別、混合及調整竝ニ燒成用石灰ノ粉砕ノ作業

八三、最高初給賃金ニ含マザル特殊作業手當承認ニ關スル件

（昭和十八年六月一日勞發第四七四號賃金統制令施行細則第二條ノ規定ニ依ル厚生省勞務局長通牒各勞務關係長宛）

標記ノ件ニ關シ今般厚生省勤勞局長ヨリ別紙寫ノ通リ通牒有之候條左記事項ノ周知徹底ヲ圖リ實施上萬遺憾ナキヲ期セラレ度

追而右ハ昭和十六年七月二十三日付厚生省發勞第四七號（特殊作業ニ從事スル勞務者ノ最高初給賃金除外ニ關スル件通牒）竝ニ客年十月三十日付厚生省勞發第一六六三號（戰時造船賃金對策ニ關スル件通牒）所定ノ許可基準ヲ整備シ爾今之ヲ特殊作業手當ノ承認基準トシテ運用スルト共ニ特殊作業ニ從事スル勞務者ニ對シ賃金統制令施行規則第十五條第一項第一號ノ規定ニヨル最高初給賃金除外ノ許可申請ヲ爲サントスルモノアリタル場合ニ於ケル當該許可ノ基準トスル旨定メラレタルモノニ有之依テ現ニ支給シツツアル特殊作業手當ヲ本給ニ繰入レ新ニ本通牒ニ基ク特殊作業手當ノ承認ヲ受ケントスルガ如キハ許容スベキモノニアラザルニ付誤リナキヲ期スル樣致度

尙本件通牒ニ基ク事務取扱ニ關シテハ常時軍關係スル勞務者數三十人未滿ノ工場ヨリノ申請書ニアリテモ賃金統制令施行細則第二條ノ規定ニ不拘意見ヲ具シ速ニ進達相成度ニ付爲念

記

一、新ニ特殊作業手當ヲ支給セントスルモノ及既ニ支給シツツアル特殊作業手當ノ額若ハ給與條件等ノ變更ヲ爲サントスルモノニアリテハ本年二月十八日付勞發第一四六號「最高初給賃金及賃金總額調限ノ場合ニ於ケル賃金ニ含マザル手當ニ關スル件通牒」所定ノ「乙號樣式」ノ定ムル所ニヨリ申請書三通提出スベキモノナルコト

二、請負制賃金又ハ奬勵加給金ハ之ヲ手當ト看做シ處理スルコトアルハ承認ヲ受ケタル金額ノ範圍内ニ限リ之ヲ賃金規則所定ノ請負制賃金又ハ奬勵加給金中ヨリ支給相成差支ナキコトシニヲ特殊作業手當ト看做シテ規制スルトノ謂ニ不過、依テ承認ヲ受ケタル金額ヲ奬勵加給金又ハ請負制賃金トシテ支給スル場合、

例ヘバ承認ヲ受ケタル六拾錢ノ特殊作業手當ヲ請負利益金中ヨリ支給セル某工場ニ於テ請負作業ニ從事セル本給貳圓　十時間ニ對スル最高初給賃金ト同額）ノ甲勞務者ガ一ケ月中二十八日間毎日十時間宛就勞シタル場合ヲ想定スレバ最高初給賃金トシテノ規制賃金ハ五拾六圓ニシテ請負利益金トシテ支拂ハルル拾六圓八拾錢以内ノ額ヲ特殊作業手當ニ看做シテ統制スル但シ賃金臺帳ニハ「請負利益金又ハ加給金」欄ニ記載シ差支ナキモノナルコト

三、特殊作業手當ノ支給ニ代ヘ最高初給賃金額ニ特殊作業手當ノ相當額ヲ加算シ基本給ノ増額支給ヲ爲サントスルモノニアリテハ從前通リ樣式第五號ノ定ムル所ニヨリ前同樣申請書三通提出スベキモノナルコト然シテ此ノ場合ノ申請書ニハ「參考トナルベキ事項」欄ニ別紙厚生省通牒左記二ノ何レニ該當スルヤヲ明瞭ニ記載相成度キコト

四、昭和十八年二月十八日付勞發第一四二號通牒左記一、最高初給賃金ニ含マザル手當ニ關スル事項ノ（二）ハ爾今其ノ效力ヲ失フモノトス

（註）特殊作業ニ從事スル勞務者ノ最高初給賃金除外ニ關スル件通牒（六六頁）及戰時造船賃金對策ニ關スル件通牒ノ別表（七三頁）ハ本通牒ニ依リ廢止トナリタルモ本書編輯中ニシテ既ニ印刷ニ着手セル爲抹消スルヲ得ザリシニ付特ニ諒承アリタシ

八四、賃金統制令要點一覽表（令＝一頁―五頁　規則＝六頁―二六頁參照）

一、統制令ノ適用範圍

（一）適用セラルル勞務者

①適用アル指定事業（下記列擧事業ニ雇傭セラルル勞務者）（令第二條）

- イ 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業
- ロ 物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業（電氣、瓦斯又ハ各種動力ノ發生、變更又ハ傳導ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム）
- ハ 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業
- ニ 道路、鐵道、軌道、索道、船舶又ハ航空機ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業
- ホ 船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業
- ヘ 土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽植、栽培、採取若ハ伐採ノ事業
- ト 動物ノ飼育又ハ水産動植物ノ採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他畜産業、養蠶業又ハ水産業
- チ 物品ノ販賣又ハ保管ノ事業

②右①ノ事業以外ニ雇傭セラルル指定ノ勞働（下記列擧ノ勞働ニ從事スル勞務者）（規則第一條）

- イ 場屋又ハ物品ノ監守其ノ他之ニ類スル勞働
- ロ 場屋又ハ道路ノ清掃其ノ他之ニ類スル勞働
- ハ 小使、給仕其ノ他之ニ類スル勞働
- ニ 寫字、印字、電話交換其ノ他之ニ類スル勞働
- ホ 機械又ハ器具ノ操作、檢査、修繕其ノ他之ニ類スル勞働
- ヘ 物ノ運搬又ハ配達ノ勞働

（二）適用ヲ除外サルル勞務者（規則第二條）

- イ 料理店業又ハ飲食店業ニ從事スル者
- ロ 主トシテ家事ニ從事スル者
- ハ 地方長官ヨリ適用除外ノ承認ヲ得タルモノ（本書三四頁―三五頁參照）

（三）賃金統制令適用除外承認ノ申請（規則第二條第二項）

勞務者適用除外申請（規則樣式第一號）

二、賃金ノ意義ト範圍

（一）令ノ對象タル賃金（令第三條）

賃金、給料、手當、賞　其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ雇傭主ガ勞働ノ對償トシテ勞務者ニ支給スル金錢、物其ノ他利益ノ全部

（二）最低賃金ノ場合ノ範圍（規則第九條）

以下擧ゲルモノヲ除ク給與

- イ 早出、殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル歩增
- ロ 厚生大臣ノ指定スル手當（家族手當）
- ハ 白米、精麥、食事、住居ノ給與ヲ除キタル實物給與
- ニ 賞與及臨時ノ給與

（三）最高初給賃金ノ範圍（規則第十三條第一項）

以下擧ゲルモノヲ除ク給與

- イ 一月ニ付標準報酬日額ノ二日分ヲ超ヘザル精勤手當
- ロ 就業十時間ヲ超ユル早出若ハ殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル歩增
- ハ 厚生大臣ノ指定シタル手當（家族手當、初任手當、地方長官ノ承認ヲ得タル臨時作業手當、季節手當、特殊作業手當、稼働率及能率增進手當）（本書五六頁―六五頁參照）
- ニ 白米、精麥、食事、住居ノ給與ヲ除キタル實物給與
- ホ 賞與及臨時ノ給與

（四）最高賃金ノ範圍（規則第十三條第二項）

以下擧ゲルモノヲ除ク給與

- イ 一月ニ付標準報酬日額ノ二日分ヲ超ヘザル精勤手當
- ロ 厚生大臣ノ指定シタル手當（家族手當、地方長官ノ承認ヲ得タル臨時作業手當及季節手當）
- ハ 白米、精麥、食事、住居ノ給與ヲ除キタル實物給與
- ニ 賞與及臨時ノ給與

（五）賃金總額制限ノ場合ノ範圍（規則第二十一條及昭和十八年一月厚生省示告第三十一號）

以下擧ゲルモノヲ除ク給與

- イ 白米、精麥、食事、住居ノ給與ヲ除キタル實物給與
- ロ 賞與及臨時ノ給與
- ハ 厚生大臣ノ指定シタル手當（應召手當、入營手當、應徵手當、家族手當、地方長官ノ承認ヲ得タル稼働率及能率增進手當）（本書八二頁參照）

（六）實物給與ノ賃金評價（實物給與トハ無償給付ノモノヲ謂フ）

賃金ニ算入スベク指定サレタル實物給與ト其ノ評價額（令第三條及昭和十五年十月厚生省告示第三百二十三號本書三五頁三六頁參照）

- イ 白米　價格等統制令ニヨリ指定シタル小賣價格ノ八割
- ロ 精麥　右　同
- ハ 食事　男子一日　二五錢、一食　一〇錢　女子一日　二〇錢、一食　八錢
- ニ 住居　一月三〇錢、一日一錢（但シ疊一疊ニ付）

三、勞務者ノ經驗未經驗（工場、鑛山ニ限ル）

（一）經驗勞務者ノ範圍（規則第十一條）

- イ 從事シツツアル勞働又ハ之ト同種ノ勞働ニ三箇月以上從事シタル經驗アル者
- ロ 工場又ハ鑛山ニ於テ六箇月以上勞働ニ從事シタル經驗アル者
- ハ 工場又ハ鑛業ニ關スル國立若ハ公立ノ養成施設ニシテ三箇月以上ノ修業年限ヲ有スルモノ又ハ私立ノ養成施設ニシテ地方長官ニ於テ之ト同等以上ノモノト認定シタルモノノ課程ヲ修了シタル者
- ニ 工業又ハ鑛業ニ關スル學校ニ於テ二箇年以上學習シタル者
- ホ 前號ニ掲グルモノノ外國民學校初等科修了程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ四年以上トスル學校若ハ國民學校高等科修了程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ二年以上トスル學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ課程ヲ修了シタル者

①同種ノ勞働ノ範圍――昭和十六年七月厚生省告示第三百十號（本書三六頁―四〇頁參照）

②經驗年數換算率――昭和十六年七月厚生省告示第三百十一號（本書四〇頁―四一頁參照）

③業種ノ區分――昭和十六年七月厚生省告示第三百十二號（本書四一頁―四七頁參照）

（二）右以外ノ勞務者ハ未經驗者トシテ取扱ハル

四、賃金統制ノ方法

（一）賃金規則

①作成ノ義務ト其ノ期限（令第四條、規則第三條、規則第四條、第四十七條）

- 同一ノ工場、事業場等ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ガ作成シ勞務者ハ周知セシムル義務ヲ負フ其ノ期限ハ令施行後勞務者ガ十人以上トナリタルモノハ三十日以内、施行當時十人以上ナリシモノハ六十日以内

②規則ニ記載スベキ事項（規則第五條）

- イ 所定就業時間數
- ロ 賃金ノ締切期間及支拂ノ期日
- ハ 定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額
- ニ 請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給ノ定アルトキハ其ノ保證給又ハ單位時間給ノ初給額及最低額
- ホ 單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法
- ヘ 支給セントスル手當ノ名稱及額、率並ニ給與條件
- ト 白米、精麥、食事又ハ住居ノ給與ヲ爲ストキハ其ノ數量、評價格及給與條件
- チ 早退、遲刻等ノ場合ノ賃金計算方法
- リ 賃金中ヨリ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨
- ヌ 其ノ他賃金ニ關スル必要ナル事項

③規則ノ記載ニ當リ注意スベキ事項（規則第六條）

- イ 前記ノ場合ノ（ハ×ニ）ニ關スル事項ハ男女、職種、年齡、勤續年數等ニヨリ區分アルトキハ其ノ區分ニヨリ記載ヲ要ス
- ロ 生產品又ハ作業ノ種類多樣ニシテ複雜ナ請負賃金制ノモノハ主要ナル製品又ハ作業ノミニ付記載シ其ノ他ハ省略スルコトヲ得
- ハ 同種ノ製品又ハ同種ノ作業ガ三箇月以上繼續セザルモノハ其ノ請負單價、歩合等ノ記載ハ省略スルコトヲ得

④賃金規則ノ效力ト監督（令第五條、第七條、規則第七條）

- イ 積極的效果（雇傭主ハ賃金規則ニ依リ賃金ヲ支拂フベキコト）
- ロ 消極的效果（規則記載ノ事項ガ要許可認可事項ナル場合其ノ許可認可ナキモノハ之ニヨリ賃金ヲ支給シ得ズ）
- ハ 監督（地方長官ハ必要ニヨリ變更ヲ命ズルコトヲ得）

⑤賃金規則ニ關スル報告及申請（令第六條、規則第六條、第八條）

- イ 賃金規則作成若ハ變更報告（作成後十四日以内ニ事業ノ種類從業場所ノ名稱及所在地、常時雇傭スル男女別勞務者數等ヲ具シ報告ヲ要ス）
- ロ 賃金規則ノ記載省略許可申請（規則樣式第二號）
- 賃金規則ノ記載省略ノ申請ハ請負賃金制ニ於テ自由ニ省略シ得ルモノ以外ヲ省略スル場合トス

（二）最低賃金

①最低賃金ト其ノ效力（令第九條）

- イ 職工ニ付テハ昭和十六年七月兵庫縣告示第八百八號（本書四八頁參照）
- ロ 土木建築業、運輸取扱業及農林業勞務者ニ付テハ昭和十七年三月兵庫縣告示第五六七號乃至第五七〇號（本書一二二―一三四頁參照）
- ハ 工場ニ於ケル日傭勞務者ニ付テハ昭和十八年一月兵庫縣告示第七十八號（本書一三九頁―一四一頁參照）
- ニ 勞務供給業者ニ雇傭セラルル勞務者ニ付テハ昭和十八年一月兵庫縣告示第七十九號（本書一四一頁―一四二頁參照）
- ホ 雇傭主ハ特ニ許サレタル場合ノ外勞務者ニ對シ公定ノ最低賃金以下ノ賃金ヲ支給スルコトヲ得ズ

②最低賃金ニ關スル申請（規則第十四條）

- イ 最低賃金除外許可申請（規則樣式第四號）（天災事變其ノ他特別ノ事由アル場合）
- ロ 精神、身體ノ障礙ニ因ル最低賃金除外報告 規則樣式第三號）（精神、身體ノ障礙アルモノヲ採用ノ場合翌月十五日迄ニ報告ヲ要ス）

（三）最高初給賃金

①最高初給賃金ト其ノ效力（令第十條、規則第十條）

- イ 職工ニ付テハ昭和十六年七月兵庫縣告示第八百八號（本書四八頁―五六頁參照）
- ロ 雇傭主ハ職工ニ對シ左ノ期間中ハ特ニ除外許可ヲ得タル場合ノ外最高初給賃金以上ノ額ニヨリ勞務者ヲ雇傭スル事ヲ得ズ
  - 三十歳未滿ノ未經驗者ハ 三箇月間
  - 三十歳未滿ノ經驗者ハ 六箇月間
  - 三十歳以上四十歳未滿ノ勞務者ハ 六箇月間
  - 施行規則第十一條第一項第三號、第四號又ハ第五號ニ該當スル勞務者ニシテ修了又ハ學習後工場ニ始メテ雇傭セラルル者ハ 三箇月間

②最高初給賃金ニ關スル申請及報告（規則第十五條）

- イ 最高初給賃金除外報告（天災事變ノ場合ハ最高初給賃金ヲ超エテ勞務者ヲ雇傭スルコトヲ得但シ其ノ事實ノアリタル日ヨリ十四日以内ニ報告ヲ要ス）
- ロ 最高初給賃金除外許可申請（規則樣式第五號、第六號）
  - 作業ノ性質其ノ他特別ノ事由ニヨル場合（第五號）
  - （本書一七二頁―一七七頁及七五頁七六頁參照）
  - 勞務者ノ技能優秀又ハ特技アル場合並ニ轉職者（第六號）
  - （本書七七頁參照）
  - 注意（誤メ許可ヲ受ケ支給スルコト）

（四）最高賃金

①最高賃金ト其ノ效力

（令第十一條）

- イ 出来高給併用、賃率協定後異、隻林業等ニ付テハ昭和十七年三月兵庫縣告示第五七〇號（本書一二二頁）一三四頁參照）
- ロ 工場ニ於ケル日傭勞務者ニ付テハ昭和十八年一月兵庫縣告示第六七號（本書一三九頁）一四一頁參照）
- ハ 勞務供給業者ニ雇傭セラルル勞務者ニ付テハ昭和十八年一月兵庫縣告示第七十九號（本書一四一頁）一四二頁參照）
- ニ 屋外ニ於ケル勞務者ニ支給スル賃金ニ付テハ特ニ許可レダル場合ノ外公定最高賃金額以上ノ賃金ヲ越エテ支拂ハサルコトヲ得ズ

②最高賃金ニ關スル申請及報告

（規則第十五條）

- イ 最高賃金ノ外特別ノ事由アル場合（第五號）
- ロ 作業ノ性質其ノ他特別ノ理由アル場合（第六號）
- ハ 勞務者ノ技能優秀又ハ勞技アル場合（第六號）

注意（第ノ許可ヲ受ケ支給スルコト）

- イ 最高賃金ノ外報告（天災事變ノ場合ハ最高賃金ヲ超エテ勞務者ニ雇傭スルコトヲ得ル限リ速ニ報告ヲ要ス）
- ロ 最高賃金ノ外許可申請（規則樣式第五號、第六號）

昭和十六年九月厚生省告示第四百四號（七八頁—八一頁參照）

雇傭主ハ一定ノ勞務者ニ對シ一定ノ期間ニ支拂フ賃金ノ總額ガ平均時間割賃金ニ其ノ該當時間ノ總數ヲ乘ジテ得ダル額ノ合計額ヲ超エルトキハ當ノ認可ヲ要ス

- イ 第一期 自一月一日 至三月三十一日迄ノ三箇月
- ロ 第二期 自四月一日 至六月三十日迄ノ三箇月
- ハ 第三期 自七月一日 至九月三十日迄ノ三箇月
- ニ 第四期 自十月一日 至十二月三十一日迄ノ三箇月

注意（賃金ノ締切日ヲ變更シタル場合ニ於テハ變更ノ日ヨリ次ノ締切日マデヲ一期トス）

③賃金總額制限ノ適用ヲ勞務者

（令第十四條、規則第二十條）

- イ 令第十五條ノ認可ヲ受ケタル者
- ロ 令第十六條ノ認可ヲ受ケタル者
- ハ 令第十七條ノ認可ヲ受ケタル者
- ニ 專ラ工場事業場外ニ於テ使用スル者
- ホ 日日雇入ルル者

④賃金總額制限ニ關スル諸申請

（令第十四條、規則第二十條ノ二、令第十六條、規則第十五條ノ二、令第十七條、規則第十五條ノ三）

- イ 賃金總額制限超過認可申請（令ニヨリ適用ヲ免カルル者ヲ除キ三十名以上ノ勞務者ヲ常時雇傭スル雇傭主ハ規則第十八條ノ樣由ヲ記載シ其ノ制限ヲ超過スル場合認可申請ヲ要ス）（規則樣式第七號）

申請ハ左文ノ外一定ノ資料ノ添付ヲ要ス（本書八六頁—九八頁參照）

- ロ 單位生產量ニ對スル賃金總額ノ認可申請（規則樣式第八號）（本認可ヲ受ケントキハ其ノ勞務者ハ總額制限ヨリ除外サル）
- ハ 請負單價（一個歩合）認可申請（規則樣式第九號）（本認可ヲ受ケントキハ其ノ勞務者ハ總額制限ヨリ除外サル）
- ニ 初給賃金又ハ給與規程認可申請（規則樣式第十號）（本認可ニヨリ其ノ部分ノ勞務者ハ總額制限ノ適用ヲ除外サル）

平均時間割賃金適用業種選定届（本書二七頁參照）

⑤平均時間割賃金ノ認可標準——（本書八三頁—八六頁參照）

（六）賞物ノ給與

①賞物給與ノ制限

（賃金規則ニ記載シタルモノ以外ノ賞物ノ給與ハ勞ノ地方長官ノ許可ヲ要ス）（令第十九條）

- イ 賞金規則ニ記載シタルモノ以外ノ賞物ノ給與ハ勞ノ地方長官ノ許可ヲ要ス
- ロ 常時十名以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ適用

②賞物給與ニ關スル申請——賞物給與許可申請（規則樣式第十二號）——（必要資料ノ添付ヲ要ス）

（規則第二十七條）

（七）不就業手當

①不就業手當ノ制限

（令第十九條）

- イ 不就業又ハ時間ニ對シ支給セントスル給與ガ就業日ノ給與又ハ時間割ノ給與以上ナルトキハ勞ノ地方長官ノ許可ヲ要ス
- ロ 常時十名以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ適用

②不就業手當ニ關スル申請

（規則第二十六條）

不就業手當許可申請（規則樣式第十一號）——（必要資料ノ添付ヲ要ス）

（八）賞與

①賞與ノ制限

（令第十九條）

- イ 賞與ノ支給ヲ受ケル勞務者ニ對スル平均金額ノ每年ノ合計額ガ六箇月若ハ標準報酬日額ノ平均金額ノ四十日分ヲ超ユル場合ハ地方長官ノ許可ヲ要ス
- ロ 常時十名以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ適用

②賞與ニ關スル申請——賞與許可申請（規則樣式第十三號）——（必要資料ノ添付ヲ要ス）

（規則第二十八條）

（九）臨時ノ給與

①臨時給與ノ制限

（令第十九條）

- イ 勞務者一人ニ付每年ノ合計額ガ貳拾圓ヲ超ユル場合ハ地方長官ノ許可ヲ要ス
- ロ 常時十名以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ニ適用

②臨時給與ニ關スル申請——臨時給與許可申請（規則樣式第十四號）——（必要資料ノ添付ヲ要ス）

（規則第二十九條）

（十）物品販賣

①物品販賣ノ制限

（令第二十條）

- イ 白米、精麥、食事ヲ厚生大臣ノ指定シタル價格以下ニ販賣スルトキハ地方長官ノ許可ヲ要ス
- ロ 常時十名以上ノ勞務者ニ雇傭スル雇傭主ニ適用

②物品販賣ニ關スル申請

（規則第三十條及昭和十五年十月厚生省告示第三百二十四號、本書三六頁參照）

- イ 白米、精麥、食事販賣許可申請（規則樣式第十五號）——（必要資料ノ添付ヲ要ス）
- ロ 厚生大臣ノ賃金委員會ニ諮問シ賃金ノ算定方法又ハ賃金ノ支拂方法ニ關シ必要ナル制限ヲ行フコトヲ得

（十一）賃金形態ノ制限

（令第八條）

(二)協定賃金

①賃金ノ協定
（令第二十一條、令第二十四條）

イ 協定賃金ハ雇傭主相互間又ハ雇主大臣若ハ地方長官ノ指定ヲ受ケタル組合又ハ團體ガ爲ル協議賃金臨時措置令ニヨリ指定サレタル組合若ハ團體ハ統制令ニヨリ指定セラレタル組合ニ關スル事項ニ付協議ヲ爲シ其ノ協議ノ結果ニ基キ定ムル賃金ヲ謂フ

ロ 賃金ヲ協定シ地方長官（場合ニヨリ厚生大臣）ノ認可ヲ得タルトキハ雇傭主、組合員、團體員ハ其ノ協定ニ依ルコトヲ要ス

ハ 協定賃金ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ要ス

②協定ナシ得ル事項
（令第二十二條）

イ 最低賃金、最高初給賃金、最高賃金

ロ 定額賃金制ニ於ケル定額給

ハ 請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給

ニ 請負賃金制ニ於ケル請負ノ單價、歩合、時間及賃金算定方法

ホ 賞與、賞物給與、昇給規程

ヘ 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

③協定賃金ノ特別效力
（令第二十三條）

協定賃金ガ認可サレタルトキハ別ニ厚生大臣、地方長官等ニ依リ定メラルル最低賃金、最高（初給賃金ヲ含ム）賃金許可竝ニ總額制限ノ超過認可申請等特別ノ許認可ヲ要セズシテ有效

イ 協定ノ取消及變更

賃金ノ統制上必要アルトキハ地方長官ハ其ノ認可ヲ取消之レニ代ルベキ賃金ヲ定ムルコトヲ得

ロ 協定ノ強制加入命令

賃金ヲ協定シタル雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ止ムルコトヲ必要ナル場合地方長官ハ之レヲ同種類又ハ類似ノ事業ヲ雇傭主ノ全部ニ或ハ命令ヲナスコトヲ得

ハ 賃金ノ協定命令

地方長官ハ一定ノ期間ヲ附シ賃金ヲ協定スルコトヲ命ジ其ノ期限ニ協定セザルトキ又ハ協定ヲナセド認可ヲ得ラレサルトキハ協定ニ代ルベキ賃金ヲ定ムルコトヲ得

④賃金協定ニ關スル特別處置
（令第二十五條）
（令第二十六條）
（令第二十七條）
（規則第三十四條）

イ 賃金協定ノ關係者

一、本認可申請書ニハ協定者タル雇傭主ノ氏名、住所又ハ組合若ハ團體ノ名稱、所在地

二、協定ノ内容、協定ノ行ハルル區域其ノ他必要ナル事項

ロ 協定賃金ノ據置ノ變更申請

形式ハ前記イニ準ジ據置ノ變更ノ内容ヲ記載

ハ 天災事變ニ依ル協定賃金臨時措置

注意（協定賃金ニ付テハ之レニ準ジセザル場合ノ個々ノ雇傭主ヨリスル許認可ノ制度ナシ）

⑤協定賃金ニ關スル申請
（規則第三十一條）
（規則第三十二條）
（規則第三十三條）

イ 賃金基準額（個人票）規則様式第十六號、第十七號）雛形參照（規則様式第十八號、第十九號）特別手當基礎（本書二八頁參照）生産奬勵及昇給基準ニ付テハ之レニ準ジセザル場合ノ個々ノ雇傭主ヨリスル許認可ノ制度ナシ

ロ 賃金基準額ハ個人票ニ記入ニ付テハ賃金總額制限超過認可申請ノ添付資料作成基準七〇頁―八八頁參照スルコト

五、賃金臺帳

(一)賃金臺帳ノ作成
（令第二十九條）
（規則第三十六條）
（規則第三十七條）
（規則第三十八條）
（規則第五十三條）

イ 賃金臺帳ハ雇傭主ノ事業場毎ニ作成スベキモノトス

ロ 賃金臺帳ハ常時十名以上ノ勞務者ヲ雇傭スルモノハ必ズ作成

ハ 賃金臺帳ハ令施行當時ヨリ勞務者十名以上ノ雇傭セル雇傭主ハ九十日以内、其ノ他ハ三十日以内ニ作成スルコトヲ要ス

ニ 賃金臺帳ハ手入レノ毎翌月末日迄ニ行フ要アリ

ホ 賃金臺帳ハ必ズ定メラレタル樣式ニヨルヲ原則トスルモ必要アル場合個人票ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ異樣式ヲ使用スルコトヲ得

ヘ 賃金臺帳ハ三箇年間保存スルノ要アリ

ト 賃金臺帳ノ記入ニ付テハ賃金總額制限超過認可申請ノ添付資料作成基準七〇頁―八八頁參照スルコト

(二)賃金臺帳ニ關スル申請及報告
（規則第三十六條）
（規則第三十八條）

イ 賃金臺帳（個人票）樣式變更許可申請
（用ヒントスル樣式ヲ申請書ニ添付スルコト）

ロ 賃金臺帳（毎月ノ總括票）寫報告
翌月末日迄（手入終了ノ期日ト同ジ）報告ヲ要ス

ハ 賃金臺帳（賃金總額計算期間ノ總括票）寫報告
計算期間終了ノ翌月末日迄ニ報告ヲ要ス

注意 以上ロ及ハノ報告ハ常時雇傭スル勞務者三十名以上ノ雇傭主ニ適用アリ

六、雇傭主ノ代理

(一)申請報告義務者ノ代理
（規則第四十四條）

イ 報告申請等ハ總テ雇傭主ノ責任ナルモ必要ニヨリ其ノ報告申請ノ行爲ヲ特定人ヲ定メ代理セシムル場合ヲ認ム

ロ 右ノ場合又ハ代理權ヲ解除シタルトキハ地方長官ニ屆出ヲ要ス

(二)代理ニ關スル屆
（規則第四十四條）

七、其他ノ事項

(一)三十名未滿ノ勞務者ノ雇傭主ニ對スル賃金總額制限
（規則第五十八條）

イ 勞務者三十名未滿ノ雇傭主ハ告示セラレタル平均時間制賃金ニ準據スルコトヲ得

ロ 右ノ場合雇傭主ハ賃金臨時措置令ノ適用ナク免レ許可ヲ受ケズシテ賃金ノ引上ゲヲナスコトヲ得

八五、協定賃金一覽表

協定者名	同上ノ所在地	告示年月日及告示番號	備考
兵庫縣莫大小工業組合	印南郡米田町神爪百番地ノ六	昭和十五年二月六日兵庫縣告示第百二十八號 昭和十六年三月十六日兵庫縣告示第四百八十四號 昭和十六年六月十四日兵庫縣告示第六百六十一號	變更
兵庫縣製樽工業組合	神戸市神戸區加納町四丁目五ノ一	昭和十五年四月二十七日兵庫縣告示第四百三十五號 昭和十七年三月十七日兵庫縣告示第二千二百十八號	變更
兵庫縣製絲業組合	神戸市神戸區下山手通四丁目産業會館內	昭和十五年四月二十七日兵庫縣告示第四百三十四號 昭和十七年十月九日兵庫縣告示第二千四十一號	變更
兵庫縣產業組合製絲組合	神戸市神戸區下山手通四丁目産業會館組合內	昭和十五年六月十日兵庫縣告示第五百九十七號	
神戸水上小運送業海運組合	神戸市神戸區海岸通二丁目四ノ一	昭和十五年八月十五日兵庫縣告示第八百九十八號	
兵庫縣機械製麵工業組合	姫路市光源寺前三番地	昭和十五年八月三十日兵庫縣告示第九百七十六號 昭和十六年四月十九日兵庫縣告示第四百六十九號 昭和十六年十二月十九日兵庫縣告示第一千百十二號 昭和十八年四月十一日兵庫縣告示第四百四十號	變更 變更 變更 變更
灘五鄉竹材業組合	武庫郡御影町御影塚中四〇六番地	昭和十五年十一月六日兵庫縣告示第千三百六十一號	
播州鍊工業組合	加東郡小野町小野	昭和十五年十二月二十七日兵庫縣告示第千四百九十七號 昭和十六年十二月二十八日兵庫縣告示第千六百十六號	變更
兵庫縣酒桶製造業組合	西宮市東町三丁目	昭和十五年十二月二十一日兵庫縣告示第千六百七十三號 昭和十六年十二月二十五日兵庫縣告示第一千二十五號	變更
兵庫縣自動車運送事業[組合]會	神戸市湊東區中町通二丁目三六	昭和十六年一月十日兵庫縣告示第四十九號	
日本寒天製造業水產組合第一部兵庫區會	川邊郡東谷村東畦野	昭和十六年二月十五日兵庫縣告示第百九十四號 昭和十七年三月二十七日兵庫縣告示第五百七十一號	變更
播州小野及物工業組合	加東郡小野町小野	昭和十六年二月二十四日兵庫縣告示第二百二十四號 昭和十七年二月二十三日兵庫縣告示第一百十五號	變更
加東郡人造テグス工業組合	加東郡中東條村新定三四七	昭和十六年二月二十四日兵庫縣告示第二百二十三號 昭和十七年二月二十四日兵庫縣告示第一千百四十六號	變更

龍野醬油工業組合	揖保郡龍野町龍野イ二五ノ一	昭和十六年三月十二日兵庫縣告示第三百二十一號 昭和十七年三月十五日兵庫縣告示第五百十九號 昭和十七年十二月二十四日兵庫縣告示第二千百四十二號	變更 變更 變更
西日本燐寸軸木工業組合	神戸市葺合區御幸通二丁目六番地	昭和十六年四月十三日兵庫縣告示第四百十三號 昭和十六年十一月二十六日兵庫縣告示第千二百三十六號 昭和十七年十月二十四日兵庫縣告示第千九十號	變更 變更 變更
兵庫縣鍛鍊工業組合	多可郡西脇町下戸田四二六	昭和十六年五月十五日兵庫縣告示第五百五十號	
播州手延素麵工業組合	揖保郡小宅村宮水二一九ノ二	昭和十六年五月三十日兵庫縣告示第六百三號	
全但製瓦業組合	城崎郡豊岡町柳四三番地	昭和十六年七月十二日兵庫縣告示第七百九十三號	
神戸浴場聯合組合	神戸市兵庫區水木通三丁目五七	昭和十六年六月二十一日兵庫縣告示第六百九十五號	
淡路燐寸小箱素地工業組合	津名郡志筑町北	昭和十六年十月十五日兵庫縣告示第千二百五十七號	
兵庫縣農會	神戸市神戸區下山手通四丁目	昭和十七年三月十八日兵庫縣告示第四百九十七號	
姫路洋家具製造工業組合	姫路市元塩町八十番地	昭和十七年三月二十七日兵庫縣告示第五百六十六號	
氷上郡農會	氷上郡柏原町五二二ノ二	昭和十七年六月十五日兵庫縣告示第千三百一號	農業
氷上郡農會	氷上郡柏原町五二二ノ二	昭和十七年七月十五日兵庫縣告示第千五百七十四號	林業
城崎郡農會	城崎郡豊岡町永樂通	昭和十七年七月二十四日兵庫縣告示第千六百九十八號	
加西郡農會	加西郡北條町北條九七六ノ二	昭和十七年八月二十四日兵庫縣告示第千八百七十二號	
兵庫縣第一纖物工業組合	神戸市神戸區下山手通六丁目二一二	昭和十七年八月二十七日兵庫縣告示第千八百七十八號	
兵庫縣貨物自動車運送事業組合	神戸市海東區中町二ノ三六	昭和十七年八月二十四日兵庫縣告示第千八百七十三號	
兵庫縣護謨工業組合	神戸市林田區神樂町一丁目一	昭和十七年十一月十八日兵庫縣告示第二千百八十四號 昭和十八年二月九日兵庫縣告示第三百六十九號	變更

神戸港沿岸荷役業統制組合	神戸市神戸區榮町七丁目二十七番屋敷	昭和十七年十一月二十七日兵庫縣告示第二百十七號
兵庫縣家政婦會組合	神戸市加納町二丁目二三	昭和十七年十二月十八日兵庫縣告示第二百九十四號
兵庫縣酒造組合聯合會	武庫郡御影町御影字濱中三一一	昭和十八年二月二十二日兵庫縣告示第百三十三號 昭和十八年五月二十一日兵庫縣告示第五百六十一號 變更

八六、價格等統制令（抄）

（昭和十四年十月勅令第七百三號 昭和十七年十月勅令第六百七十七號改正 昭和十六年九月勅令第八百四十一號改正）

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基キ價格、運賃、保管料、損害保險料、賃貸料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財產的給付（以下價格等ト稱ス）ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第四條ノ二　修繕料其ノ他價格運送賃等以外ノ價格等（以下修繕料等ト稱ス）ニシテ主務大臣ノ指定スルモノハ主務大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲ス者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタル者

二　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲ス者ガ修繕料等ニ對スル給付ニ著手シタル場合

第四條ノ三　第二條第二項及第三項竝ニ第四條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ指定シタル修繕料等ニ付之ヲ準用ス

第四條ノ四　修繕料等ノ受領者ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ聞合ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員ノ給付ニ對スル修繕料等ハ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ修繕料等ノ額ヲ變更シテ前項ノ認可ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル認可アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ同項ノ規定ノ適用ニ付テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地域內ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノヲ其ノ構成員ト看做スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ前項ノ規定ニ依ル處分ハ是等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條ノ二及前條ノ規定ハ第一項ノ修繕料等ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八條　支拂條件、引渡條件其ノ他ノ契約條件ノ變更（第六條ノ規定スル他ノ法令ニ依ルモノ及他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタルモノヲ除ク）ニシテ支拂者ニ不利益ト爲ルモノハ其ノ限度ニ於テ之ヲ價格等ノ額ノ引上ト看做ス

第九條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條、第四條ノ二、第四條ノ四、第六條又ハ第七條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條　本令ノ施行ニ關スル主務大臣ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

八　請負料（手間賃、派出料ノ類ヲ含ム）ニシテ主トシテ勞務ノ供給及提供ニ對スルモノニ關スル事項ニ付テハ厚生大臣

（昭和十四年十月十九日閣令第十三號 昭和十五年十月十六日閣令第十一號改正 昭和十七年十月十九日閣令第二十二號改正 昭和十六年九月三日閣令第二十一號改正）

八七、價格等統制令施行規則（抄）

第一條　價格等統制令（以下統制令ト稱ス）第二條第一項但書、第四條ノ二但書、第四條ノ四第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ許可ヲ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

一　關東州、滿洲及支那以外ノ地ニ輸出セラルルコト明カナル物ヲ賣買スルトキ

二　輸入價格ノ昂騰特ニ著シキ輸入品ヲ賣買スルトキ

三　其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

前項ノ許可ハ價格等ノ支拂者又ハ受領者ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ足ル

第二條　前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ氏名又ハ名稱、住所又ハ主タル事務所ノ所在地及業務ノ種類竝ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ主務大臣（主務大臣特ニ定メタルトキハ地方長官）ニ提出スベシ

一　前條第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ物ノ名稱、品種、數量及輸出セラルルコトヲ明カナラシムル事項竝ニ價格等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ賣受先、豫定賣受價格其ノ他ノ豫定賣受條件、豫定販賣條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

二　前條第一項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ輸入品ノ名稱、品種及數量竝ニ價格等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ賣受先及豫定賣受價格其ノ他ノ豫定賣受條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ賣受先、豫定賣受價格其ノ他ノ豫定賣受條件、販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

三　前條第一項第三號ノ場合ニ於テハ前二號ニ準ズル事項及已ムヲ得ザル事由ノ詳細

前項ノ申請書ニシテ主務大臣ニ提出スベキモノハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外地方長官ヲ經由スベシ

第四條　統制令第三條第一項又ハ第四條ノ四第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ハ左ニ揭グル區別ニ依リ主務大臣又ハ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

一　數府縣又ハ全國ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ主務大臣

二　道府縣又ハ其ノ一部ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ地方長官

前項ニ揭グル組合其ノ他之ニ準ズルモノニシテ主務大臣ノ指定シタルモノニ付テハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ定ムル行政官廳ニ申請スベシ

第五條　前條ノ申請ヲ爲スニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　構成員（統制令第三條第一項ノ構成員ヲ謂フ以下同ジ）タル資格及構成員ノ總數

三　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスル額及其ノ實施ノ日

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ

一　定款又ハ規約ノ寫

二　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスル額ノ算定基礎ヲ明カニスル書面

三　前條ノ申請ヲ爲スベキ旨ノ決議書又ハ同意書ノ寫

四　統制令第三條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニ在リテハ同令第二條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額ヲ定ムルヲ必要トスル事由ヲ明カニスル書面

第六條　統制令第二條第一項但書、第四條ノ四第一項但書若ハ第七條第一項但書ノ許可又ハ同令第三條第一項、第四條ノ四第一項若ハ第六條ノ二ノ認可ニハ制限又ハ條件ヲ附スルコトアルベシ

第七條　主務大臣又ハ地方長官統制令第三條第一項又ハ第四條ノ四第一項ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ公示ス

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　構成員タル資格

三　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタル額及其ノ實施ノ日

四　認可ニ附シタル制限又ハ條件

第八條　統制令第三條第二項又ハ第四條ノ四第三項ノ處分ハ同令第三條第一項又ハ第四條ノ四第一項ノ認可ヲ爲シタル主務大臣又ハ地方長官處分ノ旨及前條各號ニ揭グル事項ヲ公示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第十二條　統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ主務大臣之ヲ爲スモノトス但シ主務大臣ニ於テ地方長官ガ額ノ指定ヲ爲スベキ旨ヲ定メタルモノニ付テハ地方長官額ノ指定ヲ爲スモノトス

第十三條　統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ告示ニ依リテ之ヲ爲ス但シ軍機保護上告示ヲ不適當トスルモノニ付テハ價格等受領者ニ對スル通知ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

八八、賃金統制事務ト併掌スベキ價格等統制令關係指定告示

◉厚生省告示第三百八十一號

價格等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依リ修繕料等及年月日左ノ通指定ス

昭和十六年九月三日　　厚生大臣

修繕料等

勞務供給ノ請負料（派出婦派出料ヲ含ム）……昭和十六年八月十一日

大工、左官、屋根職、疊職、建具職、鍼力職、塗裝職、植木職……同

差職、井戸職、石工、錺工及木挽職ノ手間賃

◉厚生省告示第四百一號

左ノ請負料ニ關スル價格等統制令第四條ノ二但書又ハ第七條第一項但書ノ許可ノ申請ハ價格等統制令施行規則第二條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ地方長官ニ爲スベキモノト定ム

昭和十六年九月十一日　　厚生大臣

一　勞務供給ノ請負料（派出婦派出料ヲ含ム）

二　大工、左官、屋根職、疊職、建具職、鍼力職、塗裝職、植木職、畳職、井戸職、石工、錺工及木挽職ノ手間賃

◉厚生省告示第四百二號

左ノ請負料ニ關スル價格等統制令第四條ノ四第一項但書ノ許可ノ申請ハ價格等統制令施行規則第二條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ地方長官ニ爲スベキモノト定ム

昭和十六年九月十一日　　厚生大臣

價格等統制令施行規則第四條ノ規定ニ依リ地方長官ガ價格等統制令第四條ノ四第一項ノ認可ヲ爲シタル請負料（手間賃、派出料ノ類ヲ含ム）ニシテ主トシテ勞務ノ供給及提供ニ對スルモノ

◉厚生省告示第八十七號

左ノ請負料ニ關スル額ノ指定ハ價格等統制令施行規則第十二條但書ノ規定ニ依リ地方長官之ヲ爲スベキモノト定ム

昭和十七年二月二十八日　　厚生大臣

一　土木建築業ニ從事スル勞務者ノ手間賃

二　運輸取扱業ニ從事スル勞務者ノ手間賃

三　農業ニ從事スル勞務者ノ手間賃

四　林業ニ從事スル勞務者ノ手間賃

八九、價格等統制令ノ改正ニ關スル件依命通牒

（昭和十六年九月十一日厚生省發勞第六六號勞働局長通牒廳府縣長官宛）

今般昭和十六年九月三日勅令第八百四十一號ヲ以テ價格等統制令ノ一部ヲ改正シ同令施行規則別紙ノ如ク改正セラレ昭和十六年九月十一日ヨリ施行セラルルコトニ相成候ニ付テハ左記事項ニ關シ貴管下關係者ニ對シ周知方取計ハレ度此段及通牒候也

記

一　賃金統制事務ト併掌スベキ價格等統制令關係指定告示

ノ如ク改正セラレ候處右ハ從來ノ物價統制ノ對象ヨリ除外セラレ居リタル修繕料、請負料及手間賃等ノ近時ニ於ケル著シキ騰貴傾向ニ鑑ミ玆ニ改正セラレタル國家總動員法第十九條ノ規定ニ基ク改正ニシテ從來ノ價格等統制令ニ依ル統制ノ對象ヲ今回物價ノミナラズ國民生活ニ直接又ハ間接ニ影響ヲ及ボスベキ修繕料其ノ他ノ凡ユル財産的給付ニ迄擴大シ以テ物價政策ノ一層ノ完璧ヲ期スルモノニ有之右改正勅令第四條ノ二ノ規定ニ基キ當省ニ於テハ九月三日厚生省告示第三百八十一號ヲ以テ一定期日ニ於テ停止スベキ修繕料等ノ種別及年月日指定相成候條左記諸點御留意ノ上實施上萬遺漏無キヲ期セラレ度依命及通牒候也

記

第一　主ナル改正點

一　修繕料等ノ中一定期日ニ於テ停止スルコトヲ適當且必要トスルモノニ付テハ主務大臣ニ於テ之ガ種別及年月日ヲ指定シ之ヲ停止シ得ルコトト爲シタルコト（令第四條ノ二）

二　修繕料等ノ中一定期日ニ於テ停止セザルモノニ付テハ組合其ノ他之ニ準ズル者ヲシテ額ノ協定ヲ爲サシメ行政官廳ニ於テ適正妥當ナル額ナリヤ否ヤヲ審査シ必要アレバ變更ノ上之ヲ認可シ以後ハ其ノ認可額ニ據ラシムルノ制度ヲ設ケタルコト（令第四條ノ四）尙前號ニ依リ停止シタルモノニ付テモ右ノ協定ノ制度ヲ認メタルコト（令第四條ノ四第五項）

三　前二號ニ拘ハラズ修繕料等ニ付テハ全般的ニ最高額ノ指定ヲ爲シ得ルモノト爲シタルコト（令第七條）

四　「請負料（手間賃、派出婦派出料ノ類ヲ含ム）」ニシテ主トシテ勞務ノ供給又ハ提供ニ對スル財産的給付」ノ統制ハ賃金統制令ニ依ル賃金統制ト密接不可分ノ關係ニ在ルモノナルヲ以テ之ニ關スル主務大臣ハ厚生大臣ト爲シタルコト（令第十五條第八號）

五　賃金統制令第二十八條ノ規定ハ本改正ニ於テ削除セラレタルコト（附則）

第二　運用ニ當リ注意スベキ點

一　令第四條ノ二關係

本條ニ基キ一定期日ニ於テ停止スベキモノトシテ差當リ左ノモノヲ指定シタルモ右ハ當省所管事項中停止スルニ適スルモノノ中現在ニ於テ最モ停止スル必要アルモノヲ指定シタルモノニシテ將來必要ニ應ジ指定ノ範圍ヲ漸次擴大シ行ク方針ナルコト

イ　勞務供給ノ請負料

人夫供給ノ請負料、派出婦派出料等ヲ含ムモノナルコト

ロ　大工、左官等ノ手間賃

手間賃トハ賃金統制令ニ所謂賃金ト異リ雇傭契約ニ依ラザル勞務ノ提供ニ對スル財産的給付ヲ謂ヒ材料持ノ場合ノ手間賃ハ其ノ額ヨリ材料代ヲ差引キタル部分ナルコト

二　令第四條ノ二關係

本制度ハ今回新ニ設ケラレタルモノニシテ物價政策ニ對スル當業者ノ協力ヲ積極的且ヲ具體的ナラシメタルモノナルヲ以テ本制度ノ運用ニ當リテハ當業者ガ過ンデ低物價政策ニ協力スル意味ニ於テ協定ヲ爲シ且其ノ協定ヲ勸行スル如ク指導スベキハ勿論ナルガ從來賃金統制令第二十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタル同賃ノ祭納賃金ニ關スル協定又ハ公定ノ存スル場合ニ於テハ其ノ均衡ニ留意スルコト尙本制度ハ一定期日ニ於テ停止シタルモノニ付テモ適用サルルコトト成リ居ルモ原則トシテ停止シタル額ヲ基準トシ右額ヲ超ユル額ニ付テノ協定ハ特別ノ理由ナキ限リ之ヲ認メザルコトトスルハ勿論本令實施ヲ見越シ徒ラニ料金ノ引上ヲ爲シ又ハ將給ノ逼迫ニ藉口シテ理由ナキ値上ヲ爲シ其ノ他八月十一日ノ標準料金ガ不當ニ高額ナル場合ニハ本令ニ於テ新ニ認メラレタル變更認可ノ制度ヲ適當ニ活用シ之ガ引下ヲ爲ス樣留意スルコト

本條　依ル認可ヲ爲スニ當リテハ其ノ都度隣接關府縣ト十分ナル連絡ヲ遂ゲ認可ヲ爲シタル後施行規則第七條ノ公示事項ヲ當省ヘ報告スルコト尙本條　依ル認可ガ賃金統制令第二十一條ニ依ル賃金ノ協定ノ認可ト併セテ處理スルヲ要當ト認メラルルモノニ付テハ便宜併セテ認可ヲ爲スコトトスルコト

三　價格等統制令施行規則第十二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ價格等統制令第七條ノ額ノ指定ヲ爲スベキ場合ハ兩令共ノ都度之ヲ定ムベキニ付了知相成度キコト

第四　地方長官ノ所掌事項

勞務供給ノ請負料及大工、左官等ノ手間賃ニ付テハ施行規則第二條ノ規定ニ依リ令第四條ノ二但書、令第四條ノ四第一項但書又ハ令第七條第一項但書ノ許可ノ申請ハ地方長官ニ對シ爲スベキモノトシ本日告示第四百一號及第四百二號ヲ以テ指定相成候ニ付了知相成度キコト

尙右ニ依ル行政事務及當省所管事項ニ關スル取締ニ付テハ賃金統制關係事務ト統一的ニ處理スル必要有之ニ付賃金統制主管課ニ於テ取扱ハシムルコト

九〇、價格等統制法規（賃金統制事務ト併掌スベキモノノミ）概要ノ解說

（令ト（ハ價格等統制令、則ト（ハ價格等統制令施行規則）

一、賃金統制事務ト併掌スベキ修繕料等ノ範圍

請負料（手間賃、派出料ノ類ヲ含ム）ニシテ主トシテ勞務ノ供給及提供ニ對スルモノ（令第十五條第八號、厚生省發勞第六一號通牒）

二、事務主管課（係）

厚生省――勤勞局給與課

警察部――警察部勞政課

警察署――工場係（勞政係）

（申請、報告等ハ總テ所轄警察署長ヲ經由スルコト）

三、指定期日

昭和十六年八月十一日（厚生省告示第三八一號）

四、指定期日ニ停止セラレタル修繕料等ノ範圍

勞務供給ノ請負料（派出婦派出料ヲ含ム）

大工、左官、屋根職、疊職、建具職、鍼力職、塗裝職、植木職、鳶職、井戸職、石工、鋳工及木挽職ノ手間賃（厚生省告示第三八一號）

今後必要ニ應ジ追加セラルル豫定（厚生省勞發第六一號通牒）

五、指定期日ニ於ケル額ノ決定

（イ）指定期日ニ於ケル修繕料等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトス（令第二條）

（ロ）指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額（同ジ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アルトキハ其ノ最高額）トス（令第二條）

六、指定期日ノ額ニ依ル必要ナキ特例

（イ）行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合（令第四條ノ二但書）

（ロ）修繕料等ニ對スル給付ヲナス者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタル場合（令第四條ノ二但書）

（ハ）修繕料等ニ對スル給付ヲナス者ガ修繕料等ニ對スル給付ニ著手シタル場合（令第四條ノ二但書）

（ニ）他ノ法令ニ基ク場合及其ノ法令ニヨリ特別ノ處分アリタル場合（令第六條、則第十一條）

七、指定期日ノ額ガ明瞭ナラザル場合

（イ）指定期日ニ爲シタル契約ナク料金明瞭ナラザルトキハ契約ヲ爲シタルベキ額トス（令第二條第二項）

（ロ）前（イ）ノ定ニ依ルモ料金明カナラザルモノハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ノ料金トス（令第二條第三項、則第三條）

（ハ）閣令ノ定ムルモノガ判定困難ナルトキハ料金ノ受領者ノ申請ニヨリ行政官廳ガ料金ヲ指示ス（令第二條第三項、則第三條ノ二）

八、修繕料等ノ協定

（イ）協定者――修繕料等ノ受領者ノ組合又ハ之ニ準ズルモノ（令第四條ノ四）

（ロ）認可――厚生大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ組合員等ハ特別ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外協定額ヲ超ユルヲ得ズ（令第四條ノ四）

（ハ）強制加入處置――行政官廳ハ其ノ組合ノ非構成員ヲ協定料金ニ依ラシムル特別ノ處置ヲナスコトヲ得（令第四條ノ四）

九、修繕料等ノ指定（公定）

（イ）行政官廳ハ修繕料等ノ額ヲ指定（公定）スルコトヲ得（令第七條）

（ロ）修繕料ガ指定セラレタルトキハ指定期日又ハ協定料金等ニ拘ラズ其ノ額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス但シ特ニ許可ヲ受ケタル場合ハ例外ノ取扱ヲ受ク（令第七條）

（ハ）指定ハ厚生大臣、厚生大臣ニ於テ地方長官ガ額ノ指定ヲ爲スベキ旨ヲ定メタルモノニ付テハ地方長官（則第十二條）

（ニ）（ハ）ハ其ノ都度主務大臣之ヲ定ム（厚生省發勞第六一號通牒）

一〇、主務大臣ノ指定スル特別料金ノ場合

物ノ性質、機能、構造等ニ鑑ミ其ノ修繕料等ノ額ヲ一般的ニ指定（公定）ヲ爲スヲ著シク不適當又ハ困難ト認メラルルモノニ限リ受領者ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ得（令第六條ノ二、則第十一條ノ二）

一一、特別例外ノ許可申請ヲ爲ス場合

（イ）指定期日ノ額ニ依リ難キ場合（令第四條ノ二但書）

（ロ）協定ノ額ニ依リ難キ場合（令第四條ノ四但書）

（ハ）指定ノ額ニ依リ難キ場合（令第七條第一項但書）

一二、地方長官ガ特別例外ノ申請ニ對スル許可ヲ爲ス場合

特別許可ノ權能ハ令ニ於テハ行政官廳ト規定スルニ止マルヲ以テ規則ニ於テ厚生大臣又ハ地方長官ナルコトヲ明カニシ厚生大臣ハ一定ノ事項ヲ指定シ地方長官ニ其ノ權能ヲ委任スルコトトセリ

現ニ委任セルモノ（厚生省告示第四〇一號、同第四〇二號）

（イ）令第四條ノ二但書（指定期日ノ額ニ依リ難キ場合）

（ロ）令第四條ノ四但書（協定ノ額ニ依リ難キ場合）

（地方長官ガ協定ノ認可ヲ爲シタルモノニ限ル）

（ハ）令第七條第一項但書（指定ノ額ニ依リ難キ場合）

一三、修繕料等ノ停止

（一一）ノ特別例外ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外指定期日ノ額、協定ノ額、指定ノ額、厚生大臣ノ指定シタル特別料金、他ノ法令ニ基ク額、又ハ他ノ法令ニ依リ處分アリタル額ヲ超エテ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ（令第二條、第四條ノ四、第六條、第六條ノ二、第七條）

一四、價格等統制令ノ適用アル行爲ノ範圍

修繕料等ノ支拂及受領ノ双方ノ行爲ヲ其ノ對象トス但シ業務ニ屬スル行爲ヲ除キ契約ノ當事者ガ營利ヲ目的トスル當該契約ヲナスニ非ザルモノハ適用ノ對象トセズ（令第十三條）

一五、許可事項

（イ）令第四條ノ二但書（指定期日ノ額ニ依リ難キ場合）

許可官廳――地方長官

申請――規則第二條ニ依リ正副二通提出ノコト

（ロ）令第四條ノ四但書（協定ノ額ニ依リ難キ場合）

許可官廳――當該協定ヲ厚生大臣認可シタルモノハ厚生大臣

當該協定ヲ地方長官認可シタルモノハ地方長官

申　請――規則第二條ニ依リ正副二通（厚生大臣ニ爲ス申請ハ三通）提出ノコト

（ハ）令第七條第一項但書（指定ノ額ニ依リ難キ場合）

許可官廳――地方長官

申　請――規則第二條ニ依リ正副二通提出ノコト

一六、認可事項

（イ）令第四條ノ四第一項ノ協定

認可官廳――二以上ノ道府縣又ハ全國ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ厚生大臣

道府縣又ハ其ノ一部ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ地方長官

申　請――規則第五條ニ依リ正副二通（厚生大臣ニ爲スモノハ三通）提出ノコト

協定者――修繕料等ノ受領者ノ組合又ハ之ニ準ズルモノ

（ロ）令第六條ノ二（厚生大臣ノ指定スル特別料金）

認可官廳――厚生大臣

申　請――規則第十一條ノ四ニ依リ正副三通提出ノコト

一七、指定事項

令第七條第一項ノ指定（公定）

指定官廳――厚生大臣

厚生大臣ニ於テ地方長官ガ額ノ指定ヲ爲スベキ旨ヲ定メタルトキハ地方長官

一八、指示事項

令第二條第三項但書ノ指示（閣令ノ定ムルモノガ判定困難ナル場合）

指示官廳――厚生大臣（厚生大臣特ニ定メタルトキハ地方長官）

申　請――修繕料等ノ受領者ニ於テ正副二通（厚生大臣ニ爲スモノハ三通）提出ノコト

一九、引下命令ヲ爲ス場合

指定期日ニ於ケル額ガ著シク不當ト認メラレタルトキハ其ノ額ヲ引下グルコトヲ得（令第四條、則第九條）

命令官廳――厚生大臣又ハ地方長官

九一、土木建築業、運輸取扱業、林業及農業ニ從事スル勞務者ノ公定手間賃ノ告示

●兵庫縣告示第千二百六十號（昭和十八年一月三十日兵庫縣告示第八十號改正）

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ土木建築業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額ヲ左ノ通定メ昭和十七年六月十九日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年六月十二日

兵庫縣知事　板　千　秋

一、一日ノ就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ）ガ三月、四月、九月及十月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間、十一月、十二月、一月及二月ニ於テハ九時間（日出ヨリ日沒迄ノ時間ガ九時間ニ滿タザル場合ハ日出ヨリ日沒迄ノ時間）ノ場合ニ於ケル土木建築業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額左ノ如シ

1　男子勞務者

職種	最高額 甲號地域	最高額 乙號地域	備考
大工	四、〇〇	三、五〇	
造作工	四、二〇	三、七〇	
左官	四、〇〇	三、五〇	
左官材料工	三、六〇	三、一〇	
壁下地工	三、六〇	三、一〇	
鳶職	三、五〇	三、一〇	
手傳職	三、三〇	二、九〇	
鐵筋工	三、八〇	三、三〇	
鍛冶工	四、四〇	三、九〇	
煉瓦及ヒイル工	四、二〇	三、七〇	
石工	四、三〇	三、八〇	
石磨工	四、〇〇	三、五〇	
石仲仕工	三、七〇	三、二〇	
石工刻字工	五、三〇	四、五〇	
石工彫刻工	五、三〇	四、五〇	
石垣築前工	五、三〇	四、五〇	
瓦葺工	四、二〇	三、七〇	
スレート葺工	四、〇〇	三、五〇	
板藁屋根葺工	四、〇〇	三、五〇	檜皮葺及晒葺ノ場合ハ二割增
鉞力工	四、〇〇	三、五〇	
塗裝工	四、〇〇	三、五〇	
運轉工	三、六〇	三、一〇	

職種	最高額 甲號地域	最高額 乙號地域	備考
馬力工	一二、五〇	一〇、五〇	牛馬車持
防水工	四、一〇	三、六〇	
土工	三、五〇	三、一〇	
普通人夫	三、〇〇	二、七〇	
隧道坑夫	三、七〇	三、二〇	
斧夫	三、八〇	三、三〇	
遊鑿夫	三、八〇	三、三〇	
補助工	三、一〇	二、八〇	
建物洗滌工	三、八〇	三、三〇	
斫工	三、八〇	三、三〇	
杭打工	三、五〇	三、一〇	
硝子工	三、八〇	三、三〇	
配管工	四、〇〇	三、五〇	
煙突築造工	四、一〇	三、六〇	
鑿井工	四、〇〇	三、五〇	
疊工	三、五〇	三、一〇	
建具工	三、八〇	三、三〇	
造園工	三、七〇	三、三〇	
植木工	三、五〇	三、一〇	
表具師	三、八〇	三、三〇	
其ノ他ノ勞務者	三、〇〇	二、七〇	

備考　從前ヨリノ慣例ニ依ル小道具ハ勞務者持トス

2　女子勞務者

男子勞務者ノ七割ニ相當スル額

備考　甲號地域トハ神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、飾磨市、芦屋市、伊丹市、武庫郡、川邊郡、有馬郡、明石郡、加古郡、印南郡、飾磨郡、神崎郡、揖保郡及赤穗郡トシ

乙號地域トハ洲本市、美囊郡、加東郡、多可郡、加西郡、佐用郡、宍粟郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、多紀郡、津名郡及三原郡トス

二、一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ前號ノ一割五分ニ相當スル額（一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

但シ右ニ依リ計算シタル額ガ第一號ノ最高額ノ三割ニ滿タザル場合ハ三割ニ相當スル額ヲ以テ其ノ最高額トス

四、役付勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割增ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

（イ）頭樂、組頭、人夫頭等　三　割

（ロ）右補助者（世話役）　一割五分

五、左ノ作業ニ就業スル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割增ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

（イ）圍雪天時ノ作業又ハ水中作業ニシテ特ニ困難ナル場合　二　割

（ロ）高壓電線、高熱物、爆發物若ハ劇毒物ノ類ヲ取扱フ作業又ハ之ニ近接シテ爲ス作業ニシテ危險ヲ伴フトキ　二　割

（ハ）特ニ危險ヲ伴フ高所作業（十米以上）　二　割

（ニ）作業場所ガ僻隔ノ山地等ナル爲往復困難ニシテ相當長時間ヲ要スルトキ　二　割

（ホ）深夜作業（午前零時以後）　五　割

六、依賴主ノ都合ニ依リ本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ヨリ出張シ作業ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

七、本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ニ跨ル工事ニ就業スル者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

八、依賴主ノ都合ニ依リ居住地ヲ離レテ就業スル者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ交通費又ハ宿泊費ノ實費ニ相當スル額ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

九、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金（奬金）トシテ就業一日ニ付金圓ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

十、出來高拂制ノ場合ニ於ケル最高額ハ第一號乃至第七號ニ依リ算出シタル最高額ノ三割增ニ前二號ノ給與ヲ加算シタル額トス

十一、年少者（徒弟、十八歲未滿ノ者）及經驗三年未滿ノ者（土工、普通人夫、補助工等技術ヲ要セザルモノヲ除ク）ノ最高額ハ前各號ニ依リ算出シタル金額ノ八割ニ相當スル金額トス

十二、夜間作業ヲ爲ス場合ニ於ケル食事（參拾錢以內）ハ依賴主ニ於テ支給シ得ルモノトス

十三、手間賃ノ計算ニ付錢位未滿ヲ生ジタルトキハ四捨五入スルモノトス

◉兵庫縣告示第千二百六十一號（昭和十八年一月三十日兵庫縣告示第八十號改正）

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ運輸取扱業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額ヲ左ノ通定メ昭和十七年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年六月十二日　兵庫縣知事　坂　千　秋

（一）海上ニ於ケル貨物取扱ニ從事スル勞務者（沖仲仕）及波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物ノ取扱ニ從事スル勞務者（陸仲仕、沿岸仲仕、艀仲仕）

一、一日ノ就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同シ）ガ三月、四月、九月及十月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間、十一月、十二月、一月及二月ニ於テハ九時間（國粹法第二十六條ニ基ク日出ヨリ日沒ニ至ル時間ヲ一日ノ就業時間トシ得ルモノトス）ノ場合ニ於ケル手間賃ノ最高額左ノ如シ

1 男子勞務者

定額日給制ニ依ル場合

地域別	最高額	地域別	最高額
甲號地域	五圓〇〇錢	乙號地域	四圓五〇錢

荷役出來高拂制ニ依ル場合

地域別	最高額	地域別	最高額
甲號地域	四圓三〇錢	乙號地域	四圓〇〇錢

2 女子勞務者

男子勞務者ノ七割ニ相當スル額

備考　甲號地域トハ神戸市、姬路市、尼崎市、明石市、西宮市、飾磨市、芦屋市、伊丹市、武庫郡、川邊郡、明石郡、加古郡、印南郡、飾磨郡、揖保郡及赤穗郡トシ

乙號地域トハ洲本市、有馬郡、美囊郡、加東郡、多可郡、加西郡、神崎郡、佐用郡、宍粟郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、多紀郡、津名郡及三原郡トス

二、夜間作業ノ場合ハ其ノ一時間毎ニ前號ノ最高額ノ一割五分ニ相當スル額）ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間毎ニ前號ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

但シ右ニ依リ計算シタル額ガ第一號ノ最高額ノ三割ニ滿タザル場合ハ三割ニ相當スル額ヲ以テ其ノ最高額トス

四、左ノ特殊品扱及特殊作業ニ就業スル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割增ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

(イ) 石炭、燐鑛石、粘土、石膏、岩鹽、撒鹽、礦石、撒硫安、硝石、俵入硫黃、酸類

黑糖 白糖、糖蜜其ノ他身體被服ヲ甚シク汚損スルモノ……二割五分

(ロ) セメント、黑鉛、撒コークス、木材、內地筏材、銑鐵、鋼材、鋼塊、鐵板、鐵力板、樽入油、魚油、冷凍物、鹽魚、鹽皮、有害礦石、パルプ、板絲洋紙、卷取洋紙、撒洋紙、ピツチ、無煙炭、硫化石灰、滑石、マネグシヤ、爆發物、屑鐵、揮發油、有害有毒物ニシテ取扱困難ナルモノ……三割

(ハ) 生牛皮、生石灰、曹達灰、酒粉、漆、惡臭甚シキ鋼鑛石、撒硫黃、特殊石炭及煉炭ニシテ著シク荷役困難ナルモノ、防腐劑ヲ施シ取扱困難ナルモノ、硫化鑛物ニシテ取扱危險ナルモノ……五割

(ニ) 波止場、岸壁、河川沿岸ニ於テ前記(イ)、(ロ)、(ハ)ニ該當スルモノヲ除キ外米等一箇二十四貫以上ノ重量物(袋物)ノ取扱並ニ負荷重量二十四貫以上ノ天秤作業ハ三割增トス

(ホ) 荒天時ノ强行荷役ハ三割增(沖仲仕ノ石炭荷役ハ五割增)トス

(ヘ) 鳶仲仕ニアリテハ前記(イ)、(ロ)、(ハ)及(ニ)ヲ適用セズ

本船筏組及肩作業ハ二割增トス

(ト) 五〇〇キロ以上ノ機械類等ノ重量品、二十尺以上ノ長尺物ノ取扱等特殊技能ヲ要スル作業ハ三割增トス

五、依賴主ノ都合ニ依リ本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ヨリ出張シ作業ヲ爲スモノニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

六、本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ニ跨ル作業ニ就業スル者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

七、依賴主ノ都合ニ依リ居住地ヲ離レテ就業スル者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ交通費又ハ宿泊費ノ實費ニ相當スル額ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

八、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金(握金)トシテ就業一日ニ付壹圓ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

九、荷役出來高拂制ノ場合ニ於ケル最高額ハ第一號乃至第六號ニ依リ算出シタル最高額ノ三割增ニ前二號ノ給與ヲ加算シタル額トス

十、夜間作業ヲ爲ス場合ニ於ケル食事(參拾錢以內)ハ雇傭主ニ於テ支給シ得ルモノトス

十一、手間賃ノ計算ニ付錢位未滿ヲ生ジタルトキハ四捨五入スルモノトス

(二) 陸上ニ於ケル一般貨物ノ取扱ニ從事スル勞務者

一、一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)十時間ノ場合ニ於ケル最高額左ノ如シ

但シ價格等統制令ニ基ク荷車、荷馬車又ハ牛馬匹ノ賃貸料公定アリタルトキハ其ノ公定賃貸料ニ荷車曳(車無)又ハ荷馬車曳(荷馬、牛車無)ノ最高額ヲ各加算シタル額ヲ以テ荷車曳(車持)又ハ荷馬車曳(荷馬(牛)車持)ノ最高額ト爲スモノトス

1 男子勞務者

職種別	最高額 甲號地域	最高額 乙號地域
貨物自動車運轉者	四、〇〇	三、五〇
貨物自動車助手	三、三〇	二、八〇
自動車上乘作業員	四、〇〇	三、五〇
貨物積卸作業員	四、〇〇	三、五〇
荷造作業員	四、〇〇	三、五〇

職種別	最高額 甲號地域	最高額 乙號地域
貨物取扱雜役夫	三、三〇	二、八〇
運搬作業員 荷車曳(車無)	四、五〇	四、〇〇
運搬作業員 荷車曳(車持)	五、〇〇	四、五〇
運搬作業員 荷馬車曳(荷馬(牛)車無)	四、五〇	四、〇〇
運搬作業員 荷馬車曳(荷馬(牛)車持)	一四、〇〇	一二、〇〇

備考 荷馬車曳ノ就業時間ニハ就業ノ前後ニ於ケル馬(牛)匹ノ手入ニ要スル時間ヲ含マザルモノトス

2 女子勞務者

男子勞務者ノ七割ニ相當スル額

備考 甲號地域トハ神戶市、姬路市、尼崎市、明石市、西宮市、飾磨市、芦屋市、伊丹市、武庫郡川邊郡、明石郡、印南郡、飾磨郡、揖保郡及赤穗郡トシ

乙號地域トハ洲本市、有馬郡、美囊郡、加東郡、多可郡、加西郡、神崎郡、佐用郡、宍粟郡城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、多紀郡、津名郡及三原郡トス

二、一日ノ就業時間十時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ前號ノ最高額ノ一割五分ニ相當スル額(一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

三、一日ノ總就業時間ガ十時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

但シ右ニ依リ計算シタル額ガ第一號ノ最高額ノ三割ニ滿タザル場合ハ三割ニ相當スル額ヲ以テ其ノ最高額トス

四、左ノ作業ニ就業スル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割增ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

(イ) 特ニ危險、有害、過重及嵩高ノ品 二割五分

（ロ）荒天時ノ强行荷役　三割

（ハ）荷馬車曳（荷馬（牛）車持）ノ場合ノ山道又ハ坂路ニ於ケル作業　神戸市貳圓增其ノ他壹圓增

五、依頼主ノ都合ニ依リ本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ヨリ出張シ作業ヲ爲ス者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

六、本告示ニ定ムル最高額ヨリ高キ最高額ノ定アル地域ニ跨ル作業ニ就業スル者ニ付テハ其ノ高キ地域ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

七、依頼主ノ都合ニ依リ居住地ヲ離レテ就業スル者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ交通費又ハ宿泊費ノ實費ニ相當スル額ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

八、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金（握金）トシテ就業一日ニ付壹圓（荷馬車持ノ荷馬車曳ニ付テハ貳圓）ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

九、波止場、岸壁、河川沿岸ト密接ナ關係ニ在ル場所ニ於ケル荷役積卸作業ニ付テハ波止場、岸壁、河川沿岸ニ於ケル貨物取扱ニ從事スル勞務者（陸仲仕、沿岸仲仕）ノ最高額ヲ以テ其ノ最高額トス

十、出來高拂制ノ場合ニ於ケル最高額ハ第一號乃至第六號ニ依リ算出シタル最高額ノ三割增ニ第七號及第八號ノ給與ヲ加算シタル額トス

十一、夜間作業ヲ爲ス場合ニ於ケル食事（參拾錢以内）ハ依頼主ニ於テ支給シ得ルモノトス

十二、手間賃ノ計算ニ付錢位未滿ヲ生ジタルトキハ四捨五入スルモノトス

●兵庫縣告示第千二百六十二號（昭和十八年一月三十日兵庫縣告示第八十號改正）

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ林業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額ヲ左ノ通定メ昭和十七年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年六月十二日　兵庫縣知事　坂千秋

一、一日ノ就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ）ガ一月、二月、三月、四月、九月、十月、十一月及十二月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間ノ場合ニ於ケル林業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額左ノ如シ

1　男子勞務者

作業別	職種	最高額
造林作業	下刈	三、三〇
	苗圃及植林	三、〇〇
	枝打	三、三〇
伐出作業	伐木及造材	四、六〇
	集材及軌道運材	四、三〇
	木馬曳	五、七〇

作業別	職種	最高額
伐出作業	牛地曳	五、〇〇
	橇引	四、四〇
	管流シ	三、七〇
	筏流シ	四、八〇
製材作業	木挽	四、四〇
	製材	三、二〇

作業別	職種	最高額
製材作業	鋸目立	四、一〇
	揖別	四、一〇
製炭作業	製炭	四、〇〇

作業別	職種	最高額
特殊作業	林業用種子採取	四、〇〇
	松脂採取	三、五〇
	あべまき樹皮採取	三、五〇
雜作業		二、八〇

2　女子勞務者

男子勞務者ノ七割ニ相當スル額

二、一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ前號ノ最高額ノ一割五分ニ相當スル額（一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

但シ右ニ依リ計算シタル額ガ第一號ノ最高額ノ三割ニ滿タザル場合ハ三割ニ相當スル額ヲ以テ其ノ最高額トス

四、左ノ作業ニ就業スル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割增ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

（イ）泊リ掛作業　三割

（ロ）風雨雪等荒天時作業　三割

（ハ）非常勤務作業　三割

（ニ）特ニ危險ナル木馬曳、管流シ、林業用種子採取、あべまき樹皮採取及枝打作業　三割

五、牛馬持ノ場合ニ於ケル最高額ハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ就業一時間一頭（飼料持）ニ付左ノ額（一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加算シタル額トス

但シ價格等統制令ニ基ク牛馬ノ賃貸料公定アリタルトキハ其ノ公定賃貸料ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額ト爲スモノトス

最高　九拾錢

六、作業能率特ニ優秀ナル勞務者ニ付テハ前各號ニ依リ算出シタル金額ニ特別加給金（握金）トシテ就業一日ニ付壹圓ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

七、出來高拂制ノ場合ニ於ケル最高額ハ第一號乃至第四號ニ依リ算出シタル最高額ノ三割增ニ前二號ノ給與ヲ加算シタル額トス

八、手間賃ノ計算ニ付錢位未滿ヲ生ジタルトキハ四捨五入スルモノトス

●兵庫縣告示第千二百六十三號

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ農業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額ヲ左ノ通定メ昭和十七年六月十五

日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年六月十二日　　兵庫縣知事　坂　千秋

一、一日ノ就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ）ガ一月、二月、三月、四月、九月、十月、十一月及十二月ニ於テハ十時間、五月、六月、七月及八月ニ於テハ十一時間ノ場合ニ於ケル農業ニ從事スル勞務者ノ手間賃ノ最高額左ノ如シ

男子勞務者女子勞務者

作業別	職種	男女別	最高額
耕作業	水田耕起整地作業	男	三、二〇
		女	二、五〇
	田植作業	男	三、四〇
		女	二、八〇
	水田除草施肥管理作業	男	二、八〇
		女	二、二〇
	稻收穫調整作業	男	二、五〇
		女	二、〇〇
	耕起整地碎土作業	男	三、二〇
		女	二、五〇
	播種調整作業	男	三、〇〇
		女	二、四〇
	麥收穫調整作業	男	二、九〇
		女	二、二五
養蠶作業	桑摘作業	男	二、二〇
		女	二、〇〇
養蠶作業	蠶飼育作業	男	二、八〇
		女	二、二〇
	蠶種製造作業	男	二、五〇
		女	二、〇〇
果樹園作業	果樹袋掛作業	男	二、八〇
		女	二、二〇
	果樹收穫作業	男	二、九〇
		女	二、二〇
	荷造作業	男	三、〇〇
		女	二、四〇
農業一般作業		男	二、八〇
		女	二、二〇

二、一日ノ就業時間ガ前號ニ定ムル就業時間ヲ超ユル場合ハ之ヲ超ユル一時間毎ニ前號ノ最高額ノ一割五分ニ相當スル額（一時間ニ滿タザル就業ニ對シテハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

三、一日ノ總就業時間ガ第一號ニ定ムル就業時間ニ滿タザル場合ハ其ノ不足時間一時間又ハ其ノ端數毎ニ第一號ノ最高額ノ一割ニ相當スル額ヲ減額シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

但シ右ニ依リ計算シタル額ガ第一號ノ最高額ノ三割ニ滿タザル場合ハ三割ニ相當スル額ヲ以テ其ノ最高額トス

四、左ノ作業ニ就業スル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ左ノ率ニ依ル割増ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

（イ）牛馬使作業　三割

（ロ）石油發動機、瓦斯發生機及自動耕耘機操縱作業　三割

（ハ）立木ノ搖桑作業　三割

（ニ）剪定及接木ノ作業　五割

（ホ）搾乳作業　五割

五、牛馬又ハ農業用機械器具持ノ場合ニ於ケル最高額ハ前各號ニ依リ算出シタル最高額ニ價格等統制令ニ基ク牛馬又ハ農業用機械器具ノ公定賃貸料ヲ各加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トス

六、出來高拂制ノ場合ニ於ケル最高額ハ第一號乃至第四號ニ依リ算出シタル最高額ノ三割增ニ前號ノ給與ヲ加算シタル額トス

七、搖桑作業ニ付テハ左ノ請負單價及手間賃算定方法ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ最高額トス

1 請負單價

種別	（地區ヲ異ニスル桑園ノ一部ヲ又ハ全部ヲ異ニスル場合ヲ含ム）其ノ場合	（地區ヲ異ニスル桑園ノ一部ヲ又ハ全部ヲ異ニスル場合ヲ含ム）其ノ場合
立木一貫目ニ付	拾參錢	拾錢（別桑一貫目ニ付八錢六錢）

2 手間賃算定方法　省略

八、手間賃ノ計算ニ付縫作未滿ヲ生ジタルトキハ四捨五入スルモノトス

九二、土木建築業、運輸取扱業、林業及農業勞務者ノ手間賃規制ノ徹底ニ關スル件（昭和十七年七月三日勞發第三百三十三號各部長通牒各市町村長、各廳長宛）

標記勞務者ノ手間賃規制ニ關シテハ八・一一禁令ノ施行ヲ受ケツツアリタルモノノ外何レモ無統制ノ儘現今ニ及ビ候處是等同種勞務者ニ對スル公定賃金ノ實施ニ伴ヒ全面的ニノガ統制ヲ强化スルニ非ザレバ戰時物價政策ノ圓滑ナル遂行ヲ期シ難キノミナラズ標記認可ニ付今般原生省ノ指示ニ基キ本縣ノ特殊事情斟酌ノ上左記事項御留意ノ上依賴者勞務者双方ヲシテ進ンデ本統制ニ協力セシムル樣格段ノ御協力相煩度追而手間賃ノ定義ニ賃金ト手間賃トノ關係別記ノ通ニ有之御了知相成度

記

一、手間賃トハ賃金統制令ニ所謂賃金ト異リ雇傭契約ニ依ラズシテ第三者ノ指揮ニ對シ勞務ヲ提供シタル場合其ノ反對給付トシテ受クル報酬ヲ指稱スルモノナルモ本來雇傭契約ニ依ラズシテ單ナル有償契約ニ基キ勞務ノ提供ヲナスハ極メテ小範圍ニ有之大部分ハ雇傭ニ雇傭セラルルノ關係ニアリタルモ賃金規制漸次强化セラルルニ及ビ勞務者自ラ部分請負、賄請、下請等ノ方法ニ依ル有償契約ニ基キ賃金規制ヲ免レントスルモノ增加シツツアルノ現狀ニ鑑ミ賃金統制令ノ規定ニ依リ統制スルコト不能ノモノハ總テ價格等統制令ノ規定ニ基ク手間賃トシテ統制シ兩者相俟ツテ勞働賃金ノ高騰ヲ抑制セントスル方針ナルコト

二、手間賃ト云ヒ賃金ト指稱スルモ勞務ノ提供ニ對スル反對給付ナル點ニ於テハ何等異ナル處ナキヲ以テ本公定最高額ハ何レモ賃金統制令第十一條第二項ノ規定ニ基キ義ニ兵庫縣告示第五百六十七號乃至第五百七十號ヲ以テ公定セラレタル同種勞務者ノ最高賃金額ヲ共ノ儘公定シタルモノニ有之隨ツテ適用勞務者ノ範圍、絶對內容等總テ賃金統制ノ夫レト均衡ヲ失セザル樣運用スル方針ナルコト

三、本公定最高額ノ拘束ヲ受クベキ勞務者ハ何レモ「何々」業ニ從事スル勞務者ナルコト告示ノ通ナルモ價格等統制令ニ所謂業トハ最高賃金ノ場合ト同樣勞務者ノ設稱又ハ作業區分ノ所屬事業共ノモノヲ指稱スル

モノナルヲ以テ使用者其ノ者ノ事業又ハ勞務者ノ本驗トハ直接關係ナキモノニ有之例ヘバ農業者甲ノ依頼ヲ受ケ屋ノ表持ヲ爲ス屋職乙アリトスレバ乙ハ當然土木建築業ニ從事スル屋職トシテ統制サレルモノナルハ勿論農業ヲ本驗トシ左官ヲ副業トスル丙ガ工務店主丁ノ需ニ應ジ左官作業ノ爲ニ勞務ヲ提供シタル場合モ同樣左官ノ最高額ヲ以テ統制スル方針ナルコト

四、本公定細則ノ本質ハ賃金規制ノ徹底ト相俟ツテ同種勞務者ノ勞働ニ對スル報酬ソレ自體ヲ統制セントスルモノナルヲ以テ成可ク賃金統制令ノ規定ニ基キ之ガ效果ヲ期待シ得ラルル樣統制スル方針ニ付勞務者ガ相手方即チ使用者ノ爲ニ勞務ヲ提供シ依賴者モ亦共ノ勞務者ヲ使用シ得ルノ狀態ニアルトキハ總テ屋傭契約ニ依ルモノトシテ賃金統制令ノ規定ヲ適用スルモノナルコト從前ノ通ニ有之依ツテ農業者甲ガ勞務者ヲシテ一日又ハ數日指定ノ出來高拂制ヲ以テ自己ノ爲ニ農業勞働ニ從事セシメタル例アリトスレバ此ノ場合ハ賃金トシテ統制スルモノト次ノ如キ場合ハ手間賃トシテ規制スルモノナルコト

一、前例、勞務者ガ農業者甲ノ田植作業一町歩ノ完成ヲ爲シタルモ相手方ノ爲ニ勞務ニ服スル事ヲ約シタルニアラズ相手方又ハ使用スルコトナク純然タル請負契約即チ作業完成請負金額ノ支拂又ハ受領ヲ目的トスル有償契約ニ過ギザルモノ

五、本公定ハ前各號ノ通最高賃金ト密接不可分ノ關係ニアルヲ以テ單ニ此ノ額ヲ超ヘテ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ザル旨ノ禁令夫レ自體ヲ强制スルニ止マラズ勞務者ノ技能、經驗年齡等ニ依リ夫々適正ナル金額ヲ以テ契約シ支拂ヒ受領セシムル方針ニ有之依ツテ最高賃金ノ場合ト同樣最高額ハ技能優秀ナル勞務者ニ對シテノミ支給セシムル樣指導スル方針ナルコト

六、役付勞務者（土木建築業）ニ對スル割增規定及特殊品擔又ハ特殊作業ニ從事スル場合ノ割增規定ハ業界ノ實情、慣習竝ニ賃金トノ關係ヲ考慮セルモノニ有之依ツテ極力之ガ濫用ヲ避ケ徒ラニ最高割增ヲ要求シ支拂ヒ又ハ受領スルコトナキ樣指導スル方針ナルコト

七、特別加給及依賴主ノ都合ニ依リ居住地ヲ離レテ從業ヲ爲ス場合ニ於ケル平均賃又ハ宿泊賃ノ加算規定ニ關シテモ最高賃金ノ場合ト同樣極力之ガ濫用ヲ戒シムル方針ナルコト

八、出來高拂制ノ場合ニ於ケル割增規定ハ其ノ出來高ニ應ジ適正ナル手間賃ノ支拂ヲ要請スルコトヲ徒ラニ作業能率ヲ阻害セシメザル爲ノ考慮ニ出デタルモノナルコト最高賃金ノ場合ト同一ニ有之依ツテ定額給制ノ場合ニ於ケル一日ノ作業量ヲ基礎トシ請負單價、請負時間共何レモ公正妥當ナル見積リノ元ニ契約セシムルコトヲ定額給ノ三割增ヲ限度トシテ支給スル樣指導スルト共ニ特ニ之ガ取締ヲ嚴ニスル方針ナルコト

九、本公定ニハ規定セラレザルモ出來高拂制ナルト定額給制ナルトニ不拘當該勞務者ガ材料ヲ持參スルコトアラバ其ノ材料代ヲ加算シタルモノヲ以テ統制スルモノナルコト論ヲ俟タザル次第ニ有之例ヘバ左官作業ヲ請負ヘル左官ガセメント、灰等ヲ持參シタル場合ハ其ノ代金ハ公定最高額ノ外ニ請求シ支拂ヒ差支ヘナキモ當該材料代ヲ理由トシテ本統制ヲ亂スコトナキ樣取締ル方針ナルコト

十、地方ノ實情ニ依リ最高額ガ高キニ過ル處アルモノニ付テハ本公定最高額以下ニ於テ賃金協定ト併セテ之ガ協定ヲ爲サシメ愈〻其勝スルコトナキ樣指導ヲ構ズル方針ナルコト

九三、手間賃ノ定義

手間賃ノ定義ニ付テハ厚生省勞働局ノ公表セル「手間賃ノ說明」ヲ紹介スル

手間賃ノ說明

手間賃トハ賃金統制令ニ所謂賃金ト異リ屋傭契約ニ依ラズシテ第三者ノ斡旋ニ對シ勞務ヲ提供シタル場合ニ其ノ反對給付トシテ受クル報酬ヲ謂フ

尙左ノ場合ニハ手間賃ニ該當セザルモノトス

1、通常相當ノ固定設備（資本）ヲ要スル業種ナルコト

2、通常物的給付ヲ主トシ勞務ノ提供ヲ附隨的ニ伴フニ過ギザルモノ

3、海運統制令ニ依ル荷役請負料

4、運送業者ノ荷役請負料

5、鄕構內ニ於テ直接荷主ヨリ荷役ヲ請負フモノ

（例）

某工場事業主ガ第三者ヲシテ製品ノ輸送ヲ行ハシメタル場合ニ於テ

（イ）勞務ノ提供ヲ爲シタル第三者ト事業主トノ間ニ屋傭契約存在セズ有償契約ノ反對給付トシテ受ケタル報酬ハ手間賃ナリ

（ロ）第三者ト工場事業主トノ間ニ屋傭契約ノ存在スル場合ハ勞務ノ提供ニ對スル反對給付ハ賃金又ハ給料ニシテ手間賃ニ非ズ

（ハ）第三者ガ作物自動車其ノ他相當ノ固定設備（資本）ヲ要スル事業ヲ營ミ其ノ事業ニ附隨シテ勞務ノ提供ヲ爲シタル場合之ニ對スル報酬ハ手間賃ニ非ズ

九四、役用牛馬ノ最高賃貸料ノ指定告示

●兵庫縣告示第千七百十二號

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ役用牛馬ノ最高賃貸料左ノ通指定ス

昭和十七年七月二十七日

兵庫縣知事　成田一郎

運搬用牛馬ノ最高賃貸料

一、神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、姫路市、飾磨市、明石市

牛　一頭一日ニ付　五圓

馬　〃　六圓

二、其他ノ地區

牛	一頭一日ニ付	四圓五拾錢
馬	〃	五　圓

農耕用牛馬ノ最高賃料

牛	一頭一日ニ付	四　圓
馬	〃	四　圓

（註）一、本表料金ハ貸主庭先渡ノ料金トス

二、飼料ハ借主持トス貸主持ノ場合ハ牛一日ニ付壹圓以内、馬一日ニ付壹圓貳拾錢以内ヲ加算スル事ヲ得

三、本表料金ハ蓆縄等ノ器具付トス

四、其ノ他ニ關シテハ從來ノ慣行ニ依ル

九五、運輸取扱業、林業及農業勞務者ノ牛又ハ馬持ノ場合ニ於ケル賃金竝ニ手間賃統制ニ關スル件通牒

（昭和十七年八月三十一日勞發第四八七號）
（警察部長官經濟部長通牒各警察署長宛）

標記ノ件ニ關シテハ從來價格等統制令ノ規定ニ基ク牛馬ノ最高賃貸料ノ公定ナカリシ爲便宜夫々ノ暫定的規定ニ依ツテ相當ノ效果ヲ擧ゲ來リタル處今般兵庫縣告示第千七百十二號ヲ以テ役用牛馬ノ最高賃貸料別紙竇ノ通指定相成昭和十七年七月二十八日以降ニアリテハ原則トシテ右指定料金ヲ超エテ賃貸スルコトヲ許サザルコトトナリタルニ付而今牛又ハ馬持ノ場合ニ於ケル賃金竝ニ手間賃關係ノ暫定的規定モ當然其ノ效力ヲ失ヒ當該勞務者ノ勞働ソレ自體ニ對スル賃金竝ニ手間賃ノ最高額ニ牛馬ノ公定賃貸料ヲ加算シタルモノヲ以テ其ノ最高額トシテ統制スベキ別段ノ規定ノ適用ヲ見ルコトト相成候條左記事項ノ周知徹底ヲ圖リ統制上萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

記

一、運輸取扱業關係ノ運搬作業員ノ中荷馬車曳（荷馬ノ牛ニ車持）ノ賃金竝ニ手間賃ノ最高額ニアリテハ甲號地域ノ拾四圓、乙號地域ノ拾貳圓ハ何レモ客月二十七日限リ其ノ效力ヲ失ヒ爾今荷馬（牛）車無ノ最高額タル四圓五拾錢又ハ四圓ニ荷馬（牛）車ノ賃貸料（未ダ公定ナキニ付停止料金ニヨル）ト今般指定セラレタル牛馬ノ最高賃貸料トヲ加算シタルモノヲ超ユルコトヲ得ザルコトトナリタルニ付例ヘバ甲乙二人ノ荷馬車曳アリ何レモ馬及荷馬車ヲ持テ拾四圓ノ最高額ヲ得ツツアリタル場合甲ノ就業地ハ神戸市ニシテ乙ハ遠郡部ナリシ場合ヲ想定シ且荷馬車ノ賃貸料ヲ貳圓ナリシモノト假定スレバ甲ハ自己ノ勞務報酬ニ相當スル四圓五拾錢ニ荷馬車ノ賃貸料六圓ヲ加算シタル拾貳圓五拾錢ガ新ニ統制セラルベキ金額トナリ乙ハ同樣ノ方法ニ依リ計算セラレタル金額即チ拾壹圓五拾錢ガ制限額トナルモノニシテ飼料貸主持ノ場合ト同樣ノ契約成立シタル場合ト雖モ一日ニ付壹圓貳拾錢ヲ加算シタル拾參圓五拾錢又ハ拾貳圓五拾錢ヲ超ユルコトヲ得ザル牛持ノ場合ニ於ケル規制金額モ同樣ノ方法ニ依リ計算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ザル旨指示スルコト

二、林業勞務者ノ牛馬持ノ場合ニ於ケル賃金竝ニ手間賃算定ニ採用シ來リタル就役牛馬一頭一時間當リ最高九拾錢、標準七拾錢、最低四拾錢ノ暫定料金ニアリテモ前同樣公定料金ノ指定セラレタル日限リ其ノ效力ヲ失ヒ新公定賃貸料ヲ加算シタルモノヲ其ノ最高額トシテ統制スルモノナルコト論ヲ俟タザル所ナルヲ以テ例ヘバ一時間七拾錢ノ標準規定ニ依リ就役十時間ノ賃貸料七圓ヲ算定シ最高賃金五圓ヲ加算シ都合拾貳圓受クツツアリタル勞務者アリタル場合ヲ想定スレバ從來ノ拾貳圓ハ七月二十七日限リ失效シ爾今牛地曳ノ最高賃金五圓ニ公定最高賃貸料即チ神戸市等指定ノ七市關係ニアリテハ五圓ヲ、其ノ他ノ地區ニ屬スルモノナルトキハ四圓五拾錢ヲ加算シタル拾圓又ハ九圓五拾錢ヲ超ユルコトヲ得ザル旨指示スルコト

三、農業勞務者ノ牛馬持ノ場合ニ於ケル賃貸料ノ加算額ニ關シテハ昭和十四年九月十八日現在ノ所謂停止料金ニ準據シ來リタルモノニシテ之亦從前ノ停止料金ニ依ルコトナク告示通リ牛又ハ馬無ノ場合ニ於ケル賃金又ハ手間賃ノ最高額ニ牛馬ノ新公定賃貸料ヲ加算シタル金額ヲ超ヘザル限リ契約シ、支拂ヒ又ハ受領シ差支ナキコトトナリタルモ農耕用機械器具持ノ場合ニ於ケル當該賃貸料ニ關シテハ未ダ公定無ノモ近ク協定成立ノ見込ニ付右協定料金ノ認可アリタルトキハ右協定料金ヲ加算スル樣致度モ當該協定料金ノ成立ヲ見ルニ至ル迄ハ從前通リ停止料金ニ據ラシムル樣指示スルコト

九六、價格等統制令施行ニ關スル疑義解釋例（昭和十七年七月二十七日生活者實業局）

問① 昭和十六年九月三日厚生省告示第三百八十一號中「勞務供給ノ請負料」ニ所謂勞務ノ供給トハ賃金統制令第二條各號ニ揭ゲラレタル勞務即チ鑛業、砂鐵業、石切業、土木建築業等ニ屬スル勞務ノ供給ハ勿論本條ニ列擧セラレザル勞務例ヘバ荷造等社會通念上勞働力ノ供給ト認メラルルモノ一切ヲ含ムモノト解シ差支無キヤ

答① 御見解ノ通リ

問② 厚生省告示第三百八十一號中所謂大工ノ手間賃ニハ給大工ノ手間賃ヲモ含ムモノト解シ差支無キヤ

答② 御見解ノ通リ

問③ 國家總動員法第十九條ノ財產的給付ニ關シ厚生省ト農林省トノ所管區分如何

答③ 國家總動員法第十九條ノ財產的給付ニ關シ農林省水產業ノ經營ト不可分一體ヲナス財產的給付ニ付テハ農林省所管トスルコト、尙所管ノ明瞭ヲ缺クモノニ付テハ其ノ都度農林、厚生兩省間ニ於テ協議ノ上決定スルコト、右ニ基キ差當リ農林省ニ於テ統制實施ヲ計畫シツツアル財產的給付左ノ如シ

一、家畜ノ種付料、獸醫師診療費、裝蹄料、競馬場入場料、放牧料、製留料

二、開墾、造林、研伐、耕地改良、漁港ノ修築ノ請負料及賃耕、賃揚水其ノ他ノ農作業ニ關スル請負料

但シ右ノ請負料ハ單ナル勞務ノ提供ニ對スル請負料ヲ含マザルコト

三、農林畜水産業ノ共同作業場ノ利用料

四、農機具及ビ畜ノ利用料

五、農林畜水産物、飲食料品及農林畜水産業用物品ノ包装ニシテ包装料ガ農林畜水産物ナル場合ノ包装料、但シ右ノ包装料ヲ包装材料ノ包装請負人ニ於テ負擔スル場合ナルコト

問④ 昭和十六年九月三日厚生省告示第三百八十一號價等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依ル修繕料等及年月日指定ニ關スル告示中ニ「大工ノ手間賃」ト有之ハ處大工ノ業トスル者ガ他人ノ家屋ヲ建築スルニ際シ棟何圓（一坪當リ何圓トシテ總坪數ノ對スル總額ノ見積ヲ爲ス）トシテ請負ヒ建設スル場合ノ請負料ノ如キモ右手間賃トシテ取扱フベキモノト思料シ差支無キヤ

答④ 家屋建築請負料中ニ材料費ガ包含セラレ居ラザル場合ハ手間賃トス

問⑤ 問④ニ於ケル回告示中ニ「派出婦派出料」ト有之ハ處右派出婦中ニハ派出看護婦ヲモ包含セルモノト思料シ差支無キヤ

答⑤ 御見解ノ通リ

問⑥ 價格等統制令施行ニ關シ厚生大臣ヲ主務大臣トスル第十五條第八號ノ請負料ヲ含ム派出料ハ家政婦ノ如キモノノ派出料ノミニシテ看護婦免許ヲ有スル看護婦ノ派出料ヲ含ム義ニ有之

答⑥ 第十五條第八號ノ請負料ニハ看護婦ノ派出料ヲ含ム義ニ有之

問⑦ 甲ト言フ雇主、乙ト言フ雇傭主、丙丁戊ト言フ勞務者アリ今假リニ甲ノ依賴ニ依リ乙ガ丙丁戊ト共ニ或庭造作事ヲ三日爲シタル場合從來ハ甲ヨリ乙ガ賃金トシテ一人一日四圓宛トシテ計四拾八圓取下ゲ丙丁戊ニ一人一日參圓七拾錢宛支拂ヒ參拾錢宛所謂四ヲハネ來リタル處最高賃金及手間賃公定ノ結果乙ハ甲ヨリ一人一日參圓七拾錢宛ニテ取下ゲ丙丁戊ニ參圓七拾錢宛支拂ヘバ雇傭主タル乙ハ自己ノ勞働ニ對スル報酬タル參圓七拾錢ガ殘ルノミニテ諸道具ノ損料其ノ他ノ諸雜費ハ赤字トナルニ付甲ヨリ乙ヘノ取下賃ハ公定最高賃金又ハ手間賃ノ最高額ノ一割增ノ認可ヲ得タキ旨陳情有之右認可ノ得ラルルヤ否ヤ、認可シ得ルモノナリトスレバ其ノ根據法令

答⑦ 乙ガ甲ヨリ受クル取下賃ハ勞務供給ノ請負料ト見做スベキモノニシテ賃金統制令ニ謂フ賃金トハ解シ難シ勞務供給ノ請負料金ハ客年八月十一日ノ停止價格ニ依ルベキモノトス

問⑧ 登山案内人ニシテ

（イ）案内ヲ主トシ荷物ノ運搬ヲ從トスル者ノ料金及

（ロ）主トシテ荷物ノ運搬ヲナス者ノ料金ハ

價格等統制令ノ修繕料等ニ包含サルベキモノト解スベキヤ但シ客年八月十一日指定セル勞務供給ノ請負料ト解シテ差支無キヤ

答⑧ 1. 案内人組合ヲ通シテ案内ヲ依賴スル場合ハ御見解通リ

2. 案内人ヲ直接個々ニ依賴スル場合ノ料金ハ賃金ナリ

問⑨ 總噸數百噸以上ノ船舶ノ水上運送ニ直接關聯スル港灣ノ荷役請負料（組積及陸揚ニ關スル請負料）ニ關スル價格等統制令第四條ノ二但書又ハ第七條第一項但書ノ處分權ハ昭和十六年九月十一日厚生省告示第四百一號地方長官委任ノ範圍外ニ屬シ依然トシテ遞信大臣ニ在ルモノト思料シ差支無キヤ

答⑨ 御見解ノ通リ

問⑩ 價格等統制令第四條ノ二ノ規定ニ依ル厚生省告示第三八一號修繕料等ノ指定中「勞務供給ノ請負料（派出婦派出料ヲ含ム）」トアルハ單ニ人的供給ノミナラズ玉トシテ勞務ノ供給ニ依リ事業ノ完成ヲ目的トスル契約例ヘバ甲ガ乙ニ對シ人夫ノ提供ヲ請負ハシムル場合及甲ガ乙ニ對シ肥料ノ配給、包裝、荷造、運搬等ヲ請負ハシムル場合等ニ於テ料金ヲ支拂フハ何レモ所謂勞務供給ノ請負料ト解シ差支無キヤ

答⑩ 御見解ノ通リ

九七、價格等統制令中賃金關係ト併掌セラルベキモノノ事務取扱方ニ關スル件

（昭和十七年九月二十二日勞發第五五二號各地方勞務調整令施行地都長官宛勞務局長通牒）

標記ノ件ニ關シテハ兩今左記ニ依リ統制上萬遺憾ナキヲ期スル樣致度此段及通牒候也

追而　勞務供給請負料ノ變更許可申請書ハ末記樣式ニ準據セシムル樣御配意相成度爲念

記

一、勞務供給請負料ノ場合ニ於ケル停止料金（八、一ノ質疑）ノ超過支拂（又ハ受領）ノ許可ニ關スルモノニシテ

（1）土木建築業、運輸取扱業、林業及農業勞務者ノ供給ニ關スルモノナルトキハ該當勞務者ニ付定メラレタル最高賃金ニ其ノ一割以內ノ手數料ヲ加算シタル金額ヲ超ヘザル限リ許可スル方針ニ付本件申請アリタルトキハ調査ノ上速達相成度キコト

（2）工場ニ於ケル日傭勞務者ノ供給ニ關スルモノナルトキハ原則トシテ昭和十五年六月二十四日發廳勞告示第六三五號ノ公定賃金ヲ基準トシ之ニ其ノ一割相當額ノ手數料ヲ加算シタルモノヲ以テ統制スルコトトナレルモ大工、左官、塗裝工、馬力工、普通人夫等土木建築關係ノ勞務者ヲ供給スル場合ヲ除ク陸上ニ於ケル一般貨物ノ取扱ニ從事スル仲仕ノ供給ヲ爲ス場合ニ限リ當該勞務者ニ付定メラレタル最高賃金ニ一割相當額ノ供給手數料ヲ加算シタル額迄ハ能フ限リ許可致度ニ付本件申請アリタルトキハ之ガ事實調査ノ上速達相成度キコト

（3）派出婦（看護婦、附添婦）派出料ハ近ク公定スル方針ニ有之尙本件ニ限リ右公定料金ノ超過申請ハ之ヲ認メザル方針ニ付本件申請ハ之ヲ受理セザルコト

二、土木建築業、運輸取扱業、農業及林業勞務者ノ手間賃ニ關シテハ原則トシテ之ガ超過ノ支拂又ハ受領許可申請ヲ認メザル方針ナルモ緊急ニ止ムヲ得ザル事由又ハ之ニ準ズル場合ノ工事又ハ作業ニシテ必要アル場合ニ於テハ之ガ超過ヲ認ムルヲ適當トスル場合ニ有ルベキニ付實狀調査ノ上審理相成樣致度

第二部

重要事業場關係

価格等統制令ニ基ク「労務供給請負料金變更許可申請書」作成例

昭和　年　月　日

（所在地）
（名　稱）何々會社又何々組
（代表者）氏　　名㊞

（所在地）
（名　稱）何々會社又何々組
（代表者）氏　　名㊞

兵庫縣知事　殿

労務供給請負料金變更許可申請書

価格等統制令第四條ノ二但書及同施行規則第一條第三號及同第二條ノ規定ニ基キ標記ノ件左記ノ通御許可相成度參考書相添此段及申請候也

記

一、支拂者及受領者ノ業務ノ種類、名稱及代表者氏名

(1)支拂者（所在地）
（會社又ハ組ノ名稱）
（代表者氏名）

(2)受領者（所在地）
（會社又ハ組ノ名稱）
（代表者氏名）

二、請負フベキ物品（職種）ノ名稱及數量（員數）

三、指定期日（八、一一）ニ於ケル額、支拂ノ方法及受領ノ方法

四、許可ヲ受ケントスル額及算出ノ基礎

五、請負ノ方法

六、許可ヲ受ケントスル理由ノ詳細

七、其ノ他參考事項

許可申請ノ場合

添付書類

一、指定期日前後ニ於ケル實績額ニヨル勞務者一人一日當賃金（手間賃）額
二、許可ヲ受ケントスル額ニヨル勞務者一人一日當賃金（手間賃）額
三、指定期日前後ニ於ケル取引狀況ヲ證明スルニ足ル請求書、受領書、傳票等

九八、重要事業場労務管理令（昭和十七年二月二十五日勅令第百六號）

第一條　重要事業場ニ於ケル労務管理ノ指導監督ノ爲ニスル國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ使用、解雇、從業、退職及賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令竝ニ同法第七條ノ規定ニ基ク勞働爭議ノ豫防及解決ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ重要事業場ト稱スルハ總動員物資ノ生産若ハ修理又ハ國家總動員上必要ナル運輸ニ關スル業務ヲ營ム工場、鑛山其ノ他ノ場所ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第三條　前條ノ指定ハ重要事業場ノ事業主（以下事業主ト稱ス）ニ對スル通知ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

事業主ハ重要事業場ノ指定アリタルトキハ其ノ旨ヲ重要事業場ノ從業者（以下從業者ト稱ス）ニ周知セシムベシ

第四條　事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業規則ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ從業規則ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第五條　事業主ハ從業規則ニ依リ從業者ヲ從業セシムベシ

前項ノ規定ハ事業主ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ牴觸スル場合又ハ從業者ヲ從業セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條　事業主ハ從業規則ヲ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ從業者ニ周知セシムベシ但シ從業規則中從業者ノ一部ニ關係アル事項ハ適當ナル方法ニ依リ關係從業者ニ對シテノミ之ヲ知ラシムルヲ以テ足ル事業主從業規則ヲ變更シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ之ヲ周知セシムベシ

第七條　從業者ハ從業規則又ハ從業規則ニ基キ事業主ノ爲ス指示ニ從ヒ重要產業場ノ業務ニ從事スベシ

事業主ニ對スル第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ第五條第二項ノ規定ニ依リ受クタル許可ニ基ク事業主ノ指示アリタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ從業者ハ其ノ指示ニ從ヒ重要事業場ノ業務ニ從事スベシ

前二項ノ規定ハ從業者ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ牴觸スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第八條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業時間ノ延長若ハ短縮、休日、褒賞、早退、缺勤者ハ休暇ノ制限又ハ從業者ノ從事スベキ業務其ノ他ノ從業者ノ使用若ハ從業ニ關スル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業者ノ解雇又ハ退職ヲ命ズルコトヲ得

第十條　事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金規則、給料規則及昇給內規ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ賃金規則、給料規則又ハ昇給内規ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十一條　事業主ハ賃金規則及給料規則ニ依リ賃金及給料ヲ支拂ヒ昇給内規ニ依リ從業者ヲ昇給セシムベシ

前項ノ規定ハ第十三條ノ規定ニ依ル命令又ハ事業主ニ對スル第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ命令ニ牴觸スル場合ハ賃金若ハ給料ヲ支拂ヒ若ハ昇給セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條　第六條ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ之ヲ準用ス

第十三條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ從業者ノ賃金、給料、手當、實物給與、賞與又ハ臨時ノ給與ニ關シ事業主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得從業者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上賃金又ハ給料ノ額ガ增減セラルル虞アル場合ニ於テ物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ亦同ジ

第十四條　事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ重要事業場ニ備置クベシ

第十五條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ノ爲ス從業者ノ教養、訓練、體育其ノ他從業者ノ厚生施設ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

第十六條　厚生大臣ハ勞働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、從業者其ノ他ノ關係人ニ對シ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

厚生大臣ノ指定スル當該官吏ハ勞働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、從業者其ノ他ノ關係人ニ出頭ヲ命ジ、說明ヲ求メ又ハ意見ヲ徴スルコトヲ得

第十七條　事業主ハ主任勞務擔當者ヲ選任シ重要事業場ノ勞務管理ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ

厚生大臣同一人ガ二以上ノ重要事業場ヲ營ム場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事業主ニ對シ各重要事業場ノ主任勞務擔當者ノ外中央勞務擔當者ヲ選任シ其ノ總テノ重要事業場ノ勞務管理ニ關スル事項ヲ擔任セシムベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條　事業主前條ノ規定ニ依リ主任勞務擔當者又ハ中央勞務擔當者ヲ選任シタルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ者ノ履歷書ヲ具シ其ノ旨ヲ遲滯ナク厚生大臣ニ報告スベシ

第十九條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ主任勞務擔當者、中央勞務擔當者其ノ他重要事業場ノ勞務管理ニ關スル業務ニ從事スル者ノ職務ノ執行ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　厚生大臣ハ廳府縣及鑛山監督局ノ高等官中ヨリ勞務監理官ヲ命ジ厚生大臣ノ命ヲ承ケ厚生大臣ノ指定スル重要事業場ニ付從業者ノ使用、從業、賃金、給料其ノ他勞務管理ニ關スル事項ニ關シ事業主及從業者ノ監督指導ヲ爲サシム

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ル勞務監理官ノ外厚生省高等官中ヨリ勞務監理官ヲ命ジ上官ノ命ヲ承ケ厚生大臣ノ指定スル重要事業場ニ付從業者ノ使用、從業、賃金、給料其ノ他勞務管理ニ關スル事項ニ關シ事業主及從業者ノ監督指導ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十一條　厚生大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ重要事業場ノ勞務管理ノ狀況ニ關シ事業主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ重要事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ當該重要事業場ヲ所管スル勞務監理官ヲ除クノ外其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十二條　厚生大臣ハ第二條、第四條、第五條第二項、第八條乃至第十條、第十一條第二項、第十三條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニシテ工場事業場管理令ニ依リ管理スル工場事業場ニ關スルモノニ付テハ當該工場事業場ヲ管理スル主務大臣ニ協議スベシ

第二十三條　本令ハ國及道府縣ノ事業ニ之ヲ適用セズ

第二十四條　第十條乃至第十四條ノ規定中會社經理統制令第九條ノ社員ニ關スルモノハ同令第七條ノ會社ニ之ヲ適用セズ

第二十五條　工場就業時間制限令竝ニ鑛業法第七十五條及工場法施行令第二十七條ノ四ノ規定ハ事業主ガ第四條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ

賃金統制令及工場法施行令第二十四條ノ規定ハ事業主ガ第十條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ

第二十六條　厚生大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）又ハ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九八、重要事業場勞務管理令施行規則

（昭和十七年二月二十八日厚生省令第十號
昭和十八年二月十五日厚生省令第三號改正）

第一條　重要事業場勞務管理令（以下令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依リ指定シタル重要事業場（以下重要事業場ト稱ス）ノ事業主（以下事業主ト稱ス）ハ其ノ重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル日ヨリ二十日以内ニ令第四條第一項及第十條第一項ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

第二條　從業規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ國民徴用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ既ニ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項、鐵道營業法第二十條及第二十三條第二項ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クベキ事項竝ニ地方鐵道係員職制及軌道係員規程ニ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　從業者ノ身分、職務及指揮監督ニ關スル事項

二　始業及終業ノ時刻、休憩時間、休日竝ニ交替制ニ於ケル就業轉換ニ關スル事項

三　早出、殘業及宿直ニ關スル事項

四　入場、退場、遲刻及早退ニ關スル事項

五　缺勤及休暇ニ關スル事項

六　保健衞生ニ關スル事項

七　危害防止ニ關スル事項
八　褒賞及懲戒ニ關スル事項
九　解雇及退職ニ關スル事項
前項各號ニ揭グル事項ノ外從業ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ從業規則ニ記載スルコトヲ得
第三條　令第五條第二項ノ許可ノ申請ニハ從業規則ニ依リ得ザル理由竝ニ從業ノ方法及期間ヲ具スベシ
第四條　事業主ノ從業者ニ對シ爲ス指示ガ令第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第五條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基クモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨ヲ從業者ニ明示スベシ
第五條　賃金規則ニハ勞務者ノ賃金ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ國民徵用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ既ニ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　賃金締切ノ期間竝ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項
二　賃金計算ノ基礎トナルベキ所定就業時間ニ關スル事項
三　定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額ニ關スル事項
四　請負賃金制ニ於ケル保證給ノ初給額及最低額ニ關スル事項
五　單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ關スル事項
六　手當ヲ支給スルトキハ其ノ名稱及額又ハ率竝ニ給與條件ニ關スル事項
七　實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項
八　遡及又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法ニ關スル事項
九　賃金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項
十　其ノ他賃金ニ關シ必要ナル事項
第六條　給料規則ニハ職員ノ給料ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ國民徵用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ既ニ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　給料締切ノ期間竝ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項
二　基本給料ノ初給額ニ關スル事項
三　手當ヲ支給セントスルトキハ其ノ手當ノ名稱及額又ハ率竝ニ給與條件ニ關スル事項
四　實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項
五　給料ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項
六　其ノ他給料ニ關シ必要ナル事項
第七條　事業主ノ從業者ニ對スル賃金又ハ給料ノ支拂ガ令第十三條若ハ令第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第十一條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基キ賃金規則又ハ給料規則ニ依ラザルモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨從業者ニ明示スベシ

第八條　昇給內規ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ國民徵用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ既ニ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一　昇給期ニ關スル事項
二　昇給査定ニ關スル事項
三　一回ノ昇給ノ最高額、最低額及標準額ニ關スル事項
四　其ノ他昇給ニ關シ必要ナル事項
第九條　令第十一條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ賃金規則、給料規則又ハ昇給內規ニ依リ得ザル理由竝ニ賃金、給料又ハ昇給ノ額又ハ率及給與條件ヲ具スベシ
第十條　事業主從業者ニ對シ賞與、賞與又ハ臨時給與ヲ支給セントスルトキハ所管勞務監理官ノ承認ヲ受クベシ從業者ニ對シ物品ノ販賣又ハ其ノ委託ヲ爲サントスルトキ亦同ジ
前項ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ依ル支給ニ付テハ之ヲ適用セズ
第一項ノ承認ノ申請書ハ樣式第一號乃至第四號ニ依リ賞與又ハ臨時給與ノ支給ニ關スル申請ニハ個人給與額算出基準ヲ添附スベシ
第十一條　事業主ハ令第十條第一項ノ認可アリタルトキヨリ三十日以內ニ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ從業者ノ賃金又ハ給料ヲ記載スベシ但シ日日雇入ルル從業者ノ賃金又ハ給料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第十二條　賃金統制令施行規則第三十六條乃至第三十九條ノ規定ハ賃金臺帳及給料臺帳ニ付之ヲ準用ス但シ同規則第三十六條第六項及第三十八條中地方長官トアルハ厚生大臣トス
第十三條　事業主ハ每年十一月末日迄ニ左ノ事項ニ付翌年中ニ於テ實施スベキ計畫ヲ定ムベシ
一　職員ノ教養及訓練ニ關スル事項
二　勞部勞務者ノ精神訓練及技能教育ニ關スル事項
三　青少年勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項
四　一般勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項
五　從業員ノ體育ニ關スル事項
當該事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於ケル第一項ノ計畫ヲ定ムベキ期限ハ其ノ指定ノ日ヨリ二月以內トス
第十四條　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ給食施設、應急診療方法其ノ他ノ厚生施設ヲ爲スコトヲ命ズルコトアルベシ
第十五條　（削　除）
第十六條　（削　除）
第十七條　（削　除）
第十八條　令第十六條第一項ノ規定ニ依リ事業主ハ從業者ガ作業時間外ニ於テ從業條件其ノ他ニ關シ勞務監

理官共ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、說明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第十九條　令第十六條第一項ノ規定ニ依リ重要事業場ノ從業者ハ事業主ガ從業條件其ノ他ニ關シ勞務監理官共ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、說明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第二十條　令第十六條第二項ノ規定ニ依リ左ノ官吏ヲ指定ス

一　所管勞務監理官タル官吏

二　勞務監督官タル官吏

三　鑛山監督局ノ鑛務監督官タル官吏

第二十一條　事業主ハ主任勞務擔當者及中央勞務擬當者ニ從業者ニ關スル左ノ事項ヲ擔任セシムベシ

一　雇入、解雇其ノ他ノ人事ニ關スル事項

二　從業規則ノ制定、變更及運用ニ關スル事項

三　賃金、給料及昇給ニ關スル事項

四　教養、訓練、體育其ノ他厚生ニ關スル事項

五　共ノ他勞務管理上必要ナル事項

第二十二條　事業主ハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年中ノ從業者ノ厚生ニ關スル施設ノ計畫ヲ毎年十一月末日迄ニ定ムベシ

當該重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於テハ前項ノ施設ノ計畫ヲ定ムベキ期限ハ共ノ指定ノ日ヨリ二月以内トス

第二十三條　事業主ハ樣式第五號乃至第七號ニ依リ毎月ノ從業者ノ殘業、遲刻、早退、缺勤及懲戒ノ狀況調ヲ作成スベシ

第二十四條　事業主左ノ場合ニ於テハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ所管勞務監理官ニ當該事項ノ概況ヲ速報スベシ

一　重要事業場ニ於テ從業者ノ死傷發生シタルトキ

二　重要事業場ニ於テ傳染病發生シタルトキ

三　重要事業場ニ勞働紛議發生シ又ハ共ノ發生ノ虞アリト認ムルトキ

四　從業者ヨリ從業條件共ノ他ニ關シ申入ヲ受ケタルトキ

五　國民徵用令ニ依ル被徵用者ニ關シ傷痍、疾病、死亡、逃走共ノ他長期ニ亘リ從業ヲ爲シ得ザル事故發生シタルトキ

六　從業者ニ減給以上ノ懲戒ヲ加ヘントスルトキ

七　重要事業場ニ於テ不時ノ災害アリタルトキ

八　令又ハ本令ニ基ク厚生大臣ノ命令ニ基キ必要ナル措置ヲ爲シタルトキ

第二十五條　令第二十一條第二項ノ規定ニ依ル帳簿ハ樣式第八號ニ依ル

第二十六條　令及本令ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ提出スル報告書又ハ許可若ハ認可ノ申請書ハ所管勞務監理官ヲ經由シ各正副四通ヲ提出スベシ

第二十七條　（削　除）

第二十八條　工場法施行規則第二條、第四條及第二十條中地方長官トアルハ重要事業場ニ付テハ厚生大臣トス

鑛夫就業扶助規則第五條、第六條第二項、第七條、第七條ノ二第二項、同條第三項、第十一條及第十一條ノ二第二項中鑛山監督局長トアルハ重要事業場ニ付テハ厚生大臣トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式第一號　（用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五・七糎横三六・四糎トス）

實物給與承認申請書

事業ノ種類	從業場所ノ名稱	所在地	常時雇傭スル從業者數					
			職員			勞務者		
			男	女	計	男	女	計

實物ノ種類	給與單位	評價額	給與時期	給與條件	一年間ノ給與從業者數	備考

其ノ他參考ト爲ルベキ事項

昭和　年　月　日

住所

（事業主）氏　　名　㊞

所管勞務監理官　殿

様式第二號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五・七糎横三六・四糎トス)

賞與承認申請書

事業ノ種類						
従業場所ノ名稱						
所在地						
常時雇傭スル従業者數	職員 男	職員 女	職員 計	勞務者 男	勞務者 女	勞務者 計

	支給ノ時期 職員	支給ノ時期 勞務者	賞與見込總額 職員	賞與見込總額 勞務者	賞與見込總額 計	支給従業者數 職員	支給従業者數 勞務者	支給従業者數 計	平均賞與額 職員一人ニ付	平均賞與額 勞務者一人ニ付
承認ヲ受ケ支給セントスル賞與										
本年ニ於テ既ニ支給セル賞與										
前年中ニ支給セル賞與										
支給セントスル賞與總額ノ算出基礎										
支給セントスル理由										
其ノ他参考ト爲ルベキ事項										

昭和　年　月　日

住所

(事業主) 氏　　名 ㊞

所管勞務監理官　殿

様式第三號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五・七糎横三六・四糎トス)

臨時給與承認申請書

事業ノ種類						
従業場所ノ名稱						
所在地						
常時雇傭スル従業者數	職員 男	職員 女	職員 計	勞務者 男	勞務者 女	勞務者 計

	支給ノ時期 職員	支給ノ時期 勞務者	臨時給與總額 職員	臨時給與總額 勞務者	臨時給與總額 計	支給従業者數 職員	支給従業者數 勞務者	支給従業者數 計	平均給與額 職員一人ニ付	平均給與額 勞務者一人ニ付
承認ヲ受ケ支給セントスル臨時給與										
本年ニ於テ既ニ支給セル臨時給與										
其ノ他参考ト爲ルベキ事項										

昭和　年　月　日

住所

(事業主) 氏　　名 ㊞

所管勞務監理官　殿

様式第四號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五・七糎横三六・四糎トス)

物品販賣承認申請書

事業ノ種類						
従業場所ノ名稱						
所在地						
常時雇傭スル従業者數	職員 男	職員 女	職員 計	勞務者 男	勞務者 女	勞務者 計

品目	單位	單價	販賣條件	販賣ヲ受クル従業者數 男	販賣ヲ受クル従業者數 女	販賣ヲ受クル従業者數 計	一年間ノ販賣見込數量
販賣ノ委託ヲ爲サントスルトキハ其ノ委託ヲ受クル者ノ住所及氏名							
其ノ他参考ト爲ルベキ事項							

昭和　年　月　日

住所

(事業主) 氏　　名 ㊞

所管勞務監理官　殿

様式第五號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五・七糎横三六・四糎トス)

従業者(職員／勞務者)殘業狀況調

事業場名		事業主氏名	

昭和　年　月分

區分	性別	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	計
就業人員	男																																
	女																																
殘業人員	男																																
	女																																
殘業人員率	男																																
	女																																
殘業延時間	男																																
	女																																
殘業者一人平均殘業時間數	男																																
	女																																
殘業時間率	男																																
	女																																
備考																																	

(記載注意)
1 本表ハ適宜必要ニ應ジ職場別ニ作成スルコト
2 本表ハ職員ト勞務者ノ別ニ作成スルコト
3 職員ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「勞務者」ヲ抹消シ、勞務者ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「職員」ヲ抹消スルコト
4 就業人員ハ當日實際ニ就業セル人員ヲ記載スルコト
5 就業人員率ハ次式ニ依リ計算スルコト

$$就業人員率=\frac{就業人員}{就業人員}\times 100$$

6 就業時間率ハ次式ニ依リ計算スルコト

$$就業時間率=\frac{就業延時間}{所定就業時間\times就業人員}\times 100$$

7 本表ノ記載事項ニシテ陸海軍大臣ニ依リ軍用資源秘密トシテ指定セラレタルモノハ記載ノ限ニ在ラザルコト

様式第六號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4(縦二五・七糎 横三六・四糎)トス)

從業者(職員/勞務者)遅刻早退缺勤狀況調

事業場名		事業主氏名	

昭和　　年　　月分

區分		性別	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日	計
在籍從業者數		男																																
		女																																
遅刻者數		男																																
		女																																
遅刻率		男																																
		女																																
早退者數		男																																
		女																																
早退率		男																																
		女																																
缺勤狀況	公傷病缺勤者數	男																																
		女																																
	私傷病缺勤者數	男																																
		女																																
	事故缺勤者數	男																																
		女																																
	以上計	男																																
		女																																
	缺勤率	男																																
		女																																
	公休者數	男																																
		女																																
備考																																		

(記載注意)
1 本表ハ職員ト勞務者ノ別ニ作成スルコト
2 職員ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「勞務者」ヲ抹消シ、勞務者ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「職員」ヲ抹消スルコト
3 在籍從業者數ハ月末現在ニ依リ記載シ應召、入營又ハ休職中ノ者ヲ含マザルコト
4 遅刻(早退又ハ缺勤)率ハ次式ニ依リ計算スルコト

$$遅刻(早退又ハ缺勤)率=\frac{遅刻(早退又ハ缺勤)者數}{在籍從業者數}\times 100$$

5 本表ノ記載事項ニシテ陸海軍大臣ニ依リ軍用資源秘密トシテ指定セラレタルモノハ記載ノ限ニ在ラザルコト

様式第七號 (用紙ノ大サハ日本標準規格B4(縦二五・七糎 横三六・四糎)トス)

從業者懲戒狀況調

事業場名		事業主氏名	

昭和　　年　　月分

懲罰ノ種類	懲戒解雇				出勤停止				減給				昇給制限				譴責				計			
職員勞務者ノ別	職員		勞務者		職員		勞務者		職員		勞務者		職員		勞務者		職員		勞務者		職員		勞務者	
懲戒理由 ＼ 性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計																								
備考																								

(記載注意)
1 懲戒理由ハ從業規則所定ノ事由ニ依リ區別シ記載スルコト
2 同一人ニ對シ其ノ月ニ於テ二回以上懲罰ヲ科シタルトキハ其ノ回數ニ依リ計上スルコト
3 懲罰ヲ併科シタルトキハ其ノ重キモノニ付計上スルコト

一〇〇、工員從業規則記載例

第一章　總則

第一條　工員ハ國體ノ本義ニ基ク皇國產業ノ國家的使命ト之ニ從事スル自己ノ重責トヲ認識シ和親協力以テ職分奉公ノ誠ヲ效スヲ本分トスベシ

第二條　工員ハ工場ノ秩序ヲ保持シ能率ヲ增進シ勤務ヲ快適ナラシムル爲本則ヲ遵守スルノ外上司ノ示達スル事項ヲ遵守シ特ニ左ノ事項ヲ心得フベシ

一　上司ニ對シ尊敬ト信頼トヲ持シ其ノ指圖ニ欣然從フコト
二　同僚互ニ禮儀ヲ重ンジ友愛ヲ盡シ苟クモ粗暴ノ行爲ヲ爲サザルコト
三　作業ヲ通ジテ心身ノ鍛錬ト技術ノ練磨ニ努ムルコト
四　時間ヲ尊重シ寸暇ヲ惜ミ仕事ニ精勵スルコト
五　作業ハ愼重敏速ヲ旨トシ特ニ精良ヲ期スルコト
六　材料及動力ヲ節約シ且機械、工具ヲ大切ニ取扱フコト
七　作業場ヲ整頓シ且之ヲ清淨ニスルコト

第三條　工員當工場ニ就業シタルトキハ左ノ事項ヲ事務所ニ届出ヅベシ

一　住所又ハ居所
二　家族ノ氏名、年齢、職業及続柄
三　通勤ノ方法

前項各號ノ一ニ異動アリタルトキハ遅滞ナク事務所ニ之ヲ届出ヅベシ

第二章　身分、職務及指揮監督

第四條　工員ヲ左ノ種類ニ分ツ

一　本工員
二　見習工員
三　養成工員

第五條　本工員ハ之ヲ業務ニ依リ左ノ種類ニ分ツ

熔接工員
製罐工員
○○工員（例示）
○○工員

第六條　本工員ハ之ヲ技能ノ程度ニ依リ左ノ種類ニ分ツ

一一級
二二級（例示）
三三級

第七條　工場長ハ左ノ役付工員ヲ任命ス

一組長（例示）
二副組長（例示）

組長ハ工員統率ノ直接ノ責任者トス

組長ハ上司ノ命ヲ受ケ副組長以下組工員ヲ指揮シ其ノ技術ヲ指導シ作業ヲ管理ス特ニ見習工員ニハ細心ノ注意ヲ以テ之ガ保護指導ニ當ルベシ

副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第八條　見習工員タル期間ハ○月トシ組長（副組長）及指定セラレタル本工員ノ指導ヲ受ケ作業ニ從事シ業務ノ習得ニ努ムルモノトス

養成工員ハ技能者養成令ニ基キ所定ノ養成ヲ受ケ作業ニ從事スルモノトス

第九條　工員ハ辭令ヲ以テ其ノ所屬ノ部（課、係）ニ配置ス

第十條　工員ハ勤務中及出入場ノ際ハ所定ノ服章ヲ（左胸部）ニ帳用スベシ

第三章　始業、終業、休日及休暇、早出殘業及宿直

第十一條　始業及終業時間ヲ左ノ通定ム

自○月○日　至○月○日　（午前七時ヨリ午後五時迄）
自○月○日　至○月○日　（午前八時ヨリ午後六時迄）

第十二條　滿二十歳未滿ノ者及女子ニシテ入職後三ケ月ヲ經過セザル未經驗工員ニ對シテハ一日ニ付十時間ヲ超エ又ハ深夜ニ於テ就業セシメザルモノトス

前項ノ規定ハ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケタルトキハ之ヲ適用セズ但シ十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ對シ一日ニ付十一時間ヲ超エテ又ハ深夜ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　休憩時間左ノ如シ

一　午前○時ヨリ（十　分）
二　正　午　ヨリ（四十五分）
三　午後○時ヨリ（十　分）
四　殘業セシムル場合ニ於テハ其ノ初ニ於テ（十分、食事ヲトラシムルトキハ四十五分）

妻食ハ正午ノ休憩時間中ニ之ヲ當スベシ

第十四條　交替制ヲ以テ連續作業ヲ當サシムル場合ニ於ケル就業時間及休憩時間左ノ如シ

三交替制ノ場合

第一班　○時○分ヨリ○時○分迄
　休憩　○時○分ヨリ○分
第二班　○時○分ヨリ○時○分迄
　休憩　○時○分ヨリ○分
第三班　○時○分ヨリ○時○分迄
　休憩　○時○分ヨリ○分

二交替制ノ場合

第一班　○時○分ヨリ○時○分迄
　休憩　○時○分ヨリ○分　○時○分ヨリ○分
第二班　○時○分ヨリ○時○分迄
　休憩　○時○分ヨリ○分　○時○分ヨリ○分

交替制ノ轉換ハ七日毎ニ之ヲ行フモノトス

第十五條　定休日左ノ如シ

一　毎月（第○）及（第○）日曜日
二　元旦、紀元節、天長節、明治節

三　〇〇〇〇

（業務ノ都合ニ依リ必要アルトキハ前項第一號ノ定休日ニ代ヘテ月二回ノ輪番休日ヲ與フルコトアルベシ）

業務繁忙其ノ他業務上必要アルトキハ勞務監理者ノ承認ヲ得テ前項（第一項）ノ休日ニ就業セシムルコトアルベシ

第十六條　定休日ニ就業シタル者ニ對シテハ別ニ代休日ヲ與フルモノトス

第十七條　業務上必要アルトキハ第十一條ノ規程ニ拘ラズ早出又ハ殘業ヲ命ズルコトアルベシ

但シ第十一條ノ就業時間ヲ通算シ就業十二時間ノ範圍ヲ超エザルモノトス

業務ノ性質上又ハ已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ニ據リ難キ場合ニ於テ勞務監理者ノ承認ヲ得タルトキ又ハ管理大臣ノ命令アリタル場合ニ於テハ勞務監理官ニ豫メ報告シ就業十二時間ヲ超エテ早出又ハ殘業ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條　戰時事變等ノ爲必要アル場合ニ於テハ勞務監理官ノ承認ヲ受ケタル規程ニ基キ工員ニ宿直ヲ命ズルコトアルベシ

第四章　入場、退場、遲刻及早退

第十九條　工員ハ始業前〇分迄ニ（入場時ヲ登錄シテ）所定ノ場所ニ整然集合シ朝禮ヲナシテ後就業スルモノトス

第二十條　工員退場時ニアリテハ持場ヲ整頓シ（終禮ヲ行ヒタル後退場時ヲ登錄シテ）退場スベシ

第二十一條　第九條ノ時刻ヨリ〇分以上遲刻シタル者ハ入場ヲ許サズ但シ已ムヲ得ザル事由アル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニヨリ早退又ハ外出スル者ハ（係長）ヨリ出門許可證ヲ受取リ之ヲ門衞ニ示シテ出場スベシ

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入場ヲ許サズ又ハ退場ヲ命ズルコトアルベシ

一　酒氣ヲ帶ビタル者及酒類ヲ携帶スル者

二　火器其ノ他作業ニ必要ナラザル危險物ヲ携帶スル者

三　異樣ノ服裝ヲ爲シ又ハ所定ノ徽章ヲ佩用セザル者

四　其ノ他作業ヲ妨害シ若ハ工場ノ風紀ヲ著シク紊シ又ハ其ノ處アル者

第五章　缺勤及休暇

第二十四條　病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ缺勤セントスル者ハ就業時刻前ニ缺勤豫定日數及其ノ事由ヲ具シ願出ヅベシ但シ其ノ願出ノ暇ナキトキハ事後速ニ其ノ事由ヲ屆出ヅベシ

第二十五條　工員ハ一年ニ付三日乃至五日間ノ有給慰勞休暇ヲ受ク

第二十六條　工員ハ左ノ場合ニ於テハ休暇ヲ受クルコトヲ得

一　父母、配偶者又ハ子女ノ喪ニ服スルトキ　五日

二　祖父母、配偶者ノ父母（里方ノ場合）又ハ兄弟姉妹ノ喪ニ服スルトキ　三日

三　伯叔父母ノ喪ニ服スルトキ　一日

四　父母ノ法要又ハ祭祀ヲ營ムトキ　一日

五　徵兵檢査、簡閱點呼、勤務演習又ハ裁判ニ應ズルトキ　往復所要日數ヲ含ム必要日數

六　證人、鑑定人、參考人又ハ陪審員トシテ裁判所ニ出頭スルトキ其ノ他之ニ準ズルトキ　往復所要日數ヲ含ム必要日數

七　本人結婚セントスルトキ　前後通算　三日

八　女子工員ノ產前產後　連續通算　七〇日

第六章　教養訓練

第二十七條　工員ハ工場ノ教養訓練計畫ニ基キテ行フ教養訓練ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アリテ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章　保健衞生

第二十八條　工員ハ每日工場所定ノ體操ヲ行フベシ但シ健康上體操ヲ行フコト不適當ナル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　食事ハ所定ノ場所ニ於テ行フベシ

食事前ノ洗手ヲ勵行スベシ

第三十條　工員工場內ニ於テ負傷シ又ハ發病シタルトキハ本人（本人ガ爲シ得ザルトキハ組長又ハ同僚）ハ其ノ旨ヲ事務所ニ申出デ指揮ヲ受クベシ

第三十一條　左ニ揭グル疾病ニ罹レル者ハ就業ヲ禁止ス但シ第五號又ハ第六號ニ揭グル疾病ニ罹レル者ニ付工場ノ認ムル傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　精神病

二　癩、病毒傳播ノ虞アル結核

三　法定傳染病

四　丹毒、再歸熱、廔痿其ノ他之ニ準ズベキ急性熱性病

五　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

六　膿漏性結膜炎、トラホーム（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準ズベキ傳染性眼病

七　肋膜炎、第二號以外ノ結核、心臟病、腳氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アルモノ

八　傳染病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖モ健康ノ回復セザル場合

第三十二條　工員其ノ同居ノ家族又ハ同居人ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アル者アルトキハ直ニ其ノ旨事務所ニ屆出デ指揮ヲ受クベシ

第三十三條　工員ニ對シ採用後三十日以内又ハ毎年一回（又ハ二回）健康診斷ヲ行フ

前項ノ外臨時必要アリト認ムルトキハ工員ノ全部又ハ一部ニ對シ健康診斷ヲ行フ

第三十四條　左ニ掲グル者ハ健康要保護者トシ之ニ對シ就業制限、作業ノ轉換、治療其ノ他保健衛生上必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　年齢二十歳未滿ニシテ採用後六月以内ノ者

二　ツベルクリン反應ノ陽性轉化後一年以内ノ者

三　疾病ニ罹リ又ハ身體虚弱ニシテ一定ノ保護ヲ必要トスル者

四　姙婦

第八章　危害豫防

第三十五條　工員ハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急具及材料ノ備付場所竝ニ其ノ使用方法ヲ知得シ置クベシ

第三十六條　工員ハ安全管理者、安全委員其ノ他安全關係者ノ指導ニ從ヒ各自職場安全化ノ協力者タルヲ自覺シ作業安全ノ實踐ニ努ムベシ

第三十七條　工員ハ工場内ニ於テ協力シテ左記事項ヲ嚴守スベシ

一　原動機、動力傳導裝置、機械設備又ハ工具等ハ就業前ニ點檢シ尚故障若ハ危險ナル箇所ヲ發見シタルトキハ使用ヲ停止シ直ニ其ノ旨係員ニ報告スルコト

二　係員ニ非ザルモノハ原動機ノ始動又ハ停止ヲ爲サザルコト

三　工場内ニ於テハ猥リニ焚火其ノ他火氣ノ使用ヲ爲サザルコト

四　業務上火氣及火氣ヲ誘導シ易キ物品ヲ取扱フトキハ細心ノ注意ヲ拂ヒ危險ナキヲ期スルコト

五　喫煙ハ休憩時間中所定ノ場所ニテ爲スコト

六　危險又ハ有害ノ虞アル作業ニ從事スル者ハ常ニ所定ノ保護具ヲ使用スルコト

七　常ニ整理整頓ヲ旨トシ特ニ通路、避難出口、消火設備ノ在ル箇所等ニハ物品ヲ置カザルコト

八　安全規則、作業心得其ノ他危害豫防ニ關スル規則ヲ遵守シ災害豫防ニ努ムルコト

第三十八條　工員ハ防空、防火竝ニ避難ニ際シテハ別ニ定ムル規程ニ依リテ行動スベシ

第三十九條　火災其ノ他ノ災害ノ發生ヲ發見シ又ハ災害發生ノ危險ヲ覺知シタル者ハ直ニ之ヲ係員其ノ他適當ノ者ニ報告シ其ノ指揮ニ依リテ行動スベシ但シ急ヲ要スルトキハ臨機ノ處置ヲ執リ直ニ其ノ旨ヲ係員其ノ他適當ノ者ニ報告スベシ

第九章　表彰

第四十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ詮衡ノ上之ヲ表彰ス

一　品行方正、技能優秀、業務ニ熱心ニシテ衆ノ模範タル者

二　作業上有益ナル發明改良又ハ工夫考案ヲ爲シタル者

三　火災其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止シ若ハ災厄ニ際シ特ニ功勞アリタル者

四　皆勤三ケ年以上ノ者

五　滿十五年（女子工員ニ在リテハ八年）以上勤續シ功勞アリタル者

六　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ篤行又ハ功勞アリタル者

第四十一條　表彰ハ工場長表彰委員會ニ諮リテ之ヲ決ス

第四十二條　表彰ハ賞狀、徽章、賞品又ハ賞金ヲ授與シテ之ヲ行フ

第十章　懲戒

第四十三條　懲戒ハ譴責、減給、慰勞休暇制限、家族手當減給又ハ支給停止及懲戒解雇トス

第四十四條　前條ノ懲戒ハ左記ニ依ルモノトス

一　譴責ハ始末書ヲ提出セシム

二　減給ハ譴責ニ加フルニ賃金ノ五日間分以内ヲ總額トシ一日ニ付日給ノ三分ノ一以内ノ減給ヲナス

三　慰勞休暇制限ハ譴責ニ加フルニ五日以内ノ慰勞休暇制限ヲ行フ

四　家族手當減額又ハ支給停止ハ譴責ニ加フルニ當月分ノ家族手當減額又ハ支給停止ヲ行フ

五　懲戒解雇ハ豫告ヲ用ヒズシテ解雇スルモノトス

第四十五條　工員ハ本則ニ據ル外懲戒ヲ受クルコトナシ

懲戒ハ事情ニ依リ之ヲ工場内ニ掲示ス

第四十六條　本則ニヨリ工員ノ遵守スベキ事項ニ違反シタルトキハ譴責ニ處ス但シ反則輕微ナルカ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ工場長ノ訓戒ニ止ムルコトアルベシ

第四十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ減給又ハ慰勞休暇制限ニ處ス

一　火氣ノ取扱ヲ粗略ニシ又ハ所定ノ場所以外ノ場所ニ於テ焚火若ハ喫煙ヲ爲シタル者

二　私品ヲ作製シ又ハ作製セントシタル者

三　工場内ニ於テ喧嘩口論ヲ爲シタル者

四　虚偽ノ事項ヲ申述シ工場ニ不利益ヲ齎シタル者

五　素行不良ニシテ工場ノ秩序ヲ紊シタル者

六　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合ナル行爲アリタル者

第四十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ懲戒解雇トス

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタル者

二　事業ノ秘密ヲ漏洩セントシタルコト明ナル者

三　私品ヲ作製シ又ハ作製セシメタル者ニシテ其ノ情重キ者

四　事業場ノ物品ヲ無斷ニテ持出シ又ハ持出サントシタルコト明ナル者

五　故意ニ事業場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタル者

六　上長ノ命ニ服セザルコト數回ニ及ブ者

七 上長ノ命令ヲ侮蔑シ若ハ反抗シ又ハ上長ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル者
八 同僚ニ對シ不法ニ辭職ヲ強要シ、敎唆煽動ヲ爲シ若ハ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ他人ノ業務遂行ヲ妨ゲタル者
九 故意ニ作業能率ヲ阻害シタル者
十 正當ノ理由ナク無斷缺勤十四日以上ニ及ビタル者
十一 出勤常ナラズ遲刻、早退多ク勤務ニ不熱心ナル者
十二 正當ノ理由ナク早出殘業又ハ呼出ニ應ゼザル者
十三 戒告數回ニ及ブモ仍怠慢ニシテ業務ニ不熱心ナル者
十四 承認ヲ得ズシテ在籍ノ儘他人ニ雇傭セラレタル者
十五 故意ニ危害豫防ニ關スル規則又ハ指揮ニ違反シタル者
十六 著シク事業場ノ風紀又ハ規律ヲ紊亂シタル者
十七 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタル者

第四十九條 正當ノ理由ナク無斷缺勤ヲナシタル者又ハ第四十八條各號ニ定ムル特ニ不都合ナル行爲アリタル者ニ對シテハ所管勞務監理官ノ承認ヲ承ケ家族手當減額又ハ支給停止ニ處スルコトアルベシ

第五十條 工員本則ニ違反シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ國家總動員法ニ基キ處罰セラルルコトアルベシ

第五十一條 懲戒ハ工場長之ヲ懲戒委員會ニ諮リテ決定ス

第十一章 解雇、退職

第五十二條 工員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十四日前ニ豫告シテ解雇ス但シ賃金十四日以上ノ手當ヲ支給スルトキハ即時解雇ス
一 精神又ハ身體ノ障礙ニ依リ作業ニ堪エズト認メタルトキ
二 老衰ノ爲作業能率著シク劣レルニ至リタルトキ
三 事業縮少ノ爲工員ニ過剩ヲ生ジタルトキ
四 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ已ムヲ得ザル事由アルトキ

第五十三條 工員退職セントスルトキハ十四日前ニ所屬組長ヲ經テ退職願ヲ提出シ從前ノ就業ヲ繼續スベシ但シ入營、應召其ノ他之ニ準ズル事由ニ因リ退職セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一〇一、工員賃金規則記載例

第一條 工員ニハ本給、請負利益金、獎勵加給金、手當、實物給與、賞與及臨時ノ給與ヲ支給ス

第二條 本給、請負利益金、獎勵加給金及手當ハ毎月前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ヲ以テ締切リ其ノ支拂ハ毎月二十七日ニ之ヲ行フ
賃金支拂日休日ニ當ルトキハ前日ニ繰上グ（翌日ニ繰下グ）

第三條 工員左ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ拘ラズ直ニ賃金ヲ支拂フ但シ第五號乃至第九號ノ場合ニ於テハ本人ノ請求ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 死亡シタルトキ
二 退職シタルトキ又ハ解雇セラレタルトキ
三 入營又ハ應召セントスルトキ
四 徴用解除セラレタルトキ但シ引續キ從業スルモノヲ除ク
五 一ケ月以上ニ亘リテ歸鄕スルトキ
六 本人又ハ其ノ家族ノ結婚、葬儀等ノ爲臨時出費ヲ要スルトキ
七 天災其ノ他ノ災厄ニ遭遇シ又ハ負傷若ハ疾病ニ罹リ費用ヲ要スルトキ
八 新ニ世帯ヲ持チ其ノ他之ニ準ズル事項ニ付必要ナル費用ニ充ツルトキ
九 其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキ

第四條 未經驗勞務者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ左ノ通トス但シ作業ノ種類、個人ノ能力等ニ依リ此ノ額ノ一割增ノ範圍內ニ於テ增スコトアルベシ

年齢別／男女別	一四歳以上一五歳未滿	一五歳以上一六歳未滿	一六歳以上一七歳未滿	一七歳以上一八歳未滿	一八歳以上一九歳未滿	一九歳以上二〇歳未滿	二〇歳以上二五歳未滿	二五歳以上三〇歳未滿	三〇歳以上
男子	六〇	七〇	八〇	九〇	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、五〇	一、六〇
女子	五五	六〇	六五	七〇	七三	七五	八〇	八〇	八〇

當該年度國民學校高等科卒業者タル養成工ノ雇入ノ際ノ日給額ハ前項ニ拘ラズ六拾錢トス

第五條 未經驗勞務者以外ノ勞務者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ左ノ通トス但シ作業ノ種類、技倆等ニ依リ此ノ額ノ二割增ノ範圍內ニ於テ增スコトアルベシ

男女別	經驗年數別／年齢別	一四歳以上一五歳未滿	一五歳以上一六歳未滿	一六歳以上一七歳未滿	一七歳以上一八歳未滿	一八歳以上一九歳未滿	一九歳以上二〇歳未滿	二〇歳以上二五歳未滿	二五歳以上三〇歳未滿	三〇歳以上
男子	一年未滿	七〇	八〇	九〇	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、五〇	一、七〇
男子	一年以上三年未滿	八〇	九〇	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、四〇	一、六〇	一、八〇
男子	三年以上五年未滿	—	一、〇〇	一、一〇	一、二〇	一、三〇	一、四〇	一、五〇	一、七〇	一、九〇
男子	五年以上十年未滿	—	—	—	一、三五	一、四五	一、五五	一、六五	一、八五	二、〇五
男子	十年以上	—	—	—	—	—	—	一、八〇	二、〇〇	二、二〇
女子		六五	七〇	七五	八〇	八五	九〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

當該年度學校卒業者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ前項ニ拘ラズ左ノ通トス
中學校 壹圓貳〇錢
工業學校（乙種） 壹圓貳〇錢
工業學校（甲種） 壹圓參〇錢

第六條　日給ノ最低額ハ第四條ニ掲グル額トス

第七條　本給ハ就業時間（休憩時間ヲ含ム）十時間ニ對シテ定ムル日給ヲ基礎トシテ左ノ式ニ依リ計算ス

本　給＝$\frac{日給}{0}$×就業時間數（休憩時間ヲ含ム）

第八條　工員遲刻又ハ早退ノ爲一日ノ就業時間ニ三十分未滿ノ端數ヲ生ジタル場合ニハ前條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ之ヲ切捨ツルモノトス

不可抗力ニ依ル遲刻ノ場合ニハ第四條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ其ノ時間ハ之ヲ就業時間ニ算入ス

第九條　工員自己ノ都合ニ依ラズシテ退場シタル場合ニハ第七條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テ就業時間五時間ニ滿タザル場合ハ五時間、五時間ヲ超エ十時間ニ滿タザル場合ハ十時間ヲ以テ當日ノ就業時間トス

第十條　工員公傷病ニ依リ退場シ就業時間十時間ニ滿タザル場合ハ第七條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ十時間ヲ以テ當日ノ就業時間トス

第十一條　工員ニ對シ本給ノ外本條ノ定ムル所ニ依リ請負利益金又ハ奬勵加給金ヲ支給ス

（一）單價請負

〇〇作業、〇〇作業及〇〇作業ハ單價請負ニ依リ其ノ請負利益金算定式ハ左ノ通トシ請負單價ハ別紙第一表ニ依ル

（イ）個人請負（〇〇作業、〇〇作業）

請負利益金＝單　價×生産個數－本　給（不合格品ヲ含マズ）

但シ單價×生産個數ガ本給ヨリ小ナルトキハ請負利益金ハ〇トス

（ロ）團體請負（〇〇作業、〇〇作業）

團體請負利益金＝（單價×生産個數）－（團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計）

但シ單價×生産個數ガ團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計ヨリ小ナルトキハ請負利益金ハ〇トス

個人請負利益金＝團體請負利益金×$\frac{個人ノ本給}{團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計}$

（二）時間請負

〇〇作業及〇〇作業ハ時間請負ニ依リ其ノ請負利益金算定ハ左ノ通トシ標準時間給ハ別紙第二表、請負時間ハ別紙第三表ニ依ル

（イ）個人請負（〇〇作業、〇〇作業）

請負利益金＝標準時間給×（請負時間－實働時間）

但シ實働時間ガ請負時間ヲ超エタルトキハ請負利益金ハ〇トス

（ロ）團體請負（〇〇作業、〇〇作業）

團體請負利益金＝標準時間給×（請負時間－實働時間）

但シ實働時間ガ請負時間ヲ超エタルトキハ請負利益金ハ〇トス

個人請負利益金＝團體請負利益金×$\frac{個人ノ本給}{團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計}$

（三）左ニ掲グル者ハ單價請負又ハ時間請負ニ依ラズ奬勵加給金ヲ支給ス

奬勵加給金ハ本給ニ奬勵加給率ヲ乘ジタル額トス

（イ）間接工（〇〇工、〇〇工）

此ノ場合ノ奬勵加給率ハ左ノ算式ニ依ル

奬勵加給率＝工場平均請負利益率×0.8

工場平均請負利益率＝$\frac{單價請負又ハ時間請負ニ依ル工員請負利益金ノ合計}{單價請負又ハ時間請負ニ依ル工員ノ本給}$

（ロ）養成工

此ノ場合ノ奬勵加給率ハ左ノ如シ

第一學年　〇、二

第二學年　〇、三

（ハ）新ニ雇入レタル未經驗勞務者

此ノ場合ノ奬勵加給率ハ左ノ如シ

雇入當時ノ年齡三〇歲未滿ノモノ　雇入後　三ケ月間　〇、二

雇入當時ノ年齡三〇歲以上ノモノ　雇入後　三ケ月間　〇、二

雇入當時ノ年齡三〇歲以上ノモノ　雇入後　四ケ月ヨリ九ケ月間　〇、三

（ニ）新ニ雇入レタル未經驗勞務者以外ノ勞務者

此ノ場合ノ奬勵加給率ハ左ノ如シ

雇入後一ケ年　〇、二

第十二條　工員ニ對シ左ノ手當ヲ支給ス

名稱	額又ハ率	給與條件
早出、殘業歩增	日給ノ一分	早出、殘業二時間迄ノ就業一時間ニ付
	日給ノ二分	早出、殘業二時間ヲ超ユル就業一時間ニ付
夜勤歩增	日給ノ三分	交替制ニ依ル夜間就業一時間ニ付
休日出勤手當	日給ノ十割	元旦ノ出勤ニ對シ
	日給ノ五割	元旦以外ノ大祭祝日ノ出勤ニ對シ
	日給ノ一割	右以外ノ所定休日ノ出勤一日ニ對シ
皆勤手當	日給ノ二日分	一ケ月皆勤ニ對シ月額
粉塵作業手當	四錢	金屬鑄物製造ニ於ケルハツリ又ハ砂落ノ作業一時間ニ付
	貳錢五厘	電氣熔接作業一時間ニ付
役付手當	參圓	伍長一人ニ付月額
	五圓	組長一人ニ付月額

臨時休業手當	標準報酬日額ノ八割	工員ノ都合ニ依ラズシテ臨時ニ休業セシメタル場合一日ニ付
慰勞休暇手當	日給ノ一日分	從業規則第何條ニ依ル慰勞休暇一日ニ付
軍事參會手當	日給ノ一日分	從業規則第何條第何號ノ軍事參會一日ニ付
家族手當	別紙ニ依ル	
入營應召手當	別紙ニ依ル	

第十三條　定額賃金制ノ場合ニ於テハ新ニ當工場ニ入社セル工員ニシテ勤續三ケ月（三十歲以上四十歲未滿ノ者ニ在リテハ六ケ月）未滿ノ未經驗者及勤續六ケ月未滿ノ經驗者（賃金統制令施行規則第十一條第一項第三號、第四號又ハ第五號ニ該當スル勞務者ニシテ修了又ハ學修後工場、鑛山ニ初メテ雇傭セラルル者ニ付テハ三ケ月未滿）ノ一日ノ就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ）十時間以內ノトキニ於ケル賃金ハ前各條ノ定ムル所ニ拘ラズ其ノ最高額ハ左表ノ通トス

一日ノ就業時間十時間ヲ超ユル場合ノ最高額ハ十時間ヲ超ユル一時間毎ニ前項ノ最高額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル額（一時間未滿ノ就業ニ付テハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加算シタルモノトス

請負賃金制（獎勵加給制ノ場合ヲモ含ム以下同ジ）ノ場合ニ於テハ最高額ノ制限ヲ毎一月ノ賃金ニ付爲スモノトシ前二項ニ準ジ就業日毎ニ算出シタル額ノ合計額ヲ以テ毎月ノ最高額トス第一項ノ場合ニ於ケル經驗者ノ勤續期間ノ計算ハ徵用ニ依リ新ニ當工場ニ入社スルモノニ付テハ從前ノ工場ノ勤續期間ヲ通算スルモノトス

男子未經驗工ノ最高額 年齡階級別	金額
一二歲以上一三歲未滿	六六
一三歲以上一四歲未滿	八〇
一四歲以上一五歲未滿	九二
一五歲以上一六歲未滿	一、〇四
一六歲以上一七歲未滿	一、一七
一七歲以上一八歲未滿	一、三〇
一八歲以上一九歲未滿	一、四三
一九歲以上二〇歲未滿	一、五六
二〇歲以上二三歲未滿	一、七五
二三歲以上二五歲未滿	一、九四
二五歲以上三〇歲未滿	二、一三
三〇歲以上四〇歲未滿	三、四〇

男子經驗工ノ最高額 年齡階級別／經驗年數	一年未滿	一年以上三年未滿	三年以上五年未滿	五年以上十年未滿	十年以上
一三歲以上一四歲未滿	九五	一、一五	—	—	—
一四歲以上一六歲未滿	一、一三	一、四三	一、七八	—	—
一六歲以上一八歲未滿	一、四九	一、六八	一、六九	二、二四	—
一八歲以上二〇歲未滿	一、七三	一、九三	二、一八	二、三八	—
二〇歲以上二三歲未滿	一、八二	二、一三	二、四〇	二、五七	—
二三歲以上二五歲未滿	二、〇八	二、三一	二、五三	二、八〇	三、〇八
二五歲以上三〇歲未滿	二、四〇	二、五七	二、八八	三、一一	三、三九
三〇歲以上四〇歲未滿			三、四〇		

年齡階級別	女子未經驗工ノ最高額	女子經驗工ノ最高額
一三歲以上一四歲未滿	八三	九五
一四歲以上一六歲未滿	八八	一、一四
一六歲以上一八歲未滿	九五	一、二七
一八歲以上二〇歲未滿	一、〇九	一、三七
二〇歲以上二五歲未滿	一、一九	一、五二

備考

最高額ニハ左ノ給與ヲ含マザルモノトス

一、一日ニ付當該勞務者ノ健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額ノ二日分ヲ超エザル精勤手當

二、就業十時間ヲ超ユル早出若ハ殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル步增

三、家族手當

四、初給手當

五、第　條ニ定ムル補給金

六、實物給與　但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク

七、賞與

八、臨時ノ給與

九、所管勞務監督官ノ承認ヲ受ケテ支給スル特殊作業手當（請負利益金又ハ獎勵加給金ニシテ承認ヲ受ケタル額ヲ含ム）、季節手當、臨時作業手當及稼働率及能率增進ノ爲ニスル手當

第十四條　實物給與ハ左ノ通トス

種類	數量	評價額	給與條件
作業服	一着	拾五圓	工員入社ニ際シ

徵用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ニハ當初少クトモ一回ハ所定ノ作業服、作業帽ヲ、又必要ニ應ジ作業手袋ヲ貸與スルモノトス（本項ハ徵用工場ニ限ル）

第十五條　賞與ハ毎年六月及十二月ノ二回一般工員ニ對シ之ヲ支給ス

賞與ノ額ハ支給ノ都度之ヲ定ムルモノトス

第十六條　工員寄宿舍又ハ之ニ準ズル施設ニ宿泊スルトキハ毎月左ノ通徵收ス

一　宿泊料　參圓

二　食事　九圓

第十七條　賃金支拂ノ際別ニ定ムル貯蓄規程ニ依リ左ノ割合ニ依リ貯蓄額ヲ毎月各自ノ受クベキ賃金ヨリ控除ス

賃金實收月額	
百圓未滿	百分ノ五
百圓以上百五拾圓未滿	百分ノ七
百五拾圓以上	百分ノ十

第十八條　徵用ニ依リ新ニ當工場ニ就業スルニ至リタル工員ノ手當其ノ他ヲ含メタル實收賃金ガ從前ノ收入ニ比シ低額ナルトキハ工員ノ生活事情、勞働條件等ヲ考慮シ相當額ヲ補給ス（本條ハ徵用工場ニ限ル）

第十九條　徵用工員ノ父母妻子ノ死亡（危篤ヲ確認シタル場合ヲ含ム）ノ際ニ於ケル工員ノ歸省ニ付テハ往復旅費ヲ支給シ徵用工員ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ニ付テハ家族二人ヲ限リ往復旅費及必要ナル滯在期間中ノ滯在費ヲ支給ス（本條ハ徵用工場ニ限ル）

第二十條　工員徵用滿期ニ依リ徵用解除トナリタル際ニハ參拾圓又ハ其ノ者ノ標準報酬日額ノ二十日分ヲ下ラザル限度ニ於テ勞務監理官ノ裁定ヲ得タル慰勞金ヲ支給ス（本條ハ徵用工場ニ限ル）

一〇二、工員賃金規則記載注意

一、賃金締切ノ期間並ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項

所定ノ支拂期日ニ拘ラズ賃金ヲ支拂フベキ場合ニ關スル規定ハ必ズ之ヲ規定スルコト

參　照　別紙賃金規則記載例（以下記載例ト稱ス）第二條、第三條

二、定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額ニ關スル事項

（イ）男女、年齢、學歷、經驗、作業ノ種類、技倆等ニ依リ異ナル定アルトキハ各別ニ記載スルコト

（ロ）月給、日給又ハ時給ノ別ヲ明ニスルコト

（ハ）可成ク實際ノ標準額ヲ表示シ特別ノ取扱ニ付テハ但書、備考等ニ依リ之ヲ明確ニスルコト

參　照　記載例第四條乃至第六條

三、請負賃金制ニ於ケル保證給ノ初給額及最低額ニ關スル事項

（イ）保證給ノ最低額ハ定額給ヲ下ラザルコト

（ロ）定額給ヲ保證スル場合ハ其ノ旨ノ記載ヲ以テ足ルコト

參　照　記載例第十一條（一）ノ（イ）ノ算式ノ但書

四、賃金計算ノ基礎ト爲ルベキ所定就業時間ニ關スル事項

（イ）工員ノ一部ニ付日給ノ基礎トナルベキ就業時間ヲ異ニスル定アル場合ニ於テハ之ヲ明確ニスルコト

（ロ）基本給算定ニ關スル規定ヲ記載スルコト

基本給算定ノ算式ニ關係アル事項ニシテ說明ヲ要スルモノハ必ズ規定スルコト

特ニ就業時間ニ付テハ休憩時間ヲ含ム場合ト實働時間ニ依ル場合トヲ明確ニスルコト

（ハ）就業時間又ハ實働時間ノ端數ノ切捨又ハ切上ノ取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ旨記載スルコト

五、遲刻又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法ニ關スル事項

工員自己ノ都合ニ依ラズ又ハ公傷病ニ依リ退場シタル場合ニ其ノ基本給算定ニ付特別ノ取扱ヲナストキハ其ノ旨記載スルコト

六、單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ關スル事項

（イ）賃金算定方法ハ個人ノ受取分算定迄明確ナラシムルコト

（ロ）分配系數、成績系數等各種系數ヲ用フル場合ハ其ノ內容ヲ明確ニスルコト、ソノ系數等ノ決定ニ付自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ニスルコト

（ハ）資材、作業ノ種類等ニ依リ又ハ個人ノ勤務狀況等ニ依リ一般請負利益率又ハ個人分配率ニ付自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ニスルコト

（ニ）賃金算定方式每ニ其ノ適用ヲ受クル勞務者ノ種類ヲ作業ノ種類又ハ職業名等ニ依リ記載スルコト

（ホ）一定率ニ依ル奬勵加給等モ請負賃金制ニ於ケル賃金算定方法ニ準ジ記載スルコト

請負單價、請負時間又ハ請負歩合

（イ）請負單價等ハ原則トシテ其ノ全部ヲ列擧スルコト但シ作業又ハ製品ノ種類多數ナルトキハ其ノ主要ナルモノニ付記載ヲ省略スルヲ得ルコト

（ロ）請負單價等ノ記載ハ標準額ヲ以テシ、之ニ依ラザル場合ハ其ノ取扱基準ヲ別ニ記載スルコト

參　照　記載例第十一條

七、手當ヲ支給スルトキハ其ノ名稱及額又ハ率竝ニ給與條件ニ關スル事項

（イ）額又ハ率ハ一定數ニ依リ明確ナラシムルコト

（ロ）給與條件ニ於テ自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ナラシムルコト

（ハ）家族手當、入營應召手當等詳細ナル規定ヲ要スルモノハ別紙トスルコト

參　照　記載例第十二條

八、實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項

自米、精麥、食事ノ給與及住宅ノ給與ニ付テハ厚生省告示第三百二十三號ニ依ル評價額ヲ記載スルコト

其ノ他ノ實物給與ノ評價額ハ時價ヲ記載スルコト

參　照　記載例第十三條

九、賞金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項

（イ）貯蓄ノ種類竝ニ貯蓄ノ率又ハ額ヲ記載スルコト

（ロ）勞務者ノ身分、收入、家族數等ニ依リ貯蓄ノ率又ハ額ガ異ルトキハ之ヲ明ナラシムルコト

參　照　記載例第十六條

十、其ノ他賃金ニ關シ必要ナル事項

一〇三、工員昇給內規記載例

第一條　昇給期日ハ每年二回トシテ昇給資格ヲ有スルモノニ付六月二十五日及十二月二十五日ニ之ヲ行フモノトス

第二條　昇給調査期日ハ昇給期日ノ前月二十五日トス

第三條　前昇給ニ於ケル昇給調査期日ヨリ當該昇給調査期日迄ニ左ニ揭グル期間ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス但シ新ニ從業シタル者ニ付テハ當該昇給調査期日迄ニ三ケ月ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス

賃金	經過期間
日給　貳圓五拾錢未滿	六ケ月
日給　貳圓五拾錢以上	一ケ年

第四條　昇給調査期日前六ケ月ニ付缺勤三十日、一ケ年ニ付缺勤六十日ヲ超エタル場合ニハ當該期ニ限リ昇給セシメザルコトアルベシ但シ左ニ揭グル日數ハ缺勤日數ニ計算セズ

一　特ニ休業ヲ命ジタル場合ノ日數

二　業務上傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ休業シタル日數

三　軍事參會、公務出頭又ハ忌引若ハ法要ノ爲休業シタル日數ニシテ工員從業規則第〇〇條ニ定ムル日數

第五條　遲刻又ハ早退三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ前條ノ缺勤日數ニ算入ス但シ不可抗力ニ因ル遲刻其ノ他已ムヲ得ザル事由ニヨル早退ヲ除ク

第六條　工員第三條ノ期間內ニ從業規則ノ定ムル所ニ依リ左記回數懲戒セラレタル者ハ當該期ニ限リ昇給セシメザルコト

譴責	二回以上
其ノ他ノ懲戒	一回以上

第七條　一回ノ昇給額ハ左ノ通トス

賃金	最高標準	最低
日給	壹圓五拾錢未滿	〇〇錢	〇〇錢
日給	壹圓五拾錢以上貳圓五拾錢未滿	〇〇錢	〇〇錢
日給	貳圓五拾錢以上	〇〇錢	〇〇錢

第八條　養成工ノ昇給ハ第一條乃至第三條及前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通トス但シ技術、勤務成績ニ依リ此ノ額ノ三割ノ範圍內ニ於テ增減スルコトアルベシ

學年 ＼ 昇給月日	九月二十五日	三月二十五日
第一學年	〇〇錢	〇〇錢
第二學年	〇〇錢	〇〇錢
第三學年	〇〇錢	〇〇錢
第四學年	〇〇錢	〇〇錢

第九條　工員召集解除若ハ除隊又ハ徵用解除等ノ場合ニ於テハ前各條ニ拘ラズ他ノ工員ニ比シ昇給ノ遲レタルヲ回復セシムルモノトス（入營又ハ應召中ノ者ニ對シテハ第四條ニ拘ラズ昇給期毎ニ所定ノ昇給ヲナスモノトス）

一〇四、職員從業規則記載例

第一章　總　則

第一條　職員ハ國體ノ本義ニ基ク皇國產業ノ國家的使命ト之ガ指導者タル自己ノ重責トヲ認識シ和親協力以テ職分奉公ノ誠ヲ效スベシ

第二條　職員ハ本則ヲ遵守スルノ外上司ヲ敬シ同僚ト一體儀ヲ重ンジ部下ニ對シテハ率先垂範克ク之ヲ指導スベシ

第三條　職員ハ事業場ニ服務シタルトキハ左ノ事項ヲ事務所ニ屆出ヅベシ

一　住所又ハ居所

二　家族ノ氏名、年齡、職業及續柄

三　通勤ノ方法

前項各號ノ一ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク事務所ニ之ヲ屆出ヅベシ

第二章　身分、職務及指揮監督

第四條　當事業場ニ左ノ職員ヲ置ク

工場長、技師長、技師、技師補、技手、技手補、主事、主事補、書記、書記補、雇（例示）

第五條　工場長ハ事業主ノ命ヲ承ケ當事業場ノ業務一切ヲ掌理ス

技師長ハ事業主及工場長ノ命ヲ承ケ當事業場ニ於ケル技術全般ニ關スル事務ヲ掌理ス

第六條　當事業場ニ於ケル業務ヲ分掌スル爲分課組織ヲ左ノ通定ム

（左記省略）

第七條　課ニ課長ヲ置キ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上司ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理シ課員ヲ指揮監督ス

課長ハ其ノ課ノ業務ニ關シ直接ノ責任者トス

第八條　工場長、技師長、課長以外ノ職員ハ各課ニ分屬ス

課員ノ分擔事務ハ課長上司ノ命ヲ承ケ之ヲ定ム

課員ハ課長ノ命ヲ承ケ其ノ分掌事務ニ從事スルモノトス

第九條　職員ハ服務中及出入場ノ際所定ノ徽章ヲ佩用スベシ

第三章　始業、終業、休憩及休日

第十條　服務時間ヲ左ノ通定ム

自〇月〇日　至〇月〇日　午前〇時ヨリ午後〇時迄

自〇月〇日　至〇月〇日　午前〇時ヨリ午後〇時迄

第十一條　業務繁忙ナルトキ其ノ他業務上ノ必要ニヨリ服務時間外又ハ臨時服務ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條　休憩時間ヲ左ノ通定ム

正午ヨリ〇〇分トス

第十三條　職員休日ヲ左ノ通定ム

一　毎月（第〇）及（第〇）日曜日

二　元旦、紀元節、天長節、明治節

三　〇〇〇〇〇

業務繁忙ナルトキ其ノ他業務上必要アルトキハ前項ノ休日ニ服務セシムルコトアルベシ

定休日ニ服務シタル者ニ對シテハ別ニ代休日ヲ與フルモノトス

第十四條　左ノ場合ニ給テハ休暇ヲ受クルコトヲ得

一　父母、配偶者及子女ノ喪ニ服スルトキ　五日

二　祖父母、配偶者ノ父母ニ里方ノ場合）、兄弟姉妹ノ喪ニ服スルトキ　三日

三　伯叔父母ノ喪ニ服スルトキ　一日

四　父母ノ法要又ハ祭祀ヲ營ムトキ　一日

五　徴兵檢査、簡閲點呼、勤務演習又ハ査閲ニ應ズルトキ　往復所要日數ヲ含ム必要日數

六　證人、鑑定人、參考人又ハ陪審員トシテ裁判所ニ出頭スルトキ其ノ他之ニ準ズルトキ　往復所要日數ヲ含ム必要日數

七　本人結婚センストルトキ　前後通算三日

八　女子職員ノ產前產後　連續通算七〇日

第十五條　職員ハ當直及宿直ヲ爲スベシ當直及宿直ニ關スル規程ハ勞務監理官ノ承認ヲ得テ別ニ之ヲ定ム

第四章　出勤、退出、缺勤、休暇、遲刻及早退

第十六條　職員ハ定刻前ニ出勤シ（入場時ヲ登錄シテ）朝禮ヲ爲シテ後服務スルモノトス

第十七條　病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ缺勤セントストルトキハ豫メ缺勤豫定日及其ノ事由ヲ具シ願出ヅベシ但シ其ノ願ノ暇ナキトキハ事後速ニ其ノ事由ヲ添ヘテ屆出ヅベシ

病氣缺勤七日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ缺勤願ヲ提出スベシ

第十八條　職員ニ對シ一年ニ付十日以內ノ慶弔休暇ヲ與フ但シ前年度ニ於テ缺勤日數十日以上ノ者及其ノ年ノ在籍日數少キ者ニ付テハ休暇日數ヲ短縮シ又ハ與ヘサルコトアルベシ

第十九條　遲刻シタル者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ上司ニ報告スベシ

第二十條　病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ早退スルトキハ上司ノ許可ヲ受クベシ

第五章　保健衛生

第二十一條　職員ハ每日工場指定ノ體操ヲ行フベシ但シ健康上體操ヲ行フコト不適當ナル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　左ノ疾病ニ罹レル者ハ服務ヲ禁止ス但シ第五號又ハ第六號ニ揭グル疾病ニ罹レル者ニ付工場ノ認ムル傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　精神病

二　癩、病毒傳播ノ虞アル結核

三　法定傳染病

四　丹毒、再歸熱其ノ他之ニ準ズベキ急性熱性病

五　徴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

六　膿漏性結膜炎、トラホーム（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準ズベキ傳染性眼病

七　肋膜炎、第二號以外ノ結核、心臟病、腳氣、關節炎、脾臟炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病狀增惡ノ虞アルモノ

八　傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症狀消失シタル後ト雖モ健康ノ回復セザル場合

第二十三條　同居ノ家族又ハ同居人ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨事務所ニ屆出デ指揮ヲ受クベシ

第二十四條　職員ニ對シ年一回（〇月）健康診斷ヲ行フ

前項ノ外臨時必要アリト認ムルトキハ職員ノ全部又ハ一部ニ對シ健康診斷ヲ行フ

第二十五條　左ニ揭グル者ハ健康保護者ドシノ之ニ對シ服務制限、執務ノ轉換、治療其ノ他保健衛生上必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

一　年齡二十歲未滿ニシテ採用後六ケ月以內ノ者

二　ツベルクリン反應ノ陽性轉化後一年以內ノ者

三　疾病ニ罹リ又ハ身體虛弱ニシテ一定ノ保護ヲ必要トスル者

四　妊婦

第六章　危害豫防及變災時處置

第二十六條　職員ハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急具及材料ノ備付場所竝ニ其ノ使用方法ヲ知得シ置クベシ

第二十七條　職員ハ常ニ安全管理者、安全衞員ト協力シ危害豫防ニ努ムベシ

第二十八條　職員ハ火災其ノ他災害ノ發生ヲ發見シ又ハ災害發生ノ危險ヲ覺知シタルトキハ直ニ之ヲ擔當係員ニ報告シ其ノ指揮ニ依リ行動スベシ但シ急ヲ要スルトキハ臨機ノ處置ヲ執リ直ニ其ノ旨報告スベシ

第七章　表彰

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ銓衡ノ上之ヲ表彰ス

一　品行方正、技術優秀、業務ニ熱心ニシテ衆ノ模範タル者

二　事業上有益ナル發明改良又ハ工夫考案ヲ爲シタル者

三　火災其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止シ若ハ災厄ニ際シ特ニ功勞アリタル者

四　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ篤行又ハ功勞アリタル者

第三十條　表彰ハ工場長表彰委員會ニ諮リテ之ヲ決ス

第三十一條　褒賞ハ賞狀及徽章、賞品又ハ賞金ヲ授與シテ事業主之ヲ行フ

第八章　懲戒

第三十二條　懲戒ハ譴責、減俸、家族手當減額又ハ支給停止及免職トシテ工場長（又ハ事業主）之ヲ行フ

第三十三條　前條ノ懲戒ハ左記ニ依ルモノトス

一　譴責ハ始末書ヲ提出セシム

二　減俸ハ譴責ノ外ニ俸給一月分ノ二割以內トス

三　家族手當減額又ハ支給停止ハ譴責ニ加フルニ當月分ノ家族手當減額又ハ支給停止ヲ行フ

四　免職ハ豫告ヲ用ヒズシテ解職ス

第三十四條　本則ニ依リ職員ノ遵守スベキ事項ニ違反シタル者又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ譴責又ハ減俸ニ處スル但シ反則輕微ナルカ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ調査ニ止ムルコトアルベシ

一　素行不良ナル者

二　越權專斷ノ所爲アリタル者

三　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合ナル行爲アリタル者

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免職トス

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ入社シタル者

二　業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナル者

三　上司ノ命令ヲ侮蔑シ又ハ反抗シ若ハ上司ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル者

四　同僚又ハ工員ニ對シ職ヲ強要シ敎唆煽動ヲ爲シタル者

五　出勤常ナラズ勤務ニ不熱心ナル者

六　在社ノ儘他人ニ雇傭セラレタル者

七　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合ナル行爲アリタル者

第三十五條ノ二　正當ノ理由ナク無斷缺勤ヲナシ又ハ第三十五條各號ニ定ムル特ニ不都合ナル行爲アリタル者ニ對シテハ所管勞務監理官ノ承認ヲ求ケ家族手當減額又ハ支給停止ニ處スルコトアベシ

第三十六條　職員本則ニ違反シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ國家總動員法ニ基キ處罰セラルルコトアルベシ

第九章　解職、退職

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一ケ月以前ニ豫告シテ解職スルコトアルベシ但シ一ケ月分ノ俸給ヲ支給シテ即時解職スルコトヲ得

一　精神又ハ身體ノ障礙ニ依リ服務ニ堪エズト認メタルトキ

二　老衰ノ爲作業能率著シク劣レルニ至リタルトキ

三　事業縮小ノ爲職員ニ過剩ヲ生ジタルトキ

四　其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ事由又ハ事業經營上已ムヲ得ザル都合アルトキ

第三十八條　職員退職セントスルトキハ事前ニ願出デ沙汰アル時マデ從前ノ服務ヲ繼續スベシ

前項ノ願出ハ其ノ所屬スル課長ヲ經由シ之ヲ爲スベシ

一〇五、職員給料規則記載例

第一條　職員ニハ基本給料、手當、賞與、退職金及臨時ノ給與ヲ支給ス

前項ノ給與ノ外特ニ必要アル場合ニ於テハ交際費、機密費ヲ支給スルコトアルベシ

第一項ノ給與ハ實物ヲ以テ支給スルコトアルベシ

第二條　給料ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ヲ以テ締切リ其ノ支拂ハ毎月二十五日ニ之ヲ行フ

給料支拂日休日ニ當ルトキハ前日ニ繰上グ（翌日ニ繰下グ）

第三條　職員左ノ場合ニ該當スルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ都度基本給料及手當ヲ支拂フ但シ第五號乃至第九號ノ場合ニ於テハ本人ノ請求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　死亡シタルトキ

二　退職又ハ解雇セラレタルトキ

三　入營又ハ應召セントスルトキ

四　徵用解除セラレタルトキ但シ引續キ從業スルモノヲ除ク

五　一ケ月以上ニ亘リテ歸鄕スルトキ

六　本人又ハ其ノ家族ノ結婚、葬儀等ノ爲出費ヲ要スルトキ

七　天災其ノ他ノ災厄ニ遭遇シ又ハ負傷若ハ疾病ニ罹リ費用ヲ要スルトキ

八　新ニ世帶ヲ持チ其ノ他之ニ類スル事項ニ付必要ナル費用ニ充ツルトキ

九　其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキ

第四條　職員ノ基本給料月額ノ最高初給額ハ左ノ通トス

一　大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者八拾五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ八拾五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付參圓ノ加算シタル金額

二　大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者七拾五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七拾五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付參圓ヲ加算シタル金額

三　專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者七拾圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七拾圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付貳圓五拾錢ヲ加算シタル金額

四　專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル專門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者六拾圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ六拾圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付貳圓ヲ加算シタル金額

五　實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者四拾五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四拾五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付貳圓ヲ加算シタル金額

六　實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者四拾貳圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四拾貳圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付貳圓ヲ加算シタル金額

七　中學校令ニ依ル中學校卒業者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者四拾貳圓但シ卒業後一年以上經過セルモノニ在リテハ四拾貳圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付貳圓ヲ加算シタル金額

八　高等女學校令ニ依ル高等女學校卒業者又ハ之ニ準ズル者參拾參圓但シ卒業後一年以上經過セルモノニ在リテハ參拾參圓ニ卒業ノ年數一年ニ付壹圓五拾錢ヲ加算シタル金額

九　國民學校高等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者貳拾四圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノハ

左リテハ弐拾四圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付壹圓五拾錢ヲ加算シタル金額

十　國民學校初等科修了者又ハ之ニ準ズル學歴ヲ有スル者弐拾壹圓但シ卒業後一年以上經過セルモノニ在リテハ弐拾壹圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付壹圓五拾錢ヲ加算シタル金額

前項ノ金額ハ特別ノ經歴若ハ技能又ハ特別ノ學歴ヲ有スル者ニ付テハ一割増ノ額ノ範圍内ニ於テ増スコトアルベシ

第五條　職員ニ對シ左ノ手當ヲ支給ス

名稱	額又ハ率	給與條件
早出手當	參拾錢	勤務時間ヲ超エル一時間ニ付
居殘手當	參拾錢	勤務時間ヲ超エル一時間ニ付
休日出勤手當	貳圓	休日出勤一回ニ付
特勤手當	基本給料月額ノ五分ノ一	三月間皆勤ニ付
宿直手當	貳圓	宿直一回ニ付
當直手當	貳圓	當直一回ニ付
危險手當	五拾錢	火藥技術者ノ就業一日ニ付
住宅手當	拾圓	遠勤職員一月ニ付
遠勤手當	拾圓	特殊地域居住者一月ニ付
家族手當	別紙ニ依ル	
入替應召手當	別紙ニ依ル	

第六條　賞與ハ毎年六月及十二月ノ二回之ヲ支給ス

賞與ノ率若ハ額及其ノ支給方法ハ其ノ都度之ヲ定ムルモノトス

第七條　職員退職又ハ死亡シタルトキハ勤續一年ニ付退職金ハ死亡當時ノ基本給料月額ノ一月分ニ相當スル退職金ヲ支給ス

前項ノ基本給料月額ハ日給ノ三十倍ヲ以テ一ケ月分トス

前項ノ退職金ハ在職中功勞アリタル職員ニハ之ヲ増額スルコトアルベシ

第八條　職員職員從業規則第〇〇條ノ規定ニ依リ懲戒免職セラレタルトキハ前條ノ退職金ヲ減額シ又ハ支給セザルコトアルベシ

第九條　職員事業主ノ都合ニ依リ解職セラレタルトキハ第七條ノ退職金ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ職員從業規則第〇〇條ニ依リ懲戒免職セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　退職金ハ職員退職後遲滯ナク之ヲ支給ス

第十一條　勤續期間ノ計算ハ職員雇入ノ日ヨリ之ヲ起算ス勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ計算ス

第十二條　職員死亡シタル場合ニ於テハ退職金ハ遺族又ハ職員死亡當時其ノ收入ニ依リ主計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十三條　給料支拂ノ際別ニ定ムル貯蓄規程ニ依リ左ノ割合ニ依ル貯蓄額ヲ毎月ノ給料ヨリ控除ス

給料		
百圓未滿		百分ノ五
百圓以上	百五拾圓未滿	百分ノ七
百五拾圓以上	貳百圓未滿	百分ノ十
貳百圓以上		百分ノ十五

一〇六、職員昇給內規記載例

第一條　定期昇給ハ毎年二回トシ昇給資格ヲ有スル者ニ付六月二十日及十二月二十日之ヲ行フモノトス

臨時昇給ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

一　職員名集殖除若ハ除隊又ハ徵用解除等ノ場合ニ於テ他ノ職員ニ比シ昇給ノ遲レタルヲ回復セシムル爲昇給セシムル必要アルトキ

二　職員進級又ハ異動等ニ依リ特殊ノ基本給料ノ定アル職務ニ就キタル場合ニ於テ昇給セシムル必要アルトキ

三　職員當事業場ニ勤務中新ナル學歴ヲ取得セル場合ニ於テ同等ノ學歴ヲ有スル他ノ職員ノ基本給料ノ初給額迄引上グル必要アルトキ

四　職員雇入後其ノ者ノ最初ノ定期昇給期迄ニ於テ技能ノ進歩著シク又ハ特ニ功勞アリタル場合ニ於テ特ニ昇給セシムル必要アルトキ

第二條　昇給調査期日ハ昇給期日ノ前月二十日トス

第三條　定期昇給ハ前昇給ニ於ケル昇給調査期日ヨリ當該昇給調査期日迄ニ左ニ揭グル期間ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス

一　月給五拾五圓未滿又ハ日給弐圓未滿ノ雇員　六ケ月

二　月給五拾五圓以上又ハ日給弐圓以上ノ雇員　九ケ月

三　書記、書記補、技手、技手補　一ケ年

四　主事、主事補、技師、技師補　一年六ケ月

五　場長、技師長　二ケ年

第四條　昇給調査期日前六ケ月ニ付缺勤三十日、一ケ年ニ付缺勤六十日ヲ超エタル場合ハ當該期ニ限リ昇給セシメザルコトアルベシ但シ左ニ揭グル日數ハ缺勤日數ニ計算セズ

一　特ニ休業ヲ命ジタル場合ノ日數

二　業務上ノ負傷又ハ疾病ニ因リ休業シタル日數

三　軍事參會、公務出頭又ハ忌引若ハ法要ノ爲休業シタル日數ニシテ職員從業規則第〇〇條ニ定ムル日數

第五條　遲刻又ハ早退三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ前條ノ缺勤日數ニ算入ス但シ不可抗力ニ因ル遲刻其ノ他

已ムヲ得ザル事由ニヨル早退ヲ除ク

第六條　職員第三條ノ期間内ニ従業規則ノ定ムル所ニ依リ左記回数ヲ減セラレタル者ハ當該期ニ限リ昇給セシメザルコトアルベシ

譴責	二回以上
其ノ他ノ懲戒	一回以上

第七條　定期昇給ノ一回ノ昇給額ハ左ニ掲グル金額トス但シ業務ノ種類、勤務成績ヲ參酌シ左ノ額ノ二割ノ範圍内ニ於テ増減スルコトアルベシ

一	月給五拾五圓未滿又ハ日給貳圓未滿ノ職員	參圓
二	月給五拾五圓以上又ハ日給貳圓以上ノ職員	五圓
三	書記、書記補、技手、技手補	八圓
四	主事、主事補、技師、技師補	拾五圓
五	場長、技師長	參拾圓

一〇七、重要事業場勞務管理令運用方針

第四條

◎従業規則ノ認可

一、別添従業規則記載例ヲ基準トスルモ現行規程ノ急激ナル變更ニヨリ過渡的ニ著シク支障ヲ來スノ慮アルモノニ付テハ一應現行規程通リノ之ヲ認可シ爾後所管勞務監理官ニ於テ實情ニ即應シテ逐次改善スル樣指導スルコト但シ左記事項ハ必ズ之ヲ規定セシムルコト

(一)　工員ニハ勤務申及出退場ノ際所定ノ徽章ヲ佩用セシムルコト

(二)　所定就業時間ハ之ヲ十時間以内トスルコト

(三)　交替制ニ依リ深夜就業セシムル場合ニ於テハ二週間ヲ超エザル期間内ニ轉換セシムルコト

(四)　二十歳未滿ノ者ニシテ就業後三ケ月ヲ經過セザル未經驗工ハ一日十時間ヲ超エテ又ハ深夜ニ於テ就業セシメザルコト但シ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(五)　不可抗力ニ因リ强制シタル工員ノ入門ヲ拒ムベカラザルコト

(六)　病氣、家族ノ危篤又ハ死亡其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ工員缺勤セントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ徴シ（其ノ暇ナキトキハ事後報告ニ依リ）之ヲ許可スルコト早退ニ付亦同ジ

(七)　工員ニ對シ一年ニ付三日以上五日以内ノ有給靈勞休暇ヲ與フコト

二、従業規則中早出殘業ニ關スル規定ハ左記ニ準據セシムルコト

(一)　業務ノ繁忙等ヲ理由トシテ早出殘業ヲ命ズル場合ハ一日ノ就業時間ハ原則トシテ十二時間以内トスルコト

(二)　前號ノ範圍ヲ超エテ早出殘業ヲ命ズル場合ハ事業主ノ左右シ得ザル已ムヲ得ザル事由アル場合ニ限ルモノトシ必ズ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケシムルコトトスルコト但シ工場事業場管理令ニ基ク陸海軍大臣ノ命令アリタル場合ニ於テ豫メ所管勞務監理官ニ報告セルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

◎従業規則ノ變更命令

従業規則ノ變更ハ原則トシテ事業主ノ自發的創意ニ依リ之ヲ爲ス樣指導スルコトトシ變更命令ノ發動ハ可成ク之ヲ爲サザルコト

第五條

◎従業規則ニ對スル例外許可ノ方針

本許可ハ臨時必要アル事項ニ限ルコト

第八條

◎使用従業ニ關スル命令

一、本命令ハ事業主ニ對シ爲スヲ原則トシ特ニ必要アル場合ニ限リ従業者ニモ併セ命令スルコトトシ單ニ従業者ニ對シテノミ命令スルコトハ之ヲ爲サザルコト

二、本命令ハ概ネ左記ニ依リ爲スコト

(一)　従業時間ノ延長又ハ休日、異動、早退、缺勤若ハ休暇ノ制限命令ハ特ニ生産増加ガ緊急ニ必要ナル爲異常ノ勞働强化ヲ必要トスル場合ニ於テノミ之ヲ爲スコト

(二)　従業時間ノ短縮命令ハ右ノ勞働强化ノ要ナキニ至リタル場合従業者ノ疲勞恢復ヲ圖ル爲必要アル場合ニ於テノミ之ヲ爲スコト

(三)　従事スベキ業務ニ關スル命令ハ業務機構命令ト業務配置命令トシ前者ハ宏闊等ノ場合ニ於テ特ニ作業編成ヲ要スルモノニ付テノミ之ヲ爲スコトトシ、後者ハ重要ナル業務ニ所要員數ノ充當又ハ適正配置ヲ要スル場合ニ於テノミ之ヲ爲スコト

第九條

◎解雇退職命令

一、本命令ハ左ノ者ニ付之ヲ爲スコト

(一)　事業場ノ規律又ハ風紀ヲ著シク紊シタル者

(二)　他人ヲ煽動シ勞働紛議等ヲ招キ又ハ其ノ惧アル者

(三)　其ノ他著シク他人ノ能率ヲ阻害スル者

二、本命令ハ原則トシテ事業主ニ對シ爲スコトトシ事業主ニ於テ解雇スルヲ不適當トスル事情アル場合ニ於テノミ従業者ニ對シ命令ヲ爲スコト

第十條

◎給與關係規則ノ認可

別添記載例ニ則リ左記各項ニ基キ事業場ノ實情ヲ加味シテ作成セシムルコト

一、工員ノ初給賃金ハ原則トシテ賃金統制令第十條ノ規定ニ依ル最高初給賃金ヲ超エザルコト

二、請負賃金制ニ於テハ必ズ保證給ヲ設クルコト

三、算式ニ依リ算出シタル請負利益金又ハ奬勵加給金ニ對シ資材、作業ノ種類等ニ依リ又ハ個人ノ勤務狀況等ニ依リ自由ニ之ヲ加減スル定アル場合ニ就テハ其ノ加減スル限度ハ可成ク請負利益金又ハ奬勵加給金ノ二割以内ト爲スコト算式中ノ一定ノ係數ノ決定ニ付同樣ノ加減ヲ爲ス定アル場合ニ於テ其ノ加減ノ限度ニ於テ又同ジキコト

四、休日出勤手當制ヲ設クルコト但シ週休制ノ場合ニ於テハ一月ニ付二日ヲ超ユル週休日ニ付テハ此ノ限ニアラザルコト其ノ率ハ大體記載例ノ程度ニ依ル

五、勞務者ノ都合ニ依ラズシテ臨時ニ休業セシメタル場合ハ標準報酬日額ノ六割ヲ下ラザル手當ヲ支給スルコト

六、慰勞休暇、軍事參會ニ對シテハ日給額又ハ標準報酬日額ヲ手當トシテ支給スルコト

七、家族手當ハ必ズ之ヲ支給シ其ノ額及支給條件ハ昭和十七年二月厚生省告示第七十五號ニ依リ缺勤等ニ依ル減額ハ爲サザルコト但シ一ケ月間缺勤ノ場合ハ一ケ月分ヲ限リ支給セザルコトヲ得

八、少クトモ扶養家族ヲ有スル應召者ニ對シテハ標準報酬日額ノ五割ヲ下ラザル手當ヲ支給スルコト

九、寄宿舍ニ收容スル工員ヨリ代價ヲ徵收スル場合雇入後一ケ年間ハ食事、住居等ニ對スル一ケ月ノ徵收金額ハ拾五圓ヲ超エザルコト

十、遲刻又ハ早退ノ爲就業時間ニ端數ヲ生ジタル場合三十分ヲ單位トシテ端數ヲ切捨ツル程度ヲ超ユル減額ヲ爲サザルコト

十一、徵用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ノ收入カ從前ノ收入ニ比シ懸隔アルトキハ勞働條件、生活事情等ヲ考慮シ必要ニ應ジ相當額ノ補給スルコト

十二、徵用工員ノ父母、妻子ノ死亡（危篤ヲ確認シタル場合ヲ含ム）ノ際ニ於ケル工員ノ歸鄕ニ付テハ往復旅費ヲ支給シ、徵用工員ノ父母、妻子ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ニ付テハ家族二人ヲ限リ往復旅費及必要ナル滯在期間中ノ滯在費ヲ支給スルコト

十三、徵用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ニハ當初少クトモ一回ハ所定ノ作業服、作業帽ヲ又必要ニ應ジ作業手袋ヲ貸與又ハ給與スルコト

十四、工員徵用滿期ニ依リ徵用解除トナリタル際ニハ參拾圓又ハ其ノ者ノ標準報酬日額ノ二十日分ヲ下ラザル限度ニ於テ勞務監理官ノ裁定ヲ得タル勞働金ヲ支給スルコト

十五、月收百圓程度迄ノ勞務者ニ付テハ昇給實施トシテノ經過期間ハ一ケ年ヲ超エザルコト

十六、缺勤ヲ昇給ノ缺格條件トスル場合ハ一ケ月ニ付三日以上ノ割合ノ場合ニ限ルコト

十七、昇給標準額ハ一ケ年間ニ平均シテ平均日給額ノ五%ヲ下ラザルコト

十八、一年ニ付平均貳拾圓又ハ標準報酬日額ノ平均金額ノ十日分ヲ下ラザル定期賞與ヲ支給スルコト

十九、工員以外ノ從業者ニ付テハ當該事業場ノ實情ヲ基礎トシ工員トノ均衡ヲ失セザルヤウ留意シムルコト

第十條第二項

◎給與關係規則ノ變更命令

給與關係規則ノ變更ハ原則トシテ事業主ノ自發的創意ニ依リ之ヲ爲ス樣指導スルコトトシ變更命令ノ發動ハ可成ク之ヲ爲サザルコト

第十一條第二項

◎給與關係規則ノ例外許可

本許可ハ臨時必要アル事項ニ限ルコト

第十三條

◎規則第十條ノ規定ニ依ル認可

一般的ニハ賃金統制會及會社經理統制令ニ於ケル方針ニ依ルモ特ニ生產能率增進ヲ要スル場合ニハ相當ノ考慮ヲ拂フコト

一〇八、勞務監理官事務取扱方針

第四條關係（記載例第十七條關係）

就業時間、休憩時間及休日

1、就業時間制限令ノ不適用ニヨリ事業主ニ於テ無制限ニ時間ノ延長ヲナシ得ルガ如キ觀念ヲ抱カシメザル樣特ニ留意スルコト

2、長期持久性アル能率ノ向上ヲ期スル爲計畫的ニ作業ヲ行ハシメ可及的十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトナキ樣指導スルコト

十二時間以內ナル場合ハ所定就業時間ヲ超ヘ居ルモ特ニ承認ヲ受クルヲ要セザルコト

3、十二時間ヲ超エテ就業時間ヲ延長セントスルトキヌハ休日ヲ廢止セントスル場合ハ豫メ申出デシメ其ノ實情ヲ考察シ大體左記各號ヲ標準トシテ眞ニ已ムヲ得ザル場合ニ限リ承認ヲ與フルコト

イ、作業ノ性質上必要アル場合

ロ、交替制ニ於テ交替時ニ於テ必要アル場合

ハ、一定期間內ニ於ケル急速ナル軍需ノ充足ヲ必要トスル場合

ニ、災害事故等ニヨリ緊急ノ措置ヲ必要トスル場合

ホ、其ノ他前各號ニ準ズル事由アリタル場合

前項各號ニ該當スル場合ニ於テ勞務監理官ノ承認ヲ得ル暇ナキトキハ事後ニ於テ承認ヲ受ケシムルコト

第三部

職業紹介關係

4、就業時間ノ延長ヲナシタルトキハ其ノ後ノ生産、缺勤、災害等ノ狀況ヲ特ニ留意シ必要ナル措置ヲ講ゼシムルコト

5、軍管理工場ノ就業時間ニ付テハ常ニ軍管理官ト密接ナル連絡ヲ保持スルコト

（記載例第十二條關係）

未經驗工員ノ十時間以上ノ就業又ハ深夜就業ノ承認

1、業務繁忙其ノ他已ムヲ得ザル事由アル場合ハ入職後二ケ月ヲ經過セル者ニ限リ承認シ得ルコト

2、作業ノ性質上晝夜連續作業ヲ必要トスルモノニシテ作業ノ輕易ナルモノニ付テハ入職後一ケ月ヲ經過セル者ニ限リ承認シ得ルコト

3、右承認ヲ爲シタルトキハ其ノ後ノ缺勤、災害、疾病等ノ狀況ニ留意シ必要ナル措置ヲ講ゼシムルコト

一〇九、重要事業場勞務管理令施行規則ノ改正ニ關スル件通牒

（昭和十八年二月十五日勤發第四三九號　厚生省勤勞局長通牒各勞務新宮事務長宛）

本日重要事業場勞務管理令施行規則別紙寫ノ通改正即日施行相成候處右ハ許可認可報告等ノ行政事務ノ簡素化ヲ圖ルト共ニ事業場ノ個個實情ニ即應シ行政ニ一段ノ彈力性ヲ附與セントスル趣旨ニ出デタルモノニ有之之ガ施行ニ當リテハ關係者ニ對シ右改正ノ趣ヲ兎ク徹底セシムルニ努ムルハ勿論特ニ左記事項御留意ノ上所管勞務監理官ノ業務運營ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度尙重要事業場勞務管理令運用方針及重要事業場勞務監理官服務規定ニ付テモ目下同樣ノ趣旨ニ基キ改正方研究中ニ有之御含置相成度

記

一、許可、認可等ノ處分ニ當リテハ徒ニ型式ニ捉ハレ嗆ニ拘泥スル事ナク常ニ基本目標ヲ勤勞能率ノ昂揚ニ置キ經營責任者ノ眞摯ナル創意工夫ヲ尊重シ以テ其ノ迅速適確ナル處理ニ努ムルコト

二、所管勞務監理官ノ承認トナリタル基本的給與以外ノ給與ニ關シテハ一々事前協議ヲ求メ乃至ハ精細ニ過グル運用方針等ニ依リ徒ニ束縛スルコトナク前條ノ趣旨ニ即シ大局ヲ誤ラザル裁量ヲ爲ス樣指導スルコト

三、今般ノ行政事務簡素化ハ事業ノ勤勞管理ノ放縱ヲ認メタルモノニ非ラザルハ論ヲ俟タズ此ノ際一段ト官民相互ノ信賴感ヲ深メ內面指導ノ徹底ニ努ムルト共ニ必要ニ應ジテハ相當強力ナル措置ヲ講ズベキ覺悟ヲ以テ態度ヲ持スルコト

（別紙省略）

一一〇、職業紹介法（昭和十三年四月一日法律第六十一號昭和十五年三月三十日法律第七十四號改正）

第一條　政府ハ勞務ノ適正ナル配置ヲ圖ル爲本法ニ依リ職業紹介事業ヲ管掌ス

第二條　何人ト雖モ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得ズ

第三條　政府ハ職業紹介事業ニ併セテ職業指導及必要ニ應ジ職業補導其ノ他職業紹介ニ關スル事項ヲ行フモノトス

前項ノ規定ニ依ル職業紹介及職業指導ハ之ヲ無料トス

第四條　政府ハ前條ニ規定スル事業ヲ行フ爲職業紹介所ヲ設置ス

職業紹介所ノ業務ヲ補助セシムル爲職業紹介所ニ聯絡委員ヲ置ク

職業紹介所及聯絡委員ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　市町村長（勅令ヲ以テ指定スル市ニ在リテハ區長）ハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所ノ業務ノ一部ヲ行フ

第六條　第三條ニ規定スル事業ニ關シ職業紹介委員會ヲ置ク

職業紹介委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　削除（昭和十五年三月改正）

第八條　勞務供給事業ヲ行ハントスル者又ハ勞務者ヲ雇傭スル爲勞務者ノ募集ヲ行ハントスル者ニシテ命令ノ定ムルモノハ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス）ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ勞務供給事業及勞務者ノ募集ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六ケ月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行ヒタル者

二　第八條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ有料又ハ營利ヲ目的トスル勞務供給事業ヲ行ヒタル者

第十條　第八條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ勞務者ノ募集ヲ行ヒタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第十一條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條　本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條　町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

（昭和十五年三月一部改正）

第十五條　第二條ノ規定ハ主務大臣ノ指定スル職業ノ職業紹介事業ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ職業紹介事業ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　本法ハ船員職業紹介事業ニハ之ヲ適用セズ

附　則

第十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第四百四十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

第十八條　從前ノ規定ニ依リ設置シタル職業紹介所ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ職業紹介委員會ニ關スル規定ヲ除キ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條　地方長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ職業紹介所ノ廢止ヲ命ズルコトヲ得

第二十條　本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ職業紹介所ヲ設置スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內無料ノ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得

第二十一條　本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ職業紹介事業ノ施設ヲ相續ニ因リ繼承シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス）ノ許可ヲ受ケ其ノ事業ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相續開始ノ日ヨリ一月以內ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業ヲ行フコトヲ得

第二十二條　本法施行ノ際現ニ第八條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ勞務供給事業又ハ勞務者ノ募集ヲ行フ者ハ本法施行後二月以內ニ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス）ニ許可ヲ申請スベシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業又ハ募集ヲ行フコトヲ得

附　則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一一二、職業紹介法施行令

（昭和十三年六月二十九日勅令第四百四十九號　昭和十五年三月三十日勅令第百二十六條ノ改正　昭和十六年二月一日勅令第百十三號改正）

第一條　職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市　京都市　大阪市　橫濱市　神戸市　名古屋市

第二條　道府縣市町村ハ國民職業指導所ノ紹介ニ依リ就職スル者ニ對シ其ノ者ノ現在地ヨリ就職地ニ到ル旅費、支度金其ノ他就職ニ關シ必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ貸付スルコトヲ得

道府縣市町村ハ國民職業指導所ノ紹介ニ依リ雇傭セラレタル日傭勞働者ニ對シ豫メ當該雇傭者ノ委託ヲ受ケ北海道地方費、府縣費又ハ市町村費ヲ以テ貸銀ノ一時繼替ヲ爲スコトヲ得

第三條　町村個ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一一三、職業紹介法施行規則

（昭和十三年六月二十九日厚生省令第十五號　昭和十六年二月一日厚生省令第二號改正）

第一條　職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ市區町村長ノ行フ國民職業指導所ノ業務左ノ如シ

一　勞務ノ需給ニ關スル査察ヲ行ヒ之ヲ所轄國民職業指導所ニ通報スルコト

二　國民職業指導所ニ直接申込ムコトノ困難ナリト認ムル求職ノ申込ニ付之ヲ所轄國民職業指導所ニ取次グコト

三　求人者又ハ求職者ノ身元調査其ノ他ニ關シ國民職業指導所ヨリ照會アリタル場合之ヲ調査シ回答スルコト

四　國民職業指導所ノ通報スル求人ニ付之ヲ一般ニ周知セシムルコト

五　前號ノ場合其ノ他必要アル場合市區町村民ニ對シ就職ノ指導保護ヲ爲スコト

市區町村長前項ノ業務ヲ行フ場合ニ於テハ所轄國民職業指導所長ノ指示スル所ニ依ルベシ

第二條　職務委員ハ市區町村長ノ行フベキ國民職業指導所ノ業務ニ付市區町村長ヲ補助スルノ外國民職業指導所ヨリ特ニ補助スベキコトヲ求メラレタル事項ニ付國民職業指導所ヲ補助スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一一三、勞務供給事業規則

（昭和十三年六月二十九日厚生省令第十八號　昭和十五年十一月十五日厚生省令第四十九號改正　昭和十六年二月一日厚生省令第五號改正　昭和十六年十二月二十九日厚生省令第七十一號改正）

第一條　本令ハ職業紹介法（以下法ト稱ス）第八條ノ規定ニ依ル勞務供給事業ニ之ヲ適用ス

第二條　法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ勞務供給事業ハ臨時ニ使用セラルル勞務者ヲ有料ニテ又ハ營利ノ目的ヲ以テ供給スル事業トス

第三條　勞務供給事業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ具シ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ申請スベシ

一　本籍、住所、氏名、年齡及履歷、法人ナルトキハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、定款、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ住所、氏名及履歷

二　事業所ノ所在地及名稱

三　主トシテ勞務者ヲ供給スル區域又ハ勞務者ノ主タル供給先

四　所屬勞務者ノ職種別員數

五　所屬勞務者ニ支給スル賃金其ノ他ノ給與ノ額及支給方法
六　供給ニ依ル收益方法又ハ報償ノ額若ハ率
七　他ノ勞務供給事業ヲ行フ者ニ對シ所屬勞務者ヲ供給スル場合ノ利益ノ配分方法
八　他ノ者ヨリ供給ヲ受ケタル勞務者ヲ供給スル場合ノ利益ノ配分方法
九　所屬勞務者ノ業務上ノ負傷、疾病、死亡等ニ對スル扶助其ノ他ノ措置
十　所屬勞務者ニ對スル金品ノ貸付及回收方法
十一　所屬勞務者ノ宿泊施設ヲ設クルトキハ其ノ所在地、構造(平面圖添附)、宿泊定員及宿泊料金額
十二　所屬勞務者ニ對スル福利施設ヲ設クルトキハ其ノ內容

第四條　勞務供給事業ヲ行フ者(以下供給業者ト稱ス)ハ事業所ノ所在地、前條第三號乃至第十二號ノ事項又ハ法人ノ定款若ハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ變更セントスルトキハ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第五條　前二條ノ許可ノ申請書ハ事業所(一道府縣內ニ數事業所ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ道府縣內ニ於ケル主タル事業所)所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第六條　供給業者及其ノ同居ノ戶主、家族ハ宿屋、料理屋、飮食店、貸座敷、待合、藝妓屋、遊戲場、藝妓娼妓紹介業若ハ之ニ類スルモノノ周旋業、質屋、古物商、金錢貸付業其ノ他之ニ類スル營業ヲ爲シ又ハ其ノ營業者トナルコトヲ得ズ但シ地方長官支障ナシト認メテ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ供給業者法人トナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ノ法定代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　供給業者ハ未成年者、禁治產者、準禁治產者又ハ妻ニシテ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾ナキ者ヲ所屬勞務者トシテ供給スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條ノ二　供給業者ハ勞務調整令第四條ノ規定ノ適用ヲ受クル技能者及同令第六條ノ國民學校修了者ヲ所屬勞務者トシテ供給スル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

第七條ノ三　供給業者ハ日々又ハ三十日未滿ノ期間ヲ定メ勞務者ヲ所屬勞務者タラシメントスル場合ニハ其ノ人員ニ付事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ左ニ揭グル期日迄ニ樣式第一號ニ依リ之ヲ爲スベシ

一　第一期　四月ヨリ六月迄ノ間ニ於テ所屬勞務者タラシメントスル人員ノ申請ニ在リテハ其ノ年ノ三月一日

二　第二期　七月ヨリ九月迄ノ間ニ於テ所屬勞務者タラシメントスル人員ノ申請ニ在リテハ其ノ年ノ六月一日

三　第三期　十月ヨリ十二月迄ノ間ニ於テ所屬勞務者タラシメントスル人員ノ申請ニ在リテハ其ノ年ノ九月一日

四　第四期　一月ヨリ三月迄ノ間ニ於テ所屬勞務者タラシメントスル人員ノ申請ニ在リテハ其ノ前年ノ十二月一日

第七條ノ四　國民職業指導所長勞務調整上必要アリト認ムルトキハ供給業者ニ對シ所屬勞務者ノ供給先、供給人員其ノ他供給ニ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

第八條　供給業者ハ左ニ揭グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　事業ニ關シ詐欺又ハ虛偽ノ廣告又ハ揭示ヲ爲スコト
二　所屬勞務者ノ意思ニ反シテ供給ヲ爲スコト
三　金品ヲ給與シ又ハ貸付ケテ所屬勞務者ヲ勸誘スルコト
四　被傭中ノ者ヲ勸誘シ所屬勞務者トスルコト
五　所屬勞務者ニ對シ其ノ財物ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル財物ノ返還ヲ故ナク拒ムコト
六　所屬勞務者ニ對シ財物ノ賣買又ハ賃入ヲ勸誘スルコト
七　所屬勞務者ノ財物ヲ買受ケテ不當ノ利益ヲ得ルコト
八　所屬勞務者ニ對シ風俗ヲ紊スノ虞アル行爲ヲ爲スコト
九　所屬勞務者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案內ヲ爲スコト
十　所屬勞務者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ゲ其ノ他所屬勞務者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト
十一　當該官吏又ハ所屬勞務者ヲ保護スル者ニ對シ所屬勞務者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ僞ルコト
十二　所屬勞務者ノ宿泊施設ニ定員ヲ超エテ宿泊セシムルコト
十三　故ナク所屬勞務者ノ宿泊施設ニ所屬勞務者ニ非ザル者ヲ宿泊セシムルコト

第九條　供給業者從業者ヲ使用スルトキハ使用開始ノ日ヨリ五日以內ニ其ノ本籍、住所、氏名、年齡及履歷ヲ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ屆出ヅベシ

第六條第一項、前條第五號乃至第九號及其ノ屆則ノ規定ハ從業者ニ之ヲ準用ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ供給業者ハ七日以內ニ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ屆出ヅベシ

一　供給業者ノ本籍、住所、氏名(法人ナルトキハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ住所又ハ氏名)又ハ事業所ノ名稱ヲ變更シタルトキ
二　供給業者ノ廢業シタルトキ
三　從業者ノ使用ヲ廢メタルトキ

四　従業者ノ住所又ハ氏名ニ変更アリタルトキ

五　従業者ノ死亡シタルトキハ其ノ相続人又ハ戸主ヨリ、供給業者タル法人解散シタルトキハ清算人ヨリ前号ニ準ジ届出ヅベシ

第十一條　供給事業ハ事業所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ日日供給ニ關スル事項ヲ記載スベシ

一　所屬勞務者名簿（樣式第一號ノ二）

二　勞務者供給簿（樣式第二號）

三　賃金受拂簿（樣式第三號）

前項ノ帳簿ハ最後ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第十二條　供給業者ハ毎月五日迄ニ前月ノ事業狀況ヲ各事業所毎ニ樣式第四號ニ依リ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

第十三條　當該官吏ハ供給業者ニ對シ書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第十四條　地方長官必要アリト認ムルトキハ第三條第五號乃至第十二號ノ事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　供給業者本令若ハ本令ニ基ク命令又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二　供給業者正當ノ事由ナクシテ六月以上其ノ業務ヲ行ハザルトキ

三　前各號ノ外供給業者事業ヲ行フニ適セズト認ムルトキ

第十六條　國民職業指導所長ハ從業者勞務供給事業ニ從事セシムルニ適セズト認ムルトキハ其ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第四條、第六條乃至第七條第一項、第八條、第九條第一項、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　第七條ノ四ノ規定ニ依ル指示ニ從ハザリシ者

三　第十一條第一項ノ帳簿ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者

四　第十三條、第十四條又ハ第十六條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

五　第十五條ノ規定ニ依リ事業ヲ停止セラレタル者ニシテ其ノ停止期間中事業ヲ行ヒタル者

第十八條　本令ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ事業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ノ法定代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

供給業者ハ從業者、同居ノ戸主、家族又ハ雇人ニシテ其ノ事業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十九條　地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ第二條ノ規定ニ拘ラズ業務ノ種類ヲ限リ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第二十一條　本令中地方長官トアルハ附則第二項ヲ除クノ外東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條第二項ノ規定ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條ノ規定ニ依リ職業紹介所長ニ爲スベキ届出ハ昭和十四年三月三十一日迄ハ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

法第二十二條ノ勞務供給事業ヲ行フ者又ハ其ノ同居ノ戸主若ハ家族本令施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ禁止セラレタル事項ヲ行フトキハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケテ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ其ノ事項ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十五年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ行フ勞務供給事業ニシテ從前ノ規定ニ依リ法第八條第一項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セザリシ者ニ付テハ其ノ事業ヲ行フ者ガ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル場合ニ限リ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄第二條ノ規定ニ拘ラズ法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事業ニ非ザルモノトス

附　則

本令ハ昭和十七年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ行フ勞務供給事業ニシテ從前ノ規定ニ依リ法第八條第一項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セザリシモノニ付テハ其ノ事業ヲ行フモノガ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル場合ニ限リ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄第二條ノ規定ニ拘ラズ法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事業ニ非ザルモノトス

本令施行ノ際現ニ三十日未滿ノ期間ヲ定メテ勞務者ヲ所屬セシメ居ルモノニ付テハ當該期間ノ滿了迄第七條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第七條ノ二第二項第四號ノ申請期日ハ供給業者ニシテ昭和十七年一月十日ヨリ三月迄ノ間ニ於テ日日又ハ三十日未滿ノ期間ヲ定メ勞務者ヲ所屬セシメントスル場合ニ限リ同條同項同號ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年二月十日トス

前項ノ場合ニ於テ供給業者ニシテ前項ノ申請期日迄ニ認可ヲ申請シタル場合ニ於テハ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分アル迄ハ第七條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セズ

則記樣式第一號中「樣式第一號」ヲ「樣式第一號ノ二」ニ改メ樣式第一號ノ二ノ前ニ次ノ樣式第一號ヲ加フ

一一四、勞務者募集規則

（昭和十五年十一月十五日厚生省令第五十號
昭和十六年二月一日厚生省令第二號改正
昭和十六年十二月二十九日厚生省令第七十二號改正）

第一條　本令ハ職業紹介法（以下法ト稱ス）第八條ノ規定ニ依ル勞務者ノ募集ニ之ヲ適用ス

第二條　國民職業指導所長ノ指定スル者ノ行フ國民職業指導所長ノ指定スル樣式ニ依ル文書ノ掲出又ハ頒布ノミニ依ル勞務者ノ募集ヲ除クノ外勞務者ノ募集ハ法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケベキモノトス

第三條　本令ニ於テ募集主トハ勞務者ヲ雇傭スル爲勞務者ノ募集ヲ行フ者又ハ之ニ募集從事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ラ雇傭センガ爲勞務者又ハ勞務者タルベキ者ニ對シ應募ヲ勸誘シ又ハ應募者ヲ其ノ就業場以外ノ場所ニ於テ銓衡シ若ハ引率旅行スル者ヲ謂ヒ應募地トハ募集ニ關スル文書ヲ頒布若ハ提出シ又ハ募集從事者ガ應募ノ勸誘若ハ應募者ノ銓衡ヲ爲ス地ヲ謂フ

第四條　勞務者ノ募集ノ許可ハ募集地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ掲載スル廣告ノミニ依ル募集ニ付テハ之ヲ掲載スル出版物ノ發行地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第五條　勞務者ノ募集ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ樣式第一號ニ依リ申請スベシ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場及應募者ノ就業スベキ事業ニ關スル事項

三　募集人員、募集期間及募集區域ニ關スル事項

四　募集方法ニ關スル事項

五　其ノ他募集ニ關スル事項

勞務者ノ募集ノ許可ヲ受ケタル者前項第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項第一號ノ事項變更セントスル事項及變更ヲ必要トスル事由ヲ具シ許可ヲ受クベシ

前二項ノ申請ハ之ニ其ノ謄本（募集地（前條但書ノ募集ナル場合ハ出版物ノ發行地）ガ應募者ノ就業場所在地ト同一道府縣ニ在ル場合ハ一通、其ノ他ノ場合ハ二通）ヲ添附シ應募者ノ就業場所在地ノ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第六條　二以上ノ道府縣ノ區域ニ跨リ勞務者ノ募集ヲ行ハントスル者ハ樣式第二號ニ依ル勞務者募集計畫書ヲ應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スベシ但シ第四條但書ノ募集ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ勞務者募集計畫書ハ之ニ其ノ謄本二通ヲ添附シ勞務者募集許可申請書ト共ニ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第七條　募集主ハ勞務者ノ募集ニ關シ揭出又ハ頒布スル文書ニ付應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢閱ヲ受クベシ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ揭載スル廣告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ、國民職業指導所長支障ナシト認ムルトキハ募集主ノ請求ニ依リ前項ノ文書ニ檢印ヲ爲スベシ

第八條　募集主勞務者ノ募集ニ關シ文書ヲ揭出又ハ頒布セントスルトキハ募集從事者ヲシテ揭出又ハ頒布セシムル場合ヲ除クノ外其ノ文書ヲ添附シ樣式第二號ニ依リ募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ屆出ヅベシ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ廣告ヲ揭載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ屆出ニ添附スベキ文書ハ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢印ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ募集主ニ對シ地域ヲ指定シテ勞務者ノ募集ニ關スル文書ノ揭出又ハ頒布ヲ制限スルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集主ハ其ノ揭出シタル勞務者ノ募集ニ關スル文書ヲ撤去スベシ

一　揭出シタル文書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキ

二　募集ヲ終了シタルトキ

三　募集期間滿了シタルトキ

四　募集ヲ罷メタルトキ

五　募集ノ許可ヲ取消サレタルトキ

六　事業ヲ廢止シタルトキ

第十一條　募集主募集從事者タルコトヲ委託シタルトキハ樣式第四號ニ依リ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル勞務者募集從事委託書ヲ其ノ者ニ交付スベシ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場ニ關スル事項

三　募集從事者ニ關スル事項

四　募集從事者ニ對スル委託ノ內容及報償ニ關スル事項

第十二條　募集主募集從事者ヲシテ應募ノ勸誘ヲ爲サシムルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル就業案內ヲ募集從事者ニ交付スベシ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場及應募者ノ就業スベキ事業ニ關スル事項

三　短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了期日

四　就業時間、休憩時間、休日及夜間作業ニ關スル事項

五　賃金ニ關スル事項

六　宿舍、食事ノ費用、往復ノ旅費等ノ負擔ニ關スル事項

七　制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

八　雇傭期間及解雇ニ關スル事項

九　負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助ニ關スル事項

第十三條　募集從事者勞務者ノ募集ニ著手セントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ樣式第五號ニ依リ各募集地ヲ管轄スル國民職業指導廳長ニ屆出ヅベシ但シ他ノ募集從事者ノ勸誘シタル應募者ノ引率旅行ノミヲ爲ス歸

集従事者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場及應募者ノ就業スベキ事業ニ關スル事項

三　募集従事者ニ關スル事項

四　募集従事中ノ居所及事務所ニ關スル事項

五　當該國民職業指導所管内ニ於ケル募集従事期間及募集豫定人員

六　應募者ノ集合ニ關スル事項

七　其ノ他募集ニ關スル事項

前項ノ届出ニハ勞務者ノ募集ニ關シ掲出又ハ頒布スベキ文書各二通（一通ハ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢印ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス）及勞務者募集従事委託書ヲ添附スベシ

第一項ノ規定ニ依リ届出デタル事項ニ變更アリタルトキハ三日以内ニ第一項ノ届出ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ其ノ旨届出ヅベシ

第十四條　國民職業指導所長前條ノ届出アリタル場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ樣式第六號ニ依ル勞務者募集従事證ヲ交付スベシ

勞務者募集従事證ヲ滅失、紛失又ハ毀損シタルトキハ募集従事者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

勞務者募集従事證ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ募集従事者ハ遲滯ナク其ノ書換ヲ申請スベシ

前二項ノ申請ハ勞務者募集従事委託書ヲ添附シ樣式第七號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第十五條　募集従事者應募者ヲ引率シテ旅行セントスルトキハ勞務者募集従事委託書ヲ添附シ樣式第八號ニ依リ出發地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

國民職業指導所長前項ノ届出アリタル場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ樣式第九號ニ依ル應募者引率旅行證ヲ交付スベシ

第十六條　募集従事者ハ勞務者ノ募集ニ従事中ハ勞務者募集従事委託書及勞務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ヲ携帶スベシ

募集従事者ハ應募者若ハ應募セントスル者又ハ之ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ勞務者募集従事委託書及勞務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ヲ提示スベシ

第十七條　募集従事者ハ毎月ノ勞務者ノ狀況ヲ翌月五日迄ニ樣式第十一號ニ依リ募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ但シ他ノ募集従事者ノ勸誘シタル應募者ノ銓衡又ハ引率旅行ノミヲ爲ス募集従事者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　募集従事者ハ勞務者ノ募集ニ従事中樣式第十號ニ依ル應募者名簿ヲ携帶シ又ハ第十三條ノ規定ニ依リ届出デタル居所若ハ事務所ニ備付ケベシ但シ他ノ募集従事者ノ勸誘シタル應募者ノ銓衡又ハ引率旅行ノミヲ爲ス募集従事者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　募集従事者ハ自己ノ勸誘シタル應募者ヲ他ノ募集従事者ガ銓衡シ又ハ引率旅行スルトキハ其ノ銓衡又ハ引率セラルル應募者ニ付應募者名簿ノ寫ヲ作成シ其ノ銓衡又ハ引率旅行ヲ爲ス募集従事者ニ交付スベシ

募集従事者他ノ募集従事者ノ勸誘シタル應募者ヲ銓衡シ又ハ引率旅行スルトキハ前項ノ應募者名簿ノ寫ヲ携帶スベシ

第二十條　募集従事者ハ毎月ノ勞務者ノ狀況ヲ翌月五日迄ニ樣式第十一號ニ依リ募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ但シ他ノ募集従事者ノ勸誘シタル應募者ノ銓衡又ハ引率旅行ノミヲ爲ス募集従事者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　募集従事者各國民職業指導所管内ニ於ケル勞務者ノ募集ヲ終了シタルトキハ募集終了ノ日ヨリ五日以内ニ勞務者募集従事證ヲ添附シ樣式第十二號ニ依リ當該國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

第二十二條　募集従事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ其ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ依リ承諾ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　募集従事者ハ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　勞務者募集従事委託書、勞務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコト

二　募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ、誇大ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト

三　第十三條ノ届出ニ添附シタル文書ニ非ザル文書ヲ掲出又ハ頒布スルコト

四　應募ヲ强要スルコト

五　應募ヲ他人ニ委託スルコト

六　應募者ニ勞務者募集従事證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト

七　金品ヲ給與シ又ハ貸付ケテ應募ヲ勸誘スルコト

八　被傭中ノ者ニ對シ應募ヲ勸誘スルコト

九　應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手數料、報酬等何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト

十　勞務者募集従事委託書記載ノ報償ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ募集ニ關シ募集主ヨリ金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト

十一　應募者若ハ應募セントスル者又ハ之ヲ保護スル者ニ對シ其ノ財物ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル財物ノ返還ヲ故ラク拒ムコト

十二　應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ゲ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

十三　當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ僞ルコト

十四　應募者又ハ應募セントスル者ニ對シ風俗ヲ紊スベキ行爲ヲ爲スコト

十五　應募者又ハ應募セントスル者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

十六　募集ニ關シ知得シタル人ノ秘密ヲ漏洩スルコト

第二十四條　國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ募集従事者ニ對シ地域又ハ期間ヲ指定シテ勞務者ノ募集ニ從事スルコトヲ制限スルコトヲ得

國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ募集従事者ニ對シ其ノ指定スル者ノ募集ヲ制限スルコトヲ得

第二十五條　當該官吏ハ募集従事者ニ對シ勞務者募集従事者委託者、勞務者募集従事者、應募者引率旅行者、應募者名簿其ノ他募集ニ關スル書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　國民職業指導所長ハ募集従事者勞務者ノ募集ニ關シ違法又ハ不當ナル行爲ヲ爲シ又ハ爲スノ虞アリト認ムルトキハ勞務者ノ募集ニ從事スルコトヲ禁止スルコトヲ得

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集従事者ハ逋滯ナク勞務者募集従事者ヲ返納スベシ

一　募集主募集従事者ノ委託ヲ解キタルトキ

二　募集主應募者ヲシテ就業セシムベキ事業ヲ廢止シタルトキ

三　募集主募集ヲ罷メタルトキ

四　募集主募集ノ許可ヲ取消サレタルトキ

五　募集従事者募集従事者ニ從事スルコトヲ禁止セラレタルトキ

六　募集従事者募集ニ從事スルコトヲ罷メタルトキ

第二十八條　應募者引率旅行證ノ交付ヲ受ケタル募集従事者應募者ノ引率旅行ヲ爲サザルニ至リタルトキハ逋滯ナク應募者引率旅行證ヲ返納スベシ

應募者引率旅行證ノ交付ヲ受ケタル募集従事者應募者ノ引率旅行ヲ終了シタルトキハ逋滯ナク應募者引率旅行證ヲ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ提出スベシ

第二十九條　募集従事者死亡シタルトキハ戸籍法第百十七條ノ届出義務者ハ逋滯ナク勞務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ヲ返納スベシ

第三十條　募集主ハ勞務者募集従事者委託者ニ記載シタルモノノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ勞務者ノ募集ニ關シ募集従事者ニ對シ金錢其ノ他ノ財物ヲ給與スルコトヲ得ズ

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ應募者就業場ニ到着前ニ於テハ募集従事者、到着後ニ於テハ募集主ハ應募者ノ歸鄉ノ爲必要ナル措置ヲ爲スベシ

一　就業案内ニ記載シタル事項ガ事實ト相違シタルトキ

二　募集主、募集従事者又ハ就業場ノ監督者應募者ヲ虐待シ又ハ凌辱シタルトキ

三　考試、身體檢査其ノ他募集主ノ都合ニ依リ應募者ヲ採用セザルトキ

四　其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ歸鄉ヲ必要トスルニ至リタルトキ

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集主ハ五日以内ニ其ノ旨第四條ノ地方長官ニ届出ヅベシ

一　第五條第一項第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ

二　應募者ノ就業場ノ名稱ニ變更アリタルトキ

三　應募者ヲシテ就業セシムベキ事業ヲ廢止シタルトキ

四　募集ヲ罷メタルトキ

五　募集従事者ノ募集ニ從事スルコトヲ禁止シタルトキ

第三十三條　募集主ハ毎月五日迄ニ前月ノ募集狀況ヲ樣式第十三號ニ依リ應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ヅベシ

第三十四條　第五條第三項ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル届出ニ之ヲ準用ス

第三十五條　當該官吏ハ募集主又ハ應募者ノ就業場ノ管理者ニ對シ募集ニ關スル書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條　地方長官ハ募集ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ募集ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル募集方法ニ依ラズシテ勞務者ノ募集ヲ爲シ又ハ勞務者ノ募集ニ從事シタル者

二　第五條第二項、第七條第一項、第八條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十四條第三項、第十五條第一項、第十六條乃至第二十三條、第二十七條乃至第三十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　應募者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者

四　第九條、第二十四條乃至第二十六條又ハ第三十五條ノ規定ニ依ル命ニ違反シタル者

五　勞務者募集従事者又ハ應募者引率旅行證ノ交付ヲ受ケシテ募集ニ從事シタル者

六　募集従事者ヨリ委託ヲ受ケテ應募者ヲ誘導シタル者

第三十八條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從事者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ニ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十九條　本令ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ事業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條　本令中地方長官トアルハ第二條、第六條第一項、第九條及第三十三條ヲ除クノ外東京都ニ在リテハ東京都長官及警視總監ヲトス

第四十一條　本令ハ移民保護法ニ依ル募集及船員法ノ船員ノ募集ニハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十五年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年六月厚生省令第十九號勞務者募集規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル勞務者ノ募集ニ關スル本令ノ適用ハ左ノ各號ニ依ル

一　當該勞務者ノ募集ノ許可ノ申請書ニ添附シタル募集ニ關シ配布スベキ文書ニ付テハ第七條及第八條ノ

規定ハ之ヲ適用セズ

二　従前ノ規定ニ依リ募集従事者證ノ交付ヲ受ケタル募集従事者ニ付テハ第十一條及第十四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ此ノ場合ニ於テハ當該募集従事者證ヲ以テ勞務者募集従事者證ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年二月一日）

附　則

本令ハ昭和十七年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

一一五、勞務供給事業規則施行細則

（昭和十三年十月二十七日兵庫縣令第九十三號、昭和十六年二月十二日兵庫縣令第十二號改正）

第一條　勞務供給事業規則（以下規則ト稱ス）第二條ノ規定ニ拘ラズ左ノ第一號ノ業務ニ付テハ規則ヲ適用シ第二號ノ業務ニ付テハ之ヲ適用セズ

一　家政婦（附添婦、炊事婦、洗濯婦、雜役婦等一般家庭ノ補助ヲ爲ス者ヲ謂フ）ヲ供給スル事業

二　看護婦ノミヲ供給スル事業

第二條　規則第三條及第四條ノ規定ニ依ル申請書ハ正副二通ヲ提出スベシ

前項ノ申請者妻又ハ未成年者ナルトキハ民法第十七條ニ規定スル場合ノ外其ノ夫又ハ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第三條　規則第三條第六號ニ付テハ業態別ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　供給先ヨリ受クル供給シタル勞務ニ對スル報酬額ト其ノ勞務者ニ支拂フ賃銀額トノ差額若ハ比率及收受支拂ノ方法

二　供給先又ハ所屬勞務者ヨリ收受スル手數料其ノ他ノ報償額及收受ノ方法

第四條（削　除）

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ勞務供給業者及勞務供給業者ノ從事者タルコトヲ得ズ但シ第三號乃至第六號ニ該當スル者ニシテ事業所所在地所轄國民職業指導所長ニ於テ特ニ支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　禁治産者又ハ準禁治産者

二　家資分産者又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得ザル者

三　文書又ハ印章僞造、猥褻、姦淫、賭博、殺人、傷害、堕胎、遺棄、逮捕、監禁、脅迫、略取、誘拐、物盜、詐欺、强喝、橫領又ハ贓物ノ罪ヲ犯シタル者

四　密貿易又ハ其ノ緣合若クハ容止ノ罪ヲ犯シタル者

五　紹介、周旋、勞務供給ニ關スル法令ニ依リ事業ノ許可ヲ取消サレ又ハ從業者タルコトヲ禁止セラレタル者

六　勞務者募集従事者ノ許可ヲ取消サレ又ハ勞務者ノ募集ニ從事スルコトヲ禁止セラレタル者

前項ノ規定ハ勞務供給業者未成年者ニシテ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザルトキハ其ノ法定代理人、法人ナルトキハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第六條　規則第七條ノ規定ニ依ル承諾ハ書面ニ依リ勞務供給業者之ヲ保存スベシ

第七條　勞務供給事業ヲ行フ者ハ其ノ事業所ニ第一號樣式ニ依ル標札ヲ掲出スベシ

第八條　勞務供給業者ハ縣ヲ單位トシ左ノ區分ニ依リ組合ヲ設立スルコトヲ得

一　家政婦ヲ供給スル事業

二　家政婦以外ノ勞務者ヲ供給スル事業

第九條　勞務供給業者前條ノ規定ニヨリ組合ヲ設立セントスルトキハ組合規約、組合員ノ氏名及設立ニ關スル會議ノ狀況ヲ記載シタル書類ヲ添付シ知事ノ認可ヲ受クベシ

第十條　前條ニ依リ認可ヲ受ケタル組合規約又ハ役員ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クベシ

第十一條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

一　名　稱

二　區　域

三　事務所ノ位置

四　目的及事業

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル事項

六　役員ノ權限選任解任ニ關スル事項

七　組合ノ會議ニ關スル事項

八　經費ノ賦課、徵收ノ方法竝ニ會計ニ關スル事項

九　其ノ他業務上必要ナル事項

第十二條　組合ハ組合ノ資格ヲ以テ勞務者ノ供給ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條　組合ハ毎年一月三十一日迄ニ前年ノ事業狀況ヲ知事ニ屆出ヅベシ

第十四條　勞務供給業者ハ左ニ揭ゲル事項以外ニハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ所屬勞務者ヨリ金錢ヲ徵收スルコトヲ得ズ

一　供給手數料　勞務者所得金額ノ一割以下トス但シ賃銀計算ニハ食事費ヲ含マズ

二　所屬料（會費）　毎月五拾錢以下トス但シ家政婦以外ノ勞務者ヲ供給スル事業ヲ行フ者ハ徵收スルコトヲ得

三　宿泊料　家政婦ヲ供給スル事業ニ在リテハ毎月貳圓以下トス但シ食事費ヲ含マズ

家政婦以外ノ勞務者ヲ供給スル事業ニ在リテハ日額八拾錢以下トス

第十五條　第五條及第十四條ノ規定ニ違反シ又ハ第六條及第七條ノ命令ニ從ハザルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四部

勞務登錄關係

二六、國民職業能力申告令

（昭和十四年一月七日勅令第五號改正
昭和十五年十月十九日勅令第六百七十三號改正
昭和十六年十月十八日勅令第九百七號改正
昭和十六年十二月十五日勅令第一百二十一號改正
昭和十七年一月一日勅令第七百八十一號改正）

第一條　國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告及其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　職業能力ニ關スル事項ノ申告（以下申告ト稱ス）ハ本令施行地内ニ居住スル年齡十六年以上五十年未滿ノ帝國臣民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ（以下要申告者ト稱ス）ニ付之ヲ爲サシムルモノトス

但シ命令ヲ以テ定ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　本令施行地内ニ於テ引續キ三月以上厚生大臣ノ指定スル職業ニ從事スル者

二　引續キ一年以上前號ノ職業ニ從事シテ其ノ職業ヲ謬メ其ノ職業ヲ謬メタル日ヨリ五年ヲ經過セザル者

三　厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準ズベキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四　厚生大臣ノ指定スル技能者養成施設ニ於テ所定ノ課程ヲ修了シタル者

五　厚生大臣ノ指定スル檢定若ハ試驗ニ合格シタル者又ハ厚生大臣ノ指定スル免許ヲ受ケタル者

六　其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第三條　要申告者及前條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者ヲ使用スル者（以下使用者ト稱ス）ハ要申告者ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告義務者（以下申告義務者ト稱ス）トス但シ要申告者ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　帝國臣民要申告者（第十一條ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク）タルニ至リタルトキ又ハ第十一條ノ規定ニ該當スル要申告者ニシテ申告シ居ラザルモノ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以内ニ左ニ揭グル事項（就業ノ場所一定セザル者ニ付テハ第八號ニ揭グル事項ヲ除ク）ヲ要申告者ガ職業ニ從事スル者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ、其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ居住地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ申告スベシ

申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者ガ内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ居住ノ場所ヲ移シタル場合ニ於テ其ノ地域ニ於テ仍要申告者タルトキ亦同ジ

一　氏　名
二　出生ノ年月日
三　本　籍
四　居住ノ場所
五　兵役關係
六　學　歷
七　職業ニ從事スル者ニ在リテハ其ノ職業名

八　就業ノ場所（二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所）

九　第二條第一號ノ職業ニ從事シ又ハ從事シタル者ニ在リテハ其ノ職業ノ經歷及技能程度

十　第二條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ修了シタル課程ニ關スル事項

十一　第二條第五號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ受ケタル試驗、檢定又ハ免許ニ關スル事項

十二　給料又ハ賃金ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ額

十三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

申告義務者前項ノ申告ヲ爲シタル後ニ於テ同項第一號又ハ第三號乃至第十一號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ十四日以内ニ前項ノ國民職業指導所長ニ其ノ旨申告スベシ

第五條　厚生大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申告ノ外全部又ハ一部ノ要申告者ニ關シ前條第一項各號ニ掲グル事項ノ全部又ハ一部ニ付申告ヲ命ズルコトヲ得

第六條　申告シ居ル要申告者左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以内ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ申告スベシ

一　要申告者タラザルニ至リタルトキ（第四條第一項後段ノ場合ヲ含マズ）

二　第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

前項第二號ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者第十一條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以内ニ第四條ノ國民職業指導所長ニ其ノ旨申告スベシ

第七條　同一ノ要申告者ニ付其ノ者及其ノ使用者共ニ申告義務者タル場合ニ於テハ申告義務者共同シテ之ヲ爲スベシ

第八條　地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）又ハ國民職業指導所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ要申告者ニ就キ技能其ノ他ノ職業能力ニ關シ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條　地方長官又ハ國民職業指導所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告又ハ檢査ニ關シ國家總動員法第三十二條ノ規定ニ基ク報告ヲ徴スルコトヲ得

地方長官又ハ國民職業指導所長ハ本令ノ申告又ハ檢査ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十條　厚生大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ他ノ大臣ニ嘱託シテ其ノ所轄スル官衙ノ長ヲシテ前二條ノ規定ニ準ジ檢査ニ關スル職權ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條　本令ハ第六條第二號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル動令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ召集中ノモノ、兵籍ニ編入セラレタル陸海軍學生生徒（陸軍豫備練習生及陸軍豫備航習生ヲ含ム）、陸海軍軍屬、國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徴用中ノ者、醫療關係者職業能力申告令ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スベキ者、獸疫豫防法ニ依リ農林大臣ノ免許ヲ受ケタル獸醫師（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル獸醫師、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ノ免許證ヲ受ケタル獸醫、樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ假免狀ヲ受ケタル獸醫、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ指定スル者ヲ含ム）竝ニ船員法ノ船員及朝鮮船員令ノ船員ニ關スル申告及職業能力ノ檢査ニハ之ヲ適用セズ

第十二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一　陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）

二　外國旅行中ノ者

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十三條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所ノ所在地ヲ以テ、就業ノ場所一定セザル者及鉤舶内ニ於テ就業スルノ常況ニアル者ニ付テハ居住地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

第十四條　要申告者ニシテ厚生大臣ノ指定スル官廳ニ使用セラレ又ハ使用セラレタルモノニ關スル申告及職業能力ノ檢査ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條　第二條第六號ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル者ニ關スル申告ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ前項ノ申告ニ關シ必要ナル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十六條　要申告者（第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付國民勞務手帳法施行令第一條、同令附則第二項又ハ昭和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ第四條第一項ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

第十七條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ國民職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、鎭守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第十八條　本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ於ケル申告及檢査ニ關スル規定ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ申告ニシテ昭和十四年三月末日前ニ其ノ申告期限ノ到來スルモノハ同日迄ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

附　則（昭和十五年十月勅令第六百七十三號）

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ第四條又ハ第六條ノ規定ニ該當シタル者ノ同條ノ規定ニ依ル申告ノ期限ハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行前ニ生ジタル第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ノ居住ノ場所ノ異動又ハ同條第二號乃至第五號ノ一ニ該當スル者ノ就業ノ場所ノ異動ニ關スル第四條第二項ノ規定ニ依ル申告ノ期限ハ昭和十六年三月三十一日迄トス

附　則（昭和十六年六月勅令第七百九號）

本令中第十六條第一項ノ規定ハ昭和十六年七月二十一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年十月勅令第九百二十一號）

本令ハ昭和十六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

二一七、官廳被用者ノ申告ノ特例及官廳指定、國民職業能力申告令第十四條ノ規定ニ依ル官廳被用者ノ申告ノ特例ニ關スル件

昭和十四年二月十八日　閣令第一號
大藏省令
陸軍省令
海軍省令
遞信省令
厚生省令
昭和十五年十一月二十九日共同省令第一號改正
昭和十六年二月十八日共同省令第一號改正
昭和十六年六月十八日共同省令第二號改正

第一條　國民職業能力申告令（以下令ト稱ス）第二條ノ要申告者ニシテ厚生大臣ノ指定スル官廳（以下指定官廳ト稱ス）ニ使用セラルルモノ（以下官廳被用者ト稱ス）ハ令第四條第一項第七號及第八號ニ掲グル事項並ニ第九號前段ノ者ノ技能程度ハ之ヲ申告セザルコトヲ得令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告（以下一般ト稱ス）ヲ爲シタル後ニ於テ同條同項第四號又ハ第七號乃至第九號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第二條　官廳被用者ノ申告ハ當該指定官廳ヲ經由シ當該指定官廳所在地ノ所轄國民職業指導所長ニ之ヲ爲スベシ但シ指定官廳ノ支所、支局、分工場其ノ他之ニ準ズルモノ（以下支所ト稱ス）ニ勤務スル官廳被用者ノ申告ハ當該支所ヲ經由シ當該支所所在地ノ所轄國民職業指導所長ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

通信官署ノ官廳被用者ニシテ電氣通信技術者、有線電信通信士、無線電信通信士、通信電路工又ハ通信電機工ニ從事シ又ハ從事シタルモノノ申告ハ所轄遞信局ヲ經由シ當該遞信局所在地ノ所轄國民職業指導所長ニ之ヲ爲スベシ

第三條　指定官廳又ハ其ノ支所一般申告ノ經由ニ當リテハ令第四條第一項第七號及第八號ニ掲グル事項並ニ第九號前段ノ者ノ技能程度ヲ當該職業能力申告票ニ記入スベシ

第四條　官廳被用者ノ職業能力申告手帳ハ令第四條第二項又ハ同第六條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲ス場合ノ外申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ其ノ支所之ヲ保管ス

職業能力申告手帳ヲ所持スル要申告官廳被用者トナリタルトキハ遲滯ナク其ノ職業能力申告手帳ヲ申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ其ノ支所ニ提出スベシ

指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ヲ廢メタルトキハ其ノ保管ニ係ル當該職業能力申告手帳ニ使用ヲ廢メタル旨及使用ヲ廢メタル年月日ヲ記入シ要申告者ガ仍官廳被用者ナルトキハ新ニ其ノ者ヲ使用スル指定官廳又ハ其ノ支所ニ移管シ官廳被用者タラザルトキハ要申告者ニ之ヲ交付スベシ

第五條　官廳被用者一般申告ヲ爲シタル後ニ於テ令第四條第一項第四號又ハ第七號乃至第九號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ死亡シタルトキハ申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ其ノ支所ハ其ノ旨當該職業能力申告手帳ニ記入シ所轄國民職業指導所長ニ之ヲ通知スベシ

指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ヲ漏メタルトキハ其ノ旨所轄國民職業指導所長ニ通知スベシ

第六條　本令ハ臨時ニ使用セラルル官廳被用者ニシテ左ニ掲グルモノニハ之ヲ適用セズ但シ二十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　三十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三　日日雇入レ使用セラルル者

第七條　國民勞務手帳法第一條ノ從業者タル官廳被用者ニ付昭和十六年勅令第七百五號第七條又ハ第九條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ第五條第一項ノ規定ニ依ル異動ノ通知又ハ令第四條第二項ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做シ昭和十六年勅令第七百五號第八條第二項ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ第五條第二項ノ規定ニ依ル通知アリタルモノト看做シ昭和十六年勅令第七百五號第十一條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ第五條第一項ノ規定ニ依ル死亡ノ通知アリタルモノト看做ス

第八條　第三條ノ規定ハ國民勞務手帳法第一條ノ從業者タル官廳被用者ニ關シテハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十五年十一月省令第一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年二月省令第一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年六月省令第二號）

本令ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

一一八、國民職業能力申告令施行規則

昭和十四年一月十八日厚生省令第一號
昭和十四年十二月十八日厚生省令第四十號改正
昭和十五年十月十九日厚生省令第二十九號改正
昭和十六年六月十八日厚生省令第二十號改正
昭和十七年十一月一四日厚生省令第五十二號改正

第一條　國民職業能力申告令（以下令ト稱ス）第二條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ左ニ揭グルモノハ令第三條但書ノ規定ニ依リ申告義務者タラザルモノトス但シ要申告者ヲ三十日ヲ超エテ引續キ使用スルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　三十日以內ノ期間ヲ定メテ要申告者ヲ使用スル者

二　使用期間ノ定ナク要申告者ヲ勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用スル者

三　要申告者ヲ日日雇入レ使用スル者

第一條ノ二　女子ニシテ令第二條第一號乃至第五號ニ該當スルモノ同條第六號ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル者トシテ要申告者タル場合ヲ除クノ外同條但書ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スコトヲ要セズ

第二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付爲スベキ申告ハ其ノ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

一　令第十二條第一號及第二號ニ該當スル者

二　朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

三　法令ニ因リ拘禁中ノ者

四　疾病、傷痍其ノ他ノ事由ニ依リ申告ヲ爲スコト能ハザルノ狀況ニ在ル者

第三條　令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ハ別表標式第一號ニ依リ（技能程度ハ別表技能程度申告標準ニ從ヒ）之ヲ爲スベシ

職業能力申告票用紙ハ申告義務者ノ申請ニ依リ又ハ申請ニ依ラズシテ國民職業指導所長之ヲ交付ス

令第四條第一項後段ノ規定ニ依ル申告ハ前ニ申告ヲ爲シタル地ガ朝鮮ナル場合ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ナル場合ニ在リテハ市尹又ハ郡守、滿洲國ニ在リテハ縣長、樺太ナル場合ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ナル場合ニ在リテハ南洋廳支廳長ヨリ交付セラレタル職業能力申告手帳ヲ添ヘテ之ヲ爲スベシ

令第四條第二項及令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ常ニ條ノ職業能力申告手帳ニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條　令第三條ノ使用者其ノ使用スル要申告者（以下被用者ト稱ス）ノ使用ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ別表標式第二號ニ依リ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ報告スベシ

被用者ニ付國民勞務手帳法施行令第十五條ノ規定ニ依ル報告アリタルトキハ前項ノ規定ニ依ル報告アリタルモノト看做ス

第五條　要申告者死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ガ被用者タリシ場合ニ在リテハ之ヲ使用シタル使用者、被用者タラザリシ場合ニ在リテハ其ノ者ト同居ノ戶主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者十四日以內ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ報告スベシ

第六條　第三條第四項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　國民職業指導所長令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ニ基キ職業能力ニ關スル事項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ別表標式第三號ノ職業能力申告手帳ヲ申告義務者ニ交付スベシ

第八條　職業能力申告手帳ノ交付ヲ受ケタル者職業能力申告手帳毀損シ、亡失シ又ハ餘白ナキニ至リタルトキハ事由ヲ具シ前ニ申告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ再交付ヲ申請スベシ

職業能力申告手帳ノ再交付ヲ受ケントスル者ガ被用者ナルトキハ前項ノ申請ハ使用者ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

職業能力申告手帳毀損シ又ハ餘白ナキニ至リタルニ因リ職業能力申告手帳ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ職業能力申告手帳ヲ添附スベシ

職業能力申告手帳亡失シタルニ因リ職業能力申告手帳ノ再交付ヲ受ケタル者再交付ヲ受ケタル後元ノ職業能力申告手帳ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク再交付ヲ受ケタル國民職業指導所長ニ之ヲ返納スベシ

第九條　令第八條ノ檢査ハ被檢查者ヲシテ試問ニ答ヘシメ若ハ作業ヲ爲サシメ又ハ健康診斷ヲ爲シテ之ヲ行フモノトス

地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）又ハ國民職業指導所長前項ノ檢查ノ爲必要アリト認ムルトキハ被檢查者ニ對シ期日及場所ヲ指定シテ出頭ヲ命ズルコトヲ得

第十條　地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ職業能力ニ關スル申告又ハ檢查ニ付報告ヲ徵スルコトヲ得

第十一條　當該官吏令第九條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表標式第四號ノ證票ヲ携帶スベシ

第十二條　要申告者ガ國民勞務手帳法ノ規定ニ基キ交付ヲ受ケタル國民勞務手帳ハ之ヲ第七條ノ規定ニ依ル職業能力申告手帳ト看做ス

附　則

第十一條　當該官吏令第九條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表標式第四號ノ證票ヲ携帶スベシ

第十二條　要申告者ガ國民勞務手帳法ノ規定ニ基キ交付ヲ受ケタル國民勞務手帳ハ之ヲ第七條ノ規定ニ依ル職業能力申告手帳ト看做ス

附　則

本令ハ昭和十四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十四年十二月省令第四十號）

本令ハ昭和十四年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十五年十月省令第四十二號）

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年六月省令第二十五號）

本令中第十二條ノ規定ハ昭和十六年七月二十一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年十月省令第五十號）

本令ハ昭和十六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表　様式第一號（用紙ノ大サハ日本標準規格B5トス）

（表）

職業能力申告票（記入心得ヲ能ク守ルコト）　検印

一　氏名及生年月日　印　年　月　日生

二　本籍　都道府県　郡　市　町　村

三　現住所ノ番地　都道府県　郡　市　町　村

四　職歴　（イ）兵役ニ関スル事項　兵科　部隊名　階級及軍位部隊等　年
（ロ）小学校　不就学　中退　卒業
（ハ）青年学校（ロ）指定ノ学科及学年　不就学　中退　卒業
（ハ）其ノ他ノ学校　不就学　中退　卒業

五　学歴

六　指定ノ技能者養成施設　（　年修了）

七　指定ノ検定、試験、免許　（　年）

八　指定職業ノ経歴

職業名	技能程度（名称）	期間	就業ノ場所（名称）

九　現ニ従事スル職業

現ニ従事スル指定職業ノ名称	（イ）職業	（ロ）技能程度	（ハ）作業内容	（ニ）職場上ノ地位又ハ職名	（ホ）経験年数	（ヘ）就業ノ場所
					年　ケ月	年　月　日

十　給料又ハ賃金　月額　円　銭　十七歳未満ノ者ノ場合ニ於ケル其ノ年齢　才

精神又ハ身体ニ異常ノ有無　有　無　三現ニ扶養スル者ノ数　人

去ル何年何月何日何ノ場所ニ於ケル何ノ負傷

現在使用ヲ希望スル指定職業ノ種類ニ関スル其ノ状況

昭和　年　月　日申告

使用者　住所　氏名　印

番號	職業	就業ノ場所	居住ノ場所	就業場	氏名	生年月

検印　申告　技能歴　前歴　現職

検算　技能歴　前歴　現職

（別表）技能程度申告標準

機械検査工

（一級）次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　複雑ナ図面ガヨメ且仕様書ガワカルコト

＊二　検査品ノ不良ヲ知リ適當ナ處理ノ決定ガ出來ルコト

三　検査スル機械金體ノ機能ガヨクワカツテヰルコト

四　各部分品ニ必要ナ物理的性質ト化學的性質トヲ知ツテヰルコト

五　検査用具ノ考案ガ出來ルコト

（二級）次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ図面ガヨメ且仕様書ガワカルコト

＊二　検査用機械器具ノ取扱ガ完全ニ出來ルコト

三　検査品ノ用途ガ略ワカツテヰルコト

四　特殊金屬材料ノ種類ノ見分ガ出來ルコト

五　普通機械ノ金屬材料ノ良否ノ見分ガ出來ルコト

（三級）二級ニ達シナイ者

（備考）特定ノ検査用具ノ取扱ダケシカ出來ナイ者又ハ選別検査ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

レンズ検査工

（一級）次ノ三ツノ能力ヲ有スル者

＊一　複雑ナ図面ガヨメ且仕様書ガワカルコト

＊二　光學機械ノガラス部分ノ良否決定ノ基準ヲ立テルコトガ出來ルコト

＊三　ガラス材料ノ屈折率、レンズ曲面度、プリズム角度等ノ精密ナ検査ガ出來ルコト

（二級）次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ図面ガヨメ且仕様書ガワカルコト

二　検査法及検査ノ基準ガ與ヘラレテ一般レンズ又ハプリズムノ研磨程度、焦點計算、異心率、角度方法等ノ検査ガ出來ルコト

三　検査法及検査ノ基準ガ與ヘラレテ各種レンズノ收差ノ検査ガ出來ルコト

（三級）二級ニ達シナイ者

採炭夫

（一級）次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　坑内ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト

二　採炭作業ニ從事シ發破作業ガ出來ルコト

三　採焼作業ニ従事シ支柱作業ガ出來ルコト

四　採炭作業ニ従事シ切炭機又ハ穿孔機ノ使用ガ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

（備考）採炭ノ手傳ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

炭坑支柱夫

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　坑内ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト

二　取枠作業ガ出來ルコト

三　捲立枠作業ガ出來ルコト

四　坑道枠作業ガ出來ルコト

五　充塡（パツキング）作業ガ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達セナイ者

採鑛夫

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　小型鑿岩機ノ使用ガ出來且發破及支柱作業ニツイテ充分ナ知識ヲモツテヰルコト

二　大型鑿岩機ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

三　石目ノ見分ガ完全ニ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

（備考）手壇ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

鑛山支柱夫

〔一級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　竪坑支柱作業ガ完全ニ出來ルコト

二　補助支柱ヲ必要トスル箇處ノ發見ガ出來ルコト

三　普通坑道ノ支柱作業ノ段取ガ出來且工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

機械選鑛夫

〔一級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　破碎機及篩別機ノ運轉及調節ニ熟練シテヰルコト

二　磨鑛機又ハ分級機ノ操作ニ熟練シ且鑛石ノ良否ノ見分ガ完全ニ出來ルコト

三　浮選油、試藥等ノ加減、鑛漿濃度ノ測定、アルカリ度ノ測定等ガ出來且浮選ノ良否ノ見分ガ完全ニ出來ルコト

四　ジヴガー選鑛機、テーブル選鑛機、磁氣選別機等ニ依ル選鑛作業ニ熟練シヰルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

製錬工

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ判斷シ適當ナ處置ガ出來ルコト

二　原料ノ良否ノ見分ガ出來且配合ガ略出來ルコト

三　突發事故ニ對シテ適當ナ處置ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐ノ故障ノ判定ガ略出來ルコト

二　爐況ニ依リ出銑ノ調節ガ略出來ルコト

三　出銑時ニ於ケル開口及閉口作業ニ熟練シテヰルコト

四　熱風爐ノ操作ニ従事シガスノ處理操作ガ完全ニ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

（備考）粉鑛ノ燒結作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

製鋼工

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ判斷シ適當ナ處置ガ出來ルコト

二　出鋼前ノ試料檢査ガ出來ルコト

三　ガスノ良否ノ見分ガ出來且適當ナ處置ガ出來ルコト

四　突發事故ニ對シ適當ナ處置ガ出來ルコト

五　轉爐ノ操作ニ従事シ火焰ニ依リ爐内材質ノ變化ノ判定ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ見テ出鋼時ノ判斷ガ略出來ルコト

二　爐ノ故障ノ判定ガ略出來ルコト

三　原料ノ良否ノ見分ガ略出來ルコト

四　造塊作業ニ於テ湯ノ溫度、鋼質及鑄型ノ種類ニ應ジテ湯ノ注入方法ノ加減ガ完全ニ出來ルコト

五　造塊作業ニ於テ鑄型引抜時ノ判斷ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

（備考）苦灰石、石灰石等ノ焙燒作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

非鐵金屬製錬工

〔一級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　焙燒程度ノ判定及調節ガ出來ルコト
二　燒結機ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト
三　揮發爐又ハ蒸溜爐ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト
四　熔鑛爐又ハ錬鐵爐ノ羽口操作ガ出來ルコト
五　反射爐ノ操作ニ從事シ爐況ニ依リ原料及燃料ノ調節ガ出來ルコト
六　電氣爐ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト
七　轉爐ノ操作ニ從事シ火焔ニ依リ爐内材質ノ判定ガ出來ルコト
八　過式製練作業ニ從事シ浸出又ハ濾過ノ調整ガ出來ルコト
九　過式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ淨液ノ調整ガ出來ルコト
十　過式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ電解又ハ沈澱ノ調整ガ出來ルコト
十一　原料、製品、半製品等ノ熔融爐ノ操作ニ從事シ爐況ノ判定ガ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　ギヤット燒結及團鑛ノ作業ガ出來ルコト
二　熔鑛爐、揮發蒸溜爐、反射爐又ハ錬鍛爐ノ操作ニ從事シ爐前作業ガ出來ルコト
三　原料、製品、半製品等ノ熔融爐ノ操作ニ從事シ爐前作業ガ出來ルコト
四　過式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ浸出又ハ淨液ノ操作ガ略出來ルコト
五　過式製錬ノ作業ニ從事シ磨鋼、濃泥又ハ濾過ノ操作ガ略出來ルコト
六　原料、製品、半製品等ノ乾燥爐ノ操作ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

金屬熔融工

〔一級〕　次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　配合スル地金ノ種類ニ依リ熔融順序ヲ知ツテキルコト
二　熔融最高温度、熔劑投入温度及鑄造温度ヲ知ツテキルコト
三　目測ニ依リ熔融金屬ノ量及温度ノ判定ガ出來ルコト
四　熔融爐ノ修理ニツイテ指揮ガ完全ニ出來ルコト
五　合金ノ配合量ノ計算ガ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　目測ニ依リ熔融金屬ノ温度ノ判定ガ出來ルコト
二　熔融爐ノ部分的修理及大型トリベノ修理ガ出來ルコト
三　古地金ノ種類ノ見分ガ略出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

鑄爐工

〔一級〕　次ノ事項中四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　必要ニ應ジテ爐内温度ノ調節又ハ還元焙及酸化焙ノ調節ガ完全ニ出來ルコト
二　各種材料ノ加工可能温度ノ範圍ヲ知ツテキルコト
三　各種燃料ノ性質及ソレガ熱材料ニ及ボス影響ヲ知ツテキルコト
四　爐材ノ耐火性質ノ判定ガ出來ルコト
五　備當スル電氣爐ノ構造ヲ知リ且附屬ノ電氣機械器具及設備ノ取扱ニ熟練シテキルコト

〔二級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　目測ニ依リ爐内温度ノ判定ガ出來ルコト
二　爐内温度測定器具ノ使用ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　材料ノ裝入又ハ取出ノ作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

壓延伸張工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　壓延、伸張、引拔、押出等ノ作業ニ熟練シテキルコト
二　各種製品ノ仕様及規格ヲ知ツテキルコト
三　各種材料ノ壓延又ハ伸張ノ速度率ヲ知ツテキルコト
四　各種材料ノ壓延可能温度ノ範圍ヲ知ツテキルコト
五　ロール、ダイス等ノ機械要部ノ研磨及手直ガ出來ルコト
六　製線作業ニ從事シ抗張力二〇〇瓩平方粍以上ノ鋼線又ハ徑〇・三粍以下ノ鋼線ノ伸張ガ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　備當スル機械ノ取扱ガ完全ニ出來ルコト
二　機械ノ簡單ナ研磨及手直ガ出來ルコト
三　熱處理、酸洗等ノ工程ニツイテ必要ナ知識ヲモツテキルコト
四　計尺、測徑、測温等ニ必要ナ器具類ノ取扱ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　特定ノ矯正用機械ノ操作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

鑄物工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計五ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
＊二　木型ノ作リ方ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキルコト

*三　鑄物ノ不良ヲ知リ適當ナ處置ノ決定ガ出來ルコト
四　圖面ヲ見テ大型鑄物ノ作業段取ヲ決定シ且心金・底板等ノ考案ガ出來ルコト
五　品物ノ用途、材質及大キサニ應ジテ砂ノ配合ガ出來ルコト
六　大型鑄物ノ鑄込所要量ノ計算ガ出來ルコト
七　大型鑄物又ハ複雜ナ薄物ノ鑄込溫度ノ判定ガ出來且鑄込ノ指揮ガ出來ルコト
八　木型ヲ見テ鑄物ノ工數見積ガ出來ルコト
九　湯ノ熔融法ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト
十　製品ノ用途ニ應ジテ適當ナ地金ノ選定ガ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
*二　鑄物ノ不良ニツイテ原因ノ判定ガ略出來ルコト
三　中型鑄物ノ木型ヲ見テ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
四　複雜ナ生型ノ製作ガ出來ルコト
五　複雜ナ中子ノ製作ガ出來ルコト
六　複雜ナ機械込作業ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　砂落、ハツリ又ハ簡單ナ小型中子ノ製作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

鍛　工

〔一級〕　次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　加工中ノ鍛工品ニツイテ所要寸法ノ判斷ガ正確ニ出來ルコト
*二　加工中ノ鍛工品ノ不良箇所ヲ發見シ其ノ處置ノ決定ガ出來ルコト
三　圖面又ハ見本ニ依リ材料及工數ノ見積ガ出來ルコト
四　五人以上ノ共同作業ヲ必要トスル大物鍛冶ノ指揮ガ出來ルコト
五　大物鍛冶ニ必要ナ工具及當型ノ考案ガ出來ルコト
六　特殊ノ材料ニツイテ其ノ溫度ト性質變化ノ關係ヲ知リ加熱中又ハ加工中ノ材料ノ取扱ニツイテ指揮ガ正確ニ出來ルコト
七　材質ニ惡影響ヲ殘サズニ加工ノ出來ル溫度ノ範圍ヲ知ツテヰルコト

〔二級〕　次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　目測ニ依リ普通材料ノ溫度ノ判定ガ出來ルコト
二　先手二人ノ指揮ガ出來ルコト
三　材料ノ見積ガ略出來ルコト
四　擔當スル範圍ノ鍛冶仕事ノ段取ガ出來ルコト
五　機械槌ノ操縱ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　先手ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

熱處理工

〔一級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　各種金屬材料（炭素鋼、合金鋼、輕合金、銅合金）ノ中一種ニツイテ製品ノ用途ニ應ジ必要ナ熱處理ガ出來ルコト
二　滲炭又ハ窒化作業ニ伴フ各種ノ操作ガ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　溫度計ニ依リ鑪內溫度ノ調節ガ正確ニ出來ルコト
*二　鑪デ熱處理品ノ硬度ノ判定ガ出來ルコト
三　簡單ナ普通鋼品ニツイテ特定ノ熱處理ガ出來ルコト
四　適當ナ指圖ヲ受ケテ特殊鋼品ノ熱處理ガ出來ルコト
五　熱處理後ノ歪取作業ガ出來ルコト
六　滲炭箱ニ品物ヲ正シク詰メルコトガ出來ルコト
七　加熱爐ノ操作ガ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　鹽化バリウム等ノ加熱バスヲ使用スル燒入ダケシカ出來ナイ者、熱處理機械ノ操作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

現圖工

〔一級〕　次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雜ナ圖面ガヨメ且艦艏、汽罐、橋梁又ハ鐵塔ノ構造ニ精通シテヰルコト
*二　指圖ヲ受ケズニ現圖展開作業ガ出來又ハ現圖ニ依ル型板ノ製作ガ出來ルコト
三　簡單ナ作業ニ對スル工數見積ガ出來ルコト
四　現圖作業ニ必要ナ簡單ナ計算ガ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　現圖作業ノ手傳ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

撓鐵工

〔一級〕　次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　簡單ナ圖面ガヨメルコト

二　水壓機ニ依ル板、山形ノ撓曲作業ニ熟練シテヰルコト
三　簡單ナ山形ノ度ノ出入及山形ノ撓曲作業ノ段取ガ出來ルコト
四　歪取作業ニ熟練シテヰルコト
五　板ノ彎曲作業ニ熟練シテヰルコト
（二級）　一級ニ達シナイ者

熔接工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ヲ見テ歪ノ最モ少イ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
＊二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ構造及取扱ニツイテ充分ノ知識ヲモツテヰルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　試驗水壓力八瓩平方糎以上ヲ必要トスル罐又ハ槽ノ熔接ガ出來ルコト
五　薄板ノ複雜ナ構造物又ハ厚板ノ大物熔接ガ出來ルコト
六　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向、横向及上向ノ作業姿勢デ熔接ガ出來又ハ特定ノ作業姿勢デ高級ナ熔接ガ完全ニ出來ルコト
七　鑄鐵、特殊銅、銅合金、輕合金、ニツケル中一種以上ノ熔接ニ熟練シテヰルコト
（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　簡單ナ構造物ニツイテ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
＊二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ取扱ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト
三　試驗水壓力二瓩平方糎以上ヲ必要トスル容器ノ熔接ガ出來ルコト
四　薄板構造物ノ電弧又ハガス熔接作業ガ出來ルコト
五　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向又ハ横向ノ作業姿勢デ熔接ガ完全ニ出來ルコト
六　バット、スポット又ハシーム熔接作業ニ熟練シテヰルコト
（三級）　二級ニ達シナイ者

製罐工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク加工ガ出來ルコト
二　複雜ナ作業ニツイテ必要ナ現圖ノ作製ガ出來ルコト
三　製罐作業ニツイテ必要ナル工具ノ考案ガ出來ルコト
四　厚板曲ゲ方ノ指揮ガ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト
（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ガヨメ且簡單ナ作業ノ段取ガ出來ルコト
二　簡單ナ作業ニツイテ現圖ノ作製ガ出來ルコト
三　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
四　薄板ノ歪取作業ガ出來ルコト
五　簡單ナ製罐品ノ曲直及修理ガ出來ルコト
（三級）　二級ニ達シナイ者

鐵木工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　複雜ナ圖面ガヨメ且組立段取ガ出來ルコト
＊二　船ノシヤフトセンターヲ出スコトガ出來ルコト
三　盤木、進水臺又ハ支柱ノ調整ガ出來ルコト
四　船體ノ中心若ハ組立位置ノ出シ方又ハ肋骨若ハ骨盤ノ組立調整ガ出來ルコト
五　船ノ構造ニ精通シテヰルコト
（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
二　船ノ構造ヲ概略知ツテヰルコト
三　現圖木型ニヨル野書ガ出來ルコト
四　大工仕事ガ出來ルコト
（三級）　二級ニ達シナイ者

板金工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク加工ガ出來ルコト
二　工數見積ガ出來ルコト
三　不規則ナ品物ノ展開圖ガカケルコト
四　割出（管ノ分岐）及曲物（エビ）ノ作業ガ出來ルコト
五　ハンダ附及鐵附ノ作業ニ熟練シテヰルコト
六　厚板（厚サ三耗以上）ノ型出ガ完全ニ出來ルコト
（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ガヨメ且簡單ナ作業ノ段取ガ出來ルコト
二　板取作業ガ出來ルコト
三　薄板ノ型出作業ガ出來ルコト

四　手作業デ絞リ作業ガ出來ルコト
五　ハンダ附作業ニ熟練シテヰルコト
〔三級〕　二級ニ達シナイ者

金屬プレス工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　複雜ナ作業ニツイテ型準備段取ガ出來ルコト
二　複雜ナ圖面ガヨメルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　數種ノプレスニツイテ拔型、曲型及絞型ノ使用ガ出來ルコト。
五　プレスノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　撥當スルプレスニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト
二　簡單ナ型ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
三　簡單ナ圖面ガヨメルコト
四　簡單ナ作業ニツイテ型ノ準備ガ出來ルコト
〔三級〕　二級ニ達シナイ者
（備考）　自動プレスノ操作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

鋼　工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
＊二　複雜ナ管曲作業ガ出來ルコト
・三　不規則ナ品物ノ展開圖ガカケルコト
四　配管ノ系統圖ヲ理解シ工事ノ段取ガ出來ルコト
五　各種鐵附作業ニ熟練シテヰルコト
六　フランヂ取附作業ガ正確ニ出來ルコト
〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
二　簡單ナ管曲作業ガ出來ルコト
三　針金デ管ノ曲型ヲトルコトガ出來ルコト
四　簡單ナ配管工事ガ出來ルコト
〔三級〕　二級ニ達シナイ者

罫書工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
＊二　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク罫書ガ出來ルコト
三　材料ニ缺陷ガアル場合製品ノ機能ニ應ジテ適當ナ處置ガ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト
〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
＊二　撥當スル範圍ノ罫書ガ出來ルコト
三　型板（テンプレート）等ヲ用ヒテ簡單ナ罫書ガ出來ルコト
四　製品ノ用途ヲ略理解シテヰルコト
〔三級〕　二級ニ達シナイ者

旋盤工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト
二　數種類ノ旋盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト
三　旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
四　內バス及外バスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト
五　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト
六　大型旋盤作業ニツイテ取附及加工段取ガ出來ルコト
七　工數見積ガ出來ルコト
〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且撥當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト
＊二　撥當スル旋盤ニツイテ各種ノ加工作業段取ガ能率ヨク出來ルコト
三　荒削濟ノ製品ニ對シ中削及仕上削合計四回以下ノ加工デ合セ物仕上ヲ日本標準規格四級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ五粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ六・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト

四　マイクロメーターヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラン公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

五　各種ネヂノ製作ガ出來ルコト

六　使用及物ノ研磨ガ出來ルコト

七　高級及物、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）二級ニ達シナイ者

タレツト工

（一級）次ノ事項中●印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

●一　作業上必要ナ鋸度ニ圓面ガヨメルコト

●二　指定サレタ加工方式ノ理解ガ容易ニ出來ルコト

三　タレツト旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來且其ノ調整ガ出來ルコト

五　使用工具ノ考案ガ出來ルコト

六　精密度ノ高イ製品ノ多量生産ガ出來ルコト

七　自動又ハ半自動旋盤ノ作業指導ガ出來ルコト

（二級）次ノ事項中●印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

●一　擅當スルタレツト旋盤ニツイテ各種作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

二　日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

三　使用及物ノ研磨ガ出來ルコト

四　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）二級ニ達シナイ者

（備考）精密度ノ低イボルト、ナツト等ノ多量生産ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

中グリ工

（一級）次ノ事項中●印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

●一　圓面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

二　數種類ノ中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト

三　中グリ盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　內バス及外バスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト

五　使用及物ノ研磨ガ出來ルコト

六　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（二級）二級ニ達シナイ者

研磨工

（一級）次ノ事項中●印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

●一　圓面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

●二　數種類ノ研磨盤（手ニ依ル工具研磨專用ノモノヲ除ク）ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト

三　研磨盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

五　各種砥石車ノ硬度又ハ粒度ト工作物トノ關係ヲ理解シ研磨速度ト燒リノ加減ガ出來ルコト

六　工數見積ガ出來ルコト

七　ラツピング仕上作業ガ出來ルコト

八　特殊高級工具ノ研磨ガ出來ルコト

九　ネヂ研磨盤又ハ歯車研磨盤ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト

＊二　擔當スル研磨盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト

三　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

四　砥上盤（ホーニング盤）作業ガ出來ルコト

五　普通工具ノ研磨ガ出來ルコト

六　マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）　二級ニ達シナイ者

ボール盤工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　數種類ノボール盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト

三　ボール盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　工數見積ガ出來ルコト

（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　數種類ノボール盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　ボール盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　タップ下孔ヲアケルコトガ出來ルコト

五　高級工具、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）　二級ニ達シナイ者

平削工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　數種類ノ平削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　平削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　大型平削盤ニツイテ取附及加工段取ガ出來ルコト

五　工數見積ガ出來ルコト

（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト

＊二　擔當スル平削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト

四　高級刃物、精密測定器具類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）　二級ニ達シナイ者

形削工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　形削盤又ハ竪削盤ノ整備類ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　形削盤又ハ竪削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　工數見積ガ出來ルコト

（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト

＊二　擔當スル形削盤又ハ竪削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト

四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

（三級）　二級ニ達シナイ者

フライス工

（一級）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　竪型及橫型ヲ含メテ三種以上ノフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　フライス盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

五　工數見積ガ出來ルコト

六　割出盤（インデキス）作業ニ熟練シテヰルコト

（二級）　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ仕事ノ作業段取ガ出來ルコト

＊二　擔當スルフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

＊三　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕

上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二五粍程度ノ仕上ヲ適用シ夫ノ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト

四　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕一級ニ達シナイ者

歯切工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圓面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト

＊二　二種以上ノ歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　歯切盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

四　工數見積ガ出來ルコト

五　與ヘラレタ歯切作業ノ計算表ヲ理解シ且其ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圓面ガヨメ且段當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト

＊二　擔當スル歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　シングルカツタヲ用ヒテ歯切加工ガ出來ルコト

四　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

工具仕上工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　堆雜ナ圓面ガヨメルコト

＊二　圓面ニ依リ現圖引ガ出來ルコト

三　加工材料ノ性質ト工作機械ノ種類トニ應ジテ工具ノ材質ヲ選定シ且形狀ノ考案ガ出來ルコト

四　圓面ヲ見テ必要ナゲージ、ジグ又ハ仕上工具ノ考案ガ出來ルコト

五　加工材料ノ形狀、性質及プレスノ種類ニ應ジテ適當ナ金型ノ考案ガ出來ルコト

六　現圖ニ依リゲージノ製作ガ出來ルコト

七　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圓面ガヨメルコト

二　特定機械ニ使フ工具、金型等ノ製作ガ出來ルコト

三　簡單ナ心出及罫書ガ出來ルコト

四　細目盤ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

五　指圖ヲ受ケテゲージ並ニ及物類ノ製作ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

仕上工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　複雜ナ圓面ガヨメルコト

＊二　高級ナ組合作業ガ出來ルコト

三　各種ノ作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案ガ出來ルコト

四　工數見積ガ出來ルコト

五　パランシング作業ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圓面ガヨメルコト

＊二　普通ノ組合作業ガ出來ルコト

三　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト

四　タガネノ使用ガ完全ニ出來ルコト

五　鐵及普通合金ノ性質ヲ略知ツテヰルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

電機組立工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　保安上必要ナ電氣智識ヲモツテヰルコト

＊二　各種電氣機械器具ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三　複雜ナ電氣機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト

四　複雜ナ電氣結線圖ノ理解ガ完全ニ出來ルコト

五　各種電氣機械器具ノ使用ニツイテ必要ナ考案及改良ガ出來ルコト

六　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ二ツノ能力ヲ有スル者

＊一　擔當スル範圍ノ電氣機械器具ニツイテ其ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

＊二　簡單ナ電氣機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

電氣通信機組立工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　保安上必要ナ電氣知識ヲモツテヰルコト

二　複雑ナ電気通信用機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト
三　複雑ナ電氣結線圖ノ理解ガ完全ニ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ二ツノ能力ヲ有スル者

*一　擔當スル範圍ノ電氣通信機械器具ニツイテ其ノ使用法ヲ知ツテキルコト
*二　簡單ナ電氣通信用機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

精密組立工

〔一級〕一般精密機械器具ノ組立ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雑ナ圖面ガヨメルコト
二　各種作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案ガ出來ルコト
三　高級ナ摺合作業ガ出來ルコト
四　機械ニ缺陷ガアル場合其ノ調整スベキ要點ノ指摘ガ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト

光學機械ノ組立ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雑ナ圖面ガヨメ又ハガラス部品ノ清拭作業ガ完全ニ出來ルコト
二　各種光學機械ニ對スル調整段取ガ出來ルコト
三　精密ナ補正ニ必要ナ工具ノ選擇ニツイテ充分ナ知識ヲモツテキルコト
四　焦點ガラス、プリズム及接眼鏡等ノ調整ガ正確ニ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト
*二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
三　タガネ及鑢ノ使用ガ完全ニ出來ルコト
四　普通ノ摺合作業ガ出來ルコト
五　特定ノ機械ニツイテ其ノ調整ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

機械組立工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雑ナ圖面ガヨメルコト
*二　機械器具ノ組立及調整ガ出來ルコト
三　各種作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案ガ出來ルコト
四　高級ナ摺合作業ガ出來ルコト
五　大型機械ノ補正及修理ガ出來ルコト
六　軸中心線ノ調整ガ出來ルコト
七　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト
*二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
三　タガネ及鑢ノ使用ガ完全ニ出來ルコト
四　普通ノ摺合作業ガ出來ルコト
五　小型機械ノ補正及修理ガ出來ルコト
六　大型機械ニツイテ部分的補正及修理ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

航空機組立工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雑ナ圖面ガヨメルコト
*二　作業段取及工數見積ガ出來ルコト
三　機體全體ノ調整ニ熟練シテキルコト
四　發動機ノ操作ニツイテ充分ナ知識ヲモツテキルコト
五　操縦裝置ノ調整ニ熟練シテキルコト
六　取附計器ノ構造及機能ヲ理解シテキルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト
*二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
三　普通ノ材料ニツイテ必要ナ知識ヲモツテキルコト
四　板金作業ガ出來ルコト
五　各部分ノ組立及調整ノ要領ヲ知ツテキルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

自動車工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　複雜ナ圖面ガヨメルコト

＊二　自動車全體ノ構造及機能ヲ理解シテキルコト

三　工數見積ガ出來ルコト

四　自動車發動機ノ調整ニ熟練シテキルコト

五　自動車各部分ノ組合及調整ガ出來ルコト

六　自動車運轉者免許證ヲモツテキル者ト同等以上ノ運轉技能ヲモツテキルコト

七　各種自動車ノ車室艤裝ガ完全ニ出來ルコト

八　各種艤裝材料ノ品質ノ識別ガ出來ルコト

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

二　自動車各部分ノ構造及機能ヲ略知ツテキルコト

三　自動車ノ特定部分ノ分解及調整ガ出來ルコト

四　車室ノ特定箇所ノ艤裝ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

艤裝工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　關聯スル各種ノ圖面ガヨメルコト

＊二　艤當スル範圍ニツイテ各種裝置ノ關係ヲ知ツテキルコト

三　工數見積ガ出來ルコト

四　艤當スル範圍ニツイテ作業進捗程度ノ判斷ガ正確ニ出來ルコト

五　軸系中心調及照附ノ指揮ガ出來ルコト

六　主機械又ハ補機械ノ據附、運轉及調整ノ指揮ガ出來ルコト

七　艤當スル範圍ニツイテ造船艤裝ニ必要ナ現圖展開ガ出來ルコト

八　數種類ノ兵器ニツイテ完全ナ據附ガ出來ルコト

九　艦船內ノ電氣器具ノ據附及調整ガ出來ルコト

十　艦船內ノ各種電氣機械ノ結線及運轉ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須外二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　艤當スル範圍ノ艤裝ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

二　艤當スル範圍ノ艤裝ノ設取ガ出來ルコト

三　補機械ノ運轉及調整ガ出來ルコト

四　各種雜機械ノ據附ガ出來ルコト

五　艤當スル兵器ノ據附ガ出來ルコト

六　艦船內ノ電話數設及電氣器具ノ結線ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

巻線工

〔一級〕コイルノ巻キ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　複雜ナ仕樣書ガヨメルコト

＊二　計器ニ依リ銅線ノ太サ、被覆ノ厚サ等ノ測定ガ出來ルコト

三　コイルノ用途ニ精通シテキルコト

四　型巻ノ適否ノ判定ガ出來ルコト

コイルノ納メ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

○一　電氣的知識ガアリコイル巻及絕緣工程ノ一般ニツイテ理解シテキルコト

＊二　複雜ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガヨメルコト

三　工數見積ガ出來ルコト

四　計器ニ依リ接續ノ良否、絕緣抵抗及絕緣耐力ノ測定ガ出來ルコト

五　コイルノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキルコト

六　巻線用鋼材料ノ加工程ニ精通シテキルコト

七　製品ノワニス處理及乾燥ガ出來ルコト

八　絕緣子ノバランシング作業ガ出來ルコト

九　コイル及絕緣物ノ乾濕程度ノ見分ガ出來ルコト

十　絕緣物及ワニスノ性質ヲ理解シテキルコト

〔二級〕コイルノ巻キ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　仕樣書ガヨメルコト

二　銅線ノ被覆ノ良否ノ見分ガ出來ルコト

三　銅線ノ接合ニツイテ知識ガアリ且接合ノ良否ノ見分ガ出來ルコト

コイルノ納メ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中　印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガヨメルコト

*二　コイルノ接合部ノ良否ノ見分ガ出來ルコト
三　鐵心、整流子等ノ良否ノ見分ガ出來ルコト
四　コイルノ良否ノ見分ガ出來ルコト
五　廻轉子ノバインド材料ノ良否ノ見分ガ出來ルコト
六　絶縁物及ワニスノ取扱ニ精通シテヰルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

絶縁工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ仕樣書ガワカルコト
*二　製品ノ用途ニ精通シテヰルコト
三　計器ニ依リワニスノ比重、絶縁抵抗及絶縁耐力ノ測定ガ出來ルコト
四　各種絶縁物及ワニスノ性質ニ精通シ且其ノ取扱ガ出來ルコト
五　各種絶縁物ノ乾濕程度ノ見分ガ出來ルコト
六　各種絶縁物及ワニスノ優劣ノ見分ガ出來ルコト
七　ワニスノ處理及乾燥ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　仕樣書ガワカルコト
二　擔當スル範圍ノ絶縁物ノ取扱ガ出來ルコト
三　擔當スル範圍ノ絶縁物ノ乾濕程度ノ見分ガ出來ルコト
四　擔當スル範圍ノ絶縁物及ワニスノ優劣ノ見分ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

目盛工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ヲ見テ精密計器類ノ目盛方法ノ決定ガ出來ルコト
二　機械的操作ニ依リ精密目盛ガ出來ルコト
三　手作業ニ依リ精密目盛ガ出來ルコト

〔二級〕機械的、化學的又ハ手作業ニ依ル目盛作業ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　精密度ノ低イ計器ニツイテ指圖ヲ受ケズニ目盛ガ出來ルコト
二　割出方法、使用工具等ニツイテ指圖ヲ受ケ精密目盛ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

合板工

〔一級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　原板作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニソイテ理解シテヰルコト
二　罷着作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト
三　仕上作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト
四　乾燥作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト
五　選別作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

木型工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
*二　鑄造ノ作業工程全般ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト
三　現圖引ガ出來且木取ガ出來ルコト
四　圖面ヲ見テ作業段取ノ決定ガ出來且工數見積ガ出來ルコト
五　現場合セ木型ノ製作ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
*二　圖面又ハ現圖ニ依リ普通木型ノ製作ガ出來ルコト
三　木工機械ノ取扱ガ出來ルコト
四　木材ノ歪ノ方向ヲ考ヘテ木型ノ製作ガ出來ルコト
五　簡單ナ機械部分品ノ見取圖及スケツチガ出來ルコト
六　船尾軸管リグナムバイタ作業ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者
（備考）木型ノ塗裝ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

木工

〔一級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ガヨメルコト
二　工數見積ガ出來ルコト
三　簡單ナモノノ設計ガ出來ルコト
四　木材ノ性質ヲ判斷シ木取及墨附ガ正確ニ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中*印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面ガヨメルコト

二　簡單ナ現圖ガカケルコト
三　圖面又ハ現圖ニ依リ書附ガ出來ルコト
四　木工機械ノ取扱ガ出來ルコト
五　普通取扱フ木材ニツイテ其ノ材質ノ判定ガ出來且其ノ用途ヲ知ッテヰルコト

〔三級〕一級ニ達シナイ者

光學ガラス工

〔一級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　中央プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
二　五角プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
三　距離プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
四　伸光レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
五　屋根形プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
六　反射鏡ノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
七　特殊對物レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
八　六〇粍以上ノプリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
九　大型窓プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
十　精密ナ角度ヲ要スルプリズムノバルサム作業ガ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　直徑三〇粍以上ノ普通對物レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
二　三〇粍以上ノプリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
三　特殊接眼レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
四　小型窓プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
五　水準器ガラスノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
六　プリズム及精度ノ高イレンズノバルサム作業ガ出來ルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

有線電信通信士

〔一級〕普通通信デ一分間八五字以上ノ發受信ガ完全ニ出來ル者

〔二級〕普通通信デ一分間七五字以上ノ發受信ガ完全ニ出來ル者

〔三級〕二級ニ達シナイ者

（備考）自動通信又ハ印刷機通信ガデキル出來ナイ者ハ三級トスルコト

製圖手

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　條件ヲ與ヘラレテ簡單ナ設計ガ出來ルコト
二　複雜ナ製圖ガ出來ルコト
三　見取圖ガカケルコト
四　精密ナ圖面ノトレースガ明確ニ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

（備考）寫圖ガデキル出來ナイ者ハ二級トスルコト

起重機運轉工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　起重機ノ運轉ガ完全ニ出來ルコト
二　起重機ノ構造ヲ知ッテヰルコト
三　起重機ノ故障ノ原因ヲ知リ且其ノ修繕及調整方法ノ判斷ガ出來ルコト
四　取扱フ品物ヲ見テ其ノ重サノ判斷ガ出來ルコト
五　揚重用補助用具ノ使ヒ方ヲ知ッテヰルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

メッキ工

〔一級〕次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　メッキ操作ニ必要ナ準備段取ガ出來ルコト
二　鍍當スルメッキ原液ノ作リ方ヲ知ッテヰルコト
三　熱式メッキニツイテ材料竝融爐ノ溫度ノ調節ガ出來ルコト
四　指圖ヲ受ケズニ電氣、熱式又ハ乾式ノメッキガ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

（備考）メッキ操作ノ前後ノ研磨作業ガデキル出來ナイ者ハ二級トスルコト

塗裝工

〔一級〕次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　普通ニ用ヒル數種類ノ塗料ニツイテ其ノ性質、用途及色合ヲ知ッテヰルコト
二　材料ノ配合方法ヲ知ッテヰルコト
三　手塗、吹附又ハ燒附ニ熟練シテヰルコト
四　各種塗裝用工具ノ使用ニ熟練シテヰルコト
五　工數見積ガ出來ルコト

〔二級〕一級ニ達シナイ者

（備考）下拵ダケシカ出来ナイ者ハ二級トスルコト

潜　水　夫

（一級）海難救助作業、解綴作業又ハ各種土木作業ノ経験ガアリ且四〇米以上ノ潜水ガ出来ル者

（二級）海難救助作業、解綴作業又ハ各種土木作業ノ経験ガアリ且二〇米以上ノ潜水ガ出来ル者

（三級）二級ニ達シナイ者

一一九、國民職業能力申告令第二條ノ指定

（昭和十四年一月十八日厚生省告示第五號
昭和十五年十一月十三日厚生省告示第三百五十四號改正
昭和十六年七月十四日厚生省告示第三百一號改正）

職　業　指　定

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ヲ左ノ通指定ス

一　採炭、選炭、採鑛、選鑛、採泥又ハ採鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事シスルヲ業トスルモノ　鑛山技術者

二　金屬ノ製錬、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ　冶金技術者

三　電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具、電線若ハ電纜ノ製作、取附、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　電機技術者

四　有線電信電話機、無線電信電話機（放送用ヲ含ム）、電覺裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取附、修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣通信技術者

五　陸、舶及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作、修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鍛造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械技術者

六　航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ（航空機用原動機製作ニ從事スルモノヲ除ク）　航空機技術者

七　造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　造船技術者

八　有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　化學技術者

九　セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　窯業技術者

一〇　製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　木工技術者

一一　道路、橋梁、鐵塔、港灣、河川、砂防、鐵道、軌道、隧道、索道、上下水道又ハ其ノ他ノ土木ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督、從事スルヲ業トスルモノ　土木技術者

一二　建築ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　建築技術者

一三　氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　氣象技術者

一四　航空士、航空機操縱士、航空機關士ヲ業トスルモノ　船空機搭乘員

一五　金屬材料ノ物理的試驗作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　金屬試驗工

一六　物理的又ハ化學的ノ實驗作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　實驗工

一七　陸、舶及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、鑛船、車輛、航空機、自動車、起重機、其ノ他ノ機械器具、電氣機械器具、電氣計器、電氣通信用機械器具又ハ鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ部分品、半製品又ハ製品ノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械檢査工

一八　レンズ、プリズム、レベル等ノ光學ガラスノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　レンズ檢査工

一九　原動機、機關、ポンプ又ハ其ノ他ノ機械ノ試運轉作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　試運轉工

二〇　化學分析作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　分析工

二一　石炭又ハ亞炭ノ採掘又ハ採掘ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（手掘夫、發破係夫及碎岩夫ヲ含ム）　採炭夫

二二　炭坑内ニ於テ主トシテ石炭又ハ亞炭ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（坑内ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運搬ノミニ從事スルモノヲ除ク）　坑内運炭夫

二三　炭坑内ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　炭坑支柱夫

二四　炭坑又ハ亞炭坑ニ於テ機械ニ依ル石炭ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械選炭夫

二五　鑛物ノ採掘又ハ採掘ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（手掘夫、發破係夫及碎岩夫ヲ含ム）　採鑛夫

二六　鑛山坑内ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鑛山支柱夫

二七　鑛山坑内ニ於テ主トシテ鑛物ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（坑内ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運鑛ノミニ從事スルモノヲ除ク）　坑内運鑛夫

二六 鑛山ニ於テ機械ニ依ル鑄物ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（大割夫ヲ含ム）　機械選鑛夫

二七 石油山ニ於テ鑿井又ハ汲油ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　石油鑛夫

二八 鉄鋼又ハフエロアロイノ製錬作業（熱風爐操作ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　製鉄工

二九 銅ノ製錬作業（造塊及焙燒ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　製銅工

三〇 非鉄金屬ノ選式製錬、乾式製錬又ハ電氣製錬ノ作業（鑄塊作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　非鐵金屬製鍊工

三一 鑄物用又ハ合金用ノ金屬熔融作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　金屬熔融工

三二 金屬加熱爐ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　操爐工

三三 金屬ノ箔、線、棒、管、鑄、板又ハタイヤノ製造ノ爲機械ニ依ル金屬ノ壓延、伸張、引拔、押出等ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　壓延伸張工

三四 鍛、鋼又ハ其ノ他ノ金屬ノ鑄造作業（ダイカスト鑄造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　鑄物工

三五 鍛冶又ハ鍛造ノ作業（プレスニ依ル火造作業ヲ含ミ且農具鍛冶、金具鍛冶、車鍛冶及ヲ以テ製造鍛冶ヲ除ク）ニ從事スルヲ業トスルモノ　鍛工

三六 金屬ノ燒入、燒鈍、燒戻、燒甩、滲炭、窒化等ノ熱處理作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　熱處理工

三七 現圖展開作業又ハ型板取（現圖木型作）作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　現圖工

三八 船體用鋼材ノ燒曲又ハ成形ノ作業（機械ニ依ル厚板ノ燒曲作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　挽鐵工

三九 鋲燒、當盤、鋲打等ノ鋲鋲作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鋲打工

四〇 コーキング又ハ水油防材挿入ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　塡隙工

四一 電氣又ハガスニ依ル金屬ノ熔接又ハ燒切ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　熔接工

四二 汽罐、水槽、煙突、復水器等ノ鋼板類製品ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　罐工

四三 剪斷機ニ依ル金屬切斷作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　剪斷工

四四 造船ニ於テ現圖木型ニ依ル繋索又ハ鋼材ノ現場取附組立ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（船臺大工ヲ含ム）　鐵木工

四五 主トシテ手作業ニ依ル金屬鉋板ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（ブリキ職及鋼打物職ヲ含ム）　板金工

四六 主トシテプレスニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　金屬プレス工

四七 主トシテ艦船用ノ金屬板及管ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鋼工

四八 金屬管ノ加工取附作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（鉛工ヲ含ム）　配管工

四九 鐵材又ハ鋼材ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第四〇號乃至第五〇號ニ屬スルモノヲ除ク）　鐵工

五〇 金屬加工ノ爲罫書及心出ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　罫書工

五一 普通旋盤、工具旋盤、卓上旋盤、多數バイト旋盤、横型旋盤、正面旋盤、竪旋盤、專門旋盤等ノ旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　旋盤工

五二 タレット旋盤、自動旋盤又ハ半自動旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　タレット工

五三 中グリ盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　中グリ工

五四 研削盤、ラップ盤、艶出盤又ハ砥上盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　研磨工

五五 ボール盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ボール盤工

五六 平削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　平削工

五七 形削盤又ハ竪削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　形削工

五八 フライス盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　フライス工

五九 歯切盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　歯切工

六〇 工作機械ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第五三號乃至第六一號ニ屬スルモノヲ除ク）　特殊機械工

六一 切削工具、剪斷工具、セリダシ工具、ゲージ、ジグ、金型、計測器類（度量衡法ニ依ラザルモノ）ネヂ切削用補助工具、其ノ他ノ工具、鑢、鋸又ハ物ノ仕上、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　工具仕上工

六二 主トシテ鑢、タガネ等ノ手道具ニ依ル金屬品ノ仕上作業（簡單ナ部分品ノ組立作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　仕上工

六三 電動機、其ノ他ノ電氣機械器具又ハ電氣計器ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電機組立工

六四 電氣通信用機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣通信機組立工

六五 度量衡器、理學的機械器具、機械的計測器（時計ヲ含ム）、兵器、光學機械器具又ハ其ノ他ノ精密機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業ト

スルモノ　精密組立工

六八　原動機、工作機械又ハ其ノ他ノ機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械組立工

六九　航空機ノ仕上、組立、艤装、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　航空機組立工

七〇　自動車ノ仕上、組立、艤装、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　自動車工

七一　艦船ノ艤装作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　艤装工

七二　電線又ハ電纜ノ被覆、鎧装又ハ被鉛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電線被装工

七三　金屬ノ撚線又ハ合線ノ製造作業（鋼索製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　撚線工

七四　電線コイルノ卷線作業（手卷作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　卷線工

七五　電氣装置及器具ノ絶縁被覆作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　絶縁工

七六　手作業、機械作業又ハ化學作用ニ依ル目盛作業（文字書作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　目盛工

七七　機械ニ依ル製材又ハ製板ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　製材工

七八　合板ノ製造作業（薄板製造及薄板膠着ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　合板工

七九　鑄物用木型ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　木型工

八〇　艦船、航空機、車輛又ハ其ノ他ノ機械器具ノ木部ノ製造作業（墨附作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ（家具職、建具職及指物職ヲ除ク）　木工

八一　木造船ノ建造作業（短艇製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　造舟工

八二　硫酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　硫酸工

八三　鹽酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　鹽酸工

八四　硝酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　硝酸工

八五　炭酸ソーダ、苛性ソーダ、金屬ソーダ、其ノ他ノソーダ、鹽又ハカリ鹽ノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　ソーダ工

八六　水素、酸素、炭酸ガス、亞硫酸ガス、鹽素ガス、鹽化メチレン、鹽化メチル等ノ液化ガス又ハ壓縮ガスノ製造作業（原料ガス發生作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　壓縮ガス工

八七　合成法ニ依ルアンモニア製造ノ化學工程（原料ガス發生及觸媒製造ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　アンモニア合成工

八八　カーバイト製造用電氣爐ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　カーバイト電爐工

八九　アルミナ製造ノ化學工程（氷晶石製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ（アルミニウム精錬ノ作業ニ從事スルモノヲ除ク）　アルミナ製造工

九〇　石炭乾溜ニ依ル石炭ガス、コークス又ハタールノ製造作業（石炭ノ低溫乾溜作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　石炭乾溜工

九一　發生爐ガス又ハ水性ガスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ガス發生爐工

九二　タールノ分溜、精製等ノ方法ニ依ルベンゾール、トルオール、キシロール、ナフタリン、石炭酸等ノ化學製品ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　タール分溜工

九三　染料製造工場ニ於テタール染料又ハ其ノ中間體ノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　染料工

九四　人造石油製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　人造石油工

九五　石油ノ蒸溜、分解、精製又ハ洗滌ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　石油工

九六　動植物油脂ノ抽出、精製、分解、鹼化又ハ硬化ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　油脂工

九七　ゴム原料ノ配合、混合等ノ精練作業（再生ゴム製造作業ヲ含ム）又ハタイヤ、ゴム靴、ゴム底足袋若ハゴム引防水布ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ゴム工

九八　セルロイド、醋酸繊維素又ハ繊維素エーテルノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　セルロイド工

九九　製紙用又ハ人絹用ノパルプ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　パルプ工

一〇〇　人造絹絲、人造短繊維又ハセロフアンノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ（漂白及洗滌ノ作業ニ從事スルモノヲ除ク）　人絹工

一〇一　顔料、ボイル油又ハワニスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　顔料塗料工

一〇二　火藥類又ハ化學兵器ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（マッチ製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）　火藥工

一〇三　彈ノ火藥又ハ火工兵器ノ加工、装塡又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　火工

一〇四　炭素電極ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電極工

一〇五　蓄電池、濕電池又ハ乾電池ノ製造又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（光電池製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）　電池工

一〇六　セメント、陶磁器、耐火煉瓦、琺瑯品等ノ燒成又ハ燒附ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　燒成工

一〇七　金屬又ハガラスノ熔融用ルツボノ製造又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ルツボ工

一〇八　光學ガラス、鋼ガラス、硬質ガラス、フイルター、安全ガラス等ノ特殊ガラスノ製

	造作業（ガラスノ熔融處理作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	特殊ガラス工
二〇九	レンズ、プリズム、レベル、反射鏡、船舶信號用ガラス等ノ光學ガラスノ荒摺、研磨、心取等 作業又ハバルザム作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	光學ガラス工
二一〇	蒸汽機關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（助手ヲ含ム）	蒸汽機關車運轉士
二一一	內燃機關車（ヂーゼル動車及ガソリン動車ヲ含ム）ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	內燃機關車運轉士
二一二	電車又ハ電氣機關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	電車運轉士
二一三	自動車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	自動車運轉手
二一四	飛行場ニ於テ航空機及其ノ附屬品ノ點檢、分解、調整、補修、手入、裝備、試運轉	
	格納、飛行準備、滑走ノ補助等ノ地上勤務作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	航空機整備員
二一五	有線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスルモノ	有線電信通信士
二一六	無線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスルモノ	無線電信通信士
二一七	發動機ヲ有スル二十噸以上三十噸未滿ノ漁船ノ操縱又ハ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（船員手帳又ハ海技免許狀ヲ有スル者ヲ除ク）	漁船運轉手
二一八	製圖又ハ意匠ノ技術的作業（設計ノ補助作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	製圖手
二一九	作業企劃、作業研究又ハ單價若ハ原價ノ計算ノ技術的業務ニ從事スルヲ業トスルモノ	企劃手
二二〇	電氣通信電線路（空中線ヲ含ム）ノ建設、保繕又ハ屋內配線工事ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	通信電路工
二二一	電氣通信用機械器具ノ設備又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	通信掌機工
二二二	電線架設、電路敷設、保繕、屋內配線工事又ハ送配電ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電力電路工
二二三	電氣機械ノ据附又ハ運轉ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電力電機工
二二四	汽罐ノ據焚又ハ取扱ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	汽罐士
二二五	原動機、機關、ポンプ又ハ機械ノ運轉又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械運轉工
二二六	起重機ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	起重機運轉工
二二七	熔鑛爐、平爐、熔融爐、加熱爐、窯業用窯其ノ他ノ工業用爐窯又ハ汽罐煉瓦積部分ノ築造又ハ修築ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	築爐工
二二八	保溫材取附作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	保溫工
二二九	メツキ、ボンデライト、パーカライヂング、メタニウム又ハセヲゲイスノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	メツキ工
二三〇	塗料ニ依ル塗裝、吹附又ハ燒附ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	塗裝工
二三一	帆、索具、防舷物等ノ船具ノ製造、修繕又ハ取附ノ作業（鎹及鎖ノ取附ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	綱具工
二三二	鐵ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	鐵工
二三三	氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ從事スルヲ業トスルモノ	氣象觀手
二三四	潛水服ヲ着用シテ行フ水中作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	潛水夫
二三五	家屋建築ニ於ケル大工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	家屋大工
二三六	セメント塗、モルタル塗又ハ漆喰塗等ノ左官作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	左官
二三七	足場架又ハ鐵骨組立其ノ他高所ニ於ケル取附工事等ノ鳶仕事ニ從事スルヲ業トスルモノ	鳶職

學校指定（昭和十四年一月十八日厚生省告示第六號）

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校ヲ左ノ通指定ス

大學

一 大學ノ工學部及理工學部

二 旅順工科大學

三 早稻田大學文學部

四 拓殖大學

專門學校

一 工業及鑛業ニ關スル專門學校

二 朝鮮及臺灣ノ工業及鑛業ニ關スル專門學校

三 南滿洲工業專門學校

四 農林業ニ關スル專門學校

五 外國語ニ關スル專門學校

六 拓殖大學專門部

實業學校

一 工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）並朝鮮及臺灣ノ工業學校（大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

（一）準常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ
（二）高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年（夜間授業ノモノニ在リテハ四年）以上トスルモノ
（三）前二號ト同等以上ノモノ
（四）工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部

二　大連工業學校
三　撫順工業學校

各種學校

一　工業學校ニ準ズベキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

學科指定（昭和十四年一月十八日厚生省告示第七號）

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科ヲ左ノ通指定ス

大學

一　機械工學科（北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム）
二　船舶工學科（造船學科ヲ含ム）
三　航空學科
四　造兵學科
五　電氣工學科（北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム）
六　應用化學科（工業化學科、化學工業科、染料化學科及電氣化學科ヲ含ム）
七　採鑛冶金學科（鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム）
八　火藥學科
九　燃料化學科（北海道帝國大學工學部第二部類乙ヲ含ム）
十　土木工學科
十一　建築學科
十二　窯業科
十三　文學科（早稲田大學文學部文學科ニ於テ露西亞語ヲ第二外國語トシテ修ムル者ニ限ル）
十四　拓殖科
十五　商科

一及五乃至七ノ學科ノ中早稲田大學ノ工業經濟分科ハ之ヲ除キ一四及一五ノ學科ニ付テハ拓殖大學ニ於テ露西亞語又ハ西班牙語ヲ修ムル者ニ限ル

專門學校（專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム）

一　造機工學科（精密機械科、機械科、鑄機科及鑛山機械科ヲ含ム）
二　造船工學科
三　航空工學科
四　電氣工學科（電氣化學科及製鹽化學科ヲ含ム）
五　應用化學科（電氣化學科ヲ含ム）
六　採鑛冶金學科（採鑛學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及採炭工學科ヲ含ム）
七　燃料學科
八　窯業科
九　土木工學科
十　建築學科
十一　農藝化學科
十二　露語部（拓殖大學專門部ニ於テ露西亞語ヲ必修科目トスル者ヲ含ム）
十三　西語部（拓殖大學專門部ニ於テ西班牙語ヲ必修科目トスル者ヲ含ム）
十四　蒙古語部

工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ對スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝ニ專門學校及實業學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノヲ含ム）

一　機械科（機械工作科、精密機械科、精密機械工作科、計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、電氣科、電氣機械工作科、機械電氣科、化學機械科、其ノ他機械科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）
二　造船科
三　航空科（機體製作科及航空機關科ヲ含ム）
四　電氣科
五　應用化學科（工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）
六　採鑛冶金科（採鑛科及冶金科、鑄工冶金科、鍛工冶金科其ノ他之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

七 土木建築科（土木科、建築科ヲ含ム）
八 窯業科（陶器科、製陶科ヲ含ム）
九 塗工科（家具塗工科ヲ含ム）

技能者養成施設指定（昭和十四年一月十八日厚生省告示第八號）

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設ヲ左ノ通指定ス

一 國立又ハ公立ノ機械工養成施設ニシテ中學校卒業程度ヲ入所資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ
二 國立ノ通信有技者養成施設ニシテ高等小學校卒業程度ヲ入所資格トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ
三 社團法人電信協會管理無線電信講習所（大正十三年以後ノ修了者ニ限ル）

檢定、試驗及免許指定（昭和十四年一月十八日厚生省告示第九號）

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試驗及免許ヲ左ノ通指定ス

一 實業學校卒業程度檢定規程ニ依ル工業學校卒業程度ノ檢定
二 航空法第十六條ノ規定ニ依ル考査
三 電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル電氣事業主任技術者ノ資格檢定
四 瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル詮衡
五 銃砲火藥類取締法施行規則第四條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル詮衡
六 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十一條ノ規定ニ依ル詮衡
七 無線通信資格檢定規則ニ依ル無線通信士ノ檢定
八 汽罐取締令ニ依ル汽罐士免許
九 裝蹄師試驗規則ニ依ル試驗
十 自動車取締令ニ依ル自動車運轉手ノ免許
十一 電氣工事人取締規則ニ依ル電氣工事人ノ免許
十二 電話規則第四十條ノ規定ニ依ル資格認定
十三 機械技術者檢定令ニ依ル檢定

一二〇、國民職業能力申告令第二條第六號ノ指定

（昭和十五年十月十九日厚生省告示第三二二號
昭和十六年十月十六日厚生省告示第四六二號改正
昭和十六年十月二十八日厚生省告示第四七九號改正）

國民職業能力申告令第二條第六號ニ依リ左ノ通指定ス

一、年齢十六年以上四十年未滿ノ男子ニシテ左ノ各號ニ該當セザルモノ

（一）國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號該當者
（二）國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者
（三）兵役法第四十一條ノ勅令ノ定ムル學校ニ在學スル者

二 年齢十六年以上二十五年未滿ノ女子ニシテ左ノ各號ニ該當セザルモノ

（一）配偶者（屆出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）アル者
（二）大學、高等師範學校、專門學校、師範學校、高等女學校（專門學校入學者檢定規程第十一條ニ依ル指定學校ヲ含ム）、實業學校、盲學校、聾啞學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所、青年學校教員養成所又ハ女子學習院ニ在學スル者

一二一、國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定

（昭和十四年二月十八日厚生省告示第二十四號
昭和十四年九月二十七日厚生省告示第百九十一號改正
昭和十五年五月十一日厚生省告示第百十一號改正
昭和十六年五月二十九日厚生省告示第二百三十八號改正
昭和十六年九月二十七日厚生省告示第四百二十四號改正
昭和十七年四月一日厚生省告示第百三十九號改正
昭和十七年六月二十三日厚生省告示第四百號改正）

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳ヲ左ノ通指定ス

內閣關係
一 內閣印刷局
大藏省關係
一 各地方專賣局
二 專賣局板橋製作所
陸軍省關係
一 陸軍航空廠
二 陸軍航空工廠
三 陸軍兵器廠
四 陸軍運輸部
五 陸軍衛生材料廠
海軍省關係
一 各海軍工廠
二 海軍航空技術廠
三 各海軍航空廠
四 各海軍火藥廠
五 海軍技術研究所
六 各海軍燃料廠
七 各海軍港務部
一 中央航空研究所
二 中央航空研究所
三 專賣局中央研究所
四 造幣局
六 陸軍被服廠
七 陸軍糧秣廠
八 陸軍製絨廠
九 各師團ノ兵器部及經理部
八 各海軍軍需部
九 各海軍建築部
十 海軍艦政本部
十一 海軍航空本部
十二 海軍施設本部
十三 海軍工作部

遞信省關係

一　遞信省

二　無線電信講習所

三　貯金局

四　電氣廳

五　電氣試驗所

六　海務院

七　船舶試驗所

八　各海員養成所

九　航空局

十　各航空機乘員養成所

十一　各遞信局

十二　各海務局

十三　各通信官署

十四　各船員職業紹介所

十五　各海員審判所

鐵道省關係

一　鐵道省

二　國際觀光局

三　鐵道調查部

四　各鐵道局

五　各鐵道教習所

一二三、國民職業能力申告令第二條第六號ノ要申告者ニ關スル申告ノ特例ニ關スル件

（昭和十五年十月十九日厚生省令第四十三號
昭和十六年十月十六日厚生省令第五十一號改正
昭和十七年十一月十日厚生省令第五十二號改正
昭和十八年四月十七日厚生省令第十五號改正）

第一條　國民職業能力申告令（以下令ト稱ス）第二條第六號ニ依リ厚生大臣ノ指定シタル者（以下要申告者ト稱ス）ニ關スル令第四條第一項ノ申告ハ毎年四月末日及十月末日現在ヲ以テ各其ノ翌月十日迄ニ居住地ノ市町村長ヲ經由シ當該市町村ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申告ヲ爲シタル要申告者ニ關スル令第四條第二項及第六條ノ申告ハ之ヲ爲スヲ要セズ

第二條　地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監）ハ交通至難ノ地域又ハ天災事變ノ發生シタル地域ニ居住スル要申告者ニ付前條ノ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

第三條　第一條ノ申告ハ青壯年國民登錄票（別表樣式）ニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條　青壯年國民登錄票用紙ハ居住地ノ市町村長ヲ經由シ當該市町村ヲ管轄スル國民職業指導所長之ヲ交付ス

申告期限迄ニ青壯年國民登錄票用紙ノ交付ヲ受ケザル要申告者ハ居住地ノ市町村長ヲ經由シ又ハ經由セズシテ當該市町村ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ交付ヲ請求スベシ

第五條　市町村長ハ申告期限後十日以內ニ要申告者ヨリ申告票ヲ取纏メ當該市町村ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ提出スベシ

第六條　國民職業指導所長ハ市町村長ヲ經由シ世帶主ヨリ令第九條第一項ノ規定ニ基キ要申告者ノ同居ノ有無ニ關シ報告ヲ徵スルコトヲ得

第七條　勞務動態調查規則第十條ノ勞務動態調查員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ受ケ青壯年國民登錄票用紙ノ配付又ハ青壯年國民登錄票ノ蒐集ニ從事ス

勞務動態調查員前項ノ事務ニ從事スルニ當リテハ世帶主ニ就キ要申告者ノ有無ヲ確認シ申告ノ脫漏又ハ過誤ナキヲ旨トスベシ

第七條ノ二　市町村長ハ適當ナル方法ニ依リ管內ニ居住スル者ニ付第一條ノ申告ノ趣旨ノ普及ヲ圖ルベシ

第八條　要申告者第一條ノ申告ヲ爲シタル後令第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ新ニ令第四條ノ規定ニ依リ、令第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者令第四條ノ申告ヲ爲シタル後第一條ノ要申告者トナリタルトキハ新ニ第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スモノトス

第九條　令第三條中使用者ニ關スル規定並ニ國民職業能力申告令施行規則第四條、第五條及第七條ノ規定ハ第一條ノ要申告者ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十條　町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ本令中町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ニ依リ九月末日現在ヲ以テ十月十日迄ニ爲スベキ申告ハ本年ニ限リ十月末日現在ヲ以テ十一月十日迄ニ之ヲ爲スモノトス

別表樣式一（用紙ノ大サハ日本標準規格B6トス）

男　　　　（※番號　　　　）

㊙　青壯年國民登錄票

在申告　現日迄　年月日　昭和　年　月　日

※產業大分類　※產業中分類　※職業分類　印　檢印

- 一　氏名及生年月日　　印　明治・大正・昭和　年　月　日生
- 二　本籍　　道府縣　郡市　區町村大字　町　番地
- 三　居住ノ場所　　道府縣　郡市　區町村大字　町　番地　方
- 四　兵役關係　（イ）兵種及官等級　（ロ）役種　歸休・豫備　既教育・未教育　一補・二補　一國・二國　（ハ）徵集年又ハ任官年　大正・昭和　年
- 五　學歷　（イ）卒業シタル學校又ハ在學中ノ學校　（ロ）現ニ在學スル學校又ハ施設　第　學年在學　昭和　年　月卒業修了豫定
- 六　職業　（イ）就業ノ場所（勤務先ノ名稱）　所在地　名稱又ハ使用者氏名　事業種別　（ロ）職業名　從事年數　年　月　（ハ）職業上ノ身分又ハ地位　（ニ）技特
- 七　家庭及身體ノ狀況　（イ）戶主トノ續柄　（ロ）世帶上ノ地位　世帶主・世帶員　（ハ）配偶者ノ有無　有・無　（ニ）現ニ扶養スル者ノ數　同居　人　別居　人　計　人　（ホ）精神又ハ身體ノ障碍ノ狀況

※摘要

昭和　年　月　日申告　（　　國民職業指導所

女　　（　　號帯家）

在市町村　現住所　日付　月　年　年

和暦　昭和

青壯年國民登録票

（秘）

一	氏名及生年月日	二本籍	三居住ノ場所
道府縣	郡市	町村大字	町村大字
番地	方	印	大正 昭和 年 月 日生

四 學歴	五 職業	六 家庭及身體ノ狀況	
(イ)卒業ノ學校ノ名稱及入學ノ年月 (ロ)現ニ在學スル學校ノ名稱及所在地	(イ)就業ノ場所（勤務先ヲ含ム）	(イ)戸主ノ續柄	(ロ)世帯上ノ位
第　學年在學 昭和　年　月卒業（修了）予定	名稱又ハ使用者氏名		世帯主
	所在地		世帯員
	事業種別		
	年月	(ハ)職業上ノ身分又ハ地位	(ニ)精神ノ障碍ノ有無狀況
	(ロ)職業名 (ハ)職業上ノ身分又ハ地位	(ハ)現ニ扶養スル者ノ數	同居人 別居人 計 人
	(ロ)經驗年數	(ニ)特技	

※摘要

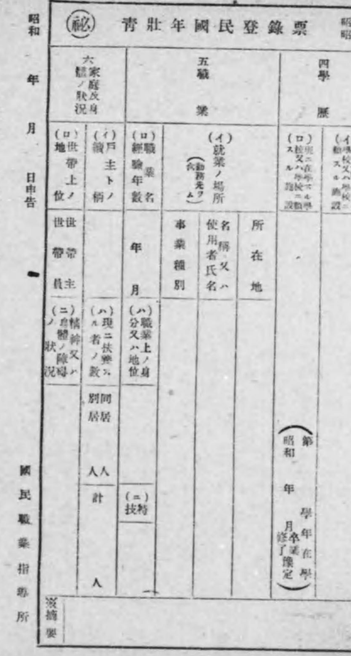
※兼業 大分類　※中分類　※職業分類　種印

昭和　年　月　日申告　　國民職業指導所

附　則（昭和十八年四月十七日）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ニ依リ四月末日現在ヲ以テ翌月十日迄ニ爲スベキ申告ハ昭和十八年ニ限リ五月末日現在ヲ以テ翌月十日迄ニ之ヲ爲スモノトス



二三、國民勞務手帳法（昭和十六年三月七日法律第四十八號）

第一條　本法ニ於テ從業者ト稱スルハ年齢十四年以上六十年未滿ノ者ニシテ命令ヲ以テ定ムル技術者又ハ勞務者トシテ左ノ一ニ該當スル事業ニ使用セラルルモノヲ謂フ

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業

二　物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業（電氣、瓦斯又ハ各種動力ノ發生變更又ハ傳導ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム）

三　土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業

四　道路、鐵道、軌道、索道、船舶又ハ航空機ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業

五　船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業

六　通信事業

七　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事業

第二條　從業者ハ國民勞務手帳ヲ受有スルコトヲ要ス

國民勞務手帳ハ政府之ヲ發行ス

本法ニ定ムルモノノ外國民勞務手帳ヲ受有スルコトヲ要ス

第三條　何人ト雖モ國民勞務手帳ヲ使用者ニ提出スルニ非ザレバ從業者トシテ使用セラルルコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ之ヲ提示スルヲ以テ足ル

何人ト雖モ前項ノ提出又ハ提示ヲ爲サザル者ヲ從業者トシテ使用スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ官吏及待遇官吏竝ニ命令ヲ以テ定ムル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條　使用者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ提出シタル國民勞務手帳ヲ其ノ者ヲ使用スル期間中保管スベシ

使用者ハ從業者ヨリ請求アリタルトキハ何時ニテモ其ノ者ヲシテ國民勞務手帳ヲ閲覧セシムベシ

第五條　使用者從業者ヲ使用セザルニ至リタルトキハ其ノ者ニ國民勞務手帳ヲ返還スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

使用者前項但書ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ニ之ヲ提出スベシ

第六條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者國民勞務手帳ノ返還ニ關シ異議アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ニ其ノ旨申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ國民職業指導所長ハ國民勞務手帳ヲ返還スベキヤ否ヲ裁定シ返還スベキ旨裁定シタルトキハ使用者ニ對シ國民勞務手帳ノ返還ヲ命ズベシ

第七條　前條ノ裁定又ハ命令ニ不服アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ其ノ旨申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ國民勞務手帳審査會ニ諮問シテ國民勞務手帳ヲ返還スベキヤ否ヲ裁定シ返還スベキ旨裁定シタルトキハ使用者ニ對シ國民勞務手帳ノ返還ヲ命ズベシ

國民勞務手帳審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ國民勞務手帳ノ提出又ハ返納ヲ命ズルコトヲ得

第九條　使用者及國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事項ヲ國民勞務手帳ニ記載シ之ヲ國民職業指導所長ニ報告スベシ

第十條　使用者及國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ國民勞務手帳ニ本法ニ基キテ發スル命令ヲ以テ定ムル事項以外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ズ

第十一條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ重ネテ國民勞務手帳ノ交付ヲ受クルコトヲ得ズ但シ國民勞務手帳ヲ紛失シ若ハ亡失シタル場合、餘白ナキニ至リタル場合其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ國民職業指導所長又ハ使用者ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル場合ヲ除クノ外自ラ之ヲ保管スベシ

第十三條　國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民勞務手帳ニ代ル證明書（以下證明書ト稱スルヲ交付スルコトヲ得

證明書ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

前二項ニ定ムルモノノ外證明書ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　國民勞務手帳以外ノ手帳ニ國民勞務手帳ト名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條　從業者、從業者タラントスル者又ハ使用者ハ國民勞務手帳ニ關シ必要アルトキハ從業者又ハ從業者タラントスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

從業者ハ國民勞務手帳ニ記載セラレタル事項ニ關シ使用者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ第一條ニ揭グル事業ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ攜帶セシムベシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條、第五條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者

二　詐僞其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者

三　自己ノ國民勞務手帳ヲ他人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ交付シタル者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第四條、第五條第二項、第十條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者

二　第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ國民勞務手帳ヲ提出又ハ返納セザル者

三　第九條ノ規定ニ違反シ記載若ハ報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ記載若ハ報告ヲ爲シタル者

四　第十六條第一項ノ規定ニ違反シ出頭ニ應ゼズ又ハ報告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

五　第十六條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者

第十九條　使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七條第一號又ハ前條第一號乃至第四號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ罰則ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十條　第十七條第一號又ハ第十八條第一號乃至第四號ノ罰則ハ使用者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

國ノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　本法中使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受ケタル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第二十三條　本法ノ適用ニ付テハ國民職業能力申告令ニ依ル要申告者ガ同令ニ基キ交付ヲ受ケタル職業能力申告手帳ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一二四、國民勞務手帳法ノ施行期日ニ關スル件（昭和十六年六月十四日勅令第七百三號）

國民勞務手帳法ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法第二條ノ規定實施ノ爲ニ要メ必要ナル範圍內ニ於テハ同年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

一二五、國民勞務手帳法施行令（昭和十六年六月十四日勅令第七百四號　昭和十六年十二月八日勅令第千六十三號改正　昭和十七年十一月一日勅令第七百八十二號改正）

第一條　從業者タラントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ就業スベキ場ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ國民勞務手帳ノ交付ヲ申請スベシ

第二條　國民勞務手帳ニ記載スベキ事項左ノ如シ

一　氏名

二　出生ノ年月日

三　本籍

四　居住ノ場所

五　兵役關係

六　學歷

七　職業ノ經歷

八　從事スル職業名

九　就業ノ場所（二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ在リテハ主タル就業ノ場所）

十　給料又ハ賃金ノ額

十二　國民職業能力申告令（以下申告令ト稱ス）第二條第一號ノ職業ニ就事シ又ハ就事シタル者ニ在リテハ同令ニ基ク技能程度

十三　申告令第二條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ修了シタル課程ニ關スル事項

十四　申告令第二條第五號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ受ケタル檢定、試驗又ハ免許ニ關スル事項

十五　勞働者年金保險法ニ依ル被保險者ニ在リテハ被保險者資格ノ得喪及標準報酬等級

十六　其ノ他國民勞務手帳法（以下手帳法ト稱ス）ニ基キテ發スル命令ヲ以テ定ムル事項

第三條　從業者使用者ノ同意ヲ得テ同時ニ他ノ使用者ニ從業者トシテ使用セラルル場合ニ於テハ國民勞務手帳ヲ使用者ニ提示スルヲ以テ足ル

第四條　手帳法第三條第一項及第二項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

一　國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用セラレ使用セラルル者

二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第五條　手帳法第三條第一項本文ノ規定ニ依リ提出スル國民勞務手帳ニハ從前ノ使用者ノアリタル場合ニ於テハ其ノ使用者ノ使用セザルニ至リタル旨ノ第十五條ノ規定ニ依リ提示スル國民勞務手帳ニハ同時ニ他ノ使用者ニ從業者トシテ使用セラルルモ異議ナキ旨ノ第七條第五項ノ規定ニ依ル記載アルヲ要ス

第六條　從業者ニシテ官吏若ハ待遇官吏タルモノ又ハ第四條各號ノ一ニ該當スルモノハ遞滯ナク國民勞務手帳ヲ使用者（同條第一號ニ該當スル者ニ在リテハ徵用ニ依ル使用者）ニ提出スベシ

第七條　使用者ハ第二項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ從業者ニ一時返付スル場合ヲ除クノ外其ノ者ヲ使用スル期間中國民勞務手帳ヲ保管スベシ

使用者從業者ヲ使用スル期間中ニ於テ從業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ國民勞務手帳ヲ其ノ者ニ一時返付スベシ

一　國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用セラレタルトキ

二　使用者ノ同意ヲ得テ同時ニ他ノ使用者ニ從業者トシテ使用セラレントスルトキ

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由アルトキ

國民勞務手帳ノ一時返付ヲ受ケタル從業者徵用ヲ解除セラレ、第三條ノ規定ニ依ル國民勞務手帳ノ提示ヲ了リ又ハ前項第三號ノ事由ナキニ至リタルトキハ遞滯ナク國民勞務手帳ヲ使用者ニ提出スベシ

使用者第二項第一號ニ該當スル事由ニ因リ國民勞務手帳ヲ從業者ニ一時返付セントスルトキ又ハ同項同號ニ該當スル事由ニ因リ一時返付シタル國民勞務手帳ノ提出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨當該國民勞務手帳ニ記載スベシ

使用者第二項第二號ニ該當スル事由ニ因リ國民勞務手帳ヲ從業者ニ一時返付セントスルトキハ其ノ者ヲ同時ニ他ノ使用者ニ從業者トシテ使用セラルルモ異議ナキ旨當該國民勞務手帳ニ記載スベシ

第八條　厚生大臣ノ指定スル事業ニ使用セラルル從業者ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ビタルニ因リ解雇セラレタルトキハ使用者ハ其ノ保管スル國民勞務手帳ヲ返還セザルコトヲ得但シ從業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　勞務調整令第二條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケ退職スルトキ又ハ同令第四條若ハ第七條第三號ノ規定ニ依ル認可若ハ同令第六條但書ノ規定ニ基ク命令ニ依ル認可ヲ受ケ就職スルトキ

二　就業規則又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ定ムル修牢ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集若ハ召集セラレ又ハ志願ニ依リ陸海軍部隊ニ編入セラレタルトキ

四　國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用セラレタルトキ

五　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲業務ニ堪ヘザルトキ

六　其ノ他退職ニ付已ムヲ得ザル事由アルトキ

前項第五號又ハ第六號ノ事由ハ手帳法第六條ノ規定ニ依ル國民職業指導所長ノ裁定アリタルトキハ其ノ裁定シタル所ニ依リ同法第七條ノ規定ニ依ル地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ノ裁定アリタルトキハ其ノ裁定ニ依ル

使用者第一項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ十四日以內ニ命令ノ定ムル樣式ニ依リ其ノ者ノ從前ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨報告スベシ報告ヲ爲シタル後國民勞務手帳ヲ返還シタルトキ亦同ジ

使用者第一項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ三月間之ヲ保管シ其ノ期間經過シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ之ヲ提出スベシ

第九條　國民職業指導所長前條第四項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ノ提出ヲ受ケタルトキハ從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ一年間之ヲ保管シ其ノ期間經過シタルトキハ從業者タリシ者ニ之ヲ交付スベシ但シ從業者タリシ者所在不明其ノ他ノ事由ニ因リ交付スルコト能ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　手帳法第六條第一項ノ申立ハ從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ十四日以內ニ從業者タリシ者ノ從前ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ、同法第七條第一項ノ申立ハ第三項ノ規定ニ依ル裁定書ノ交付又ハ裁定ノ要旨ノ通知アリタル日ヨリ十四日以內ニ從業者タリシ者ノ從前ノ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

地方長官又ハ國民職業指導所長ニ於テ宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍申立ヲ受理スルコトヲ得

手帳法第六條第二項及第七條第二項ノ裁定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲シ本人ニ交付シ併セテ其ノ要旨ヲ關係人ニ通知スベシ

第十一條　使用者ハ從業者タリシ者所在不明其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ者ニ國民勞務手帳ヲ返還スルコト能ハザルトキハ事由ヲ具シ從業者タリシ者ノ從前ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ提出スベシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ國民勞務手帳ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

一　使用者手帳法第六條第二項ハ第七條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキ

二　國民勞務手帳ニ手帳法ニ基キ發スル命令ヲ以テ定ムル事項以外ノ事項ノ記載アルトキ

三　國民勞務手帳ヲ檢閱セントスルトキ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ國民勞務手帳ノ返納ヲ命ズルコトヲ得

一　詐僞其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ國民勞務手帳ノ提示ニ依リ從業者ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨報告スベシ

二　重ネテ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタルトキ

三　自己ノ國民勞務手帳ヲ他人ヲシテ行使セシメタルトキ

四　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由アルトキ

第十四條　使用者從業者ノ使用ヲ開始シタルトキハ左ニ揭グル事項ヲ國民勞務手帳ニ記載シ使用者從業者共同シテ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ從業者ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨報告スベシ

一　使用開始ノ旨

二　從業者ノ從事スル職業名及申告令ニ基ク技能程度

三　從業者ノ就業スル場所

第十五條　使用者從業者ヲ使用セザルニ至リタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ十四日以內ニ命令ノ定ムル樣式ニ依リ從業者タリシ者ノ從前ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ報告スベシ

第十六條　使用者ハ從業者ニ關シ第二條第一號、第三號乃至第六號、第八號、第九號、第十一號乃至第十三號又ハ第十五號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ使用者從業者共同シテ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ從業者ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ報告スベシ

使用者ハ從業者ニ關シ第二條第十四號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ十四日以內ニ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載スベシ

第十七條　前三條申報告ニ關スル規定ハ使用者ガ國民勞務手帳ニ代ル證明書ヲ提出シタル從業者ヲ使用スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第十八條　使用者ハ從業者ニ對シ支給スル給料又ハ賃金ニ付左ニ揭グル事項ヲ第一號ニ揭グル事項ニ付テハ給料又ハ賃金ヲ支給シタル日ヨリ十四日以內ニ、第二號ニ揭グル事項ニ付テハ從業者ヲ使用セザルニ至リタルトキ國民勞務手帳ニ記載スベシ

一　使用開始ノ際ノ給料月額又ハ其ノ直後ノ一賃金締切期間ノ平均賃金日額

二　使用セザルニ至リタル際ノ給料月額又ハ其ノ直前ノ一賃金締切期間ノ平均賃金日額

第十九條　前條ノ給料又ハ賃金ノ範圍及算定方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者從業者タラザル場合ニ於テ第二條第一號、第三號乃至第六號、第八號、第九號、第十一號乃至第十三號又ハ第十五號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ其ノ就業地（職業ニ從事セザル者ニ在リテハ居住地）ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ報告スベシ

前項ノ報告ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ノ從前ノ使用者又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル場合ニハ命令ノ定ムル樣式ニ依リ之ヲ爲スベシ

第二十一條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ申告令ニ依リ申告シ居ル要申告者タル者（同令第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）同令第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ者ガ從業者タル場合ニ在リテハ使用者從業者共同シテ、從業者タラザル場合ニ在リテハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者國民勞務手帳ニ其ノ旨記載シ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ國民職業指導所長ニ報告スベシ報告ヲ爲シタル後ニ於テ申告令第十二條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキ亦同ジ

前項前段ノ報告ハ申告令ニ依リ前ニ申告ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ、同項後段ノ報告ハ國民勞務手帳ノ交有ヲ受ケタル者ノ就業地（職業ニ從事セザル者ニ在リテハ居住地）ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ爲スベシ

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ報告ニ之ヲ準用ス

第二十二條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ガ從業者タリシ場合ニ在リテハ使用者、從業者タラザリシ場合ニ在リテハ其ノ者ト同居ノ戶主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者國民勞務手帳ニ其ノ旨記載シ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ノ從前ノ就業地（職業ニ從事セザリシ者ナル場合ニ在リテハ從前ノ居住地）ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ報告スベシ

第二十三條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ關スル第十四條、第十六條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ニ依ル報告ハ同條ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

一　陸海軍ニ徵集若ハ召集セラレ又ハ志願ニ依リ陸海軍部隊ニ編入セラレタル者

二　手帳法施行地外ニ旅行中ノ者

三　法令ニ因リ拘禁中ノ者

四　負傷、疾病其ノ他ノ事由ニ因リ報告ヲ爲スコト能ハザル狀況ニ在ル者

第十五條、第十六條第二項及第十八條ノ規定ニ依リ記載ハ使用者第七條第二項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ一時返付シタル場合ニ於テハ同條第三項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ノ提出ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

第二十四條　國民勞務手帳ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ就業地（職業ニ從事セザル者ニ在リテハ居住地）ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ申請スベシ

國民勞務手帳ノ再交付ヲ受ケントスル者從業者タルトキハ前項ノ申請ハ其ノ使用者ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第二十五條　第十四條乃至第十六條、第十八條、第二十一條、第二十二條及前條第二項ノ規定ハ國民勞務手帳ヲ提示シタル從業者ヲ使用スル使用者ノ使用關係ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十六條、第十八條、第二十一條、第二十二條及前條第二項ノ規定ハ從業者國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用セラレ使用セラルル者ナルトキハ徵用前ノ使用者、使用關係ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ國民勞務手帳ニ代ル證明書ヲ交付スルコトヲ得

一　國民勞務手帳ノ交付又ハ再交付ノ申請アリタルトキ

二　使用者從業者ヲ使用セザルニ至リタル場合ニ於テ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキ

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事由アルトキ

國民勞務手帳ニ代ル證明書ニ記載スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ其ノ者ガ從業者タルトキハ國民勞務手帳ヲ保管スル使用者ニ使用セラレ就業スル場所ノ所在地ヲ以テ、從業者タラザルトキハ主タル就業ノ場所ノ所在地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做シ就業ノ場所ノ一定セザル者及船舶內ニ於テ就業スルノ狀況ニ在ル者ニ付テハ居住地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

罰則

本令中第二條第十四號及第十六條第二項ノ規定ハ勞働者年金保險法中被保險者資格ノ得喪及標準報酬等級ニ關スル部分施行ノ日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ手帳法第二條ノ規定實施ノ爲必要ナル範圍內ニ於テハ同十六年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年九月三十日迄ニ從業者タルニ至リタル者ニシテ引續キ同年十月一日以後從業者タラントスルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用者（使用者ニ二以上アルトキハ主タル使用者）ヲ經由シ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ國民勞務手帳ノ交付ヲ請フベシ

前項ノ申請ニ基キ國民職業指導所長ノ交付ヲ受ケタル者ガ從業者タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二條第一號、第三號乃至第九號又ハ第十一號乃至第十三號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ同年十月十四日迄ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ報告スベシ但シ申告ヲ爲シ居ル要申告者タル者（同令第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付當該變更ニ關シ同令第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依ル申告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ガ從業者タル場合ニ在リテハ國民勞務手帳ヲ保管スル使用者ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

二二六、國民勞務手帳法施行規則（昭和十六年六月十七日厚生省令第二十四號 昭和十七年七月十一日厚生省令第三十四號改正）

第一條　國民勞務手帳法（以下手帳法ト稱ス）第一條ノ技術者及勞務者ハ別表ニ揭グルモノトス

別表ニ揭グル技術者及勞務者ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除ク但シ第四號乃至第六號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　帝國臣民ニ非ザル者

二　女子

三　工場法施行令第一條各號ノ一ノ事業ヲ營ム工場ニシテ工場法ノ適用ナキモノニ使用セラルル者

四　三十日以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

五　使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

六　日日雇入レ使用セラルル者

七　臨時ニ土木、建築作業ニ從事スル者ニシテ之ヲ業トセザルモノ

第二條　國民勞務手帳法施行令（以下施行令ト稱ス）第一條、同令附則第二項又昭和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ申請ハ樣式第一號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第三條　國民勞務手帳法施行令（以下施行令ト稱ス）第一條、同令附則第二項又昭和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ申請ハ樣式第二號ニ依リ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請書ニハ最近一年以內ニ撮影シタル寫眞（名刺版、正面半身、脫帽、無紙ナキモノヲ適當スベシ）ヲ添附スベシ

國民職業指導所長特ニ必要アリト認ムルトキハ第一項ノ申請書ニ手帳法第十五條ニ規定スル證明書又ハ戶籍ノ抄本ノ添附ヲ求ムルコトヲ得

國民職業能力申告令ニ基ク職業能力申告手帳ノ交付ヲ受ケタル者從業者タラントスルトキハ第一項ニ規定スル寫眞ヲ具ノ就業スベキ地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ提出シ當該職業能力申告手帳ニ其ノ貼附ヲ受クベシ

第四條　從業者第十一條ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ニ貼附シタル寫眞ノ再貼附ヲ受ケントスル場合ニ於テハ使用者ハ國民勞務手帳ヲ從業者ニ一時返付スベシ

第五條　施行令第八條第二項及第十五條ノ規定ニ依ル報告ハ樣式第三號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第六條　施行令第十八條ノ給料又ハ賃金ノ範圍ノ給料、賃金、手當其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ從業者ヲ使用スル使用者ガ勞務ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益トス但シ左ニ揭グルモノヲ除ク

一　實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク

二　賞與

三　臨時ノ給與

給料又ハ賃金ノ全部又ハ一部ガ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價格ノ算定ハ賃金統制令第三條第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條　施行令第二十條第二項ノ規定ニ依ル報告ハ樣式第四號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第八條　施行令第二十一條第三項ノ規定ニ依ル報告ハ樣式第五號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第九條　施行令第二十二條第二項ノ規定ニ依ル報告ハ樣式第六號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第十條　施行令第二十四條第一項ノ申請ハ樣式第七號ニ依リ之ヲ爲スベシ

國民勞務手帳毀損シ又ハ餘白ナキニ至リタルニ因リ國民勞務手帳ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ申請書ニ其ノ國民勞務手帳ヲ添附スベシ

第三條第二項及第三項ノ規定ハ第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス但シ國民勞務手帳ニ代ル證明書ノ再交付申請ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

國民勞務手帳亡失シタルニ因リ國民勞務手帳ノ再交付ヲ受ケタル者再交付ヲ受ケタル後元ノ國民勞務手帳ヲ發見シタルトキハ實證ナク再交付ヲ受ケタル國民職業指導所長ニ之ヲ返納スベシ

第十一條　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者國民勞務手帳ニ貼附シタル寫眞毀損シ又ハ亡失シタルトキ其ノ他本人タルコトヲ認メ難キニ至リタルトキハ從業者タル者ニ在リテハ其ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ對キ、從業者タラザル者ニ在リテハ其ノ居住地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ對キ寫眞ノ再貼附ヲ受クベシ

第十二條　國民勞務手帳ニ代ル證明書ハ樣式第八號ニ依ル

第十三條　國民勞務手帳ニ代ル證明書ニ記載スベキ事項ハ施行令第二條第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項トス

第十四條　手帳法第十六條第三項ノ規定ニ依ル證票ハ樣式第九號ニ依ル

第十五條、國民勞務手帳法施行令ノ規定ニ基キ樺太廳支廳長ヨリ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者從業者タラントスルトキハ其ノ就業スベキ地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ對キ樺太廳支廳長ヨリ交付ヲ受ケタル國民勞務手帳ノ檢閱ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ樺太廳支廳長ヨリ交付ヲ受ケタル國民勞務手帳ノ檢閱ヲ受ケタル者ニ付テハ國民勞務手帳ノ交付アリタルモノトス

附　則

本令ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ手帳法第二條ノ規定實施ノ爲ニ準メ必要ナル範圍內ニ於テハ同年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年九月三十日迄ニ第三條第一項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ同條第二項ニ規定スル寫眞ヲ添附セザルコトヲ得但シ寫眞ヲ添附セザル場合ニ在リテハ昭和十八年九月三十日迄ニ其ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ同條第二項ニ規定スル寫眞ヲ提出シ國民勞務手帳ニ其ノ貼附ヲ受クベシ

第三條第四項ノ規定ニ依ル寫眞ノ貼附ハ昭和十六年九月三十日迄ニ從業者タラントスル者ニ付テハ昭和十八年九月三十日迄ニ之ヲ受クルヲ妨ゲズ

附　則

本令ハ昭和十七年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式）

（1）

寫眞貼附欄

（2）

國民勞務手帳

年　月　日交付

國民職業指導所長　印

（3）

事項	本籍府縣 住所ノ別	氏名
從業ノ種類	從業ノ種別	生年月日
從業ノ種類	從業ノ種別	生年月日
從業ノ種類	從業ノ種別	生年月日
從業ノ種類	從業ノ種別	生年月日
從業ノ種類	從業ノ種別	生年月日

（備考）
一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
二十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
三十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
四十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
五十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
六十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
七十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
八十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十一、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十二、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十三、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十四、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十五、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十六、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十七、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十八、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
九十九、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス
百、本帳ハ國民勞務手帳法施行令第二條第一項第一號乃至第四號、第八號乃至第十號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項ヲ記載スベキ帳簿トス

職業ノ經歷

職業名	期間	技能程度	作業內容	就業ノ場所(所在地、名稱)
	自 至			
	自 至			
	自 至			
	自 至			
	自 至			
	自 至			
	自 至			

(4)

現ニ從事スル職業

職業名	技能程度	職業上ノ身分又ハ地位	經驗年數	現在ノ就職ノ場所デ現在ノ職業ニ從事シ始メタ年月日	就業ノ場所 所在地 名稱
			作業內容		
				年 月 日	

(5)

一 氏名及本籍異動欄

—氏名及本籍—

異動年月日	氏名又ハ本籍	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(6)

二 兵役關係異動欄

—兵役關係—

異動年月日	兵役關係	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(7)

三 學歷及之ニ類スル事項異動欄

—學歷及之ニ類スル事項—

異動年月日	學歷及之ニ類スル事項	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(8)

四 居住ノ場所異動欄

—居住ノ場所—

異動年月日	居住ノ場所	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(9)

五 就業ノ場所欄

年月日欄ニハ使用開始ノ年月日又ハ就業ノ場所ノ異動ノ年月日ヲ記入シ使用開始又ハ解用ノ旨ヲ記入スルコト

—就業ノ場所—

年月日	使用開始又ハ解用ノ旨	就業ノ場所(所在地、名稱)	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(13)

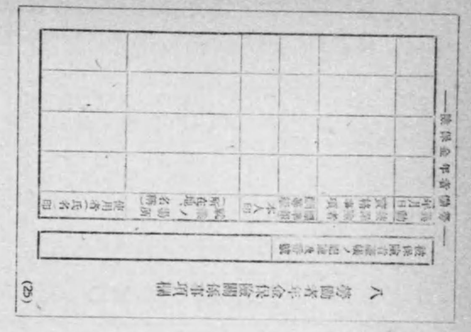
六 職業名及技能程度欄

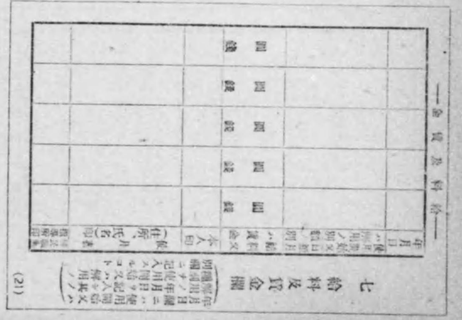
年月日欄ニハ使用開始ノ年月日又ハ職業名者ノ技能程度ノ異動ノ年月日ヲ記入スルコト

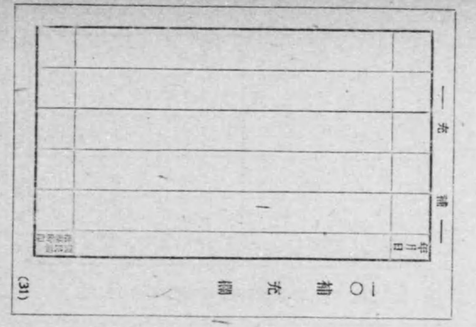
—職業名及技能程度—

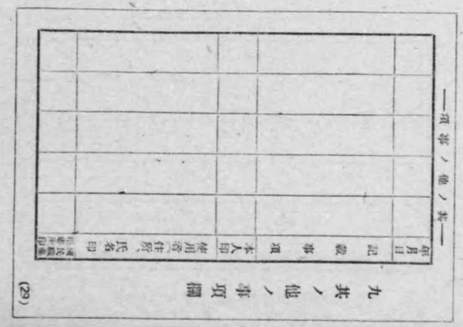
年月日	職業名	作業內容	技能程度	本人印	使用者(住所、氏名)印	國民職業指導所印

(17)









注意

一、此ノ手帳ハ國民勞務手帳法第一條ノ從業者トシテ就業シ又ハ同法ノ規定ニヨル報告ヲスルノニ必要ナモノデアル

二、此ノ手帳ハ他人ニ貸與又ハ讓渡シテハナラヌ

三、此ノ手帳ハ重ネテ交付ヲ受ケル事ガ出來ナイノデ大切ニ保管シナケレバナラス。萬一毀損シ、亡失シ又ハ餘白ナキニ至ツタ場合ニハ國民職業指導所長ニ所定ノ手續ヲシテ再交付ヲ受クルコトガ出來ル。但シ毀損シ餘白ナキニ至ツタ場合ニハ此ノ手帳ヲ添ヘテ手續シナケレバナラヌ

四、左ノ場合ニハ其ノ事項ヲ此ノ手帳ノ所定欄ニ記入シテ報告シナケレバナラヌ

(イ) 從業者ヲ使用スルニ至ツタ場合

(ロ) 手帳記載ノ事項（給料、賃金又ハ勞働者年金保險關係ノ事項ヲ除ク）ニ異動ヲ生ジタ場合

五、從業者ヲ使用スル者ハ左ニ掲グル事項ヲ此ノ手帳ノ所定欄ニ記入シナケレバナラヌ

(イ) 使用ヲ開始シ又ハ使用ヲ終了シタル場合ニ於ケル給料又ハ賃金

(ロ) 勞働者年金保險法ニ依ル被保險者ノ資格ニ關スル事項

六、手帳ニハ法令ノ規定ニ依リ記入スベキ事項以外ノ事項ヲ記入シテハナラヌ

七、記入方法

(イ) 年月日ハ、例ヘバ昭和一六、一〇、二二ノ如ク記入スルコト

(ロ) 氏名ニハ振假名ヲ附スルコト

(ハ) 本籍ノ記事ハ、例ヘバ愛媛縣松山市新町二丁目三二ノ一ノ如ク記入スルコト

(ニ) 居住ノ場所ノ記事ハ、例ヘバ東京市荏原區平塚八丁目一八二ノ二吉田明方ノ如ク記入スルコト

(ホ) 學歷及之ニ類スル事項欄ニハ、學歷及國民登錄指定ノ技能者養成施設、檢定、試驗、免許ヲ例ヘバ何々青年學校（本科）（昭和一六年三月卒）東京機械工養成所仕上科（昭和一五年修了）電氣事業主任技術者第二種（昭和一八年）ノ如ク記入スルコト

(ヘ) 職業名ハ國民勞務手帳法施行規則別表ニ掲グル職業名ヲ例ヘバ旋盤工ト記入スルコト

(ト) 作業內容ハ例ヘバ旋盤工ナラバ英式六呎旋盤ヲ使用シ主トシテチヤツク作業ニ從事スト記入スルコト

(チ) 技能程度ハ國民職業能力申告令施行規則別表技能程度申告標準ニ依リソノ等級ヲ記入スルコト

(リ) 使用者ハ從業者ヲ使用スルニ至ツタ場合ニハ例ヘバ次ノ如ク記入スルコト

五 就業ノ場所欄

年月日	使用開始又ハ解用ノ旨	就業ノ場所（所在所、名稱）	本人印	使用者（住所、氏名）印	國民職業指導所印
昭和一六、一〇、一	使用開始	東京市淀谷區千駄ヶ谷四丁目五八 久保田鐵鋼所	（田中）	東京市淀谷區千駄ヶ谷四丁目五八 久保田良勝	

六　職業名及技能程度

年月日	職業名	作業内容	技能程度	本人印	使用者（住所、氏名）印
昭和二六、一〇、二	旋盤工	ガスニ依ル銅板厚物ノ溶接	熟練（四年）	東京都千代田区九段三丁目五八	國民鋼業株式會社 久保田良雄

（裏　紙）

（裏　紙）

（ヌ）使用者ハ従業者ガ現職ノ儘徴用セラレタルトキハ應徴、又復職ノ儘徴用セラレタルモノガ徴用解除セラレ復歸シタ場合ニハ徴用解除復歸ト「九　其ノ他ノ事項欄」ニ各記入スルコト

（ル）使用者ガ従業者ニ同時ニ他ノ使用者ニ使用セラレルモ差支ナキ旨ノ同意ノ與ヘテ手帳ヲ一時返付スル場合ニ於テハ「九　其ノ他ノ事項欄」ニ何ヶ工場ニ同時使用同意ト記入スルコト

（ヲ）使用者ハ従業者ヲ使用セザルニ至ツタトキハ「五　就業ノ場所欄」ニ使用開始ノトキニ遡ヒ解用ト記入スルコト

八、左ノ様ナ場合ニハ處罰セラレルカラ注意スルコト

（イ）此ノ手帳ガナクテ就職シタ場合又ハ此ノ手帳ノナイモノヲ使用シタ場合

（ロ）二重ニ手帳ノ交付ヲ受ケタリ、詐僞其ノ他ノ不正行爲ニ依リ手帳ノ交付ヲ受ケタ場合

（ハ）此ノ手帳ヲ他人ニ貸與シタリ又ハ讓渡シタ場合

（ニ）使用者ガ従業者ヲ使用セザルニ至ツタ時ニ故ナクシテ手帳ヲ返還シナカツタ場合

（ホ）法令デ定メラレタ事項ノ記入又ハ報告ヲ怠ツタ場合

（ヘ）手帳ニ法令デ定メラレタ事項以外ノ勝手ナ事項ヲ記入シタ場合

様式第二號（用紙ノ大サハB5國定通ヒトス）

國民勞務手帳交付申請書（記入心得ヲヨク守ルコト　横書欄ハ記入セザルコト）　檢印

（表　面）

年月日	管理官署	中央職業安定所
年　月　日		

出生	年　月	氏名	檢査申請	技能程度	現制職名	職業能力	健康記事
年　月							

一　氏名及出生　即　年　月　日出

二　本籍　道府縣　郡市區町村大字　番地

三　居住ノ場所　道府縣　郡市區町村大字　番地　方

四　兵役關係　（イ）兵種及官等級　（ロ）既教育補充未教育補充　（ハ）徴集年又ハ任官年　年

五　學歴　（イ）國民學校初等科修了　（ロ）國民學校高等科修了（指定ノ學科ニ限ル）　（ハ）其ノ學校　第　學年中退　年　月卒

六　國民登録指定ノ技能者養成施設　年　月修了

七　國民登録指定ノ檢定試驗免許　職業名　技能程度　期間　年　月

八　職業ノ経歴　就業ノ場所（所在地、名稱）　自　年　月　至　年　月

九　現ニ従事スル職業　（イ）職業名　（ロ）作業内容　（ハ）技能程度　（ニ）職業上ノ身分又ハ地位　（ホ）経験年月　（ヘ）就業ノ場所ノ所在地及名稱

経由使用者　住所氏名　印

年　月　日申請

兵役		氏名	
學歴		本籍	
其ノ他			

（裏面）

異動事項	年	月	日	所在地（又ハ名称）及ビ就業ノ場所	始用又ハ雇入ノ別	名称又ハ業種	作業内容	技能程度	賃金又ハ給料	備考
職業名、作業内容、就業ノ場所										

異動事項	年	月	日	所場ノ住居	居住ノ場所	事項	備考
						受理公共職業安定所指定国民職業指導所	

様式第三號　甲（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

從業者解用報告

從業者ノ就業シタル場所	所在地										
	名称										
解用年月日	從業者ノ氏名	生年月日	職業	國民勞務手帳記號、番號	手帳返還ノ済否						
計	人										

右解用ノ旨國民勞務手帳法施行令第十五條ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ニ記入致度候

年　月　日

使用者　住所

氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名）㊞

國民職業指導所長宛

備考　一　國民勞務手帳ヲ返還シタル從業者ト返還セザル從業者トハ各別ニ一括記入スルコト

様式第三號　乙（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

國民勞務手帳返還報告

從業者ノ就業シタル場所	所在地										
	名称										
解用報告提出年月日	國民勞務手帳返還年月日	從業者ノ氏名	國民勞務手帳記號番號	手帳返還ノ理由							
	人										

年　月　日

使用者　住所

氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名）㊞

國民職業指導所長宛

備考　一　本樣式ニ依ル報告ハ使用者樣式第三號甲ニ依ル從業者解用報告ヲナシタル後從業者ニ國民勞務手帳ヲ返還シタルトキニ限ルモノトス

様式第四號（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

國民勞務手帳記載事項ノ異動報告

記號、番號		
國民勞務手帳ノ記載事項	氏名	出生 年 月 日生
	本籍	
	居住ノ場所	
	職業名及就業ノ場所	名稱 所在地
異動ノ年月日	異動事項	年 月 日 記事

年 月 日住所

氏名 ㊞

國民職業指導所長宛

備考 一 本樣式ニ依ル報告ハ使用者又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル爲手帳ノ提示ニ依リ又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル爲手帳ノ提示ニ依リ報告ヲ爲スコト能ハザルトキニ爲スモノトス

二 國民勞務手帳ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ從前ノ使用者又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル爲手帳ノ提示ニ依リ報告ヲ爲スコト能ハザルトキハ此ノ樣式ニ準ジ從前ノ使用者又ハ國民職業指導所長ヨリ報告スルコト

三 異動ノ事由ニ應ジ必要ナル事項ヲ記載スルコト

様式第五號（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

國民職業能力申告令第十一條該當ニ關スル報告

國民勞務手帳ノ記載事項	記號、番號	
	氏名	出生 年 月 日生
	本籍	
	居住ノ場所	
	職業名及就業ノ場所	名稱 所在地

年 月 日使用者住所

氏名 ㊞（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名）㊞

住所

氏名 ㊞

國民職業指導所長宛

備考 一 本樣式ニ依ル報告ハ國民勞務手帳法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スベキ場合ニ於テ從前ノ使用者又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル爲手帳ノ提示ニ依リ報告ヲ爲スコト能ハザルトキニ爲スモノトス

様式第六號（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ノ死亡報告

記號、番號		
死亡ヲ報ゼラレタル者ノ本籍	氏名	出生 年 月 日生
	本籍	
國民勞務手帳ノ記載事項	居住ノ場所	
	職業名及就業ノ場所	名稱 所在地

年 月 日

報告義務者 住所

氏名 ㊞（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名）㊞

備考 一 本樣式ニ依ル報告ハ國民勞務手帳法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲スベキ場合ニ於テ從前ノ使用者又ハ國民職業指導所長ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル爲手帳ノ提示ニ依リ報告ヲ爲スコト能ハザルトキニ爲スモノトス

様式第七號（用紙ノ大サハ國定規格B5トス）

國民勞務手帳再交付申請書

記號、番號		
紛失ノ届出ノ年月日	氏名	出生 年 月 日生
	本籍	
國民勞務手帳ノ記載事項	居住ノ場所	
	職業名及就業ノ場所	名稱 所在地
再交付申請ノ理由		
其ノ他參考トナルベキ事項		

右國民勞務手帳再交付相成度此段及申請候也

年 月 日 住所

經由使用者 氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名）㊞

住所

再交付申請者 氏名 ㊞

國民職業指導所長宛

備考 一 本申請書ニハ申請前一年以内ニ撮影シタル寫眞（名刺版、正面半身、脫帽、縱四糎、橫三糎ノモノ）一葉ヲ添附スルコト

二 國民勞務手帳ヲ紛失シタル場合ニ於テハ紛失ノ日ヨリ起算シテ十日以内ニ再交付ヲ受ケントスル時ハ其ノ國民勞務手帳ヲ添附スルコト

三 國民勞務手帳ヲ亡失シタル場合ニ於テハ再交付ヲ受ケントスル時ハ其ノ事由ノ詳細ト年月日トヲ記入スルコト

四 職業名及就業ノ場所欄ニハ再交付申請者ガ從業者ナル場合ニアリテハ現在職業名及就業ノ場所ヲ、從業者ナラザル場合ニアリテハ從前從業者トシテノ最終ノ職業名及就業ノ場所ヲ記入スルコト

様式第八號（用紙ノ大サハ縦寸法A6トス）

國民勞務手帳ニ代ル證明書

（表　面）

番號

氏名　　年　月　日生

本籍　道府縣　郡　村大字　番地

居住場所　道府縣　市　町　番地

就業ノ場所　道府縣　郡　村大字　町　番地

本證明書ハ　年　月　日マデ前記ノ就業ノ場所ニ於テ就業スル場合ニ限リ有效トス

左ノ場合ニハ本證明書ノ交付ヲ受ケタル者ハ直ニ本證明書ヲ返納スベシ

一　國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタルトキ

二　前記ノ就業ノ場所ニ於テ就業セザルニ至リタルトキ

三　本證明書ノ有效期間經過シタルトキ

年　月　日

國民職業指導所長　印

（裏　面）

使用開始	年　月　日	使用開始ノ賃金又ハ給料	本人印 使用者印
職業名	作業内容		
就業ノ場所			
異動	異動ノ年月日	異動記事	本人印 使用者印
勞働者年金保險ニ關スル事項			
解用	年　月　日	解用ノ際ノ給料又ハ賃金	使用者印
摘要			

使用者ハ本證明書ノ保管シ又ハ本證明ニ必要ナル事項ヲ記入シ且氏名、本籍、居住ノ場所及職業名ニ異動アリタルトキハ其ノ旨異動欄ニ記入シ又ハ解用ノ際本人ニ返還スルモノトス

二二七、國民勞務手帳法施行令第八條第一項ノ事業指定

（昭和十六年十月一日厚生省告示第四百二十八號
昭和十七年一月八日厚生省告示第　七　號改正）

國民勞務手帳法施行令第八條第一項ノ事業ヲ左ノ通指定ス

一　鑛業及砂鑛業

二　土石採取業中左ニ掲グル事業

（一）アルミニウム原鑛採取業

（二）石灰、耐火材原材料（珪石、ドロマイト及蛙石ヲ含ム）及石綿採取業

（三）螢石、珪藻土及雲母採取業

三　金屬工業中左ニ掲グル事業

（一）金屬精錬業及材料品製造業

（二）鑄物業（機械用鑄物製造業ニ限ル）

（三）其ノ他ノ金屬工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

（イ）鏈鎖製造業

（ロ）ベネ製造業

（ハ）鋼索製造業

（ニ）ボルト、ナウト、座金及鋲製造業

（ホ）釘類製造業

（ヘ）金屬板製品（ドラム罐及五ガロン用ブリキ罐ニ限ル）製造業

（ト）建築、橋梁、鐵塔等ノ建設材料製造業

（チ）路鐵及路釘製造業

（リ）火造（鍛冶）業

（ヌ）熔接業

（ル）造幣業

四　機械器具工業中左ニ掲グル事業

（一）原動機類製造業

（二）電氣機械器具類製造業

（三）電線及電纜製造業

（四）電池製造業

（五）工作機械器具製造業

（六）採鑛、選鑛及精錬用機械器具製造業

（七）化學工業用機械器具（特殊濾水機ヲ含ム）製造業

(八) ガス發生發動機製造業
(九) 鑄造機製造業
(一〇) 鐵道車輛製造業
(一一) 自動車製造業
(一二) 船舶製造業
(一三) 航空機及航空機部分品製造業
(一四) 運搬機械製造業
(一五) ポンプ、水壓機、送風機及氣體壓縮機製造業
(一六) 農業用機械器具製造業
(一七) 計測器類製造業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
(イ) 度量衡器製造業
(ロ) 電氣計器製造業
(ハ) 計壓器類製造業
(ニ) 測量用機械器具（製圖用機械器具ヲ含ム）製造業
(ホ) 試驗及檢査用機械器具製造業
(一八) 學術及醫療機械器具製造業
(一九) 光學機械器具（寫眞機類ヲ除ク）製造業
(二〇) 照明用機械器具（探照燈及照明燈ニ限ル）製造業
(二一) 銃砲、彈丸及兵器類製造業
(二二) 其ノ他ノ機械器具工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
(イ) 鞣及コウク製造業
(ロ) 軸受製造業
(ハ) 齒車製造業
(ニ) ベルト車、車輪及車軸製造業
(ホ) 義肢製造業

五 化學工業中左ニ揭グル事業

(一) 製藥業
(二) 工業藥品製造業
(三) 製鹽業
(四) 染料及中間物（天然染料及硫化染料ヲ除ク）製造業
(五) 塗料製造業

(六) 顏料（カーボンブラツク、アセチリンブラツク、硫酸バリウム、リトポン、チタン白及ベンガラニ限ル）製造業
(七) 發火物（煙火ヲ除ク）製造業
(八) 鑛物油製造業
(九) 植物油脂製造業
(一〇) 動物油脂製造業
(一一) 加工油製造業
(一二) ゴム製品類製造業（再生ゴム製造加工業ヲ含ム）
(一三) パルプ製造業
(一四) 製紙業
(一五) 化學纖維製造業
(一六) 肥料製造業
(一七) 皮革製造業
(一八) 其ノ他ノ化學工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
(イ) 人造レジン素地及製品製造業
(ロ) バルカナイズドファイバー製造業
(ハ) フイルム及乾板類製造業
(ニ) タンニン製造業
(ホ) ゼラチン製造業
(ヘ) 殺蟲劑及防腐劑（農業藥劑ニ限ル）製造業
(ト) 研磨材料及研磨用品製造業
(チ) 炭素製品製造業
(リ) コークス製造業
(ヌ) 人造ゴム製造業
(ル) 化學兵器及活性炭製造業
(ヲ) アセチルセルローズ及ベンヂルセルローズ製造業

六 窯業及土石加工業中左ニ揭グル事業

(一) 電氣用、醫療用、耐酸耐熱用陶磁器製造業
(二) 光學ガラス、安全ガラス、石英ガラス及電氣用、醫療用、耐酸耐熱用ガラス製品製造業
(三) セメント製造業
(四) 耐火煉瓦及耐火物製造業

（五）石灰製造業

（六）石綿製品（パツキング用ニ限ル）製造業

七　紡織工業中左ニ掲グル事業

（一）紡績業

（二）染色及整理業（絞染業、起毛業、洗張洗濯業及機械ニ依ラザル捺染業ヲ除ク）

八　製材及木製品工業中製材及合板業

九　其ノ他ノ工業中左ニ掲グル事業

（一）兌換銀行券、郵券及官報類印刷業

（二）皮革製品製造業中馬具及ベルト製造業

（三）醫療材料品製造業

十　ガス業及電氣業

十一　運輸業中左ニ掲グル事業

（一）鐵道及軌道業

（二）乘合自動車運輸業

（三）貨物自動車運送業

（四）航空輸送業

（五）小運送業（小運送業法ニ依ル小運送業以外ノ事業ヲ除ク）

（六）船舶荷役業

十二　通信事業

十三　陸軍若ハ海軍ノ作業廳又ハ工場事業場管理令ニ依リ國ノ管理スル工場事業場ニ於テ行フ艦船兵器其ノ他ノ軍需品ノ造修、保管、補給又ハ輸送ニ關スル事業

一二八、國民勞務手帳法施行令第八條第一項ノ從業者指定

（昭和十六年十月一日厚生省告示第四百二十九號）

國民勞務手帳法施行令第八條第一項ノ從業者ヲ左ノ通指定ス

引續キ一月以上同一ノ使用者ニ使用セラルル從業者（但シ紡織工業ニ付テハ機械運轉工、精練漂白工、機械浸染工、機械捺染工、金屬彫刻工、電力電機工、電力電路工及汽罐士ニ限ル）

一二九、國民勞務手帳法第一條ノ技術者及勞務者

一　鑛山技術者、採炭、選炭、採鑛、選鑛、採油又ハ採鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

二　冶金技術者　金屬ノ製錬、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

三　機械技術者　陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鑄造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

四　電氣技術者　電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具、電線若ハ電纜ノ製作、取付、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

五　電氣通信技術者　有線電信電話機、無線電信電話機（放送用ヲ含ム）、電視裝置、電寫裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取付、修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

六　航空機技術者　航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ（航空機用原動機製作ニ從事スルモノヲ除ク）

七　造船技術者　造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

八　化學技術者　有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

九　窯業技術者　セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一〇　食料品技術者　製糖、製粉、罐詰、冷凍又ハ其ノ他ノ飲食料品嗜好品ノ製造加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一一　醸造技術者　醸酵法ニ依ル酒精飲料、アセトン、アルコール等ノ製造ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一二　紡績技術者　製絲、紡績、織布等ノ作業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一三　染色技術者　織物、皮革等ノ染色、漂白、精練等ノ作業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一四　木工技術者　製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一五　土木技術者　道路、橋梁、鐵塔、港灣、河川、砂防、鐵道、軌道、隧道、索道、上下水道又ハ其ノ他ノ土木ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一六 建築技術者　建築ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

一七 特殊技術者　機械工業ノ蘊業技術者、化學工業及鑛業ノ林業技術者又ハ印刷、被服製造、身ノ廻リ品製造、人造板製造其ノ他ノ工業ノ技術者ニシテ第一號乃至第一六號ニ屬セザルモノ

一八 航空機搭乘員　航空士、航空機操縦士、航空機機關士タルモノ

一九 氣象技術者　氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルモノ

二〇 鑛夫

一 採炭夫　石炭又ハ亞炭ノ採掘又ハ採鑛ノ作業ニ從事スルモノ（手掘夫、發破係夫及鑿岩夫ヲ含ム）

二 坑内運炭夫　炭坑坑内ニ於テ主トシテ石炭又ハ亞炭ノ運搬作業ニ從事スルモノ（坑内ノ軌道夫ヲ含ミ、坑外ノ運炭ノミニ從事スルモノヲ除ク）

三 炭坑支柱夫　炭坑坑内ニ於テ支柱作業ニ從事スルモノ

四 機械選炭夫　炭坑又ハ亞炭坑ニ於テ機械ニ依ル石炭ノ選別作業ニ從事スルモノ

五 採鑛夫　鑛物ノ採掘又ハ採鑛作業ニ從事スルモノ（手掘夫、發破係夫及鑿岩夫ヲ含ム）

六 鑛山支柱夫　鑛山坑内ニ於テ支柱作業ニ從事スルモノ

七 坑内運鑛夫　鑛山坑内ニ於テ主トシテ鑛物ノ運搬作業ニ從事スルモノ（坑内ノ軌道夫ヲ含ミ、坑外ノ運鑛ノミニ從事スルモノヲ除ク）

八 機械選鑛夫　鑛山ニ於テ機械ニ依ル鑛物ノ選別作業ニ從事スルモノ（大割夫ヲ含ム）

九 石油鑛夫　石油山ニ於テ鑿井又ハ汲油ノ作業ニ從事スルモノ

一〇 鑛業作業夫　採炭、選炭、採鑛、選鑛、採油又ハ採鑛ノ作業ニ從事スルモノニシテ（一）乃至（九）ニ屬セザルモノ

二 土石採取夫　岩石、砂利、陶土等ノ土石ノ採取作業（露天採掘作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

三 職工

（イ）製錬工作業者

一三 製銑工　銑鐵又ハフエロアロイノ製錬作業（熱風爐操作ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一四 製鋼工　鋼ノ製錬作業（造塊及焙燒ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一五 非鐵金屬製錬工　非鐵金屬ノ濕式製錬、乾式製錬又ハ電氣精錬ノ作業（造塊作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一六 金屬製錬工　金屬ノ製錬作業ニ從事スルモノニシテ（一二）乃至（一四）ニ屬セザルモノ

一七 非金屬製錬工　硫黄、砒素等非金屬ノ精錬作業ニ從事スルモノ

（ロ）製圖、現圖作業者

一八 製圖手　製圖又ハ寫圖ノ技術内作業（設計ノ補助作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一九 現圖工　現圖展開作業又ハ型板取（現圖木型作）作業ニ從事スルモノ

（ハ）金屬材料ノ製造加工作業者

二〇 金屬熔融工　鑄物用又ハ合金用ノ金屬熔融作業ニ從事スルモノ

二一 操爐工　金屬加熱爐ノ操作ニ從事スルモノ

二二 壓延伸張工　金屬ノ箔、線、棒、管、條、板又ハタイヤノ製造ノ爲機械ニ依ル金屬ノ壓延、伸張、引拔、押出等ノ加工作業ニ從事スルモノ

二三 鑄物工　鐵、鋼又ハ其ノ他ノ金屬ノ鑄造作業（ダイカスト鑄造作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

二四 鍛工　鍛冶又ハ鍛造ノ作業（プレスニ依ル火造作業ヲ含ミ且農具鍛冶、金具鍛冶、車鍛冶及刄物製造鍛冶ヲ除ク）ニ從事スルモノ

二五 熱處理工　金屬ノ燒入、燒鈍、燒戻、燒準、滲炭、窒化等ノ熱處理作業ニ從事スルモノ

二六 撚線工　金屬ノ撚線又ハ合線ノ製造作業（鋼索製造作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

二七 剪斷工　剪斷機ニ依ル金屬切斷作業ニ從事スルモノ

二八 金屬加工工　金屬材料ノ製造加工作業ニ從事スルモノニシテ（一九）乃至（二六）ニ屬セザルモノ

（ニ）機械器具ノ製作作業者

二九 野書工　金屬加工ノ爲野書及心出ノ作業ニ從事スルモノ

三〇 旋盤工　普通旋盤、工具旋盤、卓上旋盤、多數バイト旋盤、模寫旋盤、正面旋盤、竪旋盤、專門旋盤等ノ旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三一 中ダリ工　タレツト旋盤、自動旋盤又ハ半自動旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三二 研磨工　中ダリ盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三三 ボール盤工　研磨盤、ラツプ盤、艶出盤又ハ砥上盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三四 平削工　ボール盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三五 形削工　平削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三六 フライス工　形削盤又ハ竪削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三七 齒切工　フライス盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三八 特殊機械工　齒切盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

三九 非金屬機械工　工作機械ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノニシテ（二八）乃至（三七）ニ屬セザルモノ

旋盤、研磨盤又ハボール盤其ノ他各種工作機械ニヨルゴム、陶磁器又ハベークライト等木材以外ノ非金屬ノ加工作業ニ從事スルモノ

四〇 鐵木工 造船ニ於テ現圖木型ニ依ル罫書又ハ鋼材ノ現場取付組立ノ作業ニ從事スルモノ（鋼鐵木工ヲ含ム）

四一 撓鐵工 鋼材ノ撓曲又ハ成形ノ作業（機械ニ依ル厚板ノ撓曲作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

四二 塡際工 コーキング又ハ水面防材挿入ノ作業ニ從事スルモノ

四三 鋲打工 鋲燒、當盤、鋲打等ノ鋲鋲作業ニ從事スルモノ

四四 板金工 主トシテ手作業ニ依ル金屬薄板ノ加工組立作業ニ從事スルモノ（ブリキ職及鋼打物職ヲ含ム）

四五 金屬プレス工 主トシテプレスニ依ル金屬加工作業ニ從事スルモノ

四六 銅工 主トシテ艦船用ノ金屬板及管ノ加工作業ニ從事スルモノ

四七 配管工 金屬管ノ加工取付作業ニ從事スルモノ（鉛工ヲ含ム）

四八 製罐工 汽罐、水槽、煙突、復水器等ノ鋼板類製品ノ加工組立作業ニ從事スルモノ

四九 熔接工 電氣又ハガスニ依ル金屬ノ熔接又ハ燒切ノ作業ニ從事スルモノ

五〇 鐵工 鐵材又ハ鋼材ノ加工組立作業ニ從事スルモノニシテ（四〇）乃至（四九）ニ屬セザルモノ

五一 金屬彫刻工 金屬板其ノ他金屬材料ノ彫刻作業ニ從事スルモノ

五二 光學ガラス工 レンズ、プリズム、レベル、反射鏡、船舶信號用ガラス等ノ光學ガラスノ荒摺、研磨、心取等ノ作業又ハバルサム作業ニ從事スルモノ

五三 目盛工 手作業、機械作業又ハ化學作用ニ依ル目盛作業（文字書作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

五四 針金細工工 金屬製ノ網、綱等製造ノ作業ニ從事スルモノ

五五 電線被裝工 電線又ハ電纜ノ被覆、鎧裝又ハ被鉛ノ作業ニ從事スルモノ

五六 卷線工 電線コイルノ卷線作業（手卷作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

五七 絕緣工 電氣裝置及器具ノ絕緣被覆作業ニ從事スルモノ

五八 電池工 蓄電池、濕電池又ハ乾電池ノ製造又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ（光電池製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）

五九 眞空管類排氣工 白熱電球、放電燈、眞空管、エツクス線又ハ管其ノ他各種眞空管類ノ排氣作業ニ從事スルモノ

六〇 水晶工 電氣通信機用水晶ノ加工作業ニ從事スルモノ

六一 義肢工 義肢ノ皮部製作及仕上組立作業ニ從事スルモノ

六二 綱具工 帆、索具、防炭物等ノ船具ノ製造、修繕又ハ取付ノ作業（錨及鎖ノ取付作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

六三 機器製作工 機械器具製作ノ作業ニ從事スルモノニシテ（五一）乃至（六二）ニ屬セザルモノ

（ホ）機械器具ノ仕上、組立、修繕作業者

六四 工具仕上工 切削工具、剪斷工具、セリダシ工具、ゲージ、ジグ、金型、計測器類（度量衡法ニ依ラザルモノ）、ネヂ切削用補助工具、其ノ他ノ工具、鑪、鋸又ハ刃物ノ仕上、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

六五 仕上工 主トシテ鑪、タガネ等ノ手道具ニ依ル金屬品ノ仕上作業（簡單ナ部分品ノ組立作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

六六 電機組立工 電動機其ノ他ノ電氣機械器具又ハ電氣計器ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

六七 電氣通信機組立工 電氣通信用機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

六八 精密組立工 度量衡器、理學的機械器具、機械的計測器（時計ヲ含ム）、兵器、光學機械器具又ハ其ノ他ノ精密機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

六九 機械組立工 原動機、工作機械又ハ其ノ他ノ機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

七〇 航空機組立工 航空機ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

七一 自動車工 自動車ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルモノ

七二 艤裝工 艦船ノ艤裝作業ニ從事スルモノ

（ヘ）化學製品ノ製造作業者

七三 硫酸工 硫酸製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

七四 鹽酸工 鹽酸製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

七五 硝酸工 硝酸製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

七六 ソーダ工 炭酸ソーダ、苛性ソーダ、金屬ソーダ其ノ他ノソーダ鹽又ハカリ鹽ノ製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

七七 カーバイト電爐工 カーバイト製造用電氣爐ノ操作ニ從事スルモノ

七八 壓縮ガス工 水素、酸素、炭酸ガス、亞硫酸ガス、鹽素ガス、鹽化メチレン、鹽化メチル等ノ液化ガス又ハ壓縮ガスノ製造作業（原料ガス發生作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

七九 工業藥品工 工業藥品製造ノ化學工程ニ從事スルモノニシテ（七三）乃至（七八）ニ屬セザルモノ

八〇 アルミナ製造工 アルミナ製造ノ化學工程（氷晶石製造作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ（アルミニウム精錬ノ作業ニ從事スルモノヲ除ク）

八一 人造研磨材製造工　カーボランダム、アランダム又ハ其ノ他ノ人造研磨材及人造砥石ノ製造工程ニ從事スルモノ（旋盤ニ依ル仕上工ヲ除ク）

八二 人造肥料工　硫安、石灰窒素、カリ肥料等ノ人造肥料製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

八三 硝化綿工　硝化綿製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

八四 火藥工　火藥類又ハ化學兵器ノ製造作業ニ從事スルモノ（マツチ製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）

八五 火工　彈ノ火藥又ハ火工兵器ノ加工、裝塡又ハ修理ノ作業ニ從事スルモノ

八六 染料工　染料製造工場ニ於テタール染料又ハ其ノ中間體ノ製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

八七 顏料塗料工　顏料、ボイル油又ハワニスノ製造作業ニ從事スルモノ

八八 アンモニヤ合成工　合成法ニ依ルアンモニヤ製造ノ化學工程（原料ガス發生及觸媒製造ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

八九 油脂工　動植物油脂ノ抽出、精製、分解、鹼化又ハ硬化ノ作業ニ從事スルモノ

九〇 石炭乾溜工　石炭乾溜ニ依ル石炭ガス、コークス又ハタールノ製造作業（石炭ノ低溫乾溜作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

九一 タール分溜工　タールノ分溜、精製ノ方法ニ依ルベンゾール、トルオール、キシロール、ナフタリン、石炭酸等ノ化學製品ノ製造作業ニ從事スルモノ

九二 人造石油工　人造石油製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

九三 石油工　石油ノ蒸溜、分解、精製又ハ洗滌ノ作業ニ從事スルモノ

九四 ガス發生爐工　發生爐ガス又ハ水性ガスノ製造作業ニ從事スルモノ

九五 合成ゴム工　ゴム合成ノ作業ニ從事スルモノ

九六 ゴム工　ゴム原料ノ配合、混合等ノ精練作業（再生ゴム製造作業ヲ含ム）又ハタイヤ、ゴム靴、ゴム底足袋若ハゴム引防水布ノ製造作業ニ從事スルモノ

九七 セルロイド工　セルロイド、醋酸纖維素又ハ纖維素エーテルノ製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

九八 人造レジン工　ベークライト其ノ他合成樹脂ノ原料製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

九九 パルプ工　製紙用又ハ人絹用ノパルプ製造作業ニ從事スルモノ

一〇〇 製紙工　紙料製造又ハ原紙抄造ノ作業ニ從事スルモノ

一〇一 人絹工　人造絹絲、人造短纖維又ハセロフアンノ製造ノ化學工程ニ從事スルモノ（漂白及洗滌作業ニ從事スルモノヲ除ク）

一〇二 電極工　炭素電極ノ製造作業ニ從事スルモノ

一〇三 化學電爐工　化學製品製造用電氣爐（カーバイト製造用電氣爐ヲ除ク）ノ操作ニ從事スルモノ

一〇四 寫眞化學工　フイルム、乾板、印畫紙又ハ現像藥其ノ他ノ寫眞用品製造ノ化學工程ニ從事スルモノ

一〇五 化學品製造工　化學製品ノ製造工程ニ從事スルモノニシテ（八〇）乃至（一〇四）ニ屬セザルモノ

（ト）窯業、土石類ノ加工作業者

一〇六 窯業原料工　陶磁器、煉瓦、セメント又ハガラス等ノ原料ノ粉碎、精製、調合又ハ釉藥ノ調整等ノ作業ニ從事スルモノ

一〇七 成型工　陶磁器、煉瓦等ノ手成型、プレス成型又ハ型打等ノ作業ニ從事スルモノ（旋盤ニ依ルモノヲ除ク）

一〇八 施釉工　陶磁器、タイル、琺瑯品又ハ七寶燒ノ釉藥掛ケノ作業ニ從事スルモノ

一〇九 燒成工　セメント、陶磁器、煉瓦、琺瑯品等ノ燒成又ハ燒附ノ作業ニ從事スルモノ

一一〇 ルツボ工　金屬又ハガラスノ熔融用ルツボノ製造又ハ修理作業ニ從事スルモノ

一一一 ガラス熔融工　ガラス原料ノ熔解作業ニ從事スルモノ

一一二 ガラス吹工　壜、管又ハ球ノ手吹若ハ機械吹作業ニ從事スルモノ（冷シ工ヲ含ム）

一一三 板ガラス製造工　引上法又ハ圓筒法等ニ依ル板ガラス製造ノ作業ニ從事スルモノ（冷シ工ヲ含ム）

一一四 型物ガラス工　機械又ハ押型ニ依ル型物ガラス、壜等ノ製造ノ作業ニ從事スルモノ（冷シ工ヲ含ム）

一一五 ガラス銀引工　鏡、反射鏡等ガラスノ銀引作業ニ從事スルモノ

一一六 特殊ガラス工　光學ガラス、鋼ガラス、硬質ガラス、フイルター、安全ガラス等ノ特殊ガラスノ製造作業（ガラスノ熱處理作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一一七 ガラス加工工　摺ガラス、カツトグラス又ハ强化ガラス等ガラスノ加工又ハ細工ニ從事スルモノ

一一八 石綿工　石綿ノ防織又ハ保溫材スレート等石綿製品製造ノ作業ニ從事スルモノ

一一九 保溫工　保溫材取附作業ニ從事スルモノ

一二〇 窯業工　窯業製品製造ノ作業ニ從事スルモノニシテ（一〇六）乃至（一一九）ニ屬セザルモノ

（チ）紡織品、被服身裝品製造作業者

一二一 起毛、剪毛工　織物ノ起毛作業又ハ剪毛作業ニ從事スルモノ

一二二 フエルト工　フエルト（フエルト帽體ヲ含ム）製造ニ於テ洗毛、開毛又ハ縮絨又ハ壓搾ノ作業ニ從事スルモノ

一二三 精練漂白工　絲、布其ノ他紡織品ノ精練又ハ漂白作業ニ從事スルモノ

一二四 浸染工　手ニ依ル捺染、引染又ハ浸染ノ作業ニ從事スルモノ（染物職ヲ除ク）

一二五 機械捺染工　機械ニヨル捺染ニ於テ縫合セ、糊拔、捺染、蒸熱又ハ水洗ニ從事スルモノ

一二六 編組工　レース編、メリヤス編又ハ組紐等ニ於テ絲卷、編立、仕上ノ作業ニ從事スルモノ

一二七 洗濯工 洗張、湯熨斗又ハ洗濯ノ作業ニ從事スルモノ

一二八 製綱工 纖維製ノ綱（藁製品ヲ除ク）ノ製造作業ニ從事スルモノ

一二九 製網工 纖維製ノ網（藁製品ヲ除ク）ノ製造作業ニ從事スルモノ

一三〇 布縫工 帆布、製布、各種テント又ハ用被服身裝品ノ製造ニ於ケル裁斷、縫製加工ノ作業ニ從事スルモノ

一三一 紡織品製造加工工 紡織品又ハ被服身裝品ノ製造作業ニ從事スルモノニシテ（一二一）乃至（一三〇）ニ屬セザルモノ

（リ） 印刷、紙製品製造作業者

一三二 文撰、植字、解版工 文撰、植字又ハ解版ノ作業ニ從事スルモノ

一三三 活字鑄造工 活字ノ鑄造作業ニ從事スルモノ

一三四 製版、紙型工 紙型取リ、凸版、凹版、平版（石版、オフセット版、グラビヤ版）又ハ寫眞版等印刷原版ノ製造作業ニ從事スルモノ

一三五 印刷工 印刷作業ニ從事スルモノ（印刷機械ノ運轉ニ從事スル者ヲ除ク）

一三六 特殊寫眞工 工業用寫眞、水中寫眞、航空寫眞、活動寫眞又ハ高速度寫眞ノ撮影、現像若ハ燒付ノ作業ニ從事スルモノ

一三七 製本工 製本作業ニ從事スルモノ

一三八 印刷、紙製品製造工 印刷又ハ紙製品製造ノ作業ニ從事スルモノニシテ（一三二）乃至（一三七）ニ屬セザルモノ

（ヌ） 皮革、骨、羽毛品類製造作業者

一三九 革縫工 藁嚢、雜嚢、鞄又ハ靴等ノ皮革品ノ製造ニ於テ機械ニ依ル裁斷、縫製加工ノ作業ニ從事スルモノ

一四〇 馬鞍工 革製馬鞍又ハ馬具ノ組立、仕上ノ作業ニ從事スルモノ

一四一 皮革、骨、羽毛加工工 皮革、骨、羽毛類製品ノ製造作業ニ從事スルモノニシテ（一三九）及（一四〇）ニ屬セザルモノ

（ル） 木製品製造作業者

一四二 製材工 機械ニ依ル製材又ハ製板ノ作業ニ從事スルモノ

一四三 調木工 バルブ製造ニ於テ皮剝、切斷又ハ碎木ノ作業ニ從事スルモノ

一四四 合板工 合板ノ製造作業（薄板製造及薄板膠着ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一四五 人造板製造工 各種テックス類製造ノ作業ニ從事スルモノ

一四六 コルク加工工 コルク板、壜栓等ノ製造ニ於テ粉碎、調合、壓搾ノ作業ニ從事スルモノ

一四七 木工 艦船、航空機、車輛又ハ其ノ他ノ機械器具ノ木部ノ製造作業（墨附作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一四八 建具指物工 建具、指物ノ製造作業ニ從事スルモノ

一四九 木型工 鑄物用木型ノ製造作業ニ從事スルモノ

一五〇 雜貨木型工 帽子木型、足袋木型又ハ陶器木型等ノ製造作業ニ從事スルモノ

一五一 造舟工 木造船ノ建造作業（短艇製造作業ヲ含ム）ニ從事スルモノ

一五二 車大工 荷車等木造車ノ製造作業ニ從事スルモノ

一五三 木製品工 木製品ノ製造作業ニ從事スルモノニシテ（一四二）乃至（一五二）ニ屬セザルモノ

（ヲ） 飲食料品、嗜好品製造作業者

一五四 精穀工 米、麥等穀類ノ籾摺、搗精又ハ選別ノ精穀作業ニ從事スルモノ

一五五 製粉工 小麥粉、片栗粉又ハ晒酒等製造ニ於ケル原料選別、粉碎、水晒又ハ乾燥ノ作業ニ從事スルモノ

一五六 菓子、パン製造工 菓子又ハパンノ製造作業ニ從事スルモノ

一五七 製糖工 砂糖製造ニ於テ甘蔗又ハ甜菜ノ裁斷、壓搾、滲出、蒸發、分密又ハ精製ノ作業ニ從事スルモノ

一五八 味噌醬油醋醸造工 味噌、醬油又ハ醋ノ醸造作業ニ從事スルモノ

一五九 酒類製造工 清酒、燒酎又ハ味淋等ノ和酒若ハ麥酒、葡萄酒、白酒又ハ混成酒等ノ酒類製造作業ニ從事スルモノ（杜氏ヲ含ム）

一六〇 清涼飲料製造工 サイダー、ラムネ又ハシロップ等清涼飲料ノ製造作業ニ從事スルモノ

一六一 罐詰、壜詰食料品製造工 罐詰、壜詰食料品製造ニ於テ容器ノ洗滌、原料詰メ、加熱殺菌又ハ密封ノ作業ニ從事スルモノ

一六二 煙草製造工 煙草ノ製造作業ニ從事スルモノ

一六三 製氷冷凍工 製氷又ハ冷凍ノ作業ニ從事スルモノ

一六四 食品製造工 飲食料品又ハ嗜好品ノ製造作業ニ從事スルモノニシテ（一五四）乃至（一六三）ニ屬セザルモノ

（ワ） 電氣ニ關スル作業者

一六五 通信電路工 電氣通信電線路（空中線ヲ含ム）ノ建設、保繕又ハ屋内配線工事ノ作業ニ從事スルモノ

一六六 通信電機工 電氣通信用機械器具ノ設備又ハ保繕ノ作業ニ從事スルモノ

一六七 電力電路工 電線架設、電路敷設、保線、屋内配線工事又ハ送配電ノ作業ニ從事スルモノ

一六八 電力電機工 電氣機械ノ据付又ハ運轉ノ作業ニ從事スルモノ

（カ） 實驗、試驗、檢査作業者

一六九 金屬試驗工　金屬材料ノ物理的試驗作業ニ從事スルモノ

一七〇 實驗工　物理的又ハ化學的ノ實驗作業ニ從事スルモノ

一七一 機械檢査工　陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、艦船、車輛、航空機、自動車、起重機、其ノ他ノ機械器具、電氣機械器具、電氣計器、電氣通信用機械器具又ハ鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ部分品、半製品又ハ製品ノ檢査作業ニ從事スルモノ

一七二 レンズ檢査工　レンズ、プリズム、レベル等ノ光學ガラスノ檢査作業ニ從事スルモノ

一七三 試運轉工　原動機、機關、ポンプ又ハ其ノ他ノ機械ノ試運轉作業ニ從事スルモノ

一七四 分析工　化學分析作業ニ從事スルモノ

一七五 檢査工　各種製品ノ檢査又ハ選別作業ニ從事スルモノニシテ（一六九）乃至（一七四）ニ屬セザルモノ

（ヨ）其ノ他ノ作業者

一七六 企劃手　作業企劃、作業研究又ハ單價若ハ原價ノ計算ノ技術的業務ニ從事スルモノ

一七七 記錄工　庶務、計理、工務、勞務等ニ關スル記錄事務、圖面ノ出納竝ニ整理及保存、タイプライターニ依ル印字作業ニ從事スルモノ

一七八 機械運轉工　原動機、機關、ポンプ又ハ機械ノ運轉又ハ保繕ノ作業ニ從事スルモノ

一七九 起重機運轉工　起重機ノ運轉ニ從事スルモノ

一八〇 メツキ工　メツキ、ポンデライト、パーカライヂング、メタニウム又ハセラダイスノ作業ニ從事スルモノ

一八一 塗裝工　塗料ニ依ル塗裝、吹附又ハ燒附ノ作業ニ從事スルモノ

一八二 雜職工　職工ニシテ（一二）乃至（一八一）ニ屬セザルモノ

一八三 土木建築作業者

一八三 家屋大工　家屋建築ニ於ケル大工作業ニ從事スルモノ

一八四 堂宮大工　堂宮建築ニ於ケル大工作業ニ從事スルモノ

一八五 左官　セメント塗、モルタル塗又ハ漆喰塗等ノ左官作業ニ從事スルモノ

一八六 石工　石工作業ニ從事スルモノ

一八七 鳶職　足場架又ハ鐵骨組立其ノ他高所ニ於ケル取附工事等ノ鳶仕事ニ從事スルモノ

一八八 屋根職　屋根職作業ニ從事スルモノ

一八九 築爐工　焙鑛爐、平爐、焙融爐、加熱爐、窯業用窯其ノ他ノ工業用爐窯又ハ汽罐煉瓦積部分ノ築造又ハ修築ノ作業ニ從事スルモノ

一九〇 鐵筋、鐵網工　セメント品製造又ハコンクリート工事ニ於テ鐵筋又ハ鐵網ノ組立作業ニ從事スルモノ

一九一 潛水夫　潛水服ヲ着用シテ行フ水中作業ニ從事スルモノ

一九二 土木建築作業者　煉瓦積、タイル張ノ作業、セメント品製造又ハコンクリート工事ノ爲木枠ノ組立、コンクリート練リ又ハ注込ミ等ノ作業、潛水補助ノ作業、道路ノ修築工事、アスフアルト鋪裝作業其ノ他土木建築ノ作業ニ從事スルモノニシテ（一八三）乃至（一九一）ニ屬セザルモノ

二〇〇 交通、運輸、運搬作業者

一九三 蒸汽機關車運轉士　蒸汽關車ノ運轉ニ從事スルモノ（助手ヲ含ム）

一九四 內燃機關車運轉士　內燃機關車（ヂーゼル動車及ガソリン動車ヲ含ム）ノ運轉ニ從事スルモノ（助手ヲ含ム）

一九五 電車運轉士　電車又ハ電氣機關車ノ運轉ニ從事スルモノ

一九六 自動車運轉手　自動車ノ運轉ニ從事スルモノ

一九七 運輸運轉諸手　驛手、連結手、轉轍手、踏切警手、制動手、列車手、炭水手、清淨手等列車ノ編成、運轉ノ豫備又ハ保安作業ニ從事スルモノ

一九八 保線夫　線路、建設物ノ保守又ハ施工ノ作業ニ從事スルモノ（線路工夫ヲ含ム）

一九九 航空機整備員　飛行場ニ於テ航空機及其ノ附屬品ノ點檢、分解、調整、補修、手入、裝備、試運轉、格納、飛行準備、滑走ノ補　等ノ地上勤務作業ニ從事スルモノ

二〇〇 漁船運轉手　發動機ヲ有スル總噸數　十噸以上三十噸未滿ノ漁船ノ操縱又ハ運轉ニ從事スルモノ（船員手帳又ハ海技免狀ヲ有スルモノヲ除ク）

二〇一 船舶諸手　總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ船舶（端舟及櫓櫂ヲ以テ運轉スル船ヲ含ミ漁船ヲ除ク）ノ操縱又ハ運轉ニ從事スルモノ

二〇二 沖仲仕　船舶ヨリ又ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸作業ニ從事スルモノ

二〇三 荷扱運搬夫　貨物ノ庫出シ、庫入レ、積卸、運搬、配達荷捌キ、檢量、荷造ノ作業ニ從事スルモノ

二〇四 交通運輸運搬作業者　交通、運輸又ハ運搬ノ諸作業ニ從事スルモノニシテ（一九三）乃至（二〇三）ニ屬セザルモノ

二〇五 通信作業者

二〇五 有線電信通信士　有線電信ノ發受信操作ニ從事スルモノ

二〇六 無線電信通信士　無線電信ノ發受信操作ニ從事スルモノ

二〇七 遞信集配員　郵便物ノ集配又ハ電報配達ノ業務ニ從事スルモノ

二〇八 汽罐士、裝蹄師、氣象手

三〇八 汽罐 七 汽罐ノ罐焚又ハ取扱ノ作業ニ從事スルモノ
三〇九 裝蹄 師 裝蹄ノ作業ニ從事スルモノ
三一〇 氣象 手 氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ從事スルモノ

一三〇、國民勞務手帳法及國民勞務手帳法施行令ノ國ノ事業ニ關スル特例ノ件（昭和十六年六月十四日勅令第七百五號）

第一條 官衙（陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム以下同ジ）ニシテ從業者ヲ使用スルモノ（以下事業官廳ト稱ス）其ノ使用スル從業者（以下官廳從業者ト稱ス）ヲ使用セザルニ至リタル場合ニ於テ國民勞務手帳法施行令（以下施行令ト稱ス）第八條第一項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ官廳從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ十四日以內ニ同條第三項ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨通知スベシ通知ヲ爲シタル後國民勞務手帳ヲ返還シタルトキ又同ジ

第二條 事業官廳施行令第八條第一項ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ官廳從業者ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ三月間之ヲ保管シ其ノ期間經過シタルトキハ同條第四項ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ送付スベシ

第三條 官廳從業者タリシ者國民勞務手帳ノ返還ニ關シ異議アルトキハ其ノ退職シタル日又ハ解雇セラレタル日ヨリ十四日以內ニ從前ノ事業官廳ノ所轄官衙（事業官廳ガ陸海軍ノ部隊又ハ學校ナル場合ニ於テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル官衙トシ其ノ他ノ場合ニ於テ所轄官衙ナキトキハ事業官廳トス）ニ其ノ旨申立ツルコトヲ得

國民勞務手帳法第六條及第七條ノ規定ハ國ノ事業ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第四條 事業官廳ハ官廳從業者タリシ者所在不明其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ者ニ國民勞務手帳ヲ返還スルコト能ハザルトキハ事由ヲ具シ施行令第十一條ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ之ヲ送付スベシ

第五條 施行令第十一條第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テ地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ同條ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ニ對シ國民勞務手帳ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第六條 地方長官又ハ國民職業指導所長施行令第十三條ノ規定ニ依リ官廳從業者ニ對シ國民勞務手帳ノ返納ヲ命ズルトキハ事業官廳ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第七條 事業官廳官廳從業者ノ使用ヲ開始シタルトキハ施行令第十四條各號ニ揭グル事項ヲ國民勞務手帳ニ記載シ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ同條ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨通知スベシ

第八條 事業官廳官廳從業者ヲ使用セザルニ至リタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ施行令第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ引續キ他ノ事業官廳ノ官廳從業者タルトキハ當該事業官廳ニ國民勞務手帳ノ保管ヲ移シ、官廳從業者タラザルトキハ國民勞務手帳ヲ其ノ者ニ返還スベシ

前項ノ場合ニ於テハ事業官廳ハ官廳從業者ヲ使用セザルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ其ノ旨通知スベシ

第九條 事業官廳ハ官廳從業者ニ關シ施行令第二條第一號、第三號乃至第六號、第八號、第九號、第十一號乃至第十三號又ハ第十五號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ同令第十六條第一項ノ規定ニ拘ラズ十四日以內（第十二條ノ規定ニ依ル報告アルモノニ付テハ報告アリタル日ヨリ十四日以內）ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ通知スベシ

第十條 官廳從業者ニシテ國民職業能力申告令ニ依リ申告シ居ル要申告者タルモノ（同令第二條第六號ニ該當スルモノヲ除ク）同令第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ事業官廳ハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ施行令第二十一條ノ規定ニ拘ラズ第二項ノ規定ニ依ル報告アリタル日ヨリ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ通知スベシ通知ヲ爲シタル後ニ於テ國民職業能力申告令第十一條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキ亦同ジ

官廳從業者前項ノ場合ニ於テ國民職業能力申告令第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ該當セザルニ至リタルトキハ直ニ事業官廳ニ其ノ旨報告スベシ

第十一條 事業官廳ハ官廳從業者死亡シタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ十四日以內ニ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ施行令第二十二條ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ通知スベシ

第十二條 官廳從業者ハ施行令第二條第一號、第三號乃至第六號、第十二號、第十三號又ハ第十五號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ直ニ事業官廳ニ其ノ旨報告スベシ

第十三條 厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ國民勞務手帳法第十六條第一項ノ規定ニ拘ラズ事業官廳ニ對シ官廳從業者ニ關シ通知ヲ求ムルコトヲ得

厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長國民勞務手帳法第十六條第一項ノ規定ニ依リ官廳從業者ニ對シ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報告ヲ徵スルトキハ事業官廳ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第十四條 國民勞務手帳法第十六條第二項及第三項ノ規定ハ國ノ事業ニ關シテハ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ國民勞務手帳法第二條ノ規定實施ノ爲ニ豫メ必要ナル範圍內ニ於テハ同年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年九月三十日迄ニ官廳從業者タルニ至リタル者ニシテ引續キ同年十月一日以後官廳從業者タラントスルモノハ施行令附則第二項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ事業官廳ヲ經由シ事業官廳ノ所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ國民勞務手帳ノ交付ヲ申請スベシ

前項ノ申請ニ基キ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者其ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ昭和十六年九月三十日迄ニ施

第五部

勞務配置關係

行令第二條第一號、第三號乃至第九號又ハ第十一號乃至第十三號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨國民勞務手帳ニ記載シ同年十月十四日迄ニ事業官廳ヲ經由シテ當該國民勞務手帳ノ提示ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ報告スベシ但シ國民職業能力申告令ニ依リ申告シ居ル要申告者タル者（同令第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付當該變更ニ關シ同令第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依ル申告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一三二、學校卒業者使用制限令

（昭和十三年八月二十四日勅令第五百九十九號
昭和十六年十一月二十六日勅令第九百十六號改正
昭和十七年十一月一日勅令第七百八十一號改正）

第一條　厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準ズベキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ本令施行後ニ於テ卒業スル者（以下卒業者ト稱ス）ノ國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク使用制限ハ制段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ學校ノ程度及學科別ニ各年ノ卒業者ノ使用員數ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二條ノ二　厚生大臣卒業者ノ使用制限上特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第三條　厚生大臣第二條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第四條　厚生大臣必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ニ付卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監）必要ト認ムルトキハ卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ノ工場、事業場又ハ事務所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

第五條　本令ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ於テ卒業者ヲ吏員トシテ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　本令ハ國又ハ都道府縣ニ於ケル卒業者ノ使用ニハ之ヲ適用セズ

第七條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

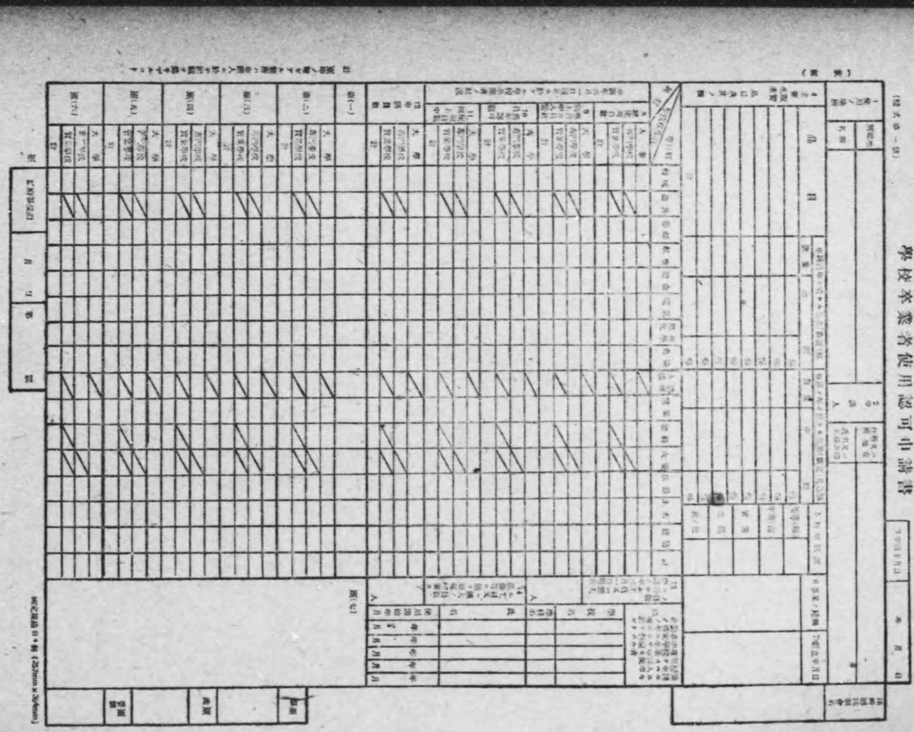
附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一三三、學校卒業者使用制限令施行規則

第一條　學校卒業者使用制限令（以下令ト稱ス）第二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ別ニ定ムル期間内ニ樣式第一號ニ依リ申請スベシ

第二條　前條ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ使用シ得ベキ卒業者アルトキ其ノ他特別ノ必要アルト



学校卒業者雇用認可申請書

（第一号様式）

（第一面）

（第二面）

（第三面）

（第四面）

（第五面）

（第六面）

（第七面）

（第八面）

（第九面）

（第十面）

（第十一面）

（第十二面）

（第十三面）

（第十四面）

（第十五面）

（第十六面）

（第十七面）

（第十八面）

（第十九面）

（第二十面）

（第二十一面）

（第二十二面）

（第二十三面）

（第二十四面）

（第二十五面）

（第二十六面）

（第二十七面）

（第二十八面）

（第二十九面）

（第三十面）

（第三十一面）

（第三十二面）

（第三十三面）

（第三十四面）

（第三十五面）

（第三十六面）

（第三十七面）

（第三十八面）

（第三十九面）

（第四十面）

（第四十一面）

（第四十二面）

（第四十三面）

（第四十四面）

（第四十五面）

（第四十六面）

（第四十七面）

（第四十八面）

（第四十九面）

（第五十面）

（第五十一面）

（第五十二面）

（第五十三面）

（第五十四面）

（第五十五面）

（第五十六面）

（第五十七面）

（第五十八面）

（第五十九面）

（第六十面）

（第六十一面）

（第六十二面）

（第六十三面）

（第六十四面）

（第六十五面）

（第六十六面）

（第六十七面）

（第六十八面）

（第六十九面）

（第七十面）

（第七十一面）

（第七十二面）

（第七十三面）

（第七十四面）

（第七十五面）

（第七十六面）

（第七十七面）

（第七十八面）

（第七十九面）

（第八十面）

（第八十一面）

（第八十二面）

（第八十三面）

（第八十四面）

（第八十五面）

（第八十六面）

（第八十七面）

（第八十八面）

（第八十九面）

（第九十面）

（第九十一面）

（第九十二面）

（第九十三面）

（第九十四面）

（第九十五面）

（第九十六面）

（第九十七面）

（第九十八面）

（第九十九面）

（第百面）

（第百一面）

（第百二面）

（第百三面）

（第百四面）

（第百五面）

（第百六面）

（第百七面）

（第百八面）

（第百九面）

（第百十面）

（第百十一面）

（第百十二面）

（第百十三面）

（第百十四面）

（第百十五面）

（第百十六面）

（第百十七面）

（第百十八面）

（第百十九面）

（第百二十面）

（第百二十一面）

（第百二十二面）

（第百二十三面）

（第百二十四面）

（第百二十五面）

（第百二十六面）

（第百二十七面）

（第百二十八面）

（第百二十九面）

（第百三十面）

（第百三十一面）

（第百三十二面）

（第百三十三面）

（第百三十四面）

（第百三十五面）

（第百三十六面）

（第百三十七面）

（第百三十八面）

（第百三十九面）

（第百四十面）

（第百四十一面）

（第百四十二面）

（第百四十三面）

（第百四十四面）

（第百四十五面）

（第百四十六面）

（第百四十七面）

（第百四十八面）

（第百四十九面）

（第百五十面）

（第百五十一面）

（第百五十二面）

（第百五十三面）

（第百五十四面）

（第百五十五面）

（第百五十六面）

（第百五十七面）

（第百五十八面）

（第百五十九面）

（第百六十面）

（第百六十一面）

（第百六十二面）

（第百六十三面）

（第百六十四面）

（第百六十五面）

（第百六十六面）

（第百六十七面）

（第百六十八面）

（第百六十九面）

（第百七十面）

（第百七十一面）

（第百七十二面）

（第百七十三面）

（第百七十四面）

（第百七十五面）

（第百七十六面）

（第百七十七面）

（第百七十八面）

（第百七十九面）

（第百八十面）

（第百八十一面）

（第百八十二面）

（第百八十三面）

（第百八十四面）

（第百八十五面）

（第百八十六面）

（第百八十七面）

（第百八十八面）

（第百八十九面）

（第百九十面）

（第百九十一面）

（第百九十二面）

（第百九十三面）

（第百九十四面）

（第百九十五面）

（第百九十六面）

（第百九十七面）

（第百九十八面）

（第百九十九面）

（第二百面）

（第二百一面）

（第二百二面）

（第二百三面）

（第二百四面）

（第二百五面）

（第二百六面）

（第二百七面）

（第二百八面）

（第二百九面）

（第二百十面）

（第二百十一面）

（第二百十二面）

（第二百十三面）

（第二百十四面）

（第二百十五面）

（第二百十六面）

（第二百十七面）

（第二百十八面）

（第二百十九面）

（第二百二十面）

（第二百二十一面）

（第二百二十二面）

（第二百二十三面）

（第二百二十四面）

（第二百二十五面）

（第二百二十六面）

（第二百二十七面）

（第二百二十八面）

（第二百二十九面）

（第二百三十面）

（第二百三十一面）

（第二百三十二面）

（第二百三十三面）

（第二百三十四面）

（第二百三十五面）

（第二百三十六面）

（第二百三十七面）

（第二百三十八面）

（第二百三十九面）

（第二百四十面）

（第二百四十一面）

（第二百四十二面）

（第二百四十三面）

（第二百四十四面）

（第二百四十五面）

（第二百四十六面）

（第二百四十七面）

（第二百四十八面）

（第二百四十九面）

（第二百五十面）

（第二百五十一面）

（第二百五十二面）

（第二百五十三面）

（第二百五十四面）

（第二百五十五面）

（第二百五十六面）

（第二百五十七面）

（第二百五十八面）

（第二百五十九面）

（第二百六十面）

（第二百六十一面）

（第二百六十二面）

（第二百六十三面）

（第二百六十四面）

（第二百六十五面）

（第二百六十六面）

（第二百六十七面）

（第二百六十八面）

（第二百六十九面）

（第二百七十面）

（第二百七十一面）

（第二百七十二面）

（第二百七十三面）

（第二百七十四面）

（第二百七十五面）

（第二百七十六面）

（第二百七十七面）

（第二百七十八面）

（第二百七十九面）

（第二百八十面）

（第二百八十一面）

（第二百八十二面）

（第二百八十三面）

（第二百八十四面）

（第二百八十五面）

（第二百八十六面）

（第二百八十七面）

（第二百八十八面）

（第二百八十九面）

（第二百九十面）

（第二百九十一面）

（第二百九十二面）

（第二百九十三面）

（第二百九十四面）

（第二百九十五面）

（第二百九十六面）

（第二百九十七面）

（第二百九十八面）

（第二百九十九面）

（第三百面）

（第三百一面）

（第三百二面）

（第三百三面）

（第三百四面）

（第三百五面）

（第三百六面）

（第三百七面）

（第三百八面）

（第三百九面）

（第三百十面）

（第三百十一面）

（第三百十二面）

（第三百十三面）

（第三百十四面）

（第三百十五面）

（第三百十六面）

（第三百十七面）

（第三百十八面）

（第三百十九面）

（第三百二十面）

（第三百二十一面）

（第三百二十二面）

（第三百二十三面）

（第三百二十四面）

（第三百二十五面）

（第三百二十六面）

（第三百二十七面）

（第三百二十八面）

（第三百二十九面）

（第三百三十面）

（第三百三十一面）

（第三百三十二面）

（第三百三十三面）

（第三百三十四面）

（第三百三十五面）

（第三百三十六面）

（第三百三十七面）

（第三百三十八面）

（第三百三十九面）

（第三百四十面）

（第三百四十一面）

（第三百四十二面）

（第三百四十三面）

（第三百四十四面）

（第三百四十五面）

（第三百四十六面）

（第三百四十七面）

（第三百四十八面）

（第三百四十九面）

（第三百五十面）

（第三百五十一面）

（第三百五十二面）

（第三百五十三面）

（第三百五十四面）

（第三百五十五面）

（第三百五十六面）

（第三百五十七面）

（第三百五十八面）

（第三百五十九面）

（第三百六十面）

（第三百六十一面）

（第三百六十二面）

（第三百六十三面）

（第三百六十四面）

（第三百六十五面）

（第三百六十六面）

（第三百六十七面）

（第三百六十八面）

（第三百六十九面）

（第三百七十面）

（第三百七十一面）

（第三百七十二面）

（第三百七十三面）

（第三百七十四面）

（第三百七十五面）

（第三百七十六面）

（第三百七十七面）

（第三百七十八面）

（第三百七十九面）

（第三百八十面）

（第三百八十一面）

（第三百八十二面）

（第三百八十三面）

（第三百八十四面）

（第三百八十五面）

（第三百八十六面）

（第三百八十七面）

（第三百八十八面）

（第三百八十九面）

（第三百九十面）

（第三百九十一面）

（第三百九十二面）

（第三百九十三面）

（第三百九十四面）

（第三百九十五面）

（第三百九十六面）

（第三百九十七面）

（第三百九十八面）

（第三百九十九面）

（第四百面）

（第四百一面）

（第四百二面）

（第四百三面）

（第四百四面）

（第四百五面）

（第四百六面）

（第四百七面）

（第四百八面）

（第四百九面）

（第四百十面）

（第四百十一面）

（第四百十二面）

（第四百十三面）

（第四百十四面）

（第四百十五面）

（第四百十六面）

（第四百十七面）

（第四百十八面）

（第四百十九面）

（第四百二十面）

（第四百二十一面）

（第四百二十二面）

（第四百二十三面）

（第四百二十四面）

（第四百二十五面）

（第四百二十六面）

（第四百二十七面）

（第四百二十八面）

（第四百二十九面）

（第四百三十面）

（第四百三十一面）

（第四百三十二面）

（第四百三十三面）

（第四百三十四面）

（第四百三十五面）

（第四百三十六面）

（第四百三十七面）

（第四百三十八面）

（第四百三十九面）

（第四百四十面）

（第四百四十一面）

（第四百四十二面）

（第四百四十三面）

（第四百四十四面）

（第四百四十五面）

（第四百四十六面）

（第四百四十七面）

（第四百四十八面）

（第四百四十九面）

（第四百五十面）

（第四百五十一面）

（第四百五十二面）

（第四百五十三面）

（第四百五十四面）

（第四百五十五面）

（第四百五十六面）

（第四百五十七面）

（第四百五十八面）

（第四百五十九面）

（第四百六十面）

（第四百六十一面）

（第四百六十二面）

（第四百六十三面）

（第四百六十四面）

（第四百六十五面）

（第四百六十六面）

（第四百六十七面）

（第四百六十八面）

（第四百六十九面）

（第四百七十面）

（第四百七十一面）

（第四百七十二面）

（第四百七十三面）

（第四百七十四面）

（第四百七十五面）

（第四百七十六面）

（第四百七十七面）

（第四百七十八面）

（第四百七十九面）

（第四百八十面）

（第四百八十一面）

（第四百八十二面）

（第四百八十三面）

（第四百八十四面）

（第四百八十五面）

（第四百八十六面）

（第四百八十七面）

（第四百八十八面）

（第四百八十九面）

（第四百九十面）

（第四百九十一面）

（第四百九十二面）

（第四百九十三面）

（第四百九十四面）

（第四百九十五面）

（第四百九十六面）

（第四百九十七面）

（第四百九十八面）

（第四百九十九面）

（第五百面）

（第五百一面）

（第五百二面）

（第五百三面）

（第五百四面）

（第五百五面）

（第五百六面）

（第五百七面）

（第五百八面）

（第五百九面）

（第五百十面）

（第五百十一面）

（第五百十二面）

（第五百十三面）

（第五百十四面）

（第五百十五面）

（第五百十六面）

（第五百十七面）

（第五百十八面）

（第五百十九面）

（第五百二十面）

（第五百二十一面）

（第五百二十二面）

（第五百二十三面）

（第五百二十四面）

（第五百二十五面）

（第五百二十六面）

（第五百二十七面）

（第五百二十八面）

（第五百二十九面）

（第五百三十面）

（第五百三十一面）

（第五百三十二面）

（第五百三十三面）

（第五百三十四面）

（第五百三十五面）

（第五百三十六面）

（第五百三十七面）

（第五百三十八面）

（第五百三十九面）

（第五百四十面）

（第五百四十一面）

（第五百四十二面）

（第五百四十三面）

（第五百四十四面）

（第五百四十五面）

（第五百四十六面）

（第五百四十七面）

（第五百四十八面）

（第五百四十九面）

（第五百五十面）

（第五百五十一面）

（第五百五十二面）

（第五百五十三面）

（第五百五十四面）

（第五百五十五面）

（第五百五十六面）

（第五百五十七面）

（第五百五十八面）

（第五百五十九面）

（第五百六十面）

（第五百六十一面）

（第五百六十二面）

（第五百六十三面）

（第五百六十四面）

（第五百六十五面）

（第五百六十六面）

（第五百六十七面）

（第五百六十八面）

（第五百六十九面）

（第五百七十面）

（第五百七十一面）

（第五百七十二面）

（第五百七十三面）

（第五百七十四面）

（第五百七十五面）

（第五百七十六面）

（第五百七十七面）

（第五百七十八面）

（第五百七十九面）

（第五百八十面）

（第五百八十一面）

（第五百八十二面）

（第五百八十三面）

（第五百八十四面）

（第五百八十五面）

（第五百八十六面）

（第五百八十七面）

（第五百八十八面）

（第五百八十九面）

（第五百九十面）

（第五百九十一面）

（第五百九十二面）

（第五百九十三面）

（第五百九十四面）

（第五百九十五面）

（第五百九十六面）

（第五百九十七面）

（第五百九十八面）

（第五百九十九面）

（第六百面）

（第六百一面）

（第六百二面）

（第六百三面）

（第六百四面）

（第六百五面）

（第六百六面）

（第六百七面）

（第六百八面）

（第六百九面）

（第六百十面）

（第六百十一面）

（第六百十二面）

（第六百十三面）

（第六百十四面）

（第六百十五面）

（第六百十六面）

（第六百十七面）

（第六百十八面）

（第六百十九面）

（第六百二十面）

（第六百二十一面）

（第六百二十二面）

（第六百二十三面）

（第六百二十四面）

（第六百二十五面）

（第六百二十六面）

（第六百二十七面）

（第六百二十八面）

（第六百二十九面）

（第六百三十面）

（第六百三十一面）

（第六百三十二面）

（第六百三十三面）

（第六百三十四面）

（第六百三十五面）

（第六百三十六面）

（第六百三十七面）

（第六百三十八面）

（第六百三十九面）

（第六百四十面）

（第六百四十一面）

（第六百四十二面）

（第六百四十三面）

（第六百四十四面）

（第六百四十五面）

（第六百四十六面）

（第六百四十七面）

（第六百四十八面）

（第六百四十九面）

（第六百五十面）

（第六百五十一面）

（第六百五十二面）

（第六百五十三面）

（第六百五十四面）

（第六百五十五面）

（第六百五十六面）

（第六百五十七面）

（第六百五十八面）

（第六百五十九面）

（第六百六十面）

（第六百六十一面）

（第六百六十二面）

（第六百六十三面）

（第六百六十四面）

（第六百六十五面）

（第六百六十六面）

（第六百六十七面）

（第六百六十八面）

（第六百六十九面）

（第六百七十面）

（第六百七十一面）

（第六百七十二面）

（第六百七十三面）

（第六百七十四面）

（第六百七十五面）

（第六百七十六面）

（第六百七十七面）

（第六百七十八面）

（第六百七十九面）

（第六百八十面）

（第六百八十一面）

（第六百八十二面）

（第六百八十三面）

（第六百八十四面）

（第六百八十五面）

（第六百八十六面）

（第六百八十七面）

（第六百八十八面）

（第六百八十九面）

（第六百九十面）

（第六百九十一面）

（第六百九十二面）

（第六百九十三面）

（第六百九十四面）

（第六百九十五面）

（第六百九十六面）

（第六百九十七面）

（第六百九十八面）

（第六百九十九面）

（第七百面）

（第七百一面）

（第七百二面）

（第七百三面）

（第七百四面）

（第七百五面）

（第七百六面）

（第七百七面）

（第七百八面）

（第七百九面）

（第七百十面）

（第七百十一面）

（第七百十二面）

（第七百十三面）

（第七百十四面）

（第七百十五面）

（第七百十六面）

（第七百十七面）

（第七百十八面）

（第七百十九面）

（第七百二十面）

（第七百二十一面）

（第七百二十二面）

（第七百二十三面）

（第七百二十四面）

（第七百二十五面）

（第七百二十六面）

（第七百二十七面）

（第七百二十八面）

（第七百二十九面）

（第七百三十面）

（第七百三十一面）

（第七百三十二面）

（第七百三十三面）

（第七百三十四面）

（第七百三十五面）

（第七百三十六面）

（第七百三十七面）

（第七百三十八面）

（第七百三十九面）

（第七百四十面）

（第七百四十一面）

（第七百四十二面）

（第七百四十三面）

（第七百四十四面）

（第七百四十五面）

（第七百四十六面）

（第七百四十七面）

（第七百四十八面）

（第七百四十九面）

（第七百五十面）

（第七百五十一面）

（第七百五十二面）

（第七百五十三面）

（第七百五十四面）

（第七百五十五面）

（第七百五十六面）

（第七百五十七面）

（第七百五十八面）

（第七百五十九面）

（第七百六十面）

（第七百六十一面）

（第七百六十二面）

（第七百六十三面）

（第七百六十四面）

（第七百六十五面）

（第七百六十六面）

（第七百六十七面）

（第七百六十八面）

（第七百六十九面）

（第七百七十面）

（第七百七十一面）

（第七百七十二面）

（第七百七十三面）

（第七百七十四面）

（第七百七十五面）

（第七百七十六面）

（第七百七十七面）

（第七百七十八面）

（第七百七十九面）

（第七百八十面）

（第七百八十一面）

（第七百八十二面）

（第七百八十三面）

（第七百八十四面）

（第七百八十五面）

（第七百八十六面）

（第七百八十七面）

（第七百八十八面）

（第七百八十九面）

（第七百九十面）

（第七百九十一面）

（第七百九十二面）

（第七百九十三面）

（第七百九十四面）

（第七百九十五面）

（第七百九十六面）

（第七百九十七面）

（第七百九十八面）

（第七百九十九面）

（第八百面）

（第八百一面）

（第八百二面）

（第八百三面）

（第八百四面）

（第八百五面）

（第八百六面）

（第八百七面）

（第八百八面）

（第八百九面）

（第八百十面）

（第八百十一面）

（第八百十二面）

（第八百十三面）

（第八百十四面）

（第八百十五面）

（第八百十六面）

（第八百十七面）

（第八百十八面）

（第八百十九面）

（第八百二十面）

（第八百二十一面）

（第八百二十二面）

（第八百二十三面）

（第八百二十四面）

（第八百二十五面）

（第八百二十六面）

（第八百二十七面）

（第八百二十八面）

（第八百二十九面）

（第八百三十面）

（第八百三十一面）

（第八百三十二面）

（第八百三十三面）

（第八百三十四面）

（第八百三十五面）

（第八百三十六面）

（第八百三十七面）

（第八百三十八面）

（第八百三十九面）

（第八百四十面）

（第八百四十一面）

（第八百四十二面）

（第八百四十三面）

（第八百四十四面）

（第八百四十五面）

（第八百四十六面）

（第八百四十七面）

（第八百四十八面）

（第八百四十九面）

（第八百五十面）

（第八百五十一面）

（第八百五十二面）

（第八百五十三面）

（第八百五十四面）

（第八百五十五面）

（第八百五十六面）

（第八百五十七面）

（第八百五十八面）

（第八百五十九面）

（第八百六十面）

（第八百六十一面）

（第八百六十二面）

（第八百六十三面）

（第八百六十四面）

（第八百六十五面）

（第八百六十六面）

（第八百六十七面）

（第八百六十八面）

（第八百六十九面）

（第八百七十面）

（第八百七十一面）

（第八百七十二面）

（第八百七十三面）

（第八百七十四面）

（第八百七十五面）

（第八百七十六面）

（第八百七十七面）

（第八百七十八面）

（第八百七十九面）

（第八百八十面）

（第八百八十一面）

（第八百八十二面）

（第八百八十三面）

（第八百八十四面）

（第八百八十五面）

（第八百八十六面）

（第八百八十七面）

（第八百八十八面）

（第八百八十九面）

（第八百九十面）

（第八百九十一面）

（第八百九十二面）

（第八百九十三面）

（第八百九十四面）

（第八百九十五面）

（第八百九十六面）

（第八百九十七面）

（第八百九十八面）

（第八百九十九面）

（第九百面）

（第九百一面）

（第九百二面）

（第九百三面）

（第九百四面）

（第九百五面）

（第九百六面）

（第九百七面）

（第九百八面）

（第九百九面）

（第九百十面）

（第九百十一面）

（第九百十二面）

（第九百十三面）

（第九百十四面）

（第九百十五面）

（第九百十六面）

（第九百十七面）

（第九百十八面）

（第九百十九面）

（第九百二十面）

（第九百二十一面）

（第九百二十二面）

（第九百二十三面）

（第九百二十四面）

（第九百二十五面）

（第九百二十六面）

（第九百二十七面）

（第九百二十八面）

（第九百二十九面）

（第九百三十面）

（第九百三十一面）

（第九百三十二面）

（第九百三十三面）

（第九百三十四面）

（第九百三十五面）

（第九百三十六面）

（第九百三十七面）

（第九百三十八面）

（第九百三十九面）

（第九百四十面）

（第九百四十一面）

（第九百四十二面）

（第九百四十三面）

（第九百四十四面）

（第九百四十五面）

（第九百四十六面）

（第九百四十七面）

（第九百四十八面）

（第九百四十九面）

（第九百五十面）

（第九百五十一面）

（第九百五十二面）

（第九百五十三面）

（第九百五十四面）

（第九百五十五面）

（第九百五十六面）

（第九百五十七面）

（第九百五十八面）

（第九百五十九面）

（第九百六十面）

（第九百六十一面）

（第九百六十二面）

（第九百六十三面）

（第九百六十四面）

（第九百六十五面）

（第九百六十六面）

（第九百六十七面）

（第九百六十八面）

（第九百六十九面）

（第九百七十面）

（第九百七十一面）

（第九百七十二面）

（第九百七十三面）

（第九百七十四面）

（第九百七十五面）

（第九百七十六面）

（第九百七十七面）

（第九百七十八面）

（第九百七十九面）

（第九百八十面）

（第九百八十一面）

（第九百八十二面）

（第九百八十三面）

（第九百八十四面）

（第九百八十五面）

（第九百八十六面）

（第九百八十七面）

（第九百八十八面）

（第九百八十九面）

（第九百九十面）

（第九百九十一面）

（第九百九十二面）

（第九百九十三面）

（第九百九十四面）

（第九百九十五面）

（第九百九十六面）

（第九百九十七面）

（第九百九十八面）

（第九百九十九面）

（第千面）

（第千一面）

（第千二面）

（第千三面）

（第千四面）

（第千五面）

（第千六面）

（第千七面）

（第千八面）

（第千九面）

（第千十面）

（第千十一面）

（第千十二面）

（第千十三面）

（第千十四面）

（第千十五面）

（第千十六面）

（第千十七面）

（第千十八面）

（第千十九面）

（第千二十面）

（第千二十一面）

（第千二十二面）

（第千二十三面）

（第千二十四面）

（第千二十五面）

（第千二十六面）

（第千二十七面）

（第千二十八面）

（第千二十九面）

（第千三十面）

（第千三十一面）

（第千三十二面）

（第千三十三面）

（第千三十四面）

（第千三十五面）

（第千三十六面）

（第千三十七面）

（第千三十八面）

（第千三十九面）

（第千四十面）

（第千四十一面）

（第千四十二面）

（第千四十三面）

（第千四十四面）

（第千四十五面）

（第千四十六面）

（第千四十七面）

（第千四十八面）

（第千四十九面）

（第千五十面）

（第千五十一面）

（第千五十二面）

（第千五十三面）

（第千五十四面）

（第千五十五面）

（第千五十六面）

（第千五十七面）

（第千五十八面）

（第千五十九面）

（第千六十面）

（第千六十一面）

（第千六十二面）

（第千六十三面）

（第千六十四面）

（第千六十五面）

（第千六十六面）

（第千六十七面）

（第千六十八面）

（第千六十九面）

（第千七十面）

（第千七十一面）

（第千七十二面）

（第千七十三面）

（第千七十四面）

（第千七十五面）

（第千七十六面）

（第千七十七面）

（第千七十八面）

（第千七十九面）

（第千八十面）

（第千八十一面）

（第千八十二面）

（第千八十三面）

（第千八十四面）

（第千八十五面）

（第千八十六面）

（第千八十七面）

（第千八十八面）

（第千八十九面）

（第千九十面）

（第千九十一面）

（第千九十二面）

（第千九十三面）

（第千九十四面）

（第千九十五面）

（第千九十六面）

（第千九十七面）

（第千九十八面）

（第千九十九面）

（第千百面）

（第千百一面）

（第千百二面）

（第千百三面）

（第千百四面）

（第千百五面）

（第千百六面）

（第千百七面）

（第千百八面）

（第千百九面）

（第千百十面）

（第千百十一面）

（第千百十二面）

（第千百十三面）

（第千百十四面）

（第千百十五面）

（第千百十六面）

（第千百十七面）

（第千百十八面）

（第千百十九面）

（第千百二十面）

（第千百二十一面）

（第千百二十二面）

（第千百二十三面）

（第千百二十四面）

（第千百二十五面）

（第千百二十六面）

（第千百二十七面）

（第千百二十八面）

（第千百二十九面）

（第千百三十面）

（第千百三十一面）

（第千百三十二面）

（第千百三十三面）

（第千百三十四面）

（第千百三十五面）

（第千百三十六面）

（第千百三十七面）

（第千百三十八面）

（第千百三十九面）

（第千百四十面）

（第千百四十一面）

（第千百四十二面）

（第千百四十三面）

（第千百四十四面）

（第千百四十五面）

（第千百四十六面）

（第千百四十七面）

（第千百四十八面）

（第千百四十九面）

（第千百五十面）

（第千百五十一面）

（第千百五十二面）

（第千百五十三面）

（第千百五十四面）

（第千百五十五面）

（第千百五十六面）

（第千百五十七面）

（第千百五十八面）

（第千百五十九面）

（第千百六十面）

（第千百六十一面）

（第千百六十二面）

（第千百六十三面）

（第千百六十四面）

（第千百六十五面）

（第千百六十六面）

（第千百六十七面）

（第千百六十八面）

（第千百六十九面）

（第千百七十面）

（第千百七十一面）

（第千百七十二面）

（第千百七十三面）

（第千百七十四面）

（第千百七十五面）

（第千百七十六面）

（第千百七十七面）

（第千百七十八面）

（第千百七十九面）

（第千百八十面）

（第千百八十一面）

（第千百八十二面）

（第千百八十三面）

（第千百八十四面）

（第千百八十五面）

（第千百八十六面）

（第千百八十七面）

（第千百八十八面）

（第千百八十九面）

（第千百九十面）

（第千百九十一面）

（第千百九十二面）

（第千百九十三面）

（第千百九十四面）

（第千百九十五面）

（第千百九十六面）

（第千百九十七面）

（第千百九十八面）

（第千百九十九面）

（第千二百面）

（第千二百一面）

（第千二百二面）

（第千二百三面）

（第千二百四面）

（第千二百五面）

（第千二百六面）

（第千二百七面）

（第千二百八面）

（第千二百九面）

（第千二百十面）

（第千二百十一面）

（第千二百十二面）

（第千二百十三面）

（第千二百十四面）

（第千二百十五面）

（第千二百十六面）

（第千二百十七面）

（第千二百十八面）

（第千二百十九面）

（第千二百二十面）

（第千二百二十一面）

（第千二百二十二面）

（第千二百二十三面）

（第千二百二十四面）

（第千二百二十五面）

（第千二百二十六面）

（第千二百二十七面）

（第千二百二十八面）

（第千二百二十九面）

（第千二百三十面）

（第千二百三十一面）

（第千二百三十二面）

（第千二百三十三面）

（第千二百三十四面）

（第千二百三十五面）

（第千二百三十六面）

（第千二百三十七面）

（第千二百三十八面）

（第千二百三十九面）

（第千二百四十面）

（第千二百四十一面）

（第千二百四十二面）

（第千二百四十三面）

（第千二百四十四面）

（第千二百四十五面）

（第千二百四十六面）

（第千二百四十七面）

（第千二百四十八面）

（第千二百四十九面）

（第千二百五十面）

（第千二百五十一面）

（第千二百五十二面）

（第千二百五十三面）

（第千二百五十四面）

（第千二百五十五面）

（第千二百五十六面）

（第千二百五十七面）

（第千二百五十八面）

（第千二百五十九面）

（第千二百六十面）

（第千二百六十一面）

（第千二百六十二面）

（第千二百六十三面）

（第千二百六十四面）

（第千二百六十五面）

（第千二百六十六面）

（第千二百六十七面）

（第千二百六十八面）

（第千二百六十九面）

（第千二百七十面）

（第千二百七十一面）

（第千二百七十二面）

（第千二百七十三面）

（第千二百七十四面）

（第千二百七十五面）

（第千二百七十六面）

（第千二百七十七面）

（第千二百七十八面）

（第千二百七十九面）

（第千二百八十面）

（第千二百八十一面）

（第千二百八十二面）

（第千二百八十三面）

（第千二百八十四面）

（第千二百八十五面）

（第千二百八十六面）

（第千二百八十七面）

（第千二百八十八面）

（第千二百八十九面）

（第千二百九十面）

（第千二百九十一面）

（第千二百九十二面）

（第千二百九十三面）

（第千二百九十四面）

（第千二百九十五面）

（第千二百九十六面）

（第千二百九十七面）

（第千二百九十八面）

（第千二百九十九面）

（第千三百面）

（第千三百一面）

（第千三百二面）

（第千三百三面）

（第千三百四面）

（第千三百五面）

（第千三百六面）

（第千三百七面）

（第千三百八面）

（第千三百九面）

（第千三百十面）

（第千三百十一面）

（第千三百十二面）

（第千三百十三面）

（第千三百十四面）

（第千三百十五面）

（第千三百十六面）

（第千三百十七面）

（第千三百十八面）

（第千三百十九面）

（第千三百二十面）

（第千三百二十一面）

（第千三百二十二面）

（第千三百二十三面）

（第千三百二十四面）

（第千三百二十五面）

（第千三百二十六面）

（第千三百二十七面）

（第千三百二十八面）

（第千三百二十九面）

（第千三百三十面）

（第千三百三十一面）

（第千三百三十二面）

（第千三百三十三面）

（第千三百三十四面）

（第千三百三十五面）

（第千三百三十六面）

（第千三百三十七面）

（第千三百三十八面）

（第千三百三十九面）

（第千三百四十面）

（第千三百四十一面）

（第千三百四十二面）

（第千三百四十三面）

（第千三百四十四面）

（第千三百四十五面）

（第千三百四十六面）

（第千三百四十七面）

（第千三百四十八面）

（第千三百四十九面）

（第千三百五十面）

（第千三百五十一面）

（第千三百五十二面）

（第千三百五十三面）

（第千三百五十四面）

（第千三百五十五面）

（第千三百五十六面）

（第千三百五十七面）

（第千三百五十八面）

（第千三百五十九面）

（第千三百六十面）

（第千三百六十一面）

（第千三百六十二面）

（第千三百六十三面）

（第千三百六十四面）

（第千三百六十五面）

（第千三百六十六面）

（第千三百六十七面）

（第千三百六十八面）

（第千三百六十九面）

（第千三百七十面）

（第千三百七十一面）

（第千三百七十二面）

（第千三百七十三面）

（第千三百七十四面）

（第千三百七十五面）

（第千三百七十六面）

（第千三百七十七面）

（第千三百七十八面）

（第千三百七十九面）

（第千三百八十面）

（第千三百八十一面）

（第千三百八十二面）

（第千三百八十三面）

（第千三百八十四面）

（第千三百八十五面）

（第千三百八十六面）

（第千三百八十七面）

（第千三百八十八面）

（第千三百八十九面）

（第千三百九十面）

（第千三百九十一面）

（第千三百九十二面）

（第千三百九十三面）

（第千三百九十四面）

（第千三百九十五面）

（第千三百九十六面）

（第千三百九十七面）

（第千三百九十八面）

（第千三百九十九面）

（第千四百面）

（第千四百一面）

（第千四百二面）

（第千四百三面）

（第千四百四面）

（第千四百五面）

（第千四百六面）

（第千四百七面）

（第千四百八面）

（第千四百九面）

（第千四百十面）

（第千四百十一面）

（第千四百十二面）

（第千四百十三面）

（第千四百十四面）

（第千四百十五面）

（第千四百十六面）

（第千四百十七面）

（第千四百十八面）

（第千四百十九面）

（第千四百二十面）

（第千四百二十一面）

（第千四百二十二面）

（第千四百二十三面）

（第千四百二十四面）

（第千四百二十五面）

（第千四百二十六面）

（第千四百二十七面）

（第千四百二十八面）

（第千四百二十九面）

（第千四百三十面）

（第千四百三十一面）

（第千四百三十二面）

（第千四百三十三面）

（第千四百三十四面）

（第千四百三十五面）

（第千四百三十六面）

（第千四百三十七面）

（第千四百三十八面）

（第千四百三十九面）

（第千四百四十面）

（第千四百四十一面）

（第千四百四十二面）

（第千四百四十三面）

（第千四百四十四面）

（第千四百四十五面）

（第千四百四十六面）

（第千四百四十七面）

（第千四百四十八面）

（第千四百四十九面）

（第千四百五十面）

（第千四百五十一面）

（第千四百五十二面）

（第千四百五十三面）

（第千四百五十四面）

（第千四百五十五面）

（第千四百五十六面）

（第千四百五十七面）

（第千四百五十八面）

（第千四百五十九面）

（第千四百六十面）

（第千四百六十一面）

（第千四百六十二面）

（第千四百六十三面）

（第千四百六十四面）

（第千四百六十五面）

（第千四百六十六面）

（第千四百六十七面）

（第千四百六十八面）

（第千四百六十九面）

（第千四百七十面）

（第千四百七十一面）

（第千四百七十二面）

（第千四百七十三面）

（第千四百七十四面）

（第千四百七十五面）

（第千四百七十六面）

（第千四百七十七面）

（第千四百七十八面）

（第千四百七十九面）

（第千四百八十面）

（第千四百八十一面）

（第千四百八十二面）

（第千四百八十三面）

（第千四百八十四面）

（第千四百八十五面）

（第千四百八十六面）

（第千四百八十七面）

（第千四百八十八面）

（第千四百八十九面）

（第千四百九十面）

（第千四百九十一面）

（第千四百九十二面）

（第千四百九十三面）

（第千四百九十四面）

（第千四百九十五面）

（第千四百九十六面）

（第千四百九十七面）

（第千四百九十八面）

（第千四百九十九面）

（第千五百面）

（第千五百一面）

（第千五百二面）

（第千五百三面）

（第千五百四面）

（第千五百五面）

（第千五百六面）

（第千五百七面）

（第千五百八面）

（第千五百九面）

（第千五百十面）

（第千五百十一面）

（第千五百十二面）

（第千五百十三面）

（第千五百十四面）

（第千五百十五面）

（第千五百十六面）

（第千五百十七面）

（第千五百十八面）

（第千五百十九面）

（第千五百二十面）

（第千五百二十一面）

（第千五百二十二面）

（第千五百二十三面）

（第千五百二十四面）

（第千五百二十五面）

（第千五百二十六面）

（第千五百二十七面）

（第千五百二十八面）

（第千五百二十九面）

（第千五百三十面）

（第千五百三十一面）

（第千五百三十二面）

（第千五百三十三面）

（第千五百三十四面）

（第千五百三十五面）

（第千五百三十六面）

（第千五百三十七面）

（第千五百三十八面）

（第千五百三十九面）

（第千五百四十面）

（第千五百四十一面）

（第千五百四十二面）

（第千五百四十三面）

（第千五百四十四面）

（第千五百四十五面）

（第千五百四十六面）

（第千五百四十七面）

（第千五百四十八面）

（第千五百四十九面）

（第千五百五十面）

（第千五百五十一面）

（第千五百五十二面）

（第千五百五十三面）

（第千五百五十四面）

（第千五百五十五面）

（第千五百五十六面）

（第千五百五十七面）

（第千五百五十八面）

（第千五百五十九面）

（第千五百六十面）

（第千五百六十一面）

（第千五百六十二面）

（第千五百六十三面）

（第千五百六十四面）

（第千五百六十五面）

（第千五百六十六面）

（第千五百六十七面）

（第千五百六十八面）

（第千五百六十九面）

（第千五百七十面）

（第千五百七十一面）

（第千五百七十二面）

（第千五百七十三面）

（第千五百七十四面）

（第千五百七十五面）

（第千五百七十六面）

（第千五百七十七面）

（第千五百七十八面）

（第千五百七十九面）

（第千五百八十面）

（第千五百八十一面）

（第千五百八十二面）

（第千五百八十三面）

（第千五百八十四面）

（第千五百八十五面）

（第千五百八十六面）

（第千五百八十七面）

（第千五百八十八面）

（第千五百八十九面）

（第千五百九十面）

（第千五百九十一面）

（第千五百九十二面）

（第千五百九十三面）

（第千五百九十四面）

（第千五百九十五面）

（第千五百九十六面）

（第千五百九十七面）

（第千五百九十八面）

（第千五百九十九面）

（第千六百面）

（第千六百一面）

（第千六百二面）

（第千六百三面）

（第千六百四面）

（第千六百五面）

（第千六百六面）

（第千六百七面）

（第千六百八面）

（第千六百九面）

（第千六百十面）

（第千六百十一面）

（第千六百十二面）

（第千六百十三面）

（第千六百十四面）

（第千六百十五面）

（第千六百十六面）

（第千六百十七面）

（第千六百十八面）

（第千六百十九面）

（第千六百二十面）

（第千六百二十一面）

（第千六百二十二面）

（第千六百二十三面）

（第千六百二十四面）

（第千六百二十五面）

（第千六百二十六面）

（第千六百二十七面）

（第千六百二十八面）

（第千六百二十九面）

（第千六百三十面）

（第千六百三十一面）

（第千六百三十二面）

（第千六百三十三面）

（第千六百三十四面）

（第千六百三十五面）

（第千六百三十六面）

（第千六百三十七面）

（第千六百三十八面）

（第千六百三十九面）

（第千六百四十面）

（第千六百四十一面）

（第千六百四十二面）

（第千六百四十三面）

（第千六百四十四面）

（第千六百四十五面）

（第千六百四十六面）

（第千六百四十七面）

（第千六百四十八面）

（第千六百四十九面）

（第千六百五十面）

（第千六百五十一面）

（第千六百五十二面）

（第千六百五十

一、本申請書ハ學校卒業者ヲ使用スベキ工場、事業場又ハ事務所別ニ作成スルコト此ノ場合ニ於テ卒業者ノ勤務スベキ工場、事業場又ハ事務所二以上アルトキハ主トシテ勤務スベキ工場、事業場又ハ事務所ニ付作成シ、勤務ノ性質上其ノ場所一定セザルモノ（例ヘバ電氣業、鐵道及軌道、海運業、航空業、電信電話事業、土木建築業、放送事業等）ニ在リテハ使用者ノ主タル事務所ニ付作成スルコト

二、本申請書ニハ副本二通ヲ作成添附スルコト

三、「主要生產物資品目及其ノ額」ノ欄（）ノ記載ニ付テハ左ニ依ルコト

イ、「生產品目」ハ昭和十四年十二月二十三日商工省告示第三百七十三號ノ生產品名及主要事業分類ノ生產品目名ニ依リ成ルベク具體的ニ記載スルコト

ロ、生產數量ノ單位ハ任意トスルモ全記載ヲ通ジ統一シ、生產金額ニ付テハ各品目別ノ生產金額ノ總生產金額ニ對スル百分比ヲ各生產金額ノ右ノ欄ニ記載スルコト

ハ、軍ヨリ直接受註ノモノニシテ生產額ノ記載困難ナルモノアルトキハ之ヲ記載セザルヲ得ルコト但シ生產品名ハ（イ）ニ依リ必ズ之ヲ記載スルコト

四、「利用狀況」ノ欄(5)ニハ申請ノ時ノ直前ノ事業年度ニ於ケル生產金額ニ依ル百分比ヲ記載シ其ノ「軍需」ノ欄ニハ軍ニ直接納入シタルモノ其ノ他軍ノ用ニ供セラレタルコト明カナルモノ「官需」ノ欄ニハ軍ヲ除ク官廳ニ直接納入シタルモノニ付記載スルコト尙生擴ノ品目ニ付テハ「生擴」ノ欄ニ記載スルコト

五、「事業ノ種類」ノ欄(6)ニハ使用場所ニ於ケル主タル事業ノ種類ヲ具體的ニ例ヘバ石炭鑛業、航空機製造業、石油精製業等ノ如ク記載スルコト

六、學校ノ程度ハ「大學」「專門學校」及「實業學校」トシ學科ハ左ノ例ニ依リ區分シ記載スルコト

機械—機械工學科、機械學科、化學機械科、工作機械科、鑛山機械科、機關科、航空學科ノ發動機分科、計器科、原動機科、紡織機械科、木型科、鑄工科、鑄工冶金科、鍛工科、鍛工冶金科、金屬工藝科、板金科、仕上科、精密機械科、應用物理學科、應用理化學科ノ應用物理分科、理學科ノ應用理學部選擇第一其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

造兵—造兵學科、精密工學科

造船—造船學科、船舶工學科（航空分科ハ之ヲ除ク）其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科

航空—航空學科其ノ他之ニ準ズベキ學科又ハ分科（機關科、航空發動機分科ハ之ヲ除キ造船學科ノ航空分科ヲ含ム）

冶金—冶金學科、金屬工學科、金屬學科、金屬工業科、應用金屬學科、採鑛冶金科ノ冶金分科其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

電氣—電氣工學科、電機科、通信工學科其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科

應用化學—應用化學科、電氣化學科、化學工學科、工業化學科、纖維化學科、應用理化學科ノ應用化學分科、理學科ノ應用理學部選擇第二其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

色染—染料學科、染色學科、色染科、色染仕上科其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

人造纖維—人造纖維科、化學纖維科

窯業—窯業學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

燃料—燃料學科其ノ他之ニ準ズベキ學科

火藥—火藥學科

採鑛—採鑛學科、鑛山工學科、採炭工學科、採鑛冶金科ノ採鑛分科其ノ他之等ノ學科ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

土木—土木工學科其ノ他之ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

建築—建築學科其ノ他之ニ準ズベキ學科又ハ分科（專修ノモノヲ含ム）

七、「總使用員數」ノ欄(7)ニハ當該使用場所ニ於ケル學校卒業者（本令施行前ノ卒業者ヲ含ム）ノ總員數ヲ記載スルコト

八、申請員數ノ欄(12)ハ學校程度及學科別ニ其ノ所要員數ヲ正確ニ記載スルコト

尙大學卒業者ニ付前記ノ分類ニ依ル學科中特ニ專門ノ事項ヲ修メタル者ヲ希望スル場合ハ其ノ專攻ノ事項ヲ明ニシタル書類ヲ別紙添附スルコト

九、「擴張等ニ依リ新規ニ要スル工員又ハ鑛夫ノ員數」ノ欄(14)ニハ具體的ニ確定シ居リ申請ノ年ノ翌年三月末迄ニ計畫實施進捗ノ限度ニ於ケル新規要員數ニシテ雇入確實ナルモノヲ記載スルコト

十、「在勤者中夜間授業ノ指定ノ學校ヲ申請ノ年ニ卒業スベキ者ニシテ申請人ニ於テ引續キ使用セントスルモノ」欄(5)ノ記載ニ際リテハ該當者ノ有無ヲ入念ニ調査シ記載事項ノ正確ヲ期スルコト尙本欄記載ノ者ニ付テハ其ノ學校程度及學科別員數ヲ申請員數(12)中ニ含マシムルコト

十一、申請ノ時迄ノ一年間ニ南方ニ轉出シタル學校卒業者（本令施行前ノ卒業者ヲ含ム）アルトキ又ハ向後一年間ニ南方ヘ轉出セシメントスル學校卒業者ニシテ具體的ニ確定セルモノ乃至見込確實ナルモノアルトキハ其ノ學校程度別及學科別員數ヲ地域別ニ「其ノ他」ノ欄(19)ニ記載スルコト

十二、將來會社ノ理事者タラシムル目的ヲ以テ其ノ會社ノ理事者ノ子弟等ヲ使用セントスル場合其ノ他特定ノ學校卒業者ヲ使用スベキ事情ノ存スル場合ハ其ノ大要ヲ「特ニ斟酌スベキ事情」ノ欄(20)ニ記載スルコト

十三、※印ノ附シアル箇所ハ申請人ニ於テ記載ヲ爲サザルコト

十四、本申請書ハ軍需品ヲ生產スル工場、事業場等ニ付テハ［軍資祕］其ノ他ニ付テハ［極祕］ノ印ヲ捺印スルコト

十五、本申請書ハ卒業者ヲ使用セントスル工場、事業場又ハ事務所所在地ノ所轄地方長官（東京都ニ在リテハ

警視總監、廳業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ鑛山監督局長）宛規定ニ依リ提出スルコト

ハ「學年中調」ト朱書スルコト

様式第二號

書　報告報　使用雇解者　業卒業校學

使用場所	名稱		所在地										
使用雇解ノ年月日	所業ノ種類又ハ事業ノ種類	從事業務	給料	業卒ノ年月	學校名	卒業	了修學科名	氏名					備考

昭和　年　月　日

住所又ハ所在地

使用者　氏名又ハ名稱　㊞

〔報告書作成上ノ注意〕

1　本報告書ノ用紙ノ大サハ國定規格B5判（一五糎×二二糎）トスルコト

2　本報告書ハ工場、事業場又ハ事務所ニ作成スルコト

3　本報告書ノ標題ハ使用報告ニ在リテハ「解雇」ノ文字ヲ、使用セザルニ至リタル報告ニ在リテハ「使用」ノ文字ヲ抹消スルコト

4　「給料」欄ハ使用報告ノミニ之ヲ記載シ之ニ支給スル俸給、給料等ノ基本額ヲ日給、月給ノ區別ヲ明カニシテ記載スルコト、加給諸手當等ハ之ヲ基本給ト區別シテ記載スルハ差支ナキコト

5　「卒業年月」欄ニハ當該學校卒業ノ年月ヲ記載スルコト

6　「卒業學校名」欄ニハ何々大學工學部、何々高等工業學校、何々縣何々工業學校ノ如ク其ノ固有ノ名稱ヲ記載スルコト、尋高級科、第一本科、第二本科等ノ分科アルモノニ付テハ其ノ分科ヲ記載スルコト

7　「修了學科名」欄ニハ當該學校ニ於ケル學科ノ名稱ヲ記載スルコト

8　解雇ノ報告ニハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スルコト

一二三、學校卒業者使用制限令

第一條ノ學校指定

（昭和十三年八月二十六日厚生省告示第百十九號改正昭和十四年五月二十四日厚生省告示第百七十四號改正昭和十五年六月十四日厚生省告示第百七十九號改正昭和十六年四月二日厚生省告示第百二十五號改正昭和十七年三月二十五日厚生省告示第百二十一號改正）

學校卒業者使用制限令第一條ノ學校ヲ左ノ通指定ス

大學

一　大學ノ工學部及理工學部

二　旅順工科大學

三　大學ノ工學部及理工學部ノ研究科（大學院）

四　旅順工科大學ノ研究科

專門學校

一　工業ニ關スル專門學校

二　朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校

三　南滿洲工業專門學校

四　東京物理學校

五　上田蠶絲專門學校

六　日本大學大阪專門學校

實業學校

一　工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）並ニ朝鮮及臺灣ノ工業學校（大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

（一）　尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ

（二）　高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年（夜間授業ノモノニ在リテハ四年）以上トスルモノ

（三）　前二條ト同等以上ノモノ

（四）　工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規程ニ依リ設ケタル第二部

二　大連工業學校

三　撫順工業學校

各種學校

一　工業學校ニ準ズベキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ（夜間授業ノモノヲ除ク）

一三四、學校卒業者使用制限令第一條ノ學科ヲ左ノ通指定ス

（昭和十三年八月三十六日厚生省告示第百二十號
昭和十六年五月二十四日厚生省告示第九十五號改正
昭和十六年六月十六日厚生省告示第百二十六號改正
昭和十七年三月二十九日厚生省告示第百二十六號改正
昭和十八年二月十七日厚生省告示第七十二號改正）

學校卒業者使用制限令第一條ノ學科ヲ左ノ通指定ス

大學ノ研究科

一　大學ノ項ニ掲グル學科ニ關スル事項ヲ研究題目トスルモノ

大學

一　機械工學科（化學機械科其ノ他機械工學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

二　鑛山工學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

三　航空學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

四　造兵學科（精密工學科其ノ他造兵學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

五　電氣工學科（通信工學科其ノ他電氣工學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

六　應用化學科（工業化學科、化學工學科、電氣化學科、纖維化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

七　採鑛冶金學科（鐵山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、金屬學科、應用金屬學科其ノ他採鑛冶金學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

八　染料化學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

九　窯業學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十　燃料化學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十一　火藥學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十二、土木學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十三　建築學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

二及五乃至七ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除ク

專門學校（專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校ニ準ズル入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム）

一　機械工學科（精密機械科、鐵山機械科、金屬工藝科、工作機械科、化學機械科、原動機械科其ノ他機械工學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

二　造船工學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

三　航空工學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

四　電氣工學科（通信工學科其ノ他電氣工學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

五　應用化學科（工業化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

六　採鑛冶金科（採鑛學科、採鑛工學科、金屬工業科其ノ他採鑛冶金科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

七　色染化學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

八　人造纖維科（化學纖維科其ノ他人造纖維科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

九　窯業科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十　燃料學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十一　應用理化學科（應用物理學科、理學科ノ應用理學部選擇第一、第二其ノ他應用理化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十二　土木工學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十三　建築學科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規定第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝ニ專門學校及實業學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノヲ含ム）

一　機械科（精密機械科、計器科、原動機科、採鑛機械科、化學機械科、木型科、鑄工科、鍛工科、金屬工藝科、金工科、板金科、仕上科其ノ他機械科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

二　造船科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

三　航空科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

四　電氣科（電氣機械科、機械電氣科其ノ他電氣科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

五　應用化學科（工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

六　採鑛冶金科（採鑛科、冶金科其ノ他採鑛冶金科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

七　色染科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

八　窯業科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

九　土木科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

十　建築科（之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）

一三五、學校卒業者使用制限令施行規則第一條ノ期間指定

（昭和十七年三月二十五日厚生省告示第百二十號
昭和十八年二月十七日厚生省告示第七十三號改正）

學校卒業者使用制限令施行規則第一條ノ期間左ノ通定ム

使用セントスル卒業者ノ卒業ノ時	申請期間
自昭和十八年九月　至昭和十九年三月	自昭和十八年三月一日　至昭和十八年三月三十一日

一三六、勞務調整令

（昭和十六年十二月六日勅令第八十六号、昭和十七年十二月一日勅令第七百十二号、昭和十八年六月十六日勅令第五百十三号改正）

第一章　總則

第一條　國家ニ緊要ナル事業ニ必要ナル勞務ヲ確保スル爲ニスル國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號）ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ雇入、使用、解雇、就職、從業、退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二章　從業者ノ解雇及退職ノ制限

第二條　厚生大臣ノ指定スル工場、事業場其ノ他ノ場所（以下指定工場ト稱ス）ニ於テ使用セラルル從業者又ハ厚生大臣ノ指定スル範圍ノ從業者ノ解雇及退職ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ從業者ニ付テハ雇傭期間ノ滿了其ノ他解雇及退職以外ノ事由ニ依リ雇傭關係ノ終了スル場合ニ於テハ引續キ雇傭關係ヲ存續セシムルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ指定ハ指定スベキ工場、事業場其ノ他ノ場所ノ事業主又ハ指定ヲ受クベキ範圍ノ從業者ヲ使用スル事業主ニ對スル通知ニ依リ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定ノ通知ヲ受ケタル事業主ハ其ノ旨ヲ關係從業者ニ周知セシムベシ

第三條　前條第一項及第二項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

一　陸海軍ニ徵集若ハ召集セラレ又ハ志願ニ依リ陸海軍ノ現役ニ服セシメラレタル場合

二　陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）ニ採用セラレタル場合

三　國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ徵用セラレタル場合

四　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

前條第一項及第二項ノ規定ハ國及都道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニハ之ヲ適用セズ

第三章　從業者ノ雇入、就職及使用ノ制限

第四條　技術、技能又ハ學識經驗ヲ有スル者ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノ（以下技能者ト稱ス）ノ雇入及就職ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ノ認可ヲ受ケタル場合又ハ國民職業指導所長ノ紹介ヲ除クノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條　前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

一　年齡十四年未滿若ハ年齡六十年以上ノ男子又ハ年齡十四年未滿若ハ年齡四十年以上ノ女子タル技能者ノ雇入及就職ノ場合

二　入營（應召ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ヲ命ゼラレ若ハ徵用セラレタルニ因リ解雇セラレタル者又ハ入營若ハ徵用ノ期間中雇傭期間ノ滿了シタル者ガ其ノ退營（入營ノ際行フ身體檢査ノ結果歸鄕ヲ命ゼラレタル場合ヲ含ム）若ハ徵用解除ノ日ヨリ三月以內ニ再ビ原職ニ復歸スル場合

三　學校卒業者使用制限令第一條ノ卒業者ノ雇入及就職ノ場合

四　國及都道府縣ニ於ケル技能者ノ雇入及就職ノ場合

五　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

第六條　本令施行後國民學校初等科（內地ニ於ケル之ニ準ズベキモノヲ含ム以下同ジ）ヲ修了シ又ハ國民學校高等科（內地ニ於ケル之ニ準ズベキモノヲ含ム以下同ジ）ヲ修了シ若ハ中途退學シタル後二年ヲ經過セザル者ニシテ技能者タラザルモノ（以下國民學校修了者ト稱ス）ノ雇入及就職ハ國民職業指導所ノ紹介ニ依ル非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ國及都道府縣ニ於ケル雇入及就職ノ場合、船員職業紹介所ノ紹介ニ依ル船員ノ雇入及就職ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　年齡十四年以上四十年未滿ノ男子又ハ年齡十四年以上二十五年未滿ノ女子ニシテ技能者及國民學校修了者タラザルモノ（以下一般青壯年ト稱ス）ノ雇入及就職ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ爲スコトヲ得

一　國民職業指導所ノ紹介ニ依リ雇入レ及就職スル場合

二　指定工場ノ事業主、厚生大臣ノ指定スル事業ヲ營ム者又ハ厚生大臣ノ指定スル者ノ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所ノ紹介ニ依ラズシテ雇入ルベキ一般青壯年ノ員數其ノ他雇入ニ關スル事項ニ付國民職業指導所長ノ認可ヲ受ケタル場合

三　命令ノ定ムル所ニ依リ特定ノ一般青壯年ノ雇入及就職ニ付國民職業指導所長ノ認可ヲ受ケタル場合

第八條　前條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ之ヲ適用セズ

一　第五條第二號ノ場合

二　船員職業紹介所ノ紹介ニ依ル船員ノ雇入及就職ノ場合

三　命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外農業、林業、畜產業、養蠶業及水產業ニ於ケル一般青壯年ノ雇入及就職ノ場合

四　國及都道府縣ニ於ケル一般青壯年ノ雇入及就職ノ場合

五　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

第八條ノ二　厚生大臣又ハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ業種又ハ職種ヲ指定シテ男子從業者ノ雇入、使用、就職及從業ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第九條　厚生大臣ハ勞務供給業者ノ供給ニ依ル從業者ノ使用ノ制限ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條　前條ノ規定ハ國及都道府縣ニ於ケル勞務供給業者ノ供給ニ依ル從業者ノ使用ニハ之ヲ適用セズ

第十一條　國民學校初等科又ハ國民學校高等科在學中ノ者ヲ雇入レ其ノ者ガ國民學校初等科ヲ修了シ國民學校高等科ニ進學セザル場合又ハ國民學校高等科ヲ修了シ若ハ中途退學シタル場合引續キ其ノ者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ第六條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ者ガ國民學校初等科ヲ修了シ又ハ國民學校高等科ヲ修了シ若ハ中途退學スル時ニ於テ新ニ雇入レ及就職スルモノト看做ス